

2016年度前学期  
静岡大学市民開放授業

授業内容（シラバス）



静岡大学  
Shizuoka University

# 授業内容の見方

1 頁～1 0 頁 市民開放授業科目一覧を掲載してあります。  
 1 1 頁～ 授業内容（シラバス）を掲載してあります。

例

※授業内容は学生向けに作られています。対象学年・必修選択・単位数 等は学生向けの情報です。  
 平成 28 年 2 月末時点の情報を掲載していますので、内容に変更がある可能性があります。最新情報は、静岡大学  
 ウェブサイトにてご覧いただけます。(http://www.lc.shizuoka.ac.jp/class\_list.html 市民開放授業)

**授業の目標**  
**学習内容**  
**授業計画**  
 これらを参考に受講したい科目を探してください。

**受講要件**  
 こちらの要件を満たしているかご確認ください。

**オフィスアワー**  
 意味：教員が学生の質問や相談を受けるために、特定の  
 場所で待機する時間のこと。  
 会議等、特別な用事がないかぎり、ここに記された場所・  
 時間に教員と直接会うことができます。

**科目番号**  
 市民開放授業で開放されている科目に割り振られた番  
 号。  
**受講申込書や払込取扱書に記入する番号です。**

授業科目名	ドイツ語 A-2				
担当教員名	静岡 太郎		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文 A 棟 4 2 2	
分担教員名					
クラス	学部共通 2	学期	前学期	必修選択区分	選択
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	月 3・4
キーワード	文法の基礎				
● 授業の目標	ドイツ文法の基礎をしっかりと学習する。テープは使用しない。				
● 学習内容	教科書に沿って行う。				
● 授業計画	1 回 話法の助動詞 2 回 話法の助動詞 3 回 動詞の 3 基本形 4 回 動詞の 3 基本形 5 回 動詞の 3 基本形 6 回 時制 7 回 時制 8 回 形容詞 9 回 形容詞 1 0 回 形容詞 1 1 回 関係代名詞 1 2 回 受動 1 3 回 受動 1 4 回 接続法 1 5 回 接続法				
● 受講要件	問わない。				
テキスト	ドイツ文法 1 8 歩				
参考書	無し				
予習・復習に ついて	辞書を丹念に引いて、予習復習を行うこと。				
成績評価の 方法・基準	試験の成績のみで評価を行う。				
● オフィス アワー	火曜日 7・8 時限 研究室にて。 事前にメール連絡を。				
担当教員から のメッセージ	自分の勉強不足を教員になすりつけないこと。				

※シラバスは各学部で作成されていますので、多少並びが異なる場合があります。

## 表の見方

### ■No.

◇科目番号です。市民開放授業で開放されている科目に割り振られた番号で、授業内容（シラバス）の下端にある番号や、市民開放授業時間割の表の番号と一致しています。受講申込書や払込取扱票にはこの番号を記入します。

### ■学部等

◇授業を実施している学部等を指します。

### ■学期

◇この欄に「前学期（前半）」「前学期（後半）」と記載された授業については、前学期をさらに半分に分けて開講されます。「前学期（後半）」の開始時期は前学期スケジュール（P2）でご確認ください。

### ■時間割

◇授業時間は、次のとおりです。

時限	1・2	3・4	5・6	7・8	9・10
時間	8:40 } 10:10	10:20 } 11:50	12:45 } 14:15	14:25 } 15:55	16:05 } 17:35

### ■教室名

◇静岡キャンパス

- ・共＝共通教育棟、人＝人文社会科学部棟、教＝教育学部棟、理＝理学部棟、農＝農学部棟の略です。
- ・アルファベットは、それぞれの棟を表します。たとえば、「共A201」は、共通教育A棟201教室のことを指します。

◇浜松キャンパス

- ・情＝情報学部棟、総＝総合研究棟、1～8＝工学部1～8号館の略です。

※授業開始当初は、受講学生数等により、教室を変更する場合がありますので、掲示に注意してください。

### ■受入可能人数

◇1科目につき若干名とします。

◇受講の可否については、教員の判断に委ねられますので、担当教員に確認してください。

◇正規の授業の一部を開放し、本学の学生と一緒に受講していただくため、本学の学生だけで講義室の収容人数を超える場合や、同じ科目に多数の応募があった場合には、受講できないことがあります。

## ■難易度

◇市民開放授業科目の難易度は、授業の内容に応じて、次の4段階に区分しています。ご自分の実力に適した授業をお選びください。

- (A) 入門的な内容で、高校卒業程度の学力を必要とします。〈大学1年次対象の授業に相当〉
- (B) より進んだ内容であり、当該専門分野についての一定の基礎知識が必要となります。〈大学2～3年次対象の授業に相当〉
- (C) 高度な内容であり、当該専門分野について系統立った学習がなされていることを前提とするものです。〈大学3～4年次対象の授業に相当〉
- (D) 専門的な知識が必要なため、受講登録にあたり担当教員と面談を行います。〈大学3～4年次対象の授業に相当〉

## ■受講料

◇半期全14回で9,500円が基本となっていますが、週2回開講の場合は14,700円、「前学期（前半）」「前学期（後半）」の場合は6,800円です。

科目一覧には2016年2月末時点の情報を掲載していますので、内容に変更がある可能性があります。最新情報は、静岡大学ウェブサイトにてご覧いただけます。(http://www.lc.shizuoka.ac.jp/class\_list.html 市民開放授業)

平成28年度 静岡大学市民開放授業科目一覧

〔静岡キャンパス〕

〈前学期〉

No.	学部等	授業科目名	(代表)担当教員名	学期	曜日・ 時限	教室名	受入可 能人数	難易度	講習料
1	全学	初修外国語(フランス語)入門Ⅰ	浅野 幸生	前学期	月3・4	共P202	若干名	A	9,500円
2	全学	初修外国語(フランス語)入門Ⅰ	安永 愛	前学期	月3・4	共A102	若干名	A	9,500円
3	全学	初修外国語(現代韓国語)入門Ⅰ	南 富鎮	前学期	月3・4	共A305	若干名	B	9,500円
4	全学	初修外国語(ドイツ語)入門Ⅰ	大藺 正彦	前学期	月5・6	共A403	若干名	A	9,500円
5	全学	初修外国語(フランス語)入門Ⅰ	安永 愛	前学期	月5・6	共A102	若干名	A	9,500円
6	全学	心理学	須藤 智	前学期	月5・6	未定	若干名	B	9,500円
7	全学	物理の世界	山崎 昌一	前学期	月5・6	未定	若干名	A	9,500円
8	全学	数学Ⅱ(線形代数A)	鈴木 信行	前学期	月7・8	共A201	若干名	A	9,500円
9	全学	化学Ⅰ(物理化学A)	近藤 満	前学期	火1・2	共B301	若干名	A	9,500円
10	全学	哲学	田中 伸司	前学期	火3・4	未定	若干名	B	9,500円
11	全学	ことばと表現	森本 隆子	前学期	火3・4	未定	若干名	A	9,500円
12	全学	日本国憲法	根本 猛	前学期	火3・4	未定	若干名	A	9,500円
13	全学	現代の社会	鈴木 宏尚	前学期	火3・4	未定	若干名	B	9,500円
14	全学	数理の構造	四之宮 佳彦	前学期	火3・4	未定	若干名	A	9,500円
15	全学	物理の世界	松本 正茂	前学期	火3・4	未定	若干名	A	9,500円
16	全学	化学の世界	瓜谷 眞裕	前学期	火3・4	未定	若干名	A	9,500円
17	全学	化学Ⅲ(有機化学)	山本 歩	前学期	水1・2	共A201	若干名	A	9,500円
18	全学	初修外国語(フランス語)入門Ⅱ	浅野 幸生	前学期	水5・6	共A102	若干名	A	9,500円
19	全学	地球科学Ⅰ(基礎A)	北村 晃寿	前学期	木1・2	共B301	若干名	A	9,500円
20	全学	数学Ⅰ(微分積分A)	松本 敏隆	前学期	木3・4	共A302	若干名	A	9,500円
21	全学	物理学Ⅱ(電磁気)	佐藤 信一	前学期	金1・2	共A302	若干名	B	9,500円
22	全学	生物学概論A	山脇 和樹	前学期	金1・2	共D2	若干名	B	9,500円
23	全学	生物学A	鳥山 優	前学期	金1・2	共D1	若干名	B	9,500円
24	全学	静岡県の防災・減災と原子力	大矢 恭久	前学期	金3・4	未定	若干名	B	9,500円
25	全学	地震防災	牛山 素行	前学期	金3・4	未定	若干名	A	9,500円
26	全学	富士山学	徳岡 徹	前学期	金3・4	未定	若干名	B	9,500円
27	全学	公共施設デザイン論	岩田 孝仁	前学期	金3・4	共L301	若干名	B	9,500円
28	全学	平和学	橋本 誠一	前学期	金3・4	未定	若干名	A	9,500円
29	全学	暮らしの中の新素材	近藤 満	前学期	金3・4	未定	若干名	A	9,500円
30	学環	実践からの防災行政論	岩田 孝仁	前学期	火3・4	共D1	若干名	A	9,500円

No.	学部等	授業科目名	(代表)担当教員名	学期	曜日・ 時限	教室名	受入可 能人数	難易度	講習料
31	人文社会科学部	金融論Ⅰ	鳥畑 與一	前学期	月1・2	人大講	若干名	A	9,500円
32	人文社会科学部	刑事訴訟法Ⅰ	津田 雅也	前学期	月3・4	人B301	若干名	C	9,500円
33	人文社会科学部	中国文学史Ⅰ	埋田 重夫	前学期	月3・4	人B402	若干名	B	9,500円
34	人文社会科学部	会社法	西川 義晃	前学期	月3・4	人B401	若干名	C	14,700円
					火1・2	人大講			
35	人文社会科学部	フランス言語文化演習Ⅰ	浅野 幸生	前学期	月5・6	人B208	若干名	C	9,500円
36	人文社会科学部	法学入門	横濱 竜也	前学期	月7・8	人B401	若干名	A	9,500円
37	人文社会科学部	フランス文学概論Ⅰ	安永 愛	前学期	火1・2	人B206	若干名	B	9,500円
38	人文社会科学部	発達心理学Ⅰ	畠垣 智恵	前学期	火1・2	共A302	若干名	B	9,500円
39	人文社会科学部	地方財政論Ⅰ	川瀬 憲子	前学期	火3・4	人E201	若干名	B	9,500円
40	人文社会科学部	英語学概論Ⅰ	大村 光弘	前学期	火5・6	共A204	若干名	B	9,500円
41	人文社会科学部	環境共生と地域の社会学	平岡 義和	前学期	火5・6	共A201	若干名	B	9,500円
42	人文社会科学部	人格心理学Ⅰ	田辺 肇	前学期	火5・6	人B301	若干名	B	9,500円
43	人文社会科学部	政治思想Ⅰ	井柳 美紀	前学期	火5・6	共A103	若干名	A	9,500円
44	人文社会科学部	中国語史	張 盛開	前学期	火5・6	人B304	若干名	B	9,500円
45	人文社会科学部	日本中世社会史	貴田 潔	前学期	火5・6	人B402	若干名	C	9,500円
46	人文社会科学部	日本文学史Ⅳ	小二田 誠二	前学期	火5・6	人B403	若干名	B	9,500円
47	人文社会科学部	フランス言語文化特論Ⅱ	安永 愛	前学期	火7・8	人B203	若干名	C	9,500円
48	人文社会科学部	ラテン語Ⅰ	田中 伸司	前学期	火7・8	人B403	若干名	A	9,500円
49	人文社会科学部	言語学各論Ⅳ	熊谷 滋子	前学期	水1・2	人B402	2	B	9,500円
50	人文社会科学部	世界経済論Ⅰ	安藤 研一	前学期	水1・2	共L306	3	C	9,500円
51	人文社会科学部	アメリカ文学文化基礎読解Ⅰ	レッドフォード	前学期	水3・4	人B403	若干名	B	9,500円
52	人文社会科学部	英語学各論Ⅱ	小町 将之	前学期	水3・4	人B205	若干名	C	9,500円
53	人文社会科学部	教育現象の社会学	荻野 達史	前学期	水3・4	人B301	若干名	B	9,500円
54	人文社会科学部	刑法総論Ⅰ	津田 雅也	前学期	水3・4	共L306	若干名	A	9,500円
55	人文社会科学部	財政学Ⅰ	高松 慶裕	前学期	水3・4	人E201	若干名	C	9,500円
56	人文社会科学部	アメリカ文学文化読解Ⅰ	レッドフォード	前学期	水5・6	人B403	若干名	C	9,500円
57	人文社会科学部	経済政策Ⅰ	寺村 泰	前学期	水5・6	人大講	若干名	B	9,500円
58	人文社会科学部	社会保障論Ⅰ	李 蓮花	前学期	水5・6	人E201	若干名	C	9,500円
59	人文社会科学部	日本語学概論Ⅰ	勝山 幸人	前学期	水5・6	人B301	若干名	B	9,500円
60	人文社会科学部	臨床心理学Ⅱ	笠井 仁	前学期	水7・8	人B402	若干名	B	9,500円
61	人文社会科学部	西洋史概説	藤井 真生	前学期	水9・10	人B402	若干名	B	9,500円
62	人文社会科学部	西洋社会史Ⅱ	岩井 淳	前学期	水9・10	人B302	若干名	C	9,500円
63	人文社会科学部	憲法総論・統治機構	小谷 順子	前学期	木1・2	人E201	若干名	A	9,500円

No.	学部等	授業科目名	(代表)担当教員名	学期	曜日・時限	教室名	受入可能人数	難易度	講習料
64	人文社会科学部	日本語文化各論Ⅵ	小二田 誠二	前学期	木1・2	人B401	若干名	B	9,500円
65	人文社会科学部	英米言語文化基礎論	鈴木 実佳	前学期	木3・4	人B401	若干名	A	9,500円
66	人文社会科学部	社会心理学Ⅰ	橋本 剛	前学期	木3・4	人B402	若干名	B	9,500円
67	人文社会科学部	日本語文化各論Ⅲ	小二田 誠二	前学期	金1・2	人B301	若干名	B	9,500円
68	人文社会科学部	法制史Ⅰ	橋本 誠一	前学期	金1・2	人E201	若干名	B	9,500円
69	人文社会科学部	ドイツ言語文化特論Ⅳ	大藪 正彦	前学期	金3・4	人B204	若干名	C	9,500円
70	人文社会科学部	比較文化各論Ⅱ	大原 志麻	前学期	金3・4	人B302	若干名	B	9,500円
71	人文社会科学部	アジア経済論Ⅰ	朴 根好	前学期	金5・6	共L306	10	B	9,500円
72	人文社会科学部	芸術文化思想	上利 博規	前学期	金5・6	人B403	2	B	9,500円
73	人文社会科学部	日本文学概論Ⅰ	袴田 光康	前学期	金5・6	人B402	若干名	B	9,500円
74	人文社会科学部	哲学の歴史Ⅰ	田中 伸司	前学期	金7・8	人B403	若干名	B	9,500円
75	教育学部	天文学	内山 秀樹	前学期	月5・6	教B216	3名まで	A	9,500円
76	教育学部	書写研究(B組)	杉崎 哲子	前学期	月7・8	教A601	若干名	A	9,500円
77	教育学部	線形代数学基礎(B組)	四之宮 佳彦	前学期	月9・10	教B215	若干名	A	9,500円
78	教育学部	集合と論理基礎	山田 耕三	前学期	火3・4	教G001	若干名	A	9,500円
79	教育学部	西欧文化史	伊藤 宏二	前学期	火5・6	教B216	若干名	B	9,500円
80	教育学部	幾何学Ⅰ	四之宮 佳彦	前学期	火7・8	教G201	若干名	B	9,500円
81	教育学部	微分積分学基礎(A組)	大和田 智義	前学期	火9・10	教G201	若干名	A	9,500円
82	教育学部	解析学Ⅰ	大和田 智義	前学期	水1・2	教G201	若干名	B	9,500円
83	教育学部	代数学Ⅰ	谷本 龍二	前学期	水5・6	教G201	若干名	B	9,500円
84	教育学部	書写基礎(B組)	杉崎 哲子	前学期	木1・2	教A601	若干名	A	9,500円
85	理学部	放射線計測・管理学概論	大矢 恭久	前学期	月1・2	理B202	若干名	C	9,500円
86	理学部	シミュレーション数理科学Ⅰ	田中 直樹	前学期	月3・4	理B204	若干名	C	9,500円
87	理学部	量子力学Ⅲ	鈴木 淳史	前学期	月3・4	理B211	若干名	C	9,500円
88	理学部	物理数学Ⅰ	嘉規 香織	前学期	月3・4	理B203	若干名	B	9,500円
89	理学部	有機化学Ⅲ	山中 正道	前学期	月3・4	理B213	若干名	B	9,500円
90	理学部	発生生物学Ⅰ	徳元 俊伸	前学期	月3・4	理B202	若干名	B	9,500円
91	理学部	植物生理学	粟井 光一郎	前学期	月3・4	理B212	若干名	C	9,500円
92	理学部	生物環境科学概論Ⅰ	塚越 哲	前学期	月3・4	理B201	若干名	B	9,500円
93	理学部	多様性生物学	塚越 哲	前学期(前半)	月3・4	共C611	若干名	C	6,800円
94	理学部	構造地質学	道林 克禎	前学期(後半)	月3・4	共C611	若干名	C	6,800円
95	理学部	線型代数学Ⅰ	保坂 哲也	前学期	月7・8	理B204	若干名	B	9,500円
96	理学部	解析学	松本 敏隆	前学期	火1・2	理C309	若干名	C	9,500円
97	理学部	熱化学	河合 信之輔	前学期	火1・2	理B202	若干名	B	9,500円
98	理学部	有機化学Ⅰ	小林 健二	前学期	火1・2	理B212	若干名	A	9,500円

No.	学部等	授業科目名	(代表)担当教員名	学期	曜日・ 時限	教室名	受入可 能人数	難易度	講習料
99	理学部	放射化学Ⅱ	矢永 誠人	前学期	火1・2	理B204	若干名	C	9,500円
100	理学部	内分泌学	鈴木 雅一	前学期	火1・2	理B203	若干名	C	9,500円
101	理学部	層序学	北村 晃寿	前学期	火1・2	理B201	若干名	C	9,500円
102	理学部	代数学	毛利 出	前学期	火3・4	理B204	若干名	C	9,500円
103	理学部	電磁気学Ⅲ	土屋 麻人	前学期	火3・4	理B203	若干名	C	9,500円
104	理学部	量子化学Ⅱ	松本 剛昭	前学期	火3・4	理B213	若干名	C	9,500円
105	理学部	発生生物学Ⅱ	塩尻 信義	前学期	火3・4	理B212	若干名	C	9,500円
106	理学部	地球環境学	加藤 憲二	前学期	火3・4	共C611	若干名	C	9,500円
107	理学部	線型代数学Ⅲ	浅芝 秀人	前学期	火5・6	理B204	若干名	C	9,500円
108	理学部	生物多様性科学	粟井 光一郎	前学期	火5・6	理B212	若干名	A	9,500円
109	理学部	幾何学	久村 裕憲	前学期	火7・8	理B204	若干名	C	9,500円
110	理学部	数理論理学	鈴木 信行	前学期	水1・2	理B204	若干名	C	9,500円
111	理学部	物理数学Ⅱ	森田 健	前学期	水1・2	理B203	若干名	C	9,500円
112	理学部	基礎生化学	瓜谷 眞裕	前学期	水1・2	理B212	若干名	B	9,500円
113	理学部	有機化学Ⅴ	坂本 健吉	前学期	水1・2	理B213	若干名	C	9,500円
114	理学部	地球物理学	生田 領野	前学期	水1・2	理B201	若干名	C	9,500円
115	理学部	統計学	板津 誠一	前学期	水3・4	理B201	若干名	C	9,500円
116	理学部	電磁気学Ⅰ	嶋田 大介	前学期	水3・4	理B203	若干名	B	9,500円
117	理学部	相対性理論	嘉規 香織	前学期(後半)	水3・4	理B211	若干名	C	6,800円
118	理学部	溶液化学	加藤 知香	前学期	水3・4	共D2	若干名	B	9,500円
119	理学部	情報生化学	大吉 崇文	前学期	水3・4	理B213	若干名	C	9,500円
120	理学部	細胞生物学	丑丸 敬史	前学期	水3・4	理B212	若干名	C	9,500円
121	理学部	地球ダイナミクス概論Ⅱ	道林 克禎	前学期	水3・4	理B201	若干名	B	9,500円
122	理学部	堆積学	北村 晃寿	前学期(前半)	水3・4	共C611	若干名	C	6,800円
123	理学部	地球環境微生物学	加藤 憲二	前学期(後半)	水3・4	共C611	若干名	C	6,800円
124	理学部	集合・位相	横山 美佐子	前学期	水5・6	理B204	若干名	B	9,500円
125	理学部	基礎物理学Ⅰ	松山 晶彦	前学期(前半)	水5・6	理B203	若干名	A	9,500円
					金3・4				
126	理学部	基礎物理学Ⅱ	松山 晶彦	前学期(後半)	水5・6	理B203	若干名	A	9,500円
					金3・4				
127	理学部	地球科学入門Ⅰ	石橋 秀巳	前学期	木1・2	理B202	若干名	A	9,500円
128	理学部	統計力学Ⅰ	鈴木 淳史	前学期	木3・4	理B203	若干名	C	9,500円
129	理学部	構造錯体化学	近藤 満	前学期	木3・4	理B213	若干名	C	9,500円
130	理学部	植物系統分類学	徳岡 徹	前学期	木3・4	理B212	若干名	C	9,500円
131	理学部	放射線物理学概論	近田 拓未	前学期	木5・6	共B501	若干名	B	9,500円



No.	学部等	授業科目名	(代表)担当教員名	学期	曜日・時限	教室名	受入可能人数	難易度	講習料
132	理学部	複素解析学	奥村 善英	前学期	金1・2	理C309	若干名	C	9,500円
133	理学部	量子力学Ⅰ	土屋 麻人	前学期	金1・2	理B203	若干名	C	9,500円
134	理学部	無機化学Ⅱ	守谷 誠	前学期	金1・2	理B213	若干名	C	9,500円
135	理学部	分子遺伝学	山内 清志	前学期	金1・2	理B212	若干名	C	9,500円
136	理学部	生物学Ⅰ	徳元 俊伸	前学期	金1・2	共A203	若干名	A	9,500円
137	理学部	岩石学	道林 克禎	前学期	金1・2	理B201	若干名	C	9,500円
138	理学部	微分積分学Ⅲ	田中 直樹	前学期	金3・4	理B204	若干名	C	9,500円
139	理学部	物理実験学Ⅰ	嶋田 大介	前学期	金5・6	理B203	若干名	B	9,500円
140	理学部	物理実験学Ⅱ	三重野 哲	前学期	金5・6	理B213	若干名	C	9,500円
141	理学部	地球科学入門Ⅱ	鈴木 雄太郎	前学期	金7・8	理B202	若干名	A	9,500円
142	農学部	分子遺伝学	本橋 令子	前学期	月1・2	農B208	若干名	B	9,500円
143	農学部	栄養化学	森田 達也	前学期	月3・4	農B207	若干名	B	9,500円
144	農学部	森林土木工学	近藤 恵市	前学期	月3・4	農B203	若干名	B	9,500円
145	農学部	木質材料学	鈴木 滋彦	前学期	月3・4	農B205	若干名	B	9,500円
146	農学部	基礎生態学	澤田 均	前学期	月3・4	農B201	若干名	B	9,500円
147	農学部	果樹園芸学	向井 啓雄	前学期	月5・6	農B201	若干名	B	9,500円
148	農学部	保全生物学	山下 雅幸	前学期	火1・2	農B210	若干名	A	9,500円
149	農学部	応用微生物学	徳山 真治	前学期	火1・2	農B205	若干名	B	9,500円
150	農学部	生化学概論	村田 健臣	前学期	火1・2	農B208	若干名	A	9,500円
151	農学部	山地保全学	逢坂 興宏	前学期	火1・2	農B203	若干名	B	9,500円
152	農学部	育種学	富田 因則	前学期	火5・6	農B208	若干名	B	9,500円
153	農学部	測量学	近藤 恵市	前学期	火5・6	農B317	若干名	B	9,500円
154	農学部	室内環境学	渡邊 拓	前学期	火5・6	農B210	若干名	B	9,500円
155	農学部	作物学	稲垣 栄洋	前学期	火7・8	農B201	若干名	A	9,500円
156	農学部	造林学	水永 博己	前学期	火7・8	農B203	若干名	D	9,500円
157	農学部	森林生態管理学	今泉 文寿	前学期	水1・2	農B203	若干名	C	9,500円
158	農学部	細胞生物学	笹浪 知宏	前学期	水1・2	農B208	若干名	B	9,500円
159	農学部	生物工学	朴 龍洙	前学期	水1・2	農B204	若干名	C	9,500円
160	農学部	木質機能科学	安村 基	前学期	水3・4	農B205	若干名	B	9,500円
161	農学部	食品分析化学	河岸 洋和	前学期	水3・4	農B210	若干名	C	9,500円
162	農学部	分析化学	原 正和	前学期	水3・4	農B208	若干名	B	9,500円
163	農学部	木質利用化学	河合 真吾	前学期	水3・4	農B203	若干名	C	9,500円
164	農学部	花卉園芸学	中塚 貴司	前学期	水3・4	農B207	若干名	B	9,500円
165	農学部	基礎微生物学	瀧川 雄一	前学期	水5・6	農B208	若干名	A	9,500円
166	農学部	園芸生産学	鈴木 克己	前学期	水7・8	農B201	若干名	A	9,500円

No.	学部等	授業科目名	(代表)担当教員名	学期	曜日・時限	教室名	受入可能人数	難易度	講習料
167	農学部	木材接着学	山田 雅章	前学期	木1・2	農B203	若干名	B	9,500円
168	農学部	収穫後生理学	加藤 雅也	前学期	木1・2	農B208	若干名	B	9,500円
169	農学部	動物生命科学	高坂 哲也	前学期	木3・4	農B201	若干名	B	9,500円
170	農学部	環境微生物学	小川 直人	前学期	木3・4	農B203	若干名	B-C	9,500円
171	農学部	材料力学	安村 基	前学期	金1・2	農B203	若干名	B	9,500円
172	農学部	食料経済学	柴垣 裕司	前学期	金1・2	農B201	若干名	A	9,500円
173	農学部	植物栄養学	森田 明雄	前学期	金1・2	農B208	若干名	B	9,500円
174	農学部	生物有機化学1	轟 泰司	前学期	金3・4	農B210	若干名	B	9,500円
175	農学部	一般昆虫学	田上 陽介	前学期	金3・4	農B208	若干名	A	9,500円
176	農学部	農学基礎論 ※	竹之内 裕文	前学期	水1・2	農B201	若干名	A	6,800円

※授業は、7. 5回クォータ制、隔週開講。

<通年>

No.	学部等	授業科目名	(代表)担当教員名	学期	曜日・時限	教室名	受入可能人数	難易度	講習料
177	人文社会科学部	日本文学演習 I	小二田 誠二	通年	月3・4	人B207	若干名	D	14,700円
178	人文社会科学部	中国言語文化演習 I	張 盛開	通年	火3・4	人B304	若干名	D	14,700円
179	人文社会科学部	フランス語学概論	浅野 幸生	通年	火9・10	人B208	若干名	B	14,700円
180	人文社会科学部	民法総論	藤巻 梓	通年	金3・4	人E201	若干名	B	14,700円

A 入門的な内容であり、高校卒業程度の学力を必要とするもの(大学1年次対象の授業)

B より進んだ内容であり、当該専門分野についての一定の基礎知識が必要となるもの(大学2～3年次対象の授業)

C 高度な内容であり、当該専門分野について系統立てた学習がなされていることを前提とするもの(大学3～4年次対象の授業)

※演習の難易度は「D」になります。

D 専門的な知識が必要なため、履修登録にあたり担当教員と面談を行う。(大学3～4年次対象の授業)

平成28年度 静岡大学市民開放授業科目一覧

〔浜松キャンパス〕

〈前学期〉

No.	学部等	授業科目名	(代表)担当教員名	学期	曜日・時限	教室名	受入可能人数	難易度	講習料
181	全学	生物学 I	吉田 信行	前学期	月3・4	工5-11	若干名	A	9,500円
182	全学	地域と文化	西原 純	前学期	火1・2	未定	若干名	A	9,500円
183	全学	化学の世界	梅本 宏信	前学期	火1・2	総21	若干名	A	9,500円
184	全学	生命科学	杉浦 敏文	前学期	火1・2	工5-24	若干名	A	9,500円
185	全学	地球科学	岩崎 一孝	前学期	火1・2	工5-21	若干名	A	9,500円
186	全学	現代の社会	笹原 恵	前学期	火3・4	未定	若干名	A	9,500円
187	全学	心理学	坂井 敬子	前学期	火3・4	総24	若干名	B	9,500円
188	全学	日本国憲法	岡田 安功	前学期	火3・4	未定	若干名	A-B	9,500円
189	全学	歴史と文化	岡田 泰平	前学期	水3・4	工8-21	若干名	B	9,500円
190	全学	国際社会と日本	杉山 茂	前学期	水3・4	工3-31	若干名	B	9,500円
191	全学	現代の社会	中 正樹	前学期	水3・4	未定	若干名	A	9,500円
192	全学	心理学	高橋 晃	前学期	水3・4	未定	若干名	A	9,500円
193	全学	芸術論	高松 良幸	前学期	水3・4	工2-11	若干名	A	9,500円
194	全学	力学・波動 I	岡部 拓也	前学期	水5・6	工5-21	若干名	A	9,500円
195	全学	離散数学	中谷 広正	前学期	水5・6	未定	若干名	B	9,500円
196	全学	工学基礎化学 I	平川 和貴	前学期	木1・2	工6-22	若干名	A	9,500円
197	全学	電磁気学	岡部 拓也	前学期	金1・2	工5-21	若干名	B	9,500円
198	全学	USA論	杉山 茂	前学期	金3・4	工3-31	若干名	B	9,500円
199	全学	ことば	近藤 真	前学期	金3・4	未定	若干名	A	9,500円
200	全学	エネルギーと環境	大矢 恭久	前学期	金3・4	工2-21	若干名	B	9,500円
201	全学	浜松市の交通と観光を考える	戸田 三津夫	前学期	金3・4	総31	若干名	A	9,500円
202	工学部	弾性力学	島村 佳伸	前学期	火9・10	未定	若干名	C	9,500円
203	工学部	基礎電子回路	猪川 洋	前学期	水1・2	未定	若干名	B	9,500円
204	工学部	センサ工学	坂田 肇	前学期	水3・4	未定	若干名	C	9,500円
205	工学部	電気電子材料工学	喜多 隆介	前学期	木3・4	未定	若干名	C	9,500円
206	工学部	システム基礎数学	宮崎 倫子	前学期	木3・4	未定	若干名	A	9,500円
207	工学部	塑性加工学	早川 邦夫	前学期	金1・2	未定	若干名	C	9,500円
208	情報学部	博物館概論	高松 良幸	前学期	月1・2	情22	若干名	A	9,500円
209	情報学部	人間情報処理論	竹内 勇剛	前学期	月5・6	情14	若干名	B	9,500円
210	情報学部	博物館資料論	高松 良幸	前学期	火1・2	情22	若干名	A	9,500円

No.	学部等	授業科目名	(代表)担当教員名	学期	曜日・時限	教室名	受入可能人数	難易度	講習料
211	情報学部	メディア・デザイン論	赤尾 晃一	前学期	火3・4	情24	若干名	B	9,500円
212	情報学部	ジェンダー論	笹原 恵	前学期	火9・10	情22	若干名	B	9,500円
213	情報学部	コミュニケーション・メディア史	森野 聡子	前学期	水7・8	情24	若干名	B	9,500円

A 入門的な内容であり、高校卒業程度の学力を必要とするもの(大学1年次対象の授業)

B より進んだ内容であり、当該専門分野についての一定の基礎知識が必要となるもの(大学2～3年次対象の授業)

C 高度な内容であり、当該専門分野について系統立てた学習がなされていることを前提とするもの(大学3～4年次対象の授業)

**※演習の難易度は「D」になります。**

D 専門的な知識が必要なため、履修登録にあたり担当教員と面談を行う。(大学3～4年次対象の授業)

授業科目名	初修外国語（フランス語）入門 I Basic French I				
担当教員名	浅野 幸生 ASANO Yukio		所属等	学院院人文社会科学領域	
			研究室	人文 A 棟 408	
分担教員名					
クラス	学部共通 1	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	1 年	単位数	1	曜日・時限	月 3・4
キーワード	着実・積極性の重視・繰り返し				
授業の目標	文法・音声の基本を固めると同時に、フランス文化の諸相についても理解を深めるようにする。				
学習内容	フランス語の基礎能力を身につける。				
授業計画	<p>大体以下の通りに進行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) フランス・フランス語全般に関して。学習上の諸注意。発音や正書法の説明。</li> <li>2) 名詞の性・冠詞・綴り字と発音（1）</li> <li>3) avoir、être、-er 動詞の活用、綴り字と発音（2）</li> <li>4) 挨拶・紹介等の表現、否定文・疑問文、綴り字と発音（4）</li> <li>5) 形容詞、-ir 動詞、数詞、綴り字と発音（4）</li> <li>6) 指示形容詞、指示代名詞、aller と venir、綴り字と発音（5）</li> <li>7) それ以降はテキストに沿って進行する。必ずしも予定通り行くとは限らないが、予定に縛られすぎると授業が無機的になって好ましくない。大切なことはできるだけ繰り返す方針。</li> </ol>				
受講要件	フランス語初学者。				
テキスト	生協であらかじめ購入のこと。				
参考書					
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	試験と平常点による。				
オフィスアワー	月 14：20～15：30				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	初修外国語（フランス語）入門 I Basic French I				
担当教員名	安永 愛 YASUNAGA Ai		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人文 A 棟 5 2 5	
分担教員名					
クラス	学部共通 2	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	1 年	単位数	1	曜日・時限	月 3・4
キーワード	フランス語の初歩、フランス語の音とリズム、フランス語圏の文化				
授業の目標	フランス語の基礎を身につける。フランス語圏の文化に触れる。				
学習内容	「Paris-Bordeaux フランスの世界遺産と食文化を巡る旅」を教科書として、「読む」「聴く」「書く」「話す」を繰り返しながら、フランス語の基礎を習得します。また、フランス語圏に文化的背景にも少しずつ触れ、興味関心を深めていきます。				
授業計画	1. フランス語圏について、フランス語の歴史、綴り字と発音（教科書 0 課） 2. 教科書第 1 課 前半 3. 教科書第 1 課 後半 4. 教科書第 2 課 前半 5. 教科書第 2 課 後半 6. 教科書第 3 課 前半 7. 教科書第 3 課 後半 8. 教科書第 4 課 前半 9. 教科書第 4 課 後半 10. 教科書第 5 課 前半 11. 教科書第 5 課 後半 12. 教科書第 6 課 前半 13. 教科書第 6 課 後半 14. 教科書第 7 課 前半 15. 教科書第 7 課 後半				
受講要件					
テキスト	「Paris-Bordeaux フランスの世界遺産と食文化を巡る旅」（朝日出版社）				
参考書	仏和辞典				
予習・復習について	毎回宿題を課します。語学は反復練習が重要です。発音や聞き取りの能力を高めるため、教科書付属の CD を活用しましょう。				
成績評価の方法・基準	期末の筆記試験（聞き取り含む）の素点を基準とします。単位認定基準の 60 点に達しない場合のみ、出席点（1 回 1 点）を加算します。				
オフィスアワー	月曜 7・8 限。事前にメールでアポイントメントを取ることが望ましい。				
担当教員からのメッセージ	まずは、フランス語の音とリズムを楽しんでください。せっかくフランス語を勉強するのですから、フランス語圏に目を向けてみましょう。				

授業科目名	初修外国語（現代韓国語）入門 I Basic Modern Korean I				
担当教員名	南 富鎮 NAM bujin		所属等	学院院人文社会科学領域	
			研究室	人文 A 棟 5 2 7	
分担教員名					
クラス	学部共通 1	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	1 年	単位数	1	曜日・時限	月 3・4
キーワード	韓国語、韓国文化、日韓比較、異文化理解、相互理解、国際化				
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・韓国語の基礎を勉強して韓国文化への理解を目指します。</li> <li>・韓国語は日本語に類似しているので日本語・日本文化への理解も深めます。</li> <li>・国際化の大きな時代潮流のなか、相互理解の精神を学びます。</li> </ul>				
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・韓国語に関する基礎文法を勉強します。</li> <li>・言語を通して韓国文化への理解を高めていきます。</li> <li>・日本語との比較を通して日本語と日本文化への理解も深めていきます。</li> </ul>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 韓国語の紹介</li> <li>2. 母音の発音</li> <li>3. 母音の発音</li> <li>4. 子音の発音</li> <li>5. 子音の発音</li> <li>6. 子音と母音の組み合わせ</li> <li>7. 複母音の発音</li> <li>8. です、ます的な表現</li> <li>9. 指示代名詞</li> <li>10. 助詞</li> <li>11. 否定文</li> <li>12. 動詞の連用形</li> <li>13. 形容詞の連用形</li> <li>14. 連体形</li> <li>15. 総復習</li> </ol>				
受講要件	教育学部 1 年・理学部 1 年、農学部 1 年				
テキスト	李昌圭『韓国語を学ぼう一初級』朝日出版社、2006 年。最初の授業時にもう一度お知らせします。				
参考書	とくにありません。				
予習・復習について	その都度教員が指示します。しかし、基本的にはご自分で決めてください。				
成績評価の方法・基準	出席 40%、試験 60%。最初の授業時に詳しく説明します。				
オフィスアワー	最初の授業時にお知らせします。				
担当教員からのメッセージ	難易度 C。 韓国語は日本語にもっとも近い外国語の一つです。その類似性には皆様も驚くでしょう。そのため、日本人学習者にはわりと親しみやすく、簡単に習得できる言語で、難易度は非常に低いです。ぜひ気楽に挑戦してみてください。				

授業科目名	初修外国語（ドイツ語）入門 I Basic German I				
担当教員名	大菌 正彦 OZONO Masahiko		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人文 A 棟 4 2 3	
分担教員名					
クラス	人 1	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	2 年	単位数	1	曜日・時限	月 5・6
キーワード	ドイツ語、ドイツ文化、言語運用能力、多文化理解、文法				
授業の目標	読む・書く・聞く・話すという 4 技能のバランスに配慮して、ドイツ語の基礎的運用能力を身につけることが目的です。また、英語以外の外国語を学ぶことで、文化の多元的理解を目指します。				
学習内容	教科書の内容に沿って学習していきます。原則として 2 回の授業で 1 課ずつ進めます。各課は、大きく「ダイアログ」「文法説明」「練習」「補足」から成ります。授業では、個々の項目ごとに練習、小テストなどを織り交ぜながら進めていきます。また、折に触れ、さまざまなドイツ事情についても紹介します。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業のオリエンテーション</li> <li>2. つづりの読み方と発音</li> <li>3. Lektion 1. Morgens trinkt Anna immer Kaffee.</li> <li>4. 文法：動詞の人称変化</li> <li>5. Lektion 2. Der Baum ist gros.</li> <li>6. 文法：名詞の性・数・格</li> <li>7. Lektion 3. Helga denkt, dass Japaner immer einen Kimono tragen.</li> <li>8. 文法：前置詞・接続詞</li> <li>9. Lektion 4. Sabine freut sich uber das Geschenk.</li> <li>10. 文法：人称代名詞・再帰代名詞・再帰動詞</li> <li>11. Lektion 5. Herr Muller hat kein Auto.</li> <li>12. 文法：冠詞類</li> <li>13. Lektion 6. Der kleine Hund heist Waldi.</li> <li>14. 文法：形容詞の格変化・比較変化</li> <li>15. まとめと復習</li> <li>16. 期末試験</li> </ol>				
受講要件	クラス指定に従って履修してください。				
テキスト	大菌正彦『総合学習・異文化理解のドイツ語』朝日出版社（2,500 円＋税）				
参考書	独和辞典は必携です。初回の授業で紹介します。				
予習・復習について	授業 1 回あたり、1 時間-1 時間半の授業外学習が前提です。				
成績評価の方法・基準	期末試験の成績（50%）と平常点（50%）をもとに評価します。平常点は、原則として毎回行う小テストの結果に授業への参加状況を加味して評価します。正当な理由なく 5 回以上欠席した場合は成績評価の対象外となります。				
オフィスアワー	金曜日昼休み				
担当教員からのメッセージ					



授業科目名	初修外国語（フランス語）入門 I Basic French I				
担当教員名	安永 愛 YASUNAGA Ai		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人文 A 棟 5 2 5	
分担教員名					
クラス	人 1	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	2 年	単位数	1	曜日・時限	月 5・6
キーワード	フランス語の初歩、フランス語の音とリズム、フランス語圏の文化				
授業の目標	フランス語の基礎を身につける。フランス語圏の文化に触れる。				
学習内容	『Paris-Bordeaux フランスの世界遺産と食文化を巡る旅』を教科書として、「読む」「聴く」「書く」「話す」を繰り返しながら、フランス語の基礎を習得します。また、フランス語圏に文化的背景にも少しずつ触れ、興味関心を深めていきます。				
授業計画	第 1 講 フランス語圏について、フランス語の歴史、綴り字と発音（教科書 0 課） 第 2 講 教科書第 1 課 前半 第 3 講 教科書第 1 課 後半 第 4 講 教科書第 2 課 前半 第 5 講 教科書第 2 課 後半 第 6 講 教科書第 3 課 前半 第 7 講 教科書第 3 課 後半 第 8 講 教科書第 4 課 前半 第 9 講 教科書第 4 課 後半 第 10 講 教科書第 5 課 前半 第 11 講 教科書第 5 課 後半 第 12 講 教科書第 6 課 前半 第 13 講 教科書第 6 課 後半 第 14 講 教科書第 7 課 前半 第 15 講 教科書第 7 課 後半				
受講要件					
テキスト	『Paris-Bordeaux フランスの世界遺産と食文化を巡る旅』（朝日出版社）				
参考書	仏和辞典				
予習・復習について	毎回宿題を課します。語学は反復練習が重要です。発音や聞き取りの能力を高めるため、教科書付属の CD を活用しましょう。				
成績評価の方法・基準	期末の筆記試験（聞き取り含む）の素点を基準とします。単位認定基準の 60 点に達しない場合のみ、出席点（1 回 1 点）を加点します。				
オフィスアワー	月曜 7・8 限				
担当教員からのメッセージ	まずは、フランス語の音とリズムを楽しんでください。せっかくフランス語を勉強するのですから、フランス語圏に目を向けてみましょう。				

授業科目名	心理学 Psychology				
担当教員名	須藤 智 SUTO Satoru		所属等	大学教育センター	
			研究室	共通教育A棟513 (西)	
分担教員名					
クラス	学部共通1	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	月5・6
キーワード	心理学、こころ				
授業の目標	私たちの生活に密着した学問である心理学の基礎的な知識を習得する。そして、それらの知識を、自らの今後の生活や研究分野にどのように生かせるのかを考えることができるようにする。授業はテキストに準拠し、パワーポイントを使ってそれぞれの内容を具体的に説明する形式をとる(配布資料有)				
学習内容	心理学の研究領域で基礎的な知識について学ぶ。実際に、心理学研究で行われた実験、調査、検査等について体験し、実践的に知識を学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.科学としての心理学の歴史と方法論</li> <li>2.生理心理学1(脳の機能と役割を考える)</li> <li>3.生理心理学2(脳の機能と役割を考える)</li> <li>4.感覚・知覚1(外界と心の相互作用を考える)</li> <li>5.感覚・知覚2(外界と心の相互作用を考える)</li> <li>6.学習(学ぶということ)</li> <li>7.認知1(知のメカニズムを知る)</li> <li>8.認知2(記憶のメカニズムを知る)</li> <li>9.認知3(注意とは何か?)</li> <li>10.発達1(乳児期から児童期までの発達を知る)</li> <li>11.発達2(青年期から死までの発達を知る)</li> <li>12.性格(性格とは何か?)</li> <li>13.最新のトピック1(高齢者の心理)</li> <li>14.最新のトピック2</li> <li>15.まとめ</li> </ol>				
受講要件	特になし				
テキスト	特になし				
参考書	兵藤宗吉・緑川晶編著、心の科学—理論から現実社会へ(ナカニシヤ出版)、477950385X				
予習・復習について	予習:参考書を持っている場合は、当該箇所を一読してくる。所有していない場合は、図書館等で関連図書を借り、当該箇所を一読してくる。復習:配布されたレジュメを一読し、整理すること。				
成績評価の方法・基準	学期末レポート+α(エクストラクレジット)で評価を決定する。学生を受講状況によっては、レポートではなく試験を実施する場合もある。学期末レポートは、各回の内容の自学自習についても記入することが求められるので、日常的な事前事後学習をしていないと記入することができない。レポートだからといって軽く考えないこと。				
オフィスアワー	静岡キャンパス 共通A棟5F513室 火曜日5,6限				
担当教員からのメッセージ	エクストラクレジットに関する情報は、以下のURLから取得できる(パソコン: <a href="http://web.hedc.shizuoka.ac.jp/sutolab/">http://web.hedc.shizuoka.ac.jp/sutolab/</a> )。多数の学生の受講が予測されるので、厳密な点数に基づく成績評価を行う予定。また、授業中に最新の授業支援ツールを利用する予定なのでスマートフォン、携帯電話、PCの持ち込みが望ましい。				

授業科目名	物理の世界 Introduction to Physics				
担当教員名	山崎 昌一 YAMAZAKI Masahito		所属等	電子工学研究所	
			研究室	理学部A棟410	
分担教員名					
クラス	学部共通1	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	月5・6
キーワード	生物物理学、統計熱力学、タンパク質、生体膜、生体の電気現象				
授業の目標	生物が持つ”分子機械”や”電子回路”、および”分子システムや情報システム”は、人間が人工的に作るそれらのもより精巧で高級である。また生体分子やその集団は、非周期的な構造を持ち、水の中で弱い相互作用により構造を形成するので、複雑な構造や物性を示す。このような系の特性の研究には物理的なアプローチ（生物物理学）が重要であり、この授業ではその入門を学ぶ。				
学習内容	まず、生体分子やそのシステムおよび生体の機能システムのような”複雑系”の研究に重要な役割をはたす統計熱力学の初歩を学び、現象論的思考法になれる。次に、タンパク質や生体膜の特性と、神経や細胞での情報伝達に重要な生体電気現象の基礎を学ぶ。				
授業計画	1. Chap.1 生物物理学序論 2. Chap.2 統計熱力学入門、2-1 生命の階層構造、マイクロとマクロの関係 3. 2-2 熱力学第2法則とエントロピー、格子模型、拡散 4. 2-3 静電場（クーロン力、電場、電位）と膜電位（拡散電位） 5. 2-4 熱力学第1法則（熱、仕事、内部エネルギー）、熱とエントロピーの関係 6. 2-5 エンジンや熱機関の効率、カルノーサイクル、エネルギーの質 7. 2-6 自由エネルギーと化学ポテンシャル、浸透圧 8. 2-7 生物の”分子機械”のエネルギー源：電気化学ポテンシャル 9. Chap.3 タンパク質と生体膜、3-1 タンパク質の構造、フォールディングとアンフォールディング 10. 3-2 タンパク質の機能、(1) ヘモグロビン、アロステリック相互作用 11. (2) 筋肉、イオンポンプ、ATPの加水分解のエネルギー 12. 3-3 生体膜の構造と形成機構、疎水性相互作用、生体膜の流動性と分子の拡散 13. 3-4 生体膜の膜間相互作用；会合と膜融合と膜分裂、ウイルスの細胞内侵入と形成 14. Chap.4 生体の電気現象、4-1 生体膜の等価電気回路、活動電位 15. 4-2 1個のイオンチャネルタンパク質に流れる電流の特性、イオンチャネルの機能と構造				
受講要件					
テキスト					
参考書	P.W.Atkins（米沢他訳）『エントロピーと秩序』（日経サイエンス） C.Kittel（山下他訳）『熱物理学（第2版）』（丸善） シリーズ・ニューバイオフィジックスおよび同シリーズII（共立出版）				
予習・復習について	1回の講義で、何か一つでもよいから、興味をもったり、感動したり、不思議に思ったり、疑問を感じたりしよう。講義のあとで、そのことについて考えたり、本を読んで調べたりしよう。				
成績評価の方法・基準	レポートの提出、講義の内容の理解度				
オフィスアワー	授業のときに説明				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	数学Ⅱ（線形代数A） (Mathematics II(Linear algebra A))				
担当教員名	鈴木 信行 (SUZUKI Nobuyuki)		所属等	学術院理学領域	
			研究室	理学部 C 棟 601	
分担教員名					
クラス	理PCBG3	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	月7・8
キーワード	ベクトル、行列、連立1次方程式、行列式				
授業の目標	高等学校の数学Ⅰ,ⅡBまで習得している学生(クラス3)と、高等学校の数学Ⅲ,Cまで習得している学生(クラス1,2)に分けて、3クラスで講義を行う。 行列の演算、行列式の計算および連立一次方程式の解法の修得を目標とする。				
学習内容	数および比例の高次元化である、ベクトルおよび線形写像を調べるために、比例定数の高次元化である行列や、拡大率の一般化である行列式を導入し、その性質を調べ、計算する。また、行列の基本変形を利用して連立一次方程式を解く。				
授業計画	<p>数学Ⅰ,Ⅱ,Ⅲは、各々3クラスに分けて講義をします。前期の数学Ⅱの第一回講義に試験を行い、クラスを決定します。試験を必ず受けて下さい。再履修の受講生は前年度までのクラス分けに従って受講してください。3クラスの担当教員は、</p> <p>クラス1: 数学Ⅰ 待田教員      -数学Ⅱ 若井教員      -数学Ⅲ 久村教員          クラス2: 数学Ⅰ 松本敏教員      -数学Ⅱ 待田教員      -数学Ⅲ 待田教員          クラス3: 数学Ⅰ 奥村教員      -数学Ⅱ 鈴木信教員      -数学Ⅲ 毛利教員</p> <p>0章. 準備          0. 写像と集合          1章. 線形写像と行列          1. 比例の復習          2. 行列          3. 線形写像          4. 行列の積          2章. 行列式          5. 2次行列の行列式          6. 一般の行列式          7. 行列式の列変形          8. 行列式の形          9. 転置行列と行に関する性質    10. 行列式の展開と余因子行列    3章. 連立1次方程式    11. 行列表示とクラメールの公式    12. 掃き出し法    13. 基本変形と基本行列          時間があれば、ベクトル空間や線形写像についても解説する。</p>				
受講要件					
テキスト	浅芝秀人著:「基礎課程 線形代数」(培風館) ISBN: 978-4-563-00473-6				
参考書	三宅敏恒著:「入門線形代数」(培風館) ISBN: 4-563-00216-X				
予習・復習について	教科書や参考書で予習, 授業ノートや教科書で復習すること。自主的に練習問題を解くこと。理解できないところは、できるだけ早く質問に来て理解すること。				
成績評価の方法・基準	レポートなどの平常点(20%)および試験(80%)によって評価する。				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ	予習復習は古来より効果的な勉強法である。自宅での自発的かつ積極的な勉強なくしては、身に付くものも少ない。大学の講義は、これを前提にしている。				

授業科目名	化学 I (物理化学 A) (Chemistry I(Physical Chemistry A))				
担当教員名	近藤 満 (KONDO Mitsuru)		所属等	グリーン科学技術研究所	
			研究室	総合研究棟 501	
分担教員名	加藤 知香				
クラス	理 B G	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	火 1・2
キーワード	原子構造 (Electronic Structure of Atoms)、周期表 (Periodic Table)、化学結合 (Chemical Bond)、気体の状態方程式 (Ideal Gas Law, Van der Waals' Equation)、結晶構造 (Crystal Structure)、状態図 (Phase Diagrams)、束一的性質 (Colligative Properties)				
授業の目標	基礎的 chemistry として、原子の構造、化学結合、気体の性質、物質の状態変化、溶液中のイオンを理解する。				
学習内容	化学は、私たちの身の回りの世界において常に重要な現象として生活に関わりあっている。この学問は、物質の性質・構造・変化を対象としている。化学現象を統一的に理解するには、その根底にある原理・法則を学ぶことが重要である。この講義では原子の構造、原子構成粒子である電子の軌道、その軌道による化学結合形成の原理を学び、化学結合で形成される分子の構造と形状について学習する。次に、分子の集合によって生じる液体・固体の性質・構造を学び、気体・液体・固体間の状態変化と状態表示法についても学習する。さらに、純粋な物質の混合によって生じる混合物・溶液についても学ぶ。				
授業計画	授業計画 (シラバス) テキストの章を以下の順序で講義する。(カッコ内は授業予定回数) 1. 原子の内部 有核原子・周期表・原子とスペクトル・化学と原子核 (第 1～3 回) 2. 化合物の内部 化学結合の原理と関連する問題 (第 4、5 回) 3. 分子を調べる 質量分析法・分子分光法・X 線回折法 (第 6 回) 4. 自由な粒子 (第 7、8 回) 気体の性質と諸法則・実在気体 5. 固体の内部 (第 9、10 回) 凝集力・結晶構造 6. 物の状態変化 (第 11 回) 液体の構造・状態図・相 7. 混合物中の物 (第 12、13 回) 状態図・束一的性質 8. 溶液中のイオン (第 14 回) 電解質溶液・イオン性溶液の性質・イオン伝導率まとめ (第 15 回)				
受講要件	高校で学ぶ化学の知識				
テキスト	P. W. Atkins, M. J. Clugston 「物理化学の基礎」千原・稲葉 訳 (東京化学同人)				
参考書					
予習・復習について	予習：授業関連分野に関して、高校の化学の教科書をよく読みなおしておくこと。復習：週に 1 時間程度、授業で習った内容に関する章末問題を解いておくこと。				
成績評価の方法・基準	基本的に期末試験に基づいて評価するが、受講態度も加味する。				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	哲学 Philosophy				
担当教員名	田中 伸司 TANAKA Shinji		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人文 A 棟 4 1 8	
分担教員名					
クラス	学部共通 1	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	火 3・4
キーワード	プラトン、ソクラテス、古代ギリシア				
授業の目標	哲学的な作品を読むための基礎的な力を身につける				
学習内容	プラトン哲学入門				
授業計画	1. 序文及び第一章「その人物と生涯」 2. 第二章 3. 第三章 4. 第四章（上） 5. 第四章（下） 6. 第五章（上） 7. 第五章（下） 8. 第六章 9. 第七章 10. 第八章 11. 第九章 12. 第十章 13. 第十一章 14. 第十二章 15. まとめ				
受講要件	特にありません				
テキスト	ミヒャエル・エルラー『知の教科書 プラトン』講談社選書メチエ、2015、ISBN 9784062586115、定価：本体 1850 円（税別）				
参考書	納富信留『プラトンとの哲学—対話篇を読む』、岩波新書、2015、ISBN 9784004315568				
予習・復習について	講義する箇所を事前に読んでおくと、授業について行くのが容易になります。興味をもった箇所については、復習よりも、プラトンの作品に直接あたってみるのがいいと思います。				
成績評価の方法・基準	学期末の試験によって評価します。学期末の試験を受けるためには、8 割の出席が必要です。出席確認については、コメントペーパーを利用する予定です。				
オフィスアワー	金曜日 9・10 時限（16：05-17：35）。メールでアポイントメントをとってください。アドレスは、jsstana アットマーク ipc.shizuoka.ac.jp *「アットマーク」を@に変えて使用してください。				
担当教員からのメッセージ	コメントペーパーに質問や意見を記入してくれれば、次の授業で回答を行います。哲学の議論は顔と顔を合わせて行うこと（つまり対話）で深化しますので、基本的にメールでは質疑への回答を行いません。				

授業科目名	ことばと表現 Language Arts				
担当教員名	森本 隆子 MORIMOTO Takako		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人文A棟520-2	
分担教員名					
クラス	学部共通1	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火3・4
キーワード	近代、テキスト、アイデンティティ、恋愛、友情、家族、セクシュアリティ、ジェンダー				
授業の目標	<p>私たちが生きる&lt;日本の近代&gt;とは、どのような時代なのだろうか？</p> <p>文芸作品を機軸に、明治の文豪・夏目漱石から村上春樹やよしもとばなな、ジブリに至るまでが一貫して追究してきた恋愛・家族・アイデンティティ等の問題群について、様々な角度からの提起を試みたい。偉大なる人気作家たちは、規範にはまらず、逸脱を生きる。その変奏を大いに楽しみ、かつ議論したい。</p>				
学習内容	<p>人は生涯に、おおむね2つの家族を生きる、というのが、長く近代社会の約束事であった。</p> <p>&lt;血縁&gt;によって結ばれた生家と、&lt;愛&gt;の絆によって育むもう1つの家族と。</p> <p>近代の文芸作品は、この2つの家族の過渡期を&lt;青春(思春期)&gt;と呼んで、恋愛、友情、性的成熟などの葛藤をヴィヴィッドに織り込んでゆく。</p> <p>&lt;幸福&gt;の名の下に近代人が追究してきた夢と幻想をときほぐし、その先に見えてくるものを展望したい。「アイデンティティ」とは、何だったのだろうか？</p>				
授業計画	<p>第1回 青春、恋愛、そして友情…——「近代小説」の発生</p> <p>第2～6回 夏目漱石『こころ』——2つのちゃぶ台・恋愛結婚イデオロギーの登場</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・&lt;私的空間&gt;の発生——純白の愛と性欲と</li> <li>・男たちの絆——三角形の欲望と帰結としての淋しい「明治の精神」</li> <li>・「心臓(ハート)の授受」と巡る血潮——愛と友情の連続体</li> </ul> <p>第7, 8回 「新しい女」の発生と男たち——夏目漱石 VS. 森?外</p> <p>第9, 10回 &lt;家族映画&gt;を&lt;読む&gt;——小津安二郎・女性映画の名手</p> <p>第11, 12回 村上晴樹『ノルウェイの森』——「まとも」であることの断念・社会からの逃走=闘争</p> <p>第13回 ジブリの批評性——脱・漱石、脱・春樹、あるいは男と国家の退場</p> <p>第14, 15回 女性作家の現代——ばななの「夢のキッチン」と江國の「きらきら」&amp;「流しのした」</p>				
受講要件	特になし。				
テキスト	夏目漱石『こころ』(ちくま文庫)、他は本文抜粋コピーで。				
参考書	小森陽一『漱石を読みなおす』(ちくま新書)、藤本由香里『私の居場所はどこにあるの?』(朝日文庫)、斎藤環『戦闘美少女の精神分析』(ちくま文庫)ほか。教室にて指示します。				
予習・復習について	対象作品を、まずは自力で読み込んでみましょう。自分流の読みや印象と、授業で提供されるアングルおよび友人たちのコメントとのズレや異和を知ること、思考力はグンと伸びます。				
成績評価の方法・基準	毎時のコメント・カード+最終レポートの総和				
オフィスアワー	火曜日56限(教室で一言、声をかけてくれるか、メールで一報を入れてくれると有り難い)。				
担当教員からのメッセージ	高校までの「国語」で、みんながよく知っている「鑑賞」。ここでは、それを時代へ問いかけ、また時代の息吹を映し出す生き物としての「テキスト」へ開く刺激と楽しさを味わいましょう。				

授業科目名	日本国憲法 (The Japanese Constitution)				
担当教員名	根本 猛 (NEMOTO Takeshi)		所属等	法務研究科	
			研究室	人文社会科学部A棟531	
分担教員名					
クラス	学部共通1	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火3・4
キーワード	立憲主義、人権				
授業の目標	日本国憲法の全体像を理解する。				
学習内容	基礎的な解釈論を中心に解説する。現代的な憲法問題にも触れたい。				
授業計画	回 内容 1 憲法って何？ 2 大日本帝国憲法と日本国憲法の生い立ち 3 国民主権と天皇制 4 平和主義1 9条と自衛隊 5 平和主義2 20世紀末以降の展開 6 人権って何？ 7 法の下での平等 8 外国人の人権 9 人身の自由 10 信教の自由と政教分離 11 表現の自由 12 職業の自由 13 社会権—生存権を中心に 14 参政権 15 違憲審査制				
受講要件	高校の現代社会が分かっていないと辛いです。またお互い不幸になるので興味がない方は受講しないようお願いいたします。				
テキスト	初宿正典他 『いちばんやさしい 憲法入門』 有斐閣				
参考書					
予習・復習について	授業には出席しましょう。出席は取りませんが、授業を聴かずに単位修得は難しいと思います。軽くで構いませんから教科書の該当箇所を読んで授業に臨むと理解しやすいです。それでも分からなかったら質問に来てください。				
成績評価の方法・基準	期末試験によります。過去問を配布して解説します。なお、不可をもらっても再試験などはありません。そのつもりで受講してください。				
オフィスアワー	時間が許せばいつでも対応します。無駄足になっては申し訳ないので、電話(238-4274)で在室を確かめて研究室にお出でくださることをお勧めします。				
担当教員からのメッセージ	大学生になったら新聞を読もう。そして投票にも行こう。				



授業科目名	現代の社会 Contemporary Japanese Society				
担当教員名	鈴木 宏尚 SUZUKI Hironao		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人文 A 棟 611	
分担教員名					
クラス	学部共通 1	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	火 3・4
キーワード	現代政治、政治と経済、政治の仕組み、日本と国際社会				
授業の目標	現代日本の政治、経済、外交の課題を歴史と理論の面から理解し、政治や外交に対する自分なりの見方を身につけることを目標とする。				
学習内容	前半は政治についての基本的な概念を学び、後半は現代の日本が抱える政治・外交的課題を歴史的・理論的な視点を踏まえて検討する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス</li> <li>2 執政制度：議院内閣制と大統領制 議院内閣制と大統領制を比較しつつそれぞれの特色を理解する。</li> <li>3 政党と政党政治 政党とは何か。政党は政治においてどのような機能を持つのか。</li> <li>4 選挙制度 選挙制度の分類。選挙制度と政党政治との関連。</li> <li>5 官僚 官僚とは何か。官僚主導政治とその弊害。</li> <li>6 利益集団とマスメディア 利益集団とは何か。利益集団やマスメディアは政治においてどのような機能を持つのか。</li> <li>7 福祉国家と新自由主義（1）「大きな政府」と「小さな政府」</li> <li>8 福祉国家と新自由主義（2）戦後日本における「大きな政府」の成立</li> <li>9 福祉国家と新自由主義（3）新自由主義的改革へ 政府は経済にどの程度介入すべきか。「大きな政府」と「小さな政府」という視角から日本政治を見る。</li> <li>10 安保と 9 条（1）何が、なぜ問題なのか</li> <li>11 安保と 9 条（2）その起源</li> <li>12 安保と 9 条（3）国内政治との関連・持続と変化 日米安保と憲法 9 条の矛盾をはらみつつも相互補完的な関係の歴史的展開と現在の課題を検討する。憲法改正や集団的自衛権の問題にも触れる。</li> <li>13 戦後日本とアジア（1）日中関係の展開</li> <li>14 戦後日本とアジア（2）日韓関係の展開 歴史的展開をたどりつつ現在の日中関係、日韓関係を考える。</li> <li>15 総括</li> </ol> <p>（以上は予定。変更もあり得る。）</p>				
受講要件	特になし。				
テキスト	特に指定せず、毎回プリントを配布する。				
参考書	講義の中で紹介する。				
予習・復習について	高校の政治経済や日本史の教科書の該当部分に目を通しておくと理解がしやすいと思われる。また、日々のニュースにも目を配ること。講義での疑問点は積極的に質問してほしい。				
成績評価の方法・基準	平常点（毎回提出してもらうコメントペーパー）20%、小テスト（学務情報システム利用）20%、期末試験（60%）で評価する。期末試験は論述形式の予定。				
オフィスアワー	水曜日 13:00-14:00 人文 A 棟 611 研究室				
担当教員からのメッセージ	私語は厳禁。意欲的な受講を期待する。				

授業科目名	<p style="text-align: center;">数理の構造 The Structure of Mathematics</p>				
担当教員名	<p style="text-align: center;">四之宮 佳彦 SHINOMIYA Yoshihiko</p>		所属等	<p style="text-align: center;">大学院教育学領域</p>	
			研究室		
分担教員名					
クラス	学部共通 1	学期	前期		必修選択区分
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火 3・4
キーワード	グラフ、木、二部グラフ、マッチング、オイラーグラフ、平面グラフ、隣接行列				
授業の目標	グラフ理論の基礎的な概念を理解する。				
学習内容	グラフとは、幾つかの点とそれらを結ぶ辺のことを言います。関数のグラフとは別物です。本講義ではグラフ理論の基礎的な内容について学びます。逐次演習問題を配布する予定です。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 論理と証明 1</li> <li>2. 論理と証明 2</li> <li>3. グラフの定義と用語</li> <li>4. いろいろなグラフ</li> <li>5. 多重グラフと有向グラフ</li> <li>6. 二部グラフ</li> <li>7. マッチングと筋交いの問題</li> <li>8. 木</li> <li>9. 中間テスト</li> <li>10. サイクル分解とその応用</li> <li>11. 点彩色とその応用</li> <li>12. 平面的グラフ</li> <li>13. オイラーの定理</li> <li>14. 行列の演算</li> <li>15. グラフの行列表示</li> </ol>				
受講要件					
テキスト	小林みどり「あたらしいグラフ理論入門」牧野書店, 2,600 円+Tax				
参考書	授業の最初に紹介する。				
予習・復習について	復習が特に大切です。講義を聞いてわかったと思っても改めてもう一度考えてみましょう。				
成績評価の方法・基準	中間テスト 30%+期末試験 70%, 授業への取り組み状況を加味して評価する。				
オフィスアワー	授業の最初に知らせる。				
担当教員からのメッセージ	集合と論理に関する知識以外には高校数学の知識はあまり必要としません。休まず出席すること、しっかり復習することが大切です。わからないことはそのままにせず、質問に来るなどして理解してってください。				

授業科目名	物理の世界 Introduction to Physics				
担当教員名	松本 正茂 MATSUMOTO Masashige		所属等	大学院理学領域	
			研究室	理学部 A棟 A501	
分担教員名					
クラス	学部共通2	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火3・4
キーワード	波、音、電気、磁気、光、物質の波				
授業の目標	身近にある自然現象がどのような仕組みによるものであるかを知る。また、その仕組みを利用して、身近なものにどのように利用されているか、知識を深めることを目標とする。				
学習内容	身近にある自然現象を取り上げ、それがどのような考え方によって理解されるかをわかりやすく解説する。授業では具体的に、「波」に関する自然現象に焦点をあてる。日常使っている電気器具や装置に、それがどのように応用されているかについても、いくつかの例をあげて説明する。				
授業計画	1. ガイダンス 2. 物質について 3. 音、音の速さ、波長、周期、周波数 4. 電球、蛍光灯、ストロボ効果 5. 波の重ね合わせ、うなり、波の反射、定在波 6. 楽器の音、基音、倍音、オクターブ、音色 7. 共鳴（共振） 8. 耳のしくみ、屈折の原理 9. 屈折現象（波の屈折、レンズ） 10. 音の屈折、自然の法則について 11. 電気、電流、電位、電圧、アース 12. 電流と磁気、電磁誘導、モータ、発電機 13. 電磁波、光 14. 物質の波 15. まとめ 16. 試験				
受講要件					
テキスト					
参考書					
予習・復習について	予習と復習を必ずおこなうこと。				
成績評価の方法・基準	授業で出す課題に対するレポート、試験の成績を総合的に判断して成績を評価する。				
オフィスアワー	特に定めない（必要に応じて定めることもある）。				
担当教員からのメッセージ	物理は非常に難解でわかりにくく、できるなら避けたいと考えている人は少なくないと思われる。しかし、身のまわりの自然は、物理によって、そんなに難しいことなく理解できることを知っていただきたい。				

授業科目名	化学の世界 Introduction to Chemistry				
担当教員名	瓜谷 眞裕 URITANI Masahiro		所属等	大学院理学領域	
			研究室	理学部 A 棟 312 室	
分担教員名	関根 理香				
クラス	学部共通 2	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	火 3・4
キーワード	元素、金属とその利用、周期表、電子配置、無機化学				
授業の目標	私たちの身の回りには化学物質があふれている。また、私たちが遭遇するさまざまな課題：人口、食糧、エネルギー、資源、環境、健康いずれの分野でも化学が重要な役割をはたさなければならない。現代に生きる人間として、必要な化学の知識を身につけることを目標にする。				
学習内容	テキストに沿って、無機化学、環境化学、有機化学、生物化学の各分野から、生活にかかわりのあるテーマをとりあげ、講義する。前半（1回から8回まで）を関根が担当し、後半（9回から15回まで）を瓜谷が担当する。				
授業計画	1. ガイダンス・1講 銅と文明 2. 2講 鉄と生活・3講 貴金属の利用 3. 4講 重金属と人間・5講 ケイ素とアルミニウム 4. 6講 アルカリ土類金属と人間 5. 7講 アルカリ金属と化学工業 6. 8講 周期律と元素 その1 7. 8講 周期律と元素 その2 8. 前半の試験（1回～7回） 9. 16講 香りの分子 10. 17講 視覚と色素 11. 18講 味と自然界の右左 12. 19講 農薬とフェロモン 13. 22講 栄養とアミノ酸 14. 23講 薬と作用 15. 24講 ビタミンと病気				
受講要件	高校で化学基礎を履修していることを前提に授業を行う。				
テキスト	芝 哲夫 著 「化学物語 25講 生きるために大切な化学の知識」 化学同人 本体 1800 円 ISBN 9784759807769				
参考書	(前半) 寄藤文平 著 「元素生活」化学同人；文庫版 ISBN 978-4759815955 700 円＋税 [CD]かっつきー&アッシュポテト 「スイヘイリーベ〜魔法の呪文〜」flying DOG ASIN: B002AD9UCE 900 円程度 セオドア・グレイ 著 「世界で一番美しい元素図鑑」 創元社 税込 4104 円 ISBN 978-4422420042 (後半) 日本化学会編 「化学ってそういうこと！」化学同人（本体：1,800 円＋税） ISBN コード 9784759809				
予習・復習について	(前半) 1回の授業につき、予習・復習あわせて週1時間程度テキストまたは配布プリントを読めば十分。授業後、学務情報システム上に授業で使ったスライドをアップする。				

	(後半) 1回の授業につき、予習・復習として1時間程度はテキストを読み、章末問題を解くこと。
成績評価の方法・基準	単位の認定には、原則として3分の2以上の出席が必要です。(前半)と(後半)で成績を個別に評価し、その平均で成績評価を出します。(前半)及び(後半)の成績は次のように評価します。  (前半) 試験 70% 出席状況(毎回の小テスト) 30% (後半) レポート 70% 出席状況(毎回の小テスト) 30%
オフィスアワー	(前半) 特にもうけないが、質問にはできる限り授業中に答えたいので毎回の小テストを活用してほしい。時間が足りなければ、学務情報システムを適宜利用する。  (後半) 特に設けないが可能な限り対応します。
担当教員からのメッセージ	(前半) 周期表を歌って覚えましょう！  (後半) 身の周りにあるものや日常生活で見聞きする現象を化学の視点から見直してみることで、化学を身近に感じてもらえるとうれしいです。化学(科学)の考え方やものの見方を分かってもらえるといいなと思います。

授業科目名	化学Ⅲ (有機化学) (Chemistry III (Organic Chemistry))				
担当教員名	山本 歩 (YAMAMOTO Ayumu)		所属等	大学院理学領域	
			研究室	理学部A棟 311	
分担教員名					
クラス	理BG	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水 1・2
キーワード	混成軌道、IUPAC命名法、付加反応、置換反応、脱離反応、ラジカル反応、光学異性体、芳香族、脂肪族、官能基				
授業の目標	混成軌道の知識を基に、分子の構造について理解し、分子の名称と異性現象についても理解を深める。有機合成は簡単な分子から反応を通じて複雑な分子へと変換することである。種々の有機反応の基本をしっかりと学ぶ。				
学習内容	我々生命体は有機化合物の集まりであり、また、有機化合物を素材とする種々の物体に取り囲まれて生活している。これらの有機化合物を取り扱うのが有機化学であり、この理解なくして生命現象を理解することはできない。有機化学は量子理論に基づいた構造論と、化学反応を支配する理論によって体系化されている。また、有機化学は物質を取り扱うので、化学全体の基礎となっている。本授業では、有機化合物の結合様式と分子の種類について、また、脂肪族化合物および芳香族化合物の基本骨格とその構造について学び、さらにこれらの化合物の基本原理に基づいた反応について学ぶ。				
授業計画	<p>教科書にそって、以下の項目を解説する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 有機化学の基礎・・・原子の電子配置</li> <li>2. 化学結合と電子構造・・・共有結合の成り立ち、混成軌道と分子の形</li> <li>3. 電子の動きと共鳴・・・極性結合と電子の動き、共鳴と酸塩基</li> <li>4. 構造式と化合物の分類、命名・・・構造式の表記と有機化合物の分類、構造異性体と命名法</li> <li>5. シス・トランス異性と立体配座・結合回転による異性、シクロアルカン</li> <li>6. キラル炭素と鏡像異性・・・鏡像異性体とその区別、生体分子とキラリティ</li> <li>7. 有機化学反応の分類と進み方・・・有機化学反応のいろいろ、有機化学反応の進み方</li> <li>8. アルカンのラジカル反応・・・ラジカル反応のメカニズム</li> <li>9. ハロアルカンの求核置換反応・・・求核置換反応のメカニズム、反応の競合と脱離反応</li> <li>10. アルケンの求電子付加反応・・・付加反応のメカニズム、アルキンの反応とハロゲンの付加</li> <li>11. ベンゼンと芳香族化合物・・・ベンゼンと芳香族化合物、「芳香族性」と多様な化合物</li> <li>12. ベンゼンの求電子置換反応・・・置換反応のメカニズム、置換基による反応性への影響</li> <li>13. カルボニル化合物の求核付加反応 ・・・求核付加反応のメカニズム、エノラートアニオンとアルドール反応</li> </ol>				
受講要件	化学Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい				
テキスト	川端潤著『ビギナーズ 有機化学』第2版 (化学同人)				
参考書	適宜、授業中に紹介する。				
予習・復習について	あらかじめ教科書を読んでくること。講義後、からなず復習をすること。自主的に章末問題を解くこと。				
成績評価の方法・基準	単位の認定と成績の評価は、レポートおよび期末試験の総点で判断する。単位の認定は3分の2以上の出席を前提とする。				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	初修外国語（フランス語）入門Ⅱ Basic French Ⅱ				
担当教員名	浅野 幸生 ASANO Yukio		所属等	学院院人文社会科学領域	
			研究室	人文 A 棟 408	
分担教員名					
クラス	人 2	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	2 年	単位数	1	曜日・時限	水 5・6
キーワード	フランス言語文化				
授業の目標	文法・音声の基本を固めると同時に、フランス文化の諸相についても理解を深めるようにする。				
学習内容	フランス語の文法を学ぶ。				
授業計画	<p>大体以下の通りに進行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) フランス・フランス語全般に関して。学習上の諸注意・発音や正書法の説明。</li> <li>2) 名詞の性・冠詞・綴り字と発音（1）</li> <li>3) avoir, être, -er 動詞の活用・綴り字と発音（2）</li> <li>4) 挨拶・紹介等の表現、否定文、疑問文、発音と綴り字（3）</li> <li>5) 形容詞、-ir 動詞、数詞、綴り字と発音（4）</li> <li>6) 指示形容詞・指示代名詞・aller と venir・綴り字と発音（5）</li> <li>7) それ以降はテキストに沿って進行する。必ずしも予定通りに行くとは限らないが、予定に縛られすぎると授業が無機格的になって好ましくない。大切なことはできるだけ繰り返す方針。</li> </ol>				
受講要件	フランス語初心者。				
テキスト	生協であらかじめ購入のこと。				
参考書					
予習・復習について	予習が重要。				
成績評価の方法・基準	平常点と試験による。				
オフィスアワー	月 14 : 20 ~ 15 : 30				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	地球科学 I (基礎 A) Geosciences I(Fundamentals A)				
担当教員名	北村 晃寿 KITAMURA Akihisa		所属等	学術院理学領域	
			研究室	共通教育 C 棟 311	
分担教員名					
クラス	理 C B	学期	前期		必修選択区分 必、選必
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	木 1・2
キーワード	地球の誕生、生物進化、地球環境、大量絶滅、気候変動、人類の進化、巨大地震、南海トラフ				
授業の目標	地球と生命の歴史を学び、地球上の多くの事象に潜む歴史的背景の重要性を理解する。				
学習内容	<p>温暖化、生物多様性の減少、エネルギー問題などが人類の将来に影響を落としている。私たち人類はどこに向かうのだろうか。それを考えるには、人類の歩んできた歴史を知る必要がある。なぜならば、人類の高度な文明は歴史の産物だからだ。そこで、この授業では、46 億年前の惑星「地球」の誕生から、生命の発生と進化、地球表層の環境の変遷、生命と環境の相互作用の歴史を概説する。また、静岡県以南の太平洋沿岸域は、近い将来、南海トラフの大地震の被害を受けることが確実である。この大地震へ備えるためには、過去の地震や津波の実態の理解も必要であるので、本講義で紹介する。</p> <p>講義はパワーポイントと配布資料で行う。パワーポイントで「ノート」と示した箇所は、筆記具でノートに書き込むか、PC に打ち込むか、あるいは記憶する。カメラ撮影は許可しない。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 東北地方太平洋沖地震と巨大津波、南海トラフの巨大地震について</li> <li>2. 化石記録と地層</li> <li>3. 初期地球の環境と生命の起源</li> <li>4. 錆びる地球と凍る地球</li> <li>5. エディアカラ動物群とカンブリア紀の生命大爆発</li> <li>6. 古生代の生物の進化</li> <li>7. 古生代後期の生物の進化と絶滅</li> <li>8. 中生代の古生物—恐竜—</li> <li>9. 中生代末の絶滅事件、哺乳類の繁栄と急激な温暖化事件</li> <li>10. 気候変動の復元方法</li> <li>11. 気候変動のメカニズム</li> <li>12. 氷期-間氷期サイクルの原因、人類の進化</li> <li>13. 日本列島の島嶼化、最終氷期の環境変動</li> <li>14. 過去 1 万年間の環境変動</li> <li>15. 文明と気候変動、地球温暖化問題</li> </ol>				
受講要件	なし				
テキスト	なし				
参考書	毎回の授業でプリントを配布する。				
予習・復習について	毎回の授業で配布するプリントで復習する。適時、レポートを課す。				
成績評価の方法・基準	出席(出席 2/3 以上を評価の対象とする)、授業態度、試験にて総合的に評価します。出席はできる限り正確にとります。出席状況の記録は開示しません。授業中に外部との通信機能を持つ機器(例えば、携帯電話)を使用していた場合は、不正行為と見なすことがあります。				
オフィスアワー	相談内容・日時に関しては、事前にメールで連絡下さい(アドレス: seakita@ipc.shizuoka.ac.jp)				
担当教員からのメッセージ	歴史科学の重要性を理解して欲しい。				



授業科目名	<p style="text-align: center;">数学Ⅰ（微分積分A） Mathematics I(Infinitesimal Calculus A)</p>				
担当教員名	松本 敏隆 MATSUMOTO Toshitaka		所属等	学術院理学領域	
			研究室	理学部 C 棟 510	
分担教員名					
クラス	理PCBG1	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	木3・4
キーワード	極限、微分、積分				
授業の目標	<p>高等学校の数学Ⅰ,ⅡBまで習得している学生（クラス3）と、高等学校の数学Ⅲ,Cまで習得している学生（クラス1,2）に分けて、3クラスで講義を行います。 講義では微分および積分において数式の計算とその応用について身につけることを目標とします。</p>				
学習内容	<p>大学での数学は最初に微分積分と線形代数を学びますが、数学での取り組み方に分析的手法（解析）と統合的手法（代数、幾何）があります。このうち微分積分では、分析的手法の第一歩を学びます。 講義では微分では極限の説明があり、また積分では区分求積法の説明で積分の定義を学びます。ノートと筆記用具を用意しておいて進めることが数学を学ぶための手段です。またレポートや演習で講義の内容を確かめます。</p>				
授業計画	<p>数学Ⅰ,Ⅱ,Ⅲは、各々3クラスに分けて講義をします。前期の数学Ⅱの第1回講義に試験を行い、クラスを決定します。試験を必ず受けて下さい。再履修の受講生は前年度までのクラス分けに従って受講してください。3クラスの担当教員は、</p> <p>クラス1： 数学Ⅰ 待田教員    -数学Ⅱ 若井教員    -数学Ⅲ 久村教員          クラス2： 数学Ⅰ 松本敏教員    -数学Ⅱ 待田教員    -数学Ⅲ 待田教員          クラス3： 数学Ⅰ 奥村教員    -数学Ⅱ 鈴木信教員    -数学Ⅲ 毛利教員</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 整式 数と文字、文字式、平方根、2次方程式</li> <li>2. 実数の性質 1次関数、2次関数、不等式、三角比、三角関数、指数、対数</li> <li>3. 極限 数列の極限、実数の連続性、和の記号<math>\Sigma</math>と級数、優級数定理</li> <li>4. 関数 関数の定義域と値域、関数の極限</li> <li>5. 微分 整式の微分、導関数、積・商の微分、合成関数・逆関数の微分</li> <li>6. 平均値の定理 平均値の定理、関数の増減、三角関数の微分、指数関数・対数関数の微分、ロピタルの定理</li> <li>7. テイラーの定理 高階導関数、テイラーの定理</li> <li>8. 積分 不定積分、置換積分、部分積分、定積分、広義積分、曲線の長さ、面積・体積</li> </ol>				
受講要件					
テキスト	水田義弘 著「入門微分積分」(サイエンス社),ISBN4-7819-0822-5, ISBN 978-4-7819-0822-9				
参考書	「微分積分概論」, 越 昭三 監修,高橋泰嗣,加藤幹雄 著, (サイエンス社), 1998, ISBN-10: 478190873X, ISBN-13: 978-4781908731				
予習・復習について	授業のノートおよびテキストで予習および復習をしてください。数学の問題に取り組むことが重要です。				
成績評価の方法・基準	定期試験を主に、受講態度・レポートを加えて評価します。 試験では論述的な解答が求められます。				
オフィスアワー	講義の際に、各教員より提示されます。				
担当教員からのメッセージ	復習は必要です。テキストや参考書の演習問題を解くことで理解が身に付きます。				

授業科目名	物理学Ⅱ（電磁気） Physics II(Electromagnetism)				
担当教員名	佐藤 信一 SATO Shinichi		所属等	大学院理学領域	
			研究室	共通教育D棟 203	
分担教員名					
クラス	理 2	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	金 1・2
キーワード	電荷、電場、電流、磁場、電磁波				
授業の目標	電磁気に関する基本的な概念と法則について学び、電磁気に関する理解を深める				
学習内容	現代の科学技術の発展に深く関わる電磁気学の基礎について解説する。電荷と電位、電場、磁場などの基本的な概念とガウスの法則、電磁誘導の法則などの電磁気学の諸法則を学び、電磁気現象に対する理解を深める。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 電荷とクーロンの法則</li> <li>2. 電場</li> <li>3. 電場のガウスの法則</li> <li>4. 電位</li> <li>5. キャパシタ</li> <li>6. 誘電体</li> <li>7. 電流と起電力</li> <li>8. 電気抵抗とオームの法則</li> <li>9. 直流回路</li> <li>10. 交流回路</li> <li>11. 磁石と磁場</li> <li>12. 電流の作る磁場</li> <li>13. 荷電粒子に働く磁気力</li> <li>14. 電磁誘導</li> <li>15. 電磁波</li> </ol>				
受講要件	物理学 I (力学) を履修していることが望ましい。				
テキスト	「基礎物理学」 原康夫著 (学術図書出版)				
参考書	必要に応じて紹介				
予習・復習について	予習と復習を行うこと。				
成績評価の方法・基準	出席状況、宿題、および定期試験				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ	簡単な微分、積分とニュートンの法則などの運動力学の基礎を使用しますが、電磁気に関する知識は前提としません。				

授業科目名	生物学概論A Biology A			
担当教員名	山脇 和樹	所属等		
		研究室		
分担教員名				
クラス		学期	前期	必修選択区分
対象学年		単位数		曜日・時限
				金 1・2
キーワード	生体膜、タンパク質、細胞小器官、同化と異化、呼吸、光合成、遺伝子、DNA、転写、翻訳			
授業の目標	テキストの第2章「分子から細胞へ」を中心に生物学の基礎を学ぶ			
学習内容	生物を構成する物質の化学構造と特徴についての理解から始まって、細胞の構造、細胞小器官のはたらきを理解する。生体膜の構造と働き、細胞内で行われている異化反応である好気呼吸、同化反応である光合成などの基本を学ぶ。最後に、古典的なメンデルの法則を理解した後に、遺伝情報を担っているDNAの働きについて学習を進める。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンスー生物学を勉強するにあたってー(ガイダンス後、すぐに本論に入る) 生体構成物質としての水の性質</li> <li>2. 生体を構成する分子ー生体元素と水ー 炭素、酸素、水素、窒素、リンなどの生体元素</li> <li>3. 生体を構成する分子ー核酸とタンパク質ー 核酸とタンパク質の構造、ヌクレオチドとアミノ酸、ペプチド結合</li> <li>4. 生体を構成する分子ー糖質と脂質ー 糖質と脂質の分子構造、生体膜の構成</li> <li>5. 細胞の構造と細胞小器官 核、ミトコンドリア、葉緑体、ゴルジ体、液胞、リボソーム、小胞体などの構造</li> <li>6. 生体膜の働き 選択的透過性、受動輸送、能動輸送、ナトリウムポンプの働き</li> <li>7. 同化と異化・解糖系 ATP生成の理由、ブドウ糖からピルビン酸へ</li> <li>8. TCA回路と電子伝達系 ピルビン酸からアセチルCoAへ、電子伝達によるATP生成のしくみ</li> <li>9. 光合成 光化学系と電子伝達、カルビン=ベンソン回路による有機物合成のしくみ</li> <li>10. 体細胞分裂と細胞間情報伝達 体細胞分裂のしくみ、染色体の構造</li> <li>11. メンデルの法則とセントラルドグマ 優性・分離・独立の法則とDNA、遺伝子発現</li> <li>12. DNAの複製</li> </ol>			

	<p>塩基対からなる二重らせん構造の複製のしくみ, DNAポリメラーゼ</p> <p>13. 転写とその制御</p> <p>転写のしくみ, 転写制御, エクソンとイントロン, スプライシング</p> <p>14. タンパク質への翻訳</p> <p>コドン表, 3種類のRNAの役割, 遺伝子組換え</p> <p>15. 質問日</p> <p>授業で扱いきれなかった内容を補足, 質問を受ける日</p>
受講要件	なし
テキスト	生命科学のための基礎シリーズ 生物 大島泰郎監修 実教出版
参考書	ダイナミックワイド図説生物・総合版 石川統・辻英夫・水野丈夫監修 東京書籍など その他必要な場合は授業中に適宜紹介する
予習・復習について	予習: 授業はテキストにしたがって進むので, 次回の授業で取り上げる部分をあらかじめ読んでくること 復習: 図説などの参考書も利用し, 理解が不十分な箇所の補強に努めること
成績評価の方法・基準	成績: 期末に行われる試験(80%)および受講状況(出席、課題提出など 20%)で、理解度や習熟度を評価し、秀、優、良、可、不可の成績をつける
オフィスアワー	特に定めていないが、夕刻等の空いている時間帯に対応したい
担当教員からのメッセージ	農学部で学習するさまざまな専門科目の基礎となる基幹科目であることを念頭において学習してほしい

授業科目名	生物学A			
担当教員名	鳥山 優	所属等		
		研究室		
分担教員名				
クラス	学期	前期	必修選択区分	
対象学年	単位数		曜日・時限	金 1・2
キーワード	細胞、生体構成物質、細胞分裂、遺伝子 (DNA)、セントラルドグマ、バイオテクノロジー、解糖系、TCA回路、電子伝達系、光合成			
授業の目標	すべての生命が細胞活動によって支えられている、そのしくみについての理解を最終目標とする。そのために、細胞内で行われる化学反応の総体である代謝、セントラルドグマによる遺伝情報の発現を分子の動きで説明し、それが生命を維持するしくみについて概観を説明できるまでに理解する。			
学習内容	生命の最小単位である細胞の構造と機能について理解する。細胞を構成する物質、細胞のなりたち、細胞分裂、遺伝情報の発現とその応用技術であるバイオテクノロジーの概説、さらには、細胞内における基礎的代謝経路について、解糖、TCA 酸回路、カルビン回路等を概説する。			
授業計画	<p>第1回：生物の起源と共通性 地球上における生命の誕生、化学進化と生物進化</p> <p>第2回：細胞の構造 細胞小器官の種類と構造・働き</p> <p>第3回：細胞を作る物質 生体構成物質の種類、水、糖、脂質、タンパク質、核酸</p> <p>第4回：生体膜 生体膜の構造とはたらき、流動モザイクモデル</p> <p>第5回：細胞の分裂 核分裂と細胞質分裂、染色体の構造</p> <p>第6回："遺伝子の本体としての DNA メンデル～DNA 構造の決定" メンデルの法則、DNA の二重らせんモデル</p> <p>第7回：DNA 複製 DNA 複製のしくみ、DNA ポリメラーゼの構造と働き</p> <p>第8回：遺伝情報の発現 セントラルドグマ、RNA ポリメラーゼ、プロモーター</p> <p>第9回：生命現象を支えるタンパク質の働き・細胞分化 タンパク質の機能と発現調節による細胞の分化</p> <p>第10回：遺伝子変異／ゲノムプロジェクト 突然変異による形質転換、ゲノムの全容を明らかにする研究</p> <p>第11回：バイオテクノロジー DNA を利用した生物機能の改変</p> <p>第12回："代謝とエネルギー 同化／異化・解糖系" 独立栄養生物と従属栄養生物、同化と異化のあらまし</p> <p>第13回：TCA 回路/電子伝達系 ミトコンドリアによるエネルギー生産</p> <p>第14回：光合成1 葉緑体の構造、光のエネルギーを化学結合のエネルギーへ</p> <p>第15回：光合成2 カルビン・ベンソン回路</p>			

受講要件	なし
テキスト	ライフサイエンスのための生物学（培風館） ダイナミックワイド図説生物（東京書籍）
参考書	なし
予習・復習について	（予習）授業はシラバス通りに進めるので，該当する教科書の部分にあらかじめ目を通してくること。 （復習）教科書の章末にある問題を指定するので，それに各自取り組むこと。
成績評価の方法・基準	期末試験のみで評価する。成績評価については，「秀」「優」「良」「可」「不可」の5段階とし，それぞれの評価の点数範囲は静岡大学単位認定等に関する規程に基づく。
オフィスアワー	月曜日の午後。 あらかじめメールで了解をとること。
担当教員からのメッセージ	予習にしっかり取り組むこと。 高校において生物未履修者は高校の教科書や参考書等を使って事前の理解を得ておくこと。 大学受験のための問題集を活用するとよい。

授業科目名	静岡県防災・減災と原子力 Disaster prevention and mitigation for nuclear safety in Shizuoka				
担当教員名	大矢 恭久 OYA Yasuhisa		所属等	学術院理学領域	
			研究室	理学部 A202	
分担教員名	近田 拓未、矢永 誠人、原田 賢治、郡司 賀透、鈴木 誠之				
クラス	学部共通 1	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	金 3・4
キーワード	防災・減災、地域と原子力、長期的なエネルギー問題				
授業の目標	静岡県は東海地震想定域に位置しているとともに、中部電力浜岡原子力発電所を有している。そのため、長期的なエネルギー問題や原子力の在り方について「みんなで考える」機会を持つと共に、防災・減災（特に原子力防災・減災）の在り方について理解を深め、原子力の在り方について学生自らの問題として理解し、考えることのできる学生の育成をめざす。				
学習内容	静岡県の減災・防災の取り組みや原子力・放射線への理解を高めると共に、原子力防災・減災の取り組みや長期的なエネルギー問題における原子力の在り方について「みんなで考える」そして「みんなで理解する」科目である。グループワークを通して、自分の問題として原子力や防災・減災について考えてみる。中部電力、静岡県、静岡新聞社の担当者を招聘してそれぞれの機関での防災対策についても解説してもらいます。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 社会合意形成とは（グループワークを通して）</li> <li>3. 放射線と放射能</li> <li>4. 津波災害についての基礎</li> <li>5. 浜岡原子力発電所と安全対策</li> <li>6. 静岡県の原子力防災・減災体制</li> <li>7. 静岡市の緊急時支援体制</li> <li>8. 報道と原子力防災</li> <li>9. 防災・減災教育</li> <li>10. 原子力災害からの復興</li> <li>11. 目で見える放射線とその防護（1）</li> <li>12. 目で見える放射線とその防護（2）</li> <li>13. 議論することとその方法</li> <li>14. 専門家と市民とのコミュニケーションの方法論</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>講義の順番は前後することがある。</p>				
受講要件	特になし				
テキスト	静岡県の防災・減災と原子力（静岡学術出版）当日配布します。				
参考書	なし				
予習・復習について	テキスト、講義資料や関連図書による予習および復習をおこなうこと。				
成績評価の方法・基準	講義中に小レポート、講義中の発表内容および期末のレポートを総合的に評価する。				
オフィスアワー	8:00-20:00				
担当教員からのメッセージ	静岡県の原子力の在り方、原子力防災・減災の在り方についてみんなで考えてみませんか？				

授業科目名	地震防災 Prevention of Earthquake Disaster				
担当教員名	牛山 素行 USHIYAMA Motoyuki		所属等	防災総合センター	
			研究室	防災総合センター	
分担教員名	生田 領野、三井 雄太、原田 賢治、土屋 智、安村 基、村越 真、小林 朋子、岩田 孝仁、長尾 年恭、荒川 修平、武村 雅之、狩野 謙一、横幕 早季				
クラス	学部共通 1	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	金 3・4
キーワード	地震災害、防災、減災、災害対策、危機管理、防災教育				
授業の目標	地震防災はさまざまな分野にまたがる総合科学であり、東海地震の発生が危惧されている静岡県で生活する学生にとってこれを学ぶことは極めて重要である。また、静岡県において警戒すべき災害は東海地震にとどまるものではなく、幅広い視野から災害を考える視点を養うことも重要である。今後、社会の一員として活動していく中で、日々の仕事や日常生活の中に、防災に関する視点を持てるようになることを目標とする。				
学習内容	地震災害をおもな題材とし、地震と災害の発生メカニズム、災害に対する社会の対応など、災害科学について各分野の専門家による講義を通じて総合的に学ぶ。				
授業計画	各回毎に講義担当者が代わり、それぞれの分野の専門家により、講義が行われる。 地震学と東海地震の基礎 1 生田領野 静大 地震学と東海地震の基礎 2 三井雄太 静大 活断層と地震発生長期予測 狩野謙一 静大 地震防災行政 岩田孝仁 静大 地震による災害：津波災害 原田賢治 静大 地震による災害：建物災害 安村基 静大 地震による災害：土砂災害 土屋智 静大 災害時の心のケア 小林朋子 静大 災害報道 荒川修平 テレビ東京 地震予知 長尾年恭 東海大 地震災害史 武村雅之 名古屋大 地震災害のリスク認知 村越真 静大 市民防災 横幕早季 静大 災害時の医療 山本裕之 静大 防災を学ぶ(講義のおわりに) 牛山素行 静大 ※講師の都合により、講義順序が入れ替えとなる場合がある。				
受講要件	特になし				
テキスト	特になし				
参考書	特になし				
予習・復習について	予習・復習合わせて週 1 時間程度はテキストや配布資料を読み、不明な点は図書館やネット検索するなどして自分で調べてほしい。				
成績評価の方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の講義の最後に小レポートを出題し、原則として講義時間内に提出を求める。講義時間中に特に指示があった場合を除き、小レポートの後日提出は認めない。</li> <li>・小レポートの提出回数が、10 回以上の者を成績評価の対象とする。期末試験は実施しない。最後にレポートの点数を合計し、評価を決める。</li> <li>・欠席時の講義内容については、欠席者自身で情報収集すること。</li> <li>・欠席届等の提出を希望する場合は、各回の担当教員または、主担当教員(防災総合センター・牛山教授)まで提出すること。</li> <li>・講義期間終了後に、レポート出題などによつ</li> </ul>				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ	<p>本学防災総合センターが企画している講義である。多様なバックグラウンドを持つ、学内外の専門家による講義を直接聞くことができる貴重な機会であり、本学ならではのユニークな構成となっている。是非この機会を生かして欲しい。</p>				



授業科目名	富士山学 Fujisan Sciences				
担当教員名	徳岡 徹 TOKUOKA Toru		所属等	大学院理学領域	
			研究室	理学部A棟 517	
分担教員名	和田 秀樹、増澤 武弘				
クラス	学部共通 1	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	金 3・4
キーワード	富士山、活火山、高山植物、ユネスコ世界文化遺産				
授業の目標	富士山は静岡と山梨両県をまたぎ、火山国日本の象徴的活火山であり、日本一の高さで容積を持つ。日本人が石器時代から、また縄文の時代から仰ぎ見る富士山の姿はどのようにしてでき変化してきたか？、自然史の中の富士山を人々がどのようにみてきたか？身近な自然現象の科学と自分とのつながりを考えてみよう。				
学習内容	地質学的側面、生物学的側面、人文科学的側面と多様な見方で富士山という火山を考えていく。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 総論：富士山に生きる生物ー活火山と共にー 増沢武弘(理学部)</li> <li>2. 富士山に生きる生物</li> <li>3. 富士山の永久凍土とコケ植物</li> <li>4. 富士山植物の垂直分布 亜高山帯</li> <li>5. 富士山植物の垂直分布 高山帯</li> <li>6. 富士山植物の垂直分布 上部高山帯と山頂</li> <li>7. ブナ林の現状と将来</li> <li>8. 植物の分類・系統と植物地理学 徳岡徹 (理学部)</li> <li>9. 富士山の植物相</li> <li>10. 富士山の周辺地域の植物相</li> <li>11. 富士山の火山としての誕生 ー富士山がそこにあるわけ 和田秀樹(理学部)</li> <li>12. 富士山の地下には何がある I 日本列島の生い立ちと富士山</li> <li>13. 富士山の地下には何がある II 富士山周辺の地質と活動史</li> <li>14. 富士山の噴火口、寄生火山 富士山の最近の活動、宝永の噴火まで</li> <li>15. 富士山活動の歴史を調べる方法のあれこれ 年代と赤色立体地図</li> </ol>				
受講要件	特に無し				
テキスト					
参考書	富士山噴火 鎌田浩毅著 講談社ブルーバックス、 静岡自然史 池谷仙之監修 静岡新聞社 富士山の謎をさぐる-富士山の地球科学と防災学 日大地球システム科学教室編 築地書館				
予習・復習について	富士山に関する書籍を読み、予習復習して下さい。				
成績評価の方法・基準	試験とレポート				
オフィスアワー	訪問前にメール（徳岡宛：sttokuo@ipc.shizuoka.ac.jp）で問い合わせてください。				
担当教員からのメッセージ	誰もが知る富士山。世界を見渡しても山容の見事さは群を抜き、その自然の恵は計り知れない。富士山麓にすむ人を含めた生物はその恵を知らずともうけている。そして、火山にも寿命がある。地球が生きているという確かな息吹を静岡の地で感じていただきたい。				

授業科目名	公共施設デザイン論			
担当教員名	岩田 孝仁		所属等	
			研究室	
分担教員名				
クラス		学期	前期	必修選択区分
対象学年		単位数		曜日・時限
	金 3・4			
キーワード	公共施設、土木構造物、構造物の設計、都市計画、交通ネットワーク			
授業の目標	私たちの暮らしを支える道路、橋梁、河川、海岸、港湾、砂防など様々な公共施設の計画から設計に関する考え方、さらに都市計画や交通計画の手法についてその概要を学ぶことにより、社会資本整備やまちづくりをデザインする上での基礎を身につける。			
学習内容	道路、橋梁、河川、海岸、港湾、砂防など様々な公共施設の計画から設計に関する具体的な流れや考え方、手法、さらに都市計画や交通計画の手法に関する概論を、実践事例を交えて学習する。			
授業計画	<p>下記の内容について資料などにに基づき、それぞれの分野の専門家により講義を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公共事業の概要</li> <li>・道路計画と設計</li> <li>・橋梁設計</li> <li>・舗装計画と設計</li> <li>・河川計画と設計</li> <li>・海岸保全計画と設計</li> <li>・砂防、治山、急傾斜対策の計画と設計</li> <li>・港湾、漁港計画と設計</li> <li>・都市計画</li> <li>・交通計画</li> </ul> <p>なお、都合により講義の順番は前後することがある。</p>			
受講要件	特になし			
テキスト	特に指定しないが、適時資料を配布する。			
参考書	指定しないが、必要があれば授業でその都度示す。			
予習・復習について	講義ノートや関連資料、図書による復習を必ず行うこと。			
成績評価の方法・基準	毎回の講義の最後に課す小レポートの採点結果を集計し評価する。 なお、全出席回数数の 2/3 以上の者を成績評価の対象とする。			
オフィスアワー	講義終了後に申し出るか、事前に防災総合センターに問い合わせること。			
担当教員からのメッセージ	道路や港、橋梁、砂防施設、海岸や河川堤防など私たちの生活を支える公共施設の計画や設計に関して技術的背景をもとに学習することができ、将来、技術系公務員や地域づくりなどの仕事をを目指す学生には実践的で有意義な講義である。			

授業科目名	平和学			
担当教員名	橋本 誠一		所属等	
			研究室	
分担教員名				
クラス		学期	前期	必修選択区分
対象学年		単位数		曜日・時限
キーワード	平和、戦争、構造的暴力、直接的暴力、消極的平和、積極的平和			
授業の目標	①【知識】平和学に関する基本的な概念を理解することができる。 ②【思考】戦争と平和の問題について実証的かつ論理的に思考することができる。 ③【表現】自分の思考内容を論理的に表現することができる。			
学習内容	①【予習】授業テーマごとに各担当教員が用意した配付資料を事前に読んでおいてください。 ②【講義】①の予習を前提に、配付資料の内容をより深く講義します。 ③【復習】各教員が提示した課題について自分の所見をまとめ、学務情報システムに提出してください。			
授業計画	1. はじめに一授業概要、平和学について（橋本） 2. 歴史から学ぶ—なぜ戦争は起きたのか？（橋本） 3. 地域紛争の現実（1）—イスラム教とコーラン（橋本+ゲスト） 4. 地域紛争の現実（2）—パレスチナ問題（橋本） 5. 世界経済と構造的暴力（1）（鳥畑） 6. 世界経済と構造的暴力（2）（鳥畑） 7. 国際法における平和—構造的暴力について（1）（板倉） 8. 国際法における平和—構造的暴力について（2）（板倉） 9. いわゆる“アメリカの平和”と日本（1）（Darius Greenidge） 10. いわゆる“アメリカの平和”と日本（2）（Darius Greenidge） 11. 絵本のなかの戦争（石原） 12. 幼児期の平和実践教育（石原） 13. 学校における平和教育の可能性（赤田） 14. 平和を願う心を育てる教育コンテンツの現在（赤田） 15. パネル・ディスカッション—まとめにかえて（全員）			
受講要件	とくになし。			
テキスト	とくになし。			
参考書	高柳先男『戦争を知るための平和学入門』（筑摩書房、2000年） ガルトゥング+藤田明史編著『ガルトゥング平和学入門』（法律文化社、2003年） 児玉克哉・佐藤安信・中西久枝『はじめて出会う平和学』（有斐閣、2004年） 篠田英朗『平和構築入門』（ちくま新書、2013年） 日本平和学会編『平和を考えるための100冊+α』（法律文化社、2014年）			
予習・復習について	「学習内容」欄を参照してください。			
成績評価の方法・基準	・各教員がそれぞれの担当授業の内容を踏まえ、受講生の皆さんに考えて欲しい課題を提示します（原則として教員1人につき1回）。その課題について自分の意見をまとめ、学務情報システムに提出して下さい。 ・課題提出の総合点をもって成績を評価します。			
オフィスアワー	開講時に案内します。			
担当教員からのメッセージ	答えのない問いについて一緒に考えてくれる人を求めます。			

授業科目名	暮らしの中の新素材 Advanced materials in daily life				
担当教員名	近藤 満 KONDO Mitsuru		所属等	グリーン科学技術研究所	
			研究室	総合研究棟 5 0 1	
分担教員名					
クラス	学部共通 1	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	金 3・4
キーワード	機能性材料、バイオマス、生物材料、セルロース、繊維、プラスチック、生分解性材料、エネルギー、無機材料、化学史				
授業の目標	近年の科学技術の進歩は著しく、それらは気づかぬうちに私たちの生活のなかに活かされている。この講義では専門を異にする2名の教官が、暮らしの中で出会ういくつかの新技术や製品をとりあげ、その成り立ちやしくみ、開発の経緯などについて解説する。				
学習内容	世界の歴史において、新化合物の合成がどのように行われてきたか、そして、それらの化合物が果たしてきた役割を解説する。これまでに見いだされて来た多くの新素材が、どのように現在の社会生活を支えているかを学ぶ。				
授業計画	回	内容			
	1	授業の概要についてガイダンス (近藤)			
	2	世界の歴史における新化合物の開発 (近藤)			
	3	金属を含む機能材料：金属を含む素材が示す多様な構造と機能 (近藤)			
	4	色の化学：～色が出るしくみと素材 (近藤)			
	5	バイオマスからの繊維材料について (澤渡)			
	6	衣料用繊維材料：ファッション界、スポーツ界における新材料 (澤渡)			
	7	産業用繊維材料：高性能・高機能材料-1 (澤渡)			
	8	産業用繊維材料：高性能・高機能材料-2 (澤渡)			
	9	プラスチック：化石燃料依存型からの脱却をめざして-1 (澤渡)			
	10	プラスチック：化石燃料依存型からの脱却をめざして-2 (澤渡)			
	11	磁石について (近藤)			
	12	電池について：携帯電話やパソコンの長時間使用は何故可能になったか (近藤)			
	13	触媒について (近藤)			
	14	地球温暖化対策を指向した素材：二酸化炭素の除去や太陽電池について (近藤)			
	15	水をきれいにする材料：海水を真水に変える素材 (近藤)			
	16	テスト			
受講要件	学ぶ意欲があり出席出来る学生なら、指定外の学部生も可				
テキスト	授業の中で紹介する				
参考書	授業の中で紹介する				
予習・復習について	授業でとりあげる新素材は多様な新素材の一部であり、それらの解説は授業者の視点からである。受講生は授業を聞くだけでなく、各自で関連した素材や異なる観点からの見解等に興味・関心を広げ、ものを観る目を養ってほしい。				
成績評価の方法・基準	出席状況と試験の結果を基に評価する。				
オフィスアワー	近藤のオフィスアワーは毎週水曜 11:30～12:30、澤渡のオフィスアワーは毎週木曜 14:30～16:00				
担当教員からのメッセージ	新化合物の合成技術の進歩は、しばしば世界の歴史に大きな影響を与えて来ました。科学の発展が担って来た社会に対する影響、そして、現在の身の回りにあふれる新素材について紹介します。文系の学生でも対応できるように、理系の特別の専門知識を必要としなくとも理解できる講義です。				

授業科目名	実践からの防災行政論			
担当教員名	岩田 孝仁 IWATA Takayoshi		所属等	防災総合センター
			研究室	防災総合センター
分担教員名				
クラス		学期		必修選択区分
対象学年		単位数	曜日・時限	火3・4
キーワード	防災、減災、自然災害、災害対策、地震対策、地域防災、防災行政、災害対策基本法、防災計画、災害救助法			
授業の目標	近年、社会環境の変化に伴って多様な災害事象が発生している。これら多様な災害に備えるため、防災に関する基本的な法律体系や諸制度、行政システム、地域社会の仕組みを理解し、将来発生する大規模災害や様々な危機への対応を客観的に判断できる基礎的な知識と柔軟な思考を身につける。			
学習内容	災害についての基礎知識と近年の災害現場で起きた様々な災害事例、災害に伴って生じた課題、その解決策、災害に備えての事前の防災施策について学ぶ。さらに、防災対策を実施するために必要となる基礎的な防災関係法や諸制度、国・地方公共団体などの防災計画の考え方と概要、その適用事例などを学び、防災行政や防災施策の仕組み全般について理解を深める。			
授業計画	<p>下記の内容について資料などにに基づき講義と演習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害とは 日本人の災害感</li> <li>・行政の仕組みと防災行政の基本</li> <li>・静岡県と日本の防災行政の歩み</li> <li>・災害対策関係法と防災計画</li> <li>・最近の風水害に学ぶこと</li> <li>・災害現場からの教訓</li> <li>・防災行政の現状と課題</li> <li>・これからの防災を考える（演習）</li> </ul> <p>なお、都合により講義の順番は前後することがある。</p>			
受講要件	特になし			
テキスト	特に指定せず、適時資料を配布する。			
参考書	指定しないが、必要があれば授業でその都度示す。例えば、防災白書など。			
予習・復習について	講義ノートや資料、関連図書による復習を必ず行うこと。			
成績評価の方法・基準	講義中に課すレポートの採点結果 75%、演習や発表内容 25%を加味して評価する。 なお、全出席回数数の 2/3 以上の者を成績評価の対象とする。			
オフィスアワー	講義終了後に申し出るか、事前に防災総合センターに問い合わせること。			
担当教員からのメッセージ	静岡県は防災先進県として日本の防災行政を先導してきた。その実践事例などを参考としながら、日本の防災行政や防災政策を系統的に学ぶことにより、防災の基礎的素養をしっかりと持ち、社会での防災活動に積極的に結び付くことのできる人材となることを期待する。			

授業科目名	金融論 I Theory of Money and Banking I				
担当教員名	鳥畑 與一 TORIHATA Yoichi		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	共通 L 棟 4 1 2	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年		単位数	2	曜日・時限	月 1・2
キーワード	貨幣（通貨）、金融制度、金融業務、金融理論、金融政策				
授業の目標	金融論の取り扱う諸テーマに関わる総合的理解				
学習内容	金融論は資金の融通にまつわる諸事象を学ぶ学問分野ですが、一般的に、いくつかのテーマによって構成されています。たとえば、「金融理論」、「金融制度論」、「金融業務論」、「金融政策論」などです。本金融論ではそれらのテーマに即して総合的に学習します。なお金融論 I は国内金融を主に取り扱い、金融論 II は国際金融を主に扱います。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 貨幣の形態と機能</li> <li>3. マネーストックとその変動</li> <li>4. 預金通貨の供給と信用創造</li> <li>5. 内国為替制度と手形交換制度</li> <li>6. 金融システムとは何か—直接金融と間接金融—</li> <li>7. 銀行の融資業務</li> <li>8. 銀行の預金業務</li> <li>9. 短期金融市場</li> <li>10. 金融政策と銀行①</li> <li>11. 金融政策と銀行②</li> <li>12. 銀行業とリスク</li> <li>13. 銀行業の規制・監督</li> <li>14. 中小企業金融とは何か</li> <li>15. 講義内容の総復習（予備日）</li> </ol>				
受講要件					
テキスト	使用する場合は初回ガイダンス時に指定します。				
参考書	随時指定していきます。				
予習・復習について	特に復習を十分に行ってください。				
成績評価の方法・基準	期末試験に基づきます。中間課題（小レポートまたは小テスト）を課したり、出欠を取ったりした場合は加点対象とします。				
オフィスアワー	月曜昼休み時を予定（変更可能性あり）				
担当教員からのメッセージ	質問には講義終了後にまとめてお答えするので、講義中の質問はご遠慮ください。				

授業科目名	刑事訴訟法 I				
担当教員名	津田 雅也 TSUDA Masaya		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		単位数	2	曜日・時限	月 3・4
キーワード	刑事訴訟法、刑事手続、捜査				
授業の目標	①わが国の刑事手続の概要および捜査に関する論点について把握し、②基本的な判例および学説の理解を踏まえた上で、③論点の解決に必要となる法解釈を条文に即して行えるようになること。				
学習内容	「刑事訴訟法 I」では、捜査法に関する基礎知識を学ぶ。 ・捜査に関する基本的な概念、法制度、法解釈論を学ぶ。 ・捜査に関する判例を素材として、具体的事例に即した学修を進める。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 序論－ガイダンス、刑事訴訟法の概要、目的、基本原則、法源</li> <li>2. 序論－刑事手続の流れ、関係者（手続を担う機関、被告人、弁護人、犯罪被害者）</li> <li>3. 捜査－捜査総説 1（捜査の意義、捜査機関）</li> <li>4. 捜査－捜査総説 2（捜査の端緒）</li> <li>5. 捜査－捜査総説 3（任意捜査の原則、任意捜査の限界、強制処分法定主義、令状主義）</li> <li>6. 捜査－対物的強制処分 1（令状による捜索・差押え）</li> <li>7. 捜査－対物的強制処分 2（逮捕に伴う捜索・差押え）</li> <li>8. 捜査－対物的強制処分 3（捜索・差押えの諸問題 1－強制採尿・採血、写真撮影）</li> <li>9. 捜査－対物的強制処分 4（捜索・差押えの諸問題 2－通信傍受、おとり捜査、コントロールド・デリバリー）</li> <li>10. 捜査－对人的強制処分 1（通常逮捕・現行犯逮捕・緊急逮捕・逮捕後の手続）</li> <li>11. 捜査－对人的強制処分 2（勾留、逮捕・勾留の諸問題）</li> <li>12. 捜査－取調べ 1（任意取調べの限界）</li> <li>13. 捜査－取調べ 2（身柄拘束中の取調べ）</li> <li>14. 捜査－被疑者の防御権・捜査の終結等 1</li> <li>15. 捜査－被疑者の防御権・捜査の終結等 2</li> </ol>				
受講要件	刑法総論、刑法各論を履修済み、もしくは履修中であることが望ましい。				
テキスト	廣瀬健二，コンパクト刑事訴訟法，新世社，2015年，ISBN978-4-88384-225-4 テキストは各自購入し、講義に持参すること。				
参考書	井上正仁＝酒巻匡編，刑事訴訟法の争点，有斐閣，2013年，ISBN978-4-641-11322-0 井上正仁＝大澤裕＝川出敏裕編，刑事訴訟法判例百選（第9版），2011年，ISBN978-4-641-11503-3 三井誠編，判例教材刑事訴訟法（第5版），東京大学出版会，2015年，ISBN978-4-13-032376-5				
予習・復習について	予習－講義予定表（第1回までに学務情報システムを通じて配布予定）で指定した教科書の該当箇所を一読する。 復習－講義で配布したレジュメや自分のノートを見返して、教科書を熟読する。とりわけ、講義で取り上げた判例については、その事案と理由づけについて、再確認すること。				
成績評価の方法・基準	成績評価の方法は、筆記試験（60%）、小テスト（40%）とする（実施方法や内容の詳細等は第1回の授業で説明する）。評価の基準は、上記「授業の目標」で掲げた3点の到達度とする。				
オフィスアワー	人文社会科学部法学科のウェブサイト（教員紹介）を参照。				
担当教員からのメッセージ	刑事訴訟法においては、刑法と同様に、事件に法律を当てはめた実例としての判例を素材にして学ぶことが非常に重要です。上記「参考書」に掲げた判例教材などを活用して、事案・判旨を丹念に確認するようにしてください。				

授業科目名	中国文学史 I History of Chinese Literature I				
担当教員名	埋田 重夫 UMEDA Shigeo		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人文 A 棟 5 1 8	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		単位数	2	曜日・時限	月 3・4
キーワード	中国古典文学、唐詩、李白、杜甫、韓愈、白居易、題材、様式、詩語、修辭				
授業の目標	1. 中国文学における継承と展開の諸相について理解する。 2. 唐代文学の概要を把握し、併せて唐代文化への理解を深める。 3. 中国古典文学の著名な作品に親しむ。				
学習内容	唐代文学史 中国古典文学のなかから、4人の著名な文学者を取り上げ、彼らに強く認められる詩的資質を指摘しながら、中国古典文化における伝統の継承と新相の開拓という問題を考えてみたい。中国詩人比較研究という視点を十分に生かしながら、今年度は李白・杜甫・韓愈・白居易を重点的に扱う。「李杜韓白」と併称されるこの4人の文学は、出身・性格・作風ともに好対照をなしており、それぞれが独自で強烈な個性を主張している。盛唐から中唐にかけて生き抜き、唐代文学の最高峰に位置する詩人でありながら、相互に全く異質な文学を創り出したという点で、彼らは永遠に引きつけあっている。ここでは「李杜韓白」の文学を解説することで、「唐」という文化、「中国」という文化が内包する様々な相貌を明らかにしたいと思う。				
授業計画	この講義で言及するテーマは、おおよそ以下のものを予定している。序論としての概論から本論としての各論へといくつかの論点を絞り込みながら、わかりやすく丁寧に説明していきたいと考えている。中国・日本における学会の最新研究成果を随時紹介していくつもりである。 1. ガイダンス 2. 対象と方法について 3. 唐代文学史概説 4. 盛唐および中唐という時代 5. 出身と経歴 6. 詩人としての自己と他者 7. 評価の位相 8. 題材の分析 9. 様式の分析 10. その他の詩人 11. まとめ				
受講要件	中国古典文学に対して、一定の知識・理解・関心・興味のある学生諸君の受講を希望したい。				
テキスト	プリント（配布する資料は多数に及ぶ。各自が整理し保存することが必要となる）				
参考書	参考文献については適時紹介する。				
予習・復習について	一定の予習と復習が必要となる。				
成績評価の方法・基準	1. 出席状況（重要・毎回カードを配る） 2. 提出課題（重要・複数回予定している） 3. 定期試験（重要・授業最終日に実施する）				
オフィスアワー	月曜日の昼休み（12時から12時45分）。事前にメール連絡が必要。				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 3. 難易度（B） 個々の文献・作品の読み込みを重視しながら、完全な講義形式で行う。教場での質疑応答も積極的に取り入れたい。				



授業科目名	会社法 Corporation Law				
担当教員名	西川 義晃 NISHIKAWA Yoshiaki		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人文A棟6階	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年		単位数	4	曜日・時限	月3・4、火1・2
キーワード	会社法、商法、コーポレート・ガバナンス、コーポレート・ファイナンス				
授業の目標	会社法制について基礎知識を得、理解を深めることを第1の目標とし、そうした知識・理解に基づき企業社会に生じる法的な諸問題を読み解く能力を身につけることを第2の目標とする。				
学習内容	<p>会社法について、株式会社法を中心に講義する。</p> <p>現在の経済社会でその中心を担っているのは株式会社を始めとした企業である。平成17年に成立した会社法は非公開会社を想定した改正であり、公開性の株式会社は例外という位置づけにある。しかし、株式会社は本来、資本市場において資金を調達し、大規模な企業経営を行う仕組みであり、そうした株式会社の特質は、株式会社法全体に反映されている。本講義はそうした観点に留意しつつ、会社法について解説していく。</p>				
授業計画	<p>《授業の進め方》</p> <p>レジュメを配布し、レジュメを中心に講義するが、テキストも随時参照するため毎回持参すること。テキストは特に予習・復習、小テストの解答作成に利用すること。</p> <p>《計画》</p> <p>講義期間の前半では、特に機関関係、すなわち取締役、監査役、株主総会などの企業組織に関する問題を扱う。企業形態や会社の種類に触れた後、株式会社とはいかなる制度であるのか、その内部組織はどのように構成されているのかについて考察する。</p> <p>後半では、機関関係以外の分野、すなわち、資金調達、会社の計算、設立、企業再編(M&amp;A)に関する問題を扱う。会社の資金調達の仕組み、会社の設立の際にその組織がどのように形成されるのか、企業買収がどのように行われるのか・その際利害関係者はどのように保護されるのかなどについて考察する。</p> <p>以下の項目を1、2回で講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 会社の種類</li> <li>2. 株式会社の特質</li> <li>3. 証券市場と株主の地位</li> <li>4. 株主総会の役割</li> <li>5. 取締役と取締役会</li> <li>6. 取締役の義務と責任</li> <li>7. 監査役・監査役会、監査等委員会設置会社</li> <li>8. 会計参与、会計監査人</li> <li>9. 指名委員会等設置会社の意義と仕組み</li> <li>10. 株式</li> <li>11. 募集株式の発行</li> <li>12. 社債</li> <li>13. 新株予約権・ストックオプション</li> <li>14. 会社の計算1：開示規制</li> <li>15. 会社の計算2：剰余金の分配規制</li> <li>16. 企業再編</li> <li>17. 株式会社の設立</li> </ol>				
受講要件	特になし。				
テキスト	<p>以下の2冊を使用する予定。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 伊藤靖史ほか『Regal Quest 会社法〔第3版〕』有斐閣、2015年</li> <li>2. 酒巻俊雄ほか(編)『会社法重要判例』成文堂、2013年(本書はシラバス執筆時現在改訂作業中であり、使用について後日掲示にて、または講義初回に何かしらの連絡をする。)</li> </ol> <p>最新の六法を持参すること(『ポケット六法』『デイリー六法』のいずれかでよい)。</p>				
参考書	初回の講義において紹介する。				
予習・復習について	<p>随時レジュメを配布するので、レジュメに対応する教科書の該当ページに、事前に目を通して頂くことが望ましい。</p> <p>小テストの解答を作成するには、出題範囲の内容をよく復習すること。</p>				

成績評価の方法・基準	<p>小テスト 30%、期末試験 70%</p> <p>講義が一定程度進むごとに、授業支援システム上で小テストを実施するほか（30%）、筆記式の期末試験を実施し（70%）、これらの総合評価（合計 100%）とする。</p> <p>受講者と相談のうえ、加点対象の任意レポートを科すかもしれない。</p>
オフィスアワー	<p>火曜日の 5・6 時限をオフィスアワーとする。</p> <p>これ以外は、事前にメールでアポイントを取ること。</p>
担当教員からのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 県立大学単位互換（ ○ ）</li> <li>2. 科目等履修生（ ○ ）</li> <li>3. 難易度（ A ）難易度 A は、事前に当該分野について専門知識があることを前提としないレベルを意味する。</li> <li>4. 会社法はそれのみで完結した分野ではなく、他の分野との関連も強い。特に民法（「民法総論」など）と同時履修、または履修済みであることを強く求める。</li> </ol> <p>注意：平成 22 年度以前の入学生は「企業法」（4 単位）に読替え。</p>

授業科目名	フランス言語文化演習 I Seminar in French Language and Literature I				
担当教員名	浅野 幸生 ASANO Yukio		所属等	学院院人文社会科学領域	
			研究室	人文 A 棟 408	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年		単位数	2	曜日・時限	月 5・6
キーワード	文法、読解力				
授業の目標	フランス語を読む力をつける				
学習内容	文学テキストを原文で読む				
授業計画	進度は参加者の語学力等で異なる。				
受講要件	3・4年生				
テキスト	授業開始前に生協教科書売り場で購入しておいて下さい。				
参考書	特になし				
予習・復習について	予習が必要				
成績評価の方法・基準	平常点と試験による。				
オフィスアワー	月 14 : 20 ~ 15 : 30				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	法学入門 Introduction to Japanese Law				
担当教員名	横濱 竜也 YOKOHAMA Tatsuya		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人文A棟619室	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年		単位数	2	曜日・時限	月7・8
キーワード	法の支配、裁判制度、法源、法の解釈、法と道徳、立憲主義と民主主義、契約自由の原則、罪刑法定主義				
授業の目標	実定法各分野の学習に先立ち、法の基本的性格を理解し、実定法学の基本概念を習得する。				
学習内容	授業計画に示す通り。				
授業計画	<p>※以下の各項目は、おおよそ各回の授業内容と対応しています（アラビア数字は授業回を、ローマ数字は法学入門全体の章立てを示している）。ただし、授業内容、順序、進度は、受講者の皆さんの理解度や実際の授業の展開に応じて変更する可能性があります。詳細な授業日程は、初回授業で説明します。また各回に教科書の対応部分を記していますが、授業内容は教科書の内容にはまったくとどまらないことを、あらかじめ了解しておいてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 イントロダクション 判例の調べ方 I 法とは何か</li> <li>2 六法と判例の読み方【教科書：第8章～第11章】</li> <li>3 II 民事訴訟と刑事訴訟の基礎【教科書：第1章】 III 民法基礎 [所有権絶対の原則／契約自由の原則／過失責任主義]【教科書：第17章】</li> <li>4 IV 刑法基礎 [罪刑法定主義／犯罪の成立要件／刑罰の目的]【教科書：第22章～第24章】</li> <li>5 V 裁判制度（1）[裁判所組織]【教科書：第2章】</li> <li>6 V 裁判制度（2）[法曹]【教科書：第2章】</li> <li>7 VI 法源（1）[制定法、慣習・条理]【教科書：第4章】</li> <li>8 VI 法源（2）[判例、判例法主義と成文法主義、判例の拘束力]【教科書：第4章】 VII 法適用と法解釈（1）[事実認定と法適用／解釈方法の分類]【教科書：第5章】</li> <li>9 中間テスト≪単位取得希望者必須≫ VII 法適用と法解釈（2）[法解釈の客観性について]【教科書：第5章】</li> <li>10 VIII 法と道徳（1）[モラリズム・パターナリズム：法の外面性・道徳の内面性、危害原理、ハート・デヴリン論争、わいせつ規制]【教科書：第6章】</li> <li>11 VIII 法と道徳（2）[悪法問題：自然法論と法実証主義、ラートブルフ、「過去の克服」]【教科書：第6章】</li> <li>12 IX 法制史基礎 [大陸法系・コモンロー法系／ローマ法とその継受／近代法の諸原理／明治民法の制定過程]【教科書：第7章】</li> <li>13 X 日本国憲法史 [大日本帝国憲法の基本理念／日本国憲法制定過程／日本国憲法の基本理念]【教科書：第12章】 XI 平和主義 [9条問題／正戦論]【教科書：第13章】</li> <li>14 XII 基本的人権 [人権の分類／制度的保障]【教科書：第14章】</li> <li>15 XIII 立憲主義と民主主義 [権力分立／立憲主義と民主主義の対立とその克服]【教科書：第15章】</li> <li>16 期末テスト</li> </ol>				
受講要件					
テキスト	石山文彦編『ウォーミングアップ法学』（ナカニシヤ出版、2010年）、授業支援システムより配布する講義案、六法。 ※『ウォーミングアップ法学』は初回授業時までに購入しておいてください。六法については、どんなものがあるか初回授業時に説明します。				
参考書	毎回の授業時に詳細な文献リストを配布しますが、ひとまず以下を挙げておきます。五十嵐清『法学入門〔第3版〕』（悠々社、2006年）、田島信威『法令入門—法令の体系とその仕組み〔第3版〕』（法学書院、2008年）、川崎政司『法律学の基礎技法〔第2版〕』（法学書院、2013年）、市川和人・酒巻匡・山本和彦『現代の裁判〔第6版〕』（有斐閣アルマ、2013年）、中野次雄編『判例とその読み方〔三訂版〕』（有斐閣、2009年）、山本祐司『最高裁物語（上）（下）』（講談社プラスα文庫、1997年）。				
予習・復習について	予習：講義案および教科書の該当箇所を読んだ上で、予習問題（択一式、基本的に10題）に取り組む。 復習：授業内容を振り返り復習問題（択一式、基本的に5題）とお題レポート（基本的に200字以上で各				

	<p>回で扱った話題に関するレポートをまとめる)に取り組む。さらに授業内容の疑問点をまとめ、授業時やオフィスアワーなどに質問し解決する。</p> <p>なお、各回のお題レポートのほかに、読書レポートと課題レポートを課す予定。</p>
成績評価の方法・基準	<p>期末テスト 40%、平常点 40% (各回予復習問題とお題レポートへの応答 20%+読書レポート等の提出 20%)、学期中に1回実施する中間テストの得点 20%。</p> <p>期末テストと中間テストを受験しないと、単位は認定されません。十分注意してください。</p> <p>評価方法の詳細は初回授業の際に示します。</p>
オフィスアワー	<p>金曜日 14時 25分～15時 55分 (同じ時間に面談する方が重なることを避けるために、事前に予約をお願いします)。</p>
担当教員からのメッセージ	<p>1. 県立大学単位互換 (○)      2. 科目等履修生 (○)      3. 難易度 (A)</p> <p>この授業の狙いは、学生の皆さんが法の世界の概要を知悉すること、そして法的思考に必要不可欠な基礎知識を習得し、それを不自由なく活用できるようになるための訓練を行うことです。しっかり勉強しましょう。</p>

授業科目名	フランス文学概論 I Introduction to French Literature I				
担当教員名	安永 愛 YASUNAGA Ai		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人文 A 棟 5 2 5	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年		単位数	2	曜日・時限	火 1・2
キーワード	フランス文学の特質、フランス文学の歴史、フランスの文化				
授業の目標	中世から 18 世紀にいたるフランス文学の歴史を振り返りつつ、フランス文学の持つ魅力に触れる。				
学習内容	中世から 18 世紀にいたるフランス文学の歴史を振り返りつつ、フランス文学の持つ魅力に触れる。基本的に講義形式であるが、いくつかのフランス語作品の抜粋の講読や、関連の映像の鑑賞も取り入れる。				
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フランス文学の基盤</li> <li>・中世フランス文学の諸ジャンル</li> <li>・フランス・ルネサンスの文学—ラブレールなど</li> <li>・モラリストの系譜—モンテーニュなど</li> <li>・17 世紀の思想家たち—デカルトとパスカル</li> <li>・啓蒙の時代の思想家たち—モンテスキュー、ヴォルテール、ルソー、ディドロなど</li> </ul>				
受講要件	フランス語の基礎を習得していること。				
テキスト	プリントを配布する。				
参考書	適宜紹介する。				
予習・復習について	義務としては特に課さないが、講義を聴いて興味を持った書物を読んでみてほしい。				
成績評価の方法・基準	出欠状況 (20%) 期末レポート (80%)。ただし、欠席回数が理由なく 3 回を超える場合は、不可とします。				
オフィスアワー	初回の授業でお伝えします。メールのアポイントにより随時対応します。アドレス jakurod@ipc.shizuoka.ac.jp				
担当教員からのメッセージ	この講義が作家や作品と出会う機縁となることを願っています。				

授業科目名	発達心理学 I				
担当教員名	畠垣 智恵		所属等	大学院人文社会科学領域	
			研究室	人文学部 C 棟 304-1	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年		単位数	2	曜日・時限	火 1・2
キーワード					
授業の目標	発達心理学の基礎を学ぶ				
学習内容					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発達心理学とは？ 発達理論</li> <li>2. 子どもの個性と個人差</li> <li>3. 知覚と運動の発達 子どもの描画に見る発達</li> <li>4. 認知発達 1 (誕生から学童期まで)</li> <li>5. 認知発達 2 (青年期)</li> <li>6. 情緒および感情の発達 1 情緒をはぐくむもの</li> <li>7. 情緒および感情の発達 2 動機付けと自律性</li> <li>8. 親子関係の発達 愛着の形成</li> <li>9. 親子関係の発達 養育者の役割</li> <li>10. パーソナリティーの発達 1 パーソナリティーと対人関係の発達</li> <li>11. パーソナリティーの発達 2 友達関係・異性関係の発達</li> <li>12. 現代の子どもを取り巻く環境 1 (少子高齢化、貧困、メディア)</li> <li>13. 現代の子どもを取り巻く環境 2 (多文化、家庭、学校、地域)</li> <li>14. 発達をつまづきと支援 児童期の子どものメンタルヘルス</li> <li>15. 発達をつまづきと支援 虐待、不登校、いじめ、非行</li> </ol>				
受講要件					
テキスト	教科書は使用しない。授業中に参考書を紹介する				
参考書	授業中に紹介する。必要に応じて、資料を配布する。				
予習・復習について	最低限、講義前に教科書の予習が求められる。				
成績評価の方法・基準	数回のコメントペーパーの提出、および試験により評価する				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	地方財政論 I				
担当教員名	川瀬 憲子 KAWASE Noriko		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	共通L棟409	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		単位数	2	曜日・時限	火3・4
キーワード	地方自治、地方分権、課税自主権、公共事業、まちづくり、課税自主権、地方税、住民参加、福祉社会、ローカルガバナンス				
授業の目標	地方財政や地方分権、自治・参加のシステムがどのようにして発達してきたのか、いま、どのような改革が求められているのかといった諸課題に対して、歴史や国際比較という観点を交えながら、様々な角度から洞察力を培うことを目標としている。				
学習内容	内容的には地方財政入門編と歴史編に分かれるが、前者では、日本の地方財政の仕組みや課題、後者では主として歴史的な流れに即して、欧米と日本の地方財政がどのように発達してきたのかを、財政思想の紹介などを交えながら、幅広い観点から解題する。また、日本における市町村合併、三位一体の改革といった「分権改革」が、地方財政のみならず国民生活や地域社会に及ぼされる影響についても、具体的な事例をあげながら、わかりやすい説明を加えることにしている。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 地方財政のしくみと地方自治</li> <li>3. 「分権改革」と地方財政①－市町村合併</li> <li>4. 「分権改革」と地方財政②－三位一体の改革と道州制論</li> <li>5. 17世紀ヨーロッパの市民的財政思想</li> <li>6. 自由主義的財政思想とイギリスの産業革命</li> <li>7. 社会政策思想と19世紀末期英独の地方財政改革</li> <li>8. ケインズ主義とアメリカのニューディール期財政改革</li> <li>9. 新自由主義とイギリス地方財政改革</li> <li>10. 明治地方自治制と地方財政</li> <li>11. 大正デモクラシー期の自治要求</li> <li>12. 昭和恐慌と井上・高橋財政</li> <li>13. 戦後改革とシャープ勧告</li> <li>14. まちづくりと住民参加</li> <li>15. 分権型福祉社会の制度設計</li> </ol>				
受講要件	毎回出席すること				
テキスト	川瀬憲子(2011)『「分権改革」と地方財政－住民自治と福祉社会の展望』(自治体研究社)				
参考書	川瀬憲子(2001)『市町村合併と自治体の財政』自治体研究社、宮本憲一・遠藤宏一編(2006)『セミナー現代地方財政 I』勁草書房、宮本憲一・鶴田廣巳編(2008)『セミナー現代地方財政 II』勁草書房、川瀬憲子(2012)『アメリカの補助金と州・地方財政－ジョンソン政権からオバマ政権へ』勁草書房他				
予習・復習について	テキスト、参考文献、新聞などをしっかりと読んでおくこと。				
成績評価の方法・基準	平常点(30%)、定期試験(70%)をもとに評価を行う。毎回授業のまとめをしてもらったり、適宜小レポートを課す予定。				
オフィスアワー	オフィスアワー一覧を参照のこと。				
担当教員からのメッセージ	<p>携帯電話の電源を切っておくこと。</p> <p>県立大学との単位互換：認める。</p> <p>科目等履修生：認める。</p> <p>難易度 B</p>				



授業科目名	英語学概論 I Introduction to English Linguistics I				
担当教員名	大村 光弘 OMURA Mitsuhiro		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人文 A 棟 4 2 7	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年		単位数	2	曜日・時限	火 5・6
キーワード	機能主義、意味論、語用論、英語史、認知言語学				
授業の目標	英語の統語論(機能主義)・(認知) 意味論・語用論を中心に、英語学の基礎知識を学習する。				
学習内容	言葉の意味や機能、言葉を使う人間の心のはたらきといった観点から言語現象を分析するときの方法論を学ぶ。				
授業計画	以下に示した授業計画に従って言語学の基礎知識を学ぶ。 1 ガイダンス+統語論 (機能主義) 2 統語論 (機能主義) 3 統語論 (機能主義) 4 統語論 (機能主義) 小テスト1+意味論 5 意味論 6 意味論 7 意味論+語用論 8 意味論小テスト+語用論 9 語用論 10 語用論 11 語用論+英語史 12 語用論小テスト+英語史 13 英語史 14 英語史 15 英語史 16 英語史小テスト				
受講要件	「英語学基礎読解」とあわせて履修するのが望ましい。				
テキスト	テキストは使用せず、配布資料にもとづいて授業を行う。				
参考書	必要に応じて適宜紹介する。				
予習・復習について	復習により重点を置いた学習を勧める。				
成績評価の方法・基準	4回の小テストの結果(90%) + 平常点(10%) で評価する。欠席(30分以上の遅刻は欠席1回とみなす) は3回までとする。				
オフィスアワー	水曜(12:00-13:00、事前に連絡を頂ければこれ以外の時間帯も可) 連絡先メールアドレス: jjmohmu@ipc.shizuoka.ac.jp				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換(認める) 2. 科目等履修生(認める) 3. 難易度(B) 授業内容で理解できなかった事柄や疑問点をそのままにしないで、担当教員に質問するなどして理解を深めてほしい。				

授業科目名	環境共生と地域の社会学				
担当教員名	平岡 義和 HIRAOKA Yoshikazu		所属等	大学院人文社会科学領域	
			研究室	人文C棟402	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		単位数	2	曜日・時限	火5・6
キーワード	地域における自然環境と人間の共生、環境リスク、開発と自然環境				
授業の目標	環境リスクという視点から、地域における自然環境と人間、人間同士の共生のありようについて理解を深める。				
学習内容	人間は、長い歴史の過程において、自然環境と共生して生活するすべを身につけてきた。ところが、近年人間における環境の改変、化学物質の使用によって、両者の共生関係が、壊されつつある。そこで、環境リスクという視点から、地域社会における人間と自然環境の共生のありようについて考えていきたい。それは、同時に、人間同士の共生関係について考察することでもある。				
授業計画	<p>以下のようなテーマについて、各1～3回ずつ講義する予定である。なお、問題の理解を深めるために、できるだけビデオ教材を使用する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 環境リスクという視点</li> <li>2. 自然環境との共生の歴史</li> <li>3. ダムなどの開発と共生</li> <li>4. 化学物質利用と共生</li> <li>5. 自然の利用と共生</li> <li>6. 人間社会と共生の課題</li> </ol>				
受講要件	なし				
テキスト	使用しない。プリント資料を配付する。				
参考書	個々の授業に関する参考文献は、授業中に指示する。				
予習・復習について	取り上げる環境問題に関する基礎知識を身につけておいたり、参考文献を読んだりすると、授業の理解が深まる。また、新聞記事を利用することも多いので、新聞を丹念に読むとよい。				
成績評価の方法・基準	中間レポートと最終レポートの成績で評価する。				
オフィスアワー	最初の授業の際に指示する。				
担当教員からのメッセージ	<p>授業期間中に起きる問題を随時トピックとして扱うことがあるので、日頃からTV、新聞などの環境問題関連のニュースに注意を向けておいてほしい。</p> <p>1. 県立大学単位互換 (○)    2. 科目等履修生 (○)    3. 難易度 (A)</p>				

授業科目名	人格心理学 I				
担当教員名	田辺 肇 TANABE Hajime		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人文 A 棟 4 1 2	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		単位数	2	曜日・時限	火 5・6
キーワード	人間理解、性格、人格、自己、自由意志、主体性、アイデンティティ、個人差、パーソナリティ				
授業の目標	心理学の知識と探究方法の学びを通じて、さまざまな条件における多様な人間のあり方について深く理解し、併せて他者への肯定的な関心と共生への志向を高め、協働的対人関係能力の基礎を培う。また、そのために必要な論理的思考力と情報リテラシーを修得する。				
学習内容	<p>心理学の諸理論を参照しながら性格・人格・パーソナリティ・自由意志・主体性・自己・アイデンティティなどの人間理解の鍵概念を検討する。</p> <p>「個人差・異常・個性」「主体性・自由意志・意図・無意識」「自己・同一性・アイデンティティ」「個人の人格としての一貫性と統合性」「本当の自分とありのままの自分」「人を理解するとはどういうことか」など、心理学的な人間理解における根本問題をさまざまな理論を参照しながら考える。本講義は、これらの問いに“正解”を与えるものではなく、人間理解の難しさと考え方を学び、その中で、日常当たり前のこととしてやり過ごしてきたさまざまな事柄に興味を抱き、反省を促し、人と前向きに関わる、あるいは人間事象について深く考える力を養うことを目指すものである。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 人格概念と科学としての心理学（個人差・コヒーレンス・パーソン・体験・行動・記述主義・メカニズム・モデル・法則・理論）</li> <li>2) 認識枠組みとしての理論（生物学的・力動論・行動論・現象学的・情報処理論的・システム論的・物語論的）</li> <li>3) 客観的理解と「性格」観—血液型性格診断・差別と偏見・暗黙の性格理論（ITP）・中心特性・基本的帰属錯誤・ステレオタイプ・そもそもそれは“性格”なのか</li> <li>4) 共感的理解と関係的過程—現象的自己・「理解」体験・傾聴・共にいること・生成過程にある自己・関係的自己</li> <li>5) 「個性」研究の歴史と方法（榎 1 章 2 章／若 1 章 2 章）（研究史の概要 人・状況論争 個性と成熟）</li> <li>6) 分類と測定・契約論と本質論・構成概念と実体概念・観測問題・個性記述と法則定立（榎 5 章／若 3 章）</li> <li>7) 遺伝と環境・行動遺伝学（榎 6 章／若 6 章）（進化論・遺伝率・生理学的基盤）</li> <li>8) 古典的動因論（力動論・学習論）と状況論（榎 8 章／若 4 章）</li> <li>9) 認知論と現代の相互作用論（榎 9 章／若 5 章）（認知論・新相互作用論・社会的学習理論・自己効力感）</li> <li>10) 自己論と物語論（自伝的記憶・自己概念・アイデンティティ）（榎 3 章 4 章 7 章）</li> <li>11) 状態論（意識と自我状態）・主体性（自由意志と決定論）・“多重人格”—人格の一貫性と統合性・“本当の私”とは誰か</li> <li>12) 社会と文化における自己—対人関係と役割演技（ロールプレイング）・自己の社会的構成・記憶と事実の社会的確証過程・“パーソン”とは何か（理性と法の支配）</li> <li>13) 物語としての自己（ナラティブセルフ）—自伝的記憶の構成的側面・自己語りと自分史・対話的自己（Hermans）—対話の中の“私”と分権化・多声性（Bakhtin）・開放形—統合と自己組織化</li> </ol>				
受講要件	心理学概論と基礎心理学の履修を前提として授業を進める。未修者は補足学習が不可欠。				
テキスト	榎本・安藤・堀毛（著）『パーソナリティ心理学—人間科学、自然科学、社会科学のクロスロード』（有斐閣アルマ）¥ 1,995 ISBN-13: 978-4641123779				
参考書	<p>若林明雄『パーソナリティとは何か—その概念と理論』培風館 978-4563057107</p> <p>榎本博明『＜私＞の心理学的探求—物語としての自己の視点から』有斐閣 978-4641280243</p> <p>ハーマンス&amp;ケンペン『対話的自己—デカルト/ジェームズ/ミードを超えて』新曜社 978-4788510173</p> <p>河野哲也『エコロジカル・セルフ』ナカニシヤ出版 978-4779505485</p> <p>ギャラハー『なぜ私は「私」なのか—パーソナリティの探求』河出書房新社（絶版・図書館開架）</p>				
予習・復習について	<p>授業計画「榎」はテキストを「若」は参考書の 1 冊目を意味する。「若」が難しい人は小塩真司『はじめて学ぶパーソナリティ心理学—個性をめぐる冒険』ミネルヴァ書房 978-4623056842 を参照のこと。受講生による質問や意見提出を取り入れて授業を進める。</p> <p>講義の他にも、参考文献、事典、テレビ、インターネットの関連サイトなど、広くアンテナを張り、多くの情報を参照し、自らそれらを整理し統合することが大切です。毎回簡単なレポート提出を求めているので、それをペースメーカーにしながら、疑問点を整理し、予習・復習を行ってください。</p>				
成績評価の方法・基準	2 単位修得要件に規定されている学修を促進するために、1 3 単元毎に、予習復習の小レポート（学修実施報告書的な簡単なもの）の提出を求める。内容は、①授業のまとめ（自分が授業を通じてつかったこと）、②自己学習（予習的なものや、発展学習的なもの）、③コメント（意見・感想・質問等）、の 3 点を書く（③				

	<p>は必須)。成績は、単元レポート（6点×13＝78点）と、最終レポート（授業全体のまとめと感想、授業受講と自己学習を通じて自分自身の考え方などにどんな変化が生じたか、など。22点）により評価する。学情を使ってレポート提出してもらうので、学情の「授業サポート」機能の使い方を確認しておいてください。</p>
オフィスアワー	火曜3・4限（事前に連絡を下さい）
担当教員からのメッセージ	<p>高校公民教員免許選択科目だが、教職科目との関連も深いので公民以外の免許課程を履修している学生も歓迎する。また、人間理解の基本問題にも触れるので、人間学的な関心を持っている学生が履修するのも良いだろう。</p> <p>（1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 3. 難易度（B）当該専門分野についての一定の基礎知識が必要）</p>

授業科目名	政治思想 I Political Thought I				
担当教員名	井柳 美紀 IYANAGI Miki		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人文 A 棟 605	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		単位数	2	曜日・時限	火 5・6
キーワード	デモクラシー、公共性、主権、国家、権力分立、リベラリズム、自由、政治参加				
授業の目標	今日、私たちが用いている基本的な政治学上の理念や価値の歴史と意義を学ぶ。				
学習内容	政治思想の中でもヨーロッパの政治思想を中心に、古代ギリシアの政治思想から出発して、近代政治学までを主な対象として、各々の時代の主要な政治思想家の政治思想を検討して、政治学上の理念や価値の変遷、及びその意義を学ぶことで、現代政治の諸価値を再検討するための手がかりを得る。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. プラトンの政治思想</li> <li>2. アリストテレスの政治思想</li> <li>3. キリスト教とアウグスティヌス</li> <li>4. マキアヴェリと政治秩序</li> <li>5. ボダンと主権論</li> <li>6. グロチウスと近代自然法論</li> <li>7. ホッブズの主権論～社会契約論(1)～</li> <li>8. ロックの市民統論～社会契約論(2)～</li> <li>9. モンテスキューと権力分立</li> <li>10. 民主政治とルソー～社会契約論(3)～</li> <li>11. アメリカ建国期の政治思想</li> <li>12. 保守主義－バーク、ヘーゲル－</li> <li>13. 社会主義－マルクス－</li> <li>14. 自由主義－ミル、トクヴィル－</li> <li>15. 政治とは何か～現代政治思想とアーレント～</li> </ol>				
受講要件	特になし。				
テキスト	・宇野重規『西洋政治思想史』（有斐閣アルマ、2013年）				
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岡崎晴輝・木村俊道編『はじめて学ぶ政治学』（ミネルヴァ書房、2008年）</li> <li>・佐々木毅・鷺見誠一・杉田敦『西洋政治思想史』（北樹出版、1995年）</li> <li>・福田歓一『政治学史』（東京大学出版会、1985年）</li> </ul>				
予習・復習について	テキスト、及び授業中の配付物を、予習・復習用の資料として参照されたい。				
成績評価の方法・基準	論述式による期末試験を中心に、小レポートを加味して評価する。				
オフィスアワー	授業終了後のお昼休み。もしくは、事前にご連絡の上お越し下さい。				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（○）      2. 科目等履修生（○）      3. 難易度（A） 西洋の政治思想の歴史を学ぶが、現代政治への関心をもった学生の参加も歓迎する。				

授業科目名	中国語史				
担当教員名	張 盛開 Shengkai Zhang		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人 A324	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年		単位数	2	曜日・時限	火 5・6
キーワード	漢語、漢字音、方言、歴史				
授業の目標	漢字の形、音、義について勉強し、漢字の発展を知る。現代方言や漢字文化圏の漢字音との比較対照から中国語の歴史を学ぶ。				
学習内容	漢字の形、発音、意味。 諸方言における漢字の発音、漢字文化圏における漢字音				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 時代区分と各時代の資料</li> <li>3. 方言</li> <li>4. 借用漢語</li> <li>5. 清濁の区分</li> <li>6. 入声の消滅</li> <li>7. 韻書と反切</li> <li>8. 反切系連法</li> <li>9. 呉音と漢音</li> <li>10. 唐宋音の源流</li> <li>11. 中世漢語の音韻体系</li> <li>12. 北方語音系の変遷</li> <li>13. 上古韻部の分類</li> <li>14. 上古韻部の体系</li> <li>15. 上古韻母系のあらまし</li> </ol>				
受講要件	初級中国語習得済み、中国言語文化に興味のある人				
テキスト	藤堂明保 新訂中国語学概論 大修館書店 第8-9章 ISBN 4469231126				
参考書	語文出版社 『漢語方言字彙』、『漢語方言語彙』 上海辞書出版社 『広韻』				
予習・復習について	予習をしっかりと行ってから授業に臨むこと、授業の後の復習が大事				
成績評価の方法・基準	授業への参加(授業中の質疑応答、課題の提出)と最終試験／レポートを併せて評価する				
オフィスアワー	火曜の昼休み				
担当教員からのメッセージ	中国語の歴史、特に漢字の歴史は日本や朝鮮などの漢字の歴史でもある。日本や朝鮮の漢字音と合わせて見ると本当に面白いことに出会います。				

授業科目名	日本中世社会史				
担当教員名	貴田 潔 KIDA Kiyoshi		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		単位数	2	曜日・時限	火 5・6
キーワード	荘園・村落史、環境史、景観、都市と荘園制的流通				
授業の目標	1.前近代の社会史を学ぶことで、現代の“文化”や“伝統”を相対的に見る視野を広げる。 2.各回のテーマに応じた学説を知るなかで、論理的な思考を導く能力を高める。				
学習内容	1.院政期から戦国期にかけての社会史を学ぶ。中世の社会を理解するとともに、それを支えた前近代の思考や文化を考える。 2.若干ながら静岡県の中世史料にも触れることで、地域史に対する理解も深める。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>「環境」は歴史学のテーマとなりうるのか？</li> <li>荘園・村落史における景観分析（前半）</li> <li>荘園・村落史における景観分析（後半）</li> <li>21世紀の環境史研究のなかで（前半）</li> <li>21世紀の環境史研究のなかで（後半）</li> <li>環境としての「山野河海」（前半）</li> <li>環境としての「山野河海」（後半）</li> <li>絵画・文学のなかの自然と人間（前半）</li> <li>絵画・文学のなかの自然と人間（後半）</li> <li>環境と宗教（前半）</li> <li>環境と宗教（後半）</li> <li>荘園制と地域の生業（前半）</li> <li>荘園制と地域の生業（後半）</li> <li>村落共同体と自然の関わり（前半）</li> <li>村落共同体と自然の関わり（後半）</li> </ol>				
受講要件	日本史の基礎知識と漢文の基本文法の素養（ともに高校レベル）を備えていることが望ましいが、必須でない。				
テキスト	なし。適宜プリントを配布する。				
参考書	水島司編『環境と歴史学』〈アジア遊学 136〉（勉誠出版、2010） 井原今朝男編『中世の環境と開発・生業』〈環境の日本史 3〉（吉川弘文館、2013） 水野章二『里山の成立』（吉川弘文館、2015）				
予習・復習について	板書は復習に備えて書き写すこと。授業時間内の内容理解がもっとも大事であるが、疑問点があれば積極的に質問に応じたい。				
成績評価の方法・基準	コメントペーパー30%。期末テスト70%。				
オフィスアワー	水曜日 5・6限。研究室（人文A棟 319）にて。				
担当教員からのメッセージ	1.県立大学単位互換（認める） 2.科目等履修生（認める） 3.難易度（C） 口頭での質問も積極的に受け付けるが、コメントペーパーを利用して、できるだけ各人の疑問点に答えたい。重要な質問については次回の冒頭で解説するように配慮したい。また、質問を考えることを通じて、物事を疑う論理的な思考力も高めてもらいたい。				

授業科目名	日本文学史Ⅳ				
担当教員名	小二田 誠二 KONITA Seiji		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人文 A 棟 323	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		単位数	2	曜日・時限	火 5・6
キーワード	前近代、物語、小説、口承、書承、印刷、出版、作者、作家、商品、戯作、絵画、芸能、詩歌				
授業の目標	江戸時代における散文表現の展開を知る。 物事の歴史についての考え方を身につける。				
学習内容	主に、江戸時代の散文を読みながら、それ以前、それ以後、更に、周辺の文化状況にまで目配りしながら、歴史そのものについても考える授業です。 大量の配付資料を扱います。				
授業計画	以下の各項目は、15回の授業には対応しません。受講生の反応によって柔軟に変化させます。  1 はじめに 文学史という物語 変化を記述する事 2 江戸時代初期の状況 それ以前 3 仮名草子の登場 印刷と出版 遊びと啓蒙 4 浅井了意 書物による啓蒙と挫折 5 井原西鶴 新興町人たち 6 元禄文化 商品化 7 八文字屋本 ブランド品 8 戯作の胎動 享保の改革とあそぶ学者 9 読本 輸入文化の転用 10 文運東漸 江戸戯作の発生 11 寛政の改革前後 統制と成長 12 十返舎一九 職業作家ということ 13 天保の改革 江戸戯作の末路 14 維新前後 近代文学以前 15 あらためて、文学史と言う物語				
受講要件	江戸時代の歴史（政治・経済・文化など）について、基本的な知識がある事。 簡単な古文が読める事。				
テキスト	予習教材を配布します。 読んでから参加する事。				
参考書	共通の参考書は示しませんが、関連書籍を探して読んで下さい。 何を讀んだか、授業中に訊きます。				
予習・復習について	配付資料は必ず読み、判らないところは調べておく事。 授業での疑問は次回までに調べて提出する事。				
成績評価の方法・基準	小レポート 14回（必須・第一回で説明） 最終レポート 1回（成績評価対象）				
オフィスアワー	空き時間随時。 私の時間割は <a href="http://www.ipc.shizuoka.ac.jp/~jjskoni/time.html">http://www.ipc.shizuoka.ac.jp/~jjskoni/time.html</a> で公開しています。				
担当教員からのメッセージ	授業で扱える材料は限られています。少ない材料をじっくり読む事で、様々なものの歴史について考える力を養う事が、授業の目的です。 十分な予習復習の時間を確保して下さい。  科目等履修生（○） 県立大学（×） 市民開放授業（○） 難易度 B				



授業科目名	フランス言語文化特論Ⅱ Special Topics in French Language and Literature Ⅱ				
担当教員名	安永 愛 YASUNAGA Ai		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人文 A 棟 5 2 5	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		単位数	2	曜日・時限	火 7・8
キーワード	ポール・クローデル、『朝日の中の黒い鳥』 L'oiseau noir dans le soleil levant、詩人・外交官の日本文化論				
授業の目標	20 世紀フランスの代表的な詩人・劇作家であるポール・クローデルが大使として日本に滞在した際の印象をもとに書いたエッセイ L'oiseau noir dans le soleil levant を精読し、クローデルの日本観、芸術観に触れるとともに、フランス語の読解力を養う。				
学習内容	20 世紀フランスを代表する詩人・劇作家であるポール・クローデル（1868－1955）は、1890 年から 1935 年まで外交官を務め、1921 年から 1927 年にかけて、帰国休暇を挟み大使として日本に 4 年半滞在した。かねてから日本への憧れを抱いていたクローデルは、能や歌舞伎、文楽に熱心に足を運び、その印象を優れたエッセイとして残した。また、関東大震災の経験についても書き残している。こうした一連の日本印象記を収めた L'oiseau noir dans le soleil levant をフランス語原文で精読し、クローデルの日本に向ける眼差しに触れ、広く異文化・芸術の諸問題に関心を深めていく。				
授業計画	初回の授業において、クローデルと『朝日の中の黒い鳥』について概説し、次回より担当を決め、訳読を行なう。担当者は、テキストを理解し流暢に音読できるように準備する。教員から適宜テキストとテキストの背景について、説明を加える。				
受講要件	フランス語の学習歴を 2 年以上有すること。				
テキスト	Connaissance de l'Est suivi de L'oiseau noir dans le soleil levant (Gallimard,2010)を初回の授業で配布する。テキスト代金を徴収します。				
参考書	授業時に適宜指示します。				
予習・復習について	毎回、仏和辞典、仏仏辞典にあたり、テキストの十分な理解に努めること。テキストに関連する事項について調べておくこと。				
成績評価の方法・基準	出席状況および訳読・音読の達成度（50%）、期末レポートの成果（50%）により、総合的に判断します。理由なく 3 回以上欠席する場合は、不可とします。				
オフィスアワー	火曜 3・4 限				
担当教員からのメッセージ	この授業が、文化や芸術を見る眼を養う機縁となることを願っています。				

授業科目名	ラテン語 I				
担当教員名	田中 伸司 TANAKA Shinji		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人文 A 棟 4 1 8	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		単位数	2	曜日・時限	火 7・8
キーワード	西洋古典、人文学、ラテン語文法				
授業の目標	ラテン語の基本的な変化をマスターする。				
学習内容	西欧の人文学の基礎であるラテン語を理解するために、その文法を学びます。ラテン語についての講義ではなく、ラテン語の練習問題を解くことが中心です。毎回当たります。				
授業計画	<p>初回はイントロダクションおよび講義：「I 文字と発音」です。</p> <p>* 初回にはプリントを配布しますが、受講を決めている方は教科書をあらかじめ購入して、持参してください。</p> <p>二回目以降は、教科書の練習問題を解き、そしてつぎの文法事項の課へと進むこととなります。</p> <p>授業で使用する教科書は 19 課からなっています。「ラテン語 I」では毎回 1 課を進み、教科書のおおよそ三分の二を目標に進みます。授業は、この教科書の練習問題を解くことが中心になります。</p> <p>最初のうちは語形変化の暗記が必須です。というのも、ラテン語にはいくつかの変化のセットしかなく、それらを使いまわすことになるからです。初期の暗記を怠ると、後半につらい思いをします。</p> <p>* WEB にはこの教科書の回答が載っていることがありますが、個々の単語の変化は載っていませんし、必ずしも正解というわけでもありません。参考にするのは構いませんが、自分で解くことが大切です。なお、前学期の間は辞書は必要ありません。</p>				
受講要件	とくにありません。まじめに予習をして授業に出席する人であればどなたでも。				
テキスト	中山恒夫『標準ラテン文法』（白水社） ISBN9784560017616				
参考書	大西英文『はじめてのラテン語』（講談社現代新書）				
予習・復習について	予習が不可欠です。前半の語形変化の暗記がうまくゆけば、それほどつらくありません。				
成績評価の方法・基準	授業で行う課題・練習問題への回答（60%）と学期末の授業で行う試験（40%）で評価します。試験は、テキストノート類の持ち込みは認めませんが、ごく基本的な事柄を問うものを予定しています。				
オフィスアワー	金曜日 9・10 時限（16：05-17：35）。必ずメールでアポイントメントをとってください。アドレスは、jsstana アットマーク ipc.shizuoka.ac.jp * 「アットマーク」を@にして使用してください。				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める）      2. 科目等履修生（認める）      3. 難易度（A）				

授業科目名	言語学各論Ⅳ				
担当教員名	熊谷 滋子 KUMAGAI Shigeko		所属等	大学院人文社会科学領域	
			研究室	人文A棟430	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		単位数	2	曜日・時限	水1・2
キーワード	社会言語学、日本語、「女ことば」、恋愛小説、丁寧さ、レズビアン				
授業の目標	このクラスでは、社会言語学的観点から分析された、日本語をめぐる諸関係・諸問題について扱った英語論文を読み、日本社会における根底に流れる言語観を考察する。				
学習内容	恋愛小説におけることば遣い、「女ことば」の歴史、さらに、丁寧表現やレズビアンバーでの会話形式に注目した実態調査などを扱った英語論文を読みながら、日本社会におけることばの役割について、具体的に考えていく。論文から得られた課題や疑問などを、受講生とともに議論をしながら、日本社会とことばについて批判的に考察していく。				
授業計画	<p>このクラスでは、以下の論文を取り上げて、読み進めながら、受講生とともに、さらなる具体例や反論などをあげ、日本語社会での言語観をとらえていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Language and Gender in (Hetero) Romance</li> <li>2. Finding Mr. Right</li> <li>3. Ideology in Linguistic Practice and Analysis</li> <li>4. Lesbian Bar Talk in Shinjyuku, Tokyo</li> <li>5. Gender, Language and Modernity</li> </ol> <p>英語で書かれた論文を読むので、進度については決められないが、できるだけ読み進め、論文内容について、受講生とともに議論し、言語の影響、言語観について考えていきたい。 また、受講生同士の興味関心を共有するために、ことばについて書かれたものの書評も予定している。</p>				
受講要件	英文が読めること。ときに、言語学的な知識も必要となることがあります。				
テキスト	Okamoto, S. and S. Smith(2004) Japanese Language, Gender, and Ideology. Oxford University Press(仮) から取り上げる論文。最初のクラスで確定します。				
参考書	クラスで随時、紹介します。				
予習・復習について	読む英文の分量が多いので、準備に時間がかかると思います。				
成績評価の方法・基準	授業参加と内容のまとめ 40%、小レポート 30%、期末レポート 30%				
オフィスアワー	月曜日5・6時限目です				
担当教員からのメッセージ	日本語について英語で書かれたものを読むと、日本語で書かれたものとは違った発想・見方もでてくるかもしれません。				

授業科目名	世界経済論 I				
担当教員名	安藤 研一 ANDO Kenichi		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	共通L棟408	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		単位数	2	曜日・時限	水1・2
キーワード	世界経済、国家、貿易、外国為替、為替相場、国際資本移動、直接投資				
授業の目標	世界経済の多様な項目に関する理論の初歩を学ぶ。簡単な四則演算、図表を用い、高度な数学を使うことはしない。				
学習内容	世界経済の基礎単位である国家の経済学的基礎の考察から始め、国際貿易、外国為替、資本・労働移動などを中心に、世界経済の理論について学ぶ。				
授業計画	<p>概ね以下のようなテーマを取り上げながら、世界経済に関する理論の理解を深めるようにする。その際、理論と具体的現実の関係に留意しながら授業を進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 資本主義経済の特徴と世界経済。</li> <li>2. 世界経済と国家。</li> <li>3. 国際貿易の利益と課題。</li> <li>4. 外国為替の役割と意義。</li> <li>5. 国際生産要素移動の原因と意義。</li> <li>6. 直接投資の利益と課題。</li> <li>7. 国際労働力移動の原因と特殊性</li> <li>8. 現代世界経済の問題。</li> </ol>				
受講要件	経済学についての初歩的理論を修得していることを前提に講義を進めるので、ミクロ経済学、マクロ経済学、政治経済学などを修得していることが望ましい。				
テキスト	特に、指定しない。毎回の授業に合わせたレジメ・資料については、学務情報システムに随時アップする。				
参考書	特に、指定しない。				
予習・復習について	学務情報システムにアップされたレジメ、資料を各自でダウンロードして活用すること。それと合わせて、新聞・テレビなどのニュースをフォローし、現在の世界経済でどのようなことが起きているのか、ということに関心を持ちながら授業に出席することが必要である。				
成績評価の方法・基準	出席は取らない。中間試験を課し、学期末試験の結果と合算の上で成績を評価する。中間試験、学期末試験では、論理的思考表現能力についてみる。単純な選択式の問題などは出さず、ある程度の文章を書くことを求める。				
オフィスアワー	金曜日 16:30～17:30				
担当教員からのメッセージ	世界には多様な国、社会があり、そこから多くのことを学ぶことが出来ると同時に、国際経済関係が日本経済や我々の生活に大きな変更、修正を迫るものでもあります。そのような問題意識を持ちながら本講義を受講することを求めます。				

授業科目名	アメリカ文学文化基礎読解 I Basic Reading and Interpretation American Literature and Culture I				
担当教員名	レッドフォード SW Redford Steven Wade	所属等	学術院人文社会科学領域		
		研究室	人文 A 棟 4 2 7		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期	必修選択区分	選択
対象学年		単位数	2	曜日・時限	水 3・4
キーワード	America、fiction、Hemingway、Steinbeck、reading、analysis				
授業の目標	To develop the ability to read, analyze, and discuss important works of American fiction.				
学習内容	Students will read, analyze, and discuss four or five short stories (Ernest Hemingway, Judy Cofer, Raymond Carver), and one short novel written by John Steinbeck, Of Mice and Men. As time allows, short passages from other important American authors will be introduced. The components of fiction--point-of-view, plot, characterization, imagery, metaphor, tone--will also be given attention.				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction; Raymond Carver's "The Father"</li> <li>2. Hemingway's "A Day's Wait"</li> <li>3. Hemingway's "A Clean, Well-Lighted Place"</li> <li>4. Steinbeck's Of Mice and Men Chapter 1</li> <li>5. Steinbeck's Of Mice and Men Chapter 1</li> <li>6. Steinbeck's Of Mice and Men Chapter 2</li> <li>7. Steinbeck's Of Mice and Men Chapter 3</li> <li>8. Steinbeck's Of Mice and Men Chapter 3</li> <li>9. Steinbeck's Of Mice and Men Chapter 4</li> <li>10. Steinbeck's Of Mice and Men Chapter 5</li> <li>11. Steinbeck's Of Mice and Men Chapter 6</li> <li>12. Steinbeck's Of Mice and Men video</li> <li>13. Judy Cofer's "More Room"</li> <li>14. Raymond Carver's "A Small, Good Thing"</li> <li>15. Discussion</li> </ol>				
受講要件					
テキスト	Of Mice and Men, John Steinbeck, A PENGUIN BOOK (ISBN 0-14-0177396) Other materials provided by instructor				
参考書					
予習・復習について	Weekly reading assignments and study questions must be done before class.				
成績評価の方法・基準	Class participation, 20%; weekly quizzes and assignments, 30%; final test (short answer and essay test), 50%.				
オフィスアワー	Thursday 10:20 - 11:50, and by appointment e-mail: jrsteve@ipc.shizuoka.ac.jp				
担当教員からのメッセージ	A willingness to participate in English is appreciated.				

授業科目名	英語学各論Ⅱ				
担当教員名	小町 将之 KOMACHI Masayuki		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人文社会科学部 A 棟 4 階 424	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年		単位数	2	曜日・時限	水 3・4
キーワード	生成文法、比較統語論、意味論、第一言語獲得				
授業の目標	「プラトンの問題」に関わる第一言語獲得研究を概観することで、普遍文法の成り立ちについて考察を深めるとともに、様々な言語現象を理論的に分析する手法を学習する。				
学習内容	<p>言語獲得に関する「プラトンの問題」を通じて、生成文法研究において本質的な問題を考えます。言語知識の個体発生としての第一言語獲得研究を通じて、生成文法理論の基本理念と分析手法、および研究課題を学びます。担当教員から解説するだけでなく、受講生自身でも分析し、その思考方法に習熟してもらいます。</p> <p>分析の対象とする主な言語は英語ですが、日本語などの他言語との比較を通じて、人間の文法知識を立体的に理解してもらえるように努めます。</p>				
授業計画	<p>教科書とハンドアウトに基づいて、分析手法の解説、議論、受講生による発表を行います。主に取り上げるテーマとしては、以下のようなものを予定しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 構造依存性</li> <li>2. Wh 疑問に関するさまざまな制約</li> <li>3. 空主語現象</li> <li>4. 項省略</li> <li>5. 原理とパラメータ</li> </ol>				
受講要件	英文法の基礎知識を有していること。生成文法理論への関心があること。				
テキスト	杉崎鉦司『はじめての言語獲得』岩波書店				
参考書	適宜紹介します。				
予習・復習について	毎回、教科書の該当箇所を読んでくることは必須ですが、必要に応じて指示します。				
成績評価の方法・基準	授業中に出される課題、宿題、学期末のレポートの提出状況と内容に応じて評価します。				
オフィスアワー	金曜 7・8 時限。その他の時間を希望する場合は、メールで連絡を取ってください。連絡用メールアドレス： koma@shizuoka.ac.jp)				
担当教員からのメッセージ	生成文法の基本的な考え方と分析手法に親しんでもらえればうれしいです。				

授業科目名	教育現象の社会学				
担当教員名	荻野 達史 OGINO Tatsushi		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人文C棟403	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		単位数	2	曜日・時限	水3・4
キーワード	青年期、学校制度、高学歴化社会、移行問題、職業社会、就労支援、職能育成・教育、教育家族、消費社会				
授業の目標	人間・社会について、歴史・文化・制度といったさまざまな条件を考慮し、深く理解することができ、その理解をもとに地域社会や職場などの現場で、課題を見出しその解決に向けて活用できる力を修得すること。				
学習内容	青年年期移行問題とは、青年期から成人期への移行について生じる諸々の問題を指している。具体的には、一定年齢層の人々が学校から職業社会へ移行する際に生じる問題ともいえるが、個々人のアイデンティティや家族をめぐる問題なども含まれ、より多角的・多面的に検討する必要がある。本講義ではこうした立場から、歴史的な視点も多く取り入れ、移行問題について現在の理解を深めることを目指す。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス：青年期移行問題へのアプローチ</li> <li>2. 「青年期」の出現と学校制度（1）欧米の経験</li> <li>3. 「青年期」の出現と学校制度（2）日本の経験①</li> <li>4. 「青年期」の出現と学校制度（3）日本の経験②</li> <li>5. 大衆教育社会の出現：戦後期における高学歴化①</li> <li>6. 大衆教育社会の出現：戦後期における高学歴化②</li> <li>7. 「教育家族」の歴史</li> <li>8. 戦後型移行システムの構図と問題</li> <li>9. 消費社会と移行問題</li> <li>10. 職能育成の歴史と現在（1）日本型長期雇用の時代</li> <li>11. 職能育成の歴史と現在（2）1990年代後半以降の動向</li> <li>12. 職能育成の歴史と現在（3）地域における就労支援</li> <li>13. 学校・学校制度の問い直し（1）キャリア教育をめぐる</li> <li>14. 学校・学校制度の問い直し（2）「人材像」論を手がかりに</li> <li>15. まとめ：移行システムの包括的再構築に向けて</li> </ol>				
受講要件	社会学概論を受講していることが望ましい。調査論や計量分析について一定の知識があると理解がより容易になる。専門性はやや高く、難易度は中程度である。				
テキスト	テキストは特に指定しないが、参考文献についてのリストを適宜配布する。				
参考書	講義に使用した参考文献、また適宜配布する文献リストを参照のこと。				
予習・復習について	復習に力を入れて欲しい。講義の後は必ずノートを電子ファイル化し、思いついた疑問や意見も含めて書き留めていくことが理解と思考力を高めるだろう。比較的読みやすい文献も紹介するので、ぜひ各自で読み進めて欲しい。				
成績評価の方法・基準	20%は授業最後のコメントペーパー（感想・疑問についての自由記述）で、80%は期末レポートで評価する。				
オフィスアワー	初回にアナウンスする。				
担当教員からのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 県立大学単位互換（認める）</li> <li>2. 科目等履修生（認める）</li> </ol> 毎回、授業の終わりにアンケートをとるが、次の講義で毎回10～15分を使って回答する。講義のまとめのような内容ではなく、疑問や質問をコンパクトに書いてもらいたい。また、参考文献や新聞などを読んで抱いた疑問などあれば、その回の授業内容に直接関係なくても書き込んでもらいたい。授業の流れの中で言及していく予定である。				

授業科目名	刑法総論 I				
担当教員名	津田 雅也 TSUDA Masaya		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年		単位数	2	曜日・時限	水 3・4
キーワード	刑法、刑法総論、犯罪、刑罰				
授業の目標	刑法総論を初めて学ぶ受講生が、「ある行為が犯罪とされるための要件」と「犯罪に対して科される刑罰の内容」について、①基本的な判例および学説の理解を踏まえた上で、②条文に即して説明できるようになること。				
学習内容	「刑法総論 I」においては、刑法総論の概要・基礎知識を学ぶ。 ・ 下記テキストを一冊通して学習し、刑法の概要をつかむ。 ・ 刑法総論の基本的な概念、判例および学説の考え方を正確に把握する。				
授業計画	1. ガイダンス（シラバス記載事項の説明、刑事法の概要） 2. 序論－刑法の目的（法益保護、応報と犯罪予防） 3. 序論－刑法の基本原則（罪刑法定主義、行為主義、責任主義） 4. 犯罪論－構成要件該当性 1（実行行為と危険概念） 5. 犯罪論－構成要件該当性 2（因果関係） 6. 犯罪論－構成要件該当性 3（故意と錯誤） 7. 犯罪論－違法性 1（違法性とその阻却） 8. 犯罪論－違法性 2（正当防衛と緊急避難 1） 9. 犯罪論－違法性 3（正当防衛と緊急避難 2） 10. 犯罪論－責任 1（責任論の基礎） 11. 犯罪論－責任 2（責任要素） 12. 犯罪論－未遂犯（障害未遂と中止未遂） 13. 犯罪論－共犯論 1（正犯と共犯） 14. 犯罪論－共犯論 2（共同正犯、狭義の共犯） 15. 刑罰論－刑罰の種類とその適用（犯罪の個数、刑の加重と減輕、量刑の判断）				
受講要件	特になし。				
テキスト	井田良，入門刑法学・総論，有斐閣，2013年，ISBN9784641042957 上記テキストは教科書として使用するのので、なるべく購入することが望ましい。なお、講義ではレジュメを配布する。				
参考書	成瀬幸典＝安田拓人，判例プラクティス刑法 I・総論，信山社，2010年，ISBN9784797226317 井田良，講義刑法学・総論，有斐閣，2008年，ISBN9784641042551				
予習・復習について	予習よりも復習に重点を置くことを勧める。具体的には、講義を受けながらレジュメやノートに記載したメモを参照しつつ、テキストを繰り返し読み込み、まずは自分で理解を深める作業を行ってもらいたい。復習を通じて生じた疑問点は、担当教員に質問をして、なるべく早めに解消することが望ましい。				
成績評価の方法・基準	成績評価の方法は、筆記試験（60%）、レポート（20%）、小テスト（20%）とする（それぞれの実施方法や内容等の詳細は、授業で説明する）。評価の基準は、上記「授業の目標」で掲げた 2 点（基本的な判例・学説を踏まえた上で条文解釈を行えるか）の到達度とする。				
オフィスアワー	人文社会科学部法学科のウェブサイト（教員紹介）を参照。				
担当教員からのメッセージ	刑法総論 I は、皆さんが大学に入学して初めて学ぶ専門科目のうちの一つであるので、担当教員としてもなるべく分かりやすい解説を心がける。それと同時に、受講生である皆さんにも積極的な学習への取り組みを期待する。特に、上記「予習・復習について」で記したように、復習に重点を置き、疑問点を積極的に解消して欲しい。				



授業科目名	財政学 I Public Finance I				
担当教員名	高松 慶裕 TAKAMATSU Yoshihiro		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	共通教育 L 棟 407	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年		単位数	2	曜日・時限	水 3・4
キーワード	財政の機能、予算制度、パレート効率、厚生経済学の基本定理、公共財				
授業の目標	わが国の財政の仕組みと現状を理解するとともに、財政学の理論を習得することを目標とする。				
学習内容	財政学の理論と制度の両面についての基礎的知識を提供するとともに、わが国の財政の抱えている問題を解説し、その改革方向をめぐる所説を紹介する。財政学 I では、歳出面に焦点を当て、財政の機能、予算制度、公共財の理論などを扱う。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 財政の機能と政府の規模</li> <li>3. 予算の仕組み</li> <li>4. 予算の循環</li> <li>5. 財政投融资と地方財政計画</li> <li>6. 政府支出論と予算制度改革論</li> <li>7. 財政学のためのミクロ経済学基礎</li> <li>8. パレート効率と市場経済</li> <li>9. 厚生経済学の基本定理と社会厚生関数</li> <li>10. 公共財の最適供給</li> <li>11. 公共財の自発的供給とフリーライド問題</li> <li>12. 公共財の公的供給 (1) : リンダール・メカニズム</li> <li>13. 公共財の公的供給 (2) : クラーク=グロブス・メカニズム</li> <li>14. 地方公共財と多数決原理</li> <li>15. まとめ</li> </ol>				
受講要件	ミクロ経済学 I・II の内容を履修済み（並行履修）であるか、独習できることが望ましい。この授業（特に 7 回目以降の内容）では、ミクロ経済学に基づく説明をします（グラフ、数式等を含む）。				
テキスト	指定しない。				
参考書	小塩隆士（2002）『コア・テキスト財政学』新世社。 畑農鋭矢・林正義・吉田浩（2015）『財政学をつかむ』新版，有斐閣。 『図説 日本の財政』各年版，東洋経済新報社。 その他，適宜紹介する。				
予習・復習について	授業は配布資料を基に進めます。事前に学務情報システムからダウンロードし，予復習に活用してください（初回のガイダンスのみ印刷したものを配布します）。				
成績評価の方法・基準	期末試験 70%程度，レポート課題 30%程度で評価する。				
オフィスアワー	初回時にお知らせします。				
担当教員からのメッセージ	後期の財政学 II は歳入面に焦点を当てます。財政学 I と II を両方履修すると財政学全体の理解が進むと思います。				

授業科目名	アメリカ文学文化読解 I Reading and Interpretation American Literature and Culture I				
担当教員名	レッドフォード SW Redford Steven Wade	所属等	学術院人文社会科学領域		
		研究室	人文 A 棟 4 2 7		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期	必修選択区分	選択
対象学年		単位数	2	曜日・時限	水 5・6
キーワード	Walt Whitman、Gary Snyder、アメリカ詩、精読、音読、輪読、ディスカッション、アメリカ文化				
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 受講生の各々がアメリカ詩を分析することによって、卓越した英文の読解能力を獲得する。</li> <li>2. 黙読はもちろんだが、音読を予復習および授業時間内にしっかりと行い、目と耳の双方を用いて英文を理解する訓練を行う。</li> <li>2. 詩およびその他の文学作品と欧米の思想・哲学の接点を探り、それら双方の理解を深める。</li> <li>3. アメリカ文化の諸相に触れ、アメリカ詩と様々なテーマの関連性を探る。</li> <li>4. ディスカッション、英文のコメント作成等も授業の進行状況に応じて行うので、積極的な姿勢の授業参加が求められる。</li> </ol>				
学習内容	<p>主としてこの授業では、Walt Whitman (1819 - 92) と、Gary Snyder (b.1930)の作品を徹底的に精読する。作品自体を原文で文字通り一行ずつ丁寧に読み解くことになるので、そのつもりで受講して欲しい。特に集中的に扱う詩篇は、Whitman の 長編詩 Song of Myself と、Snyder の 詩集 Riprap および The Back Country から選択する予定である。ただし必要に応じて、Ezra Pound や John Cage 等の詩人・芸術家の作品も選択する場合がある。</p> <p>また、Whitman や Snyder の詩とアメリカの思想・哲学・文化の諸領域の間に認められる有機的な関係性についても考察する。したがって、詩人たちによる作品自体はもちろんのこと、それを読み解く上で必要な英文の解説や批評文等も精読することになる。</p> <p>受講生には、予復習時はもちろん、毎回の授業時間内でも「音読」を行ってもらおう。したがって、不明な単語については各自意味のみでなく発音記号もしっかりと調べた上で参加してもらおうことになる。</p> <p>授業内容の主たる部分はあくまでも作品の原文を目と耳で鑑賞すること、そしてそれに関するディスカッションを行うことである。受講生数にもよるが、ほぼ毎回必ず受講生は音読と発表を行うことを想定しておいてほしい。</p>				
授業計画	<p>「学習内容」中に記したとおり、主として詩人の作品を中心とした資料を扱い、授業を展開する。また作品背景をめぐる批評家の解説や分析にも着目し、詩作品を読み解く上で参考にする。</p> <p>上記の作品を輪読形式で受講生に発表してもらいながら読解を進める。したがって、毎回の授業で必ず受講生はテキストの音読を行い、その解釈を発表することになる。あらかじめ翌週の授業範囲は知らせるが、具体的な担当箇所は当日割り振る。したがって、受講生は毎回予復習をしっかりと行った上で授業に参加しなければならない。毎回の予習に必要とされる時間数は、およそ 2～3 時間程度となる見込みである。</p> <p>その他の詳細については授業時に補足する。</p>				
受講要件	<p>まず「音読」と「解釈発表」を授業時に積極的に行えることが条件である。</p> <p>また、英米言語文化基礎読解等を通じて、アメリカ詩に関する基本的知識は既に習得していることが望ましい。</p>				
テキスト	初回授業時に指定する。				
参考書	適宜授業時に紹介する。				
予習・復習について	配布資料を熟読し、自分なりの意見をまとめてくること。				
成績評価の方法・基準	複数回の小レポートとテスト、および授業における貢献度を基準に成績を定める。				
オフィスアワー	火曜 12:00-12:45。あらかじめアポイントメントを取って来室することが望ましい。				
担当教員からのメッセージ	<p>難易度 C.</p> <p>授業時に音読を行うことと、解釈を発表することを積極的に行うことが前提となる。</p>				

予復習を十分にしたうえで授業に参加することが条件。  
またレポートをはじめとする提出物をきちんと提出することも求められる。

授業科目名	経済政策 I Economic Policy I				
担当教員名	寺村 泰 TERAMURA Tai		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	共通 L 棟 3 1 5	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年		単位数	2	曜日・時限	水 5・6
キーワード	経済政策、財政政策、金融政策、産業政策、商業政策				
授業の目標	経済政策の諸分野について戦後から現在の日本を中心に概括的知識を習得します。				
学習内容	同上				
授業計画	1. 財政政策 I 2. 財政政策 II 3. 金融政策 I 4. 金融政策 II 5. 福祉政策 I 6. 福祉政策 II 7. 商業・流通政策 I 8. 商業・流通政策 II 9. 農業政策 10. 産業政策 I 11. 産業政策 II 12. 経済のグローバル化と対外経済政策 I 13. 経済のグローバル化と対外経済政策 II 14. 今後の経済政策のあり方 15. 総括				
受講要件	毎回小テストを行うため、キャパシティの関係で経済学科生のみ受講可とします。				
テキスト	特になし				
参考書	授業で適宜紹介します。				
予習・復習について	毎回、前回の講義内容に関する小テストを行います。復習は不可欠です。				
成績評価の方法・基準	小テストの累計点で評価します。				
オフィスアワー	未定。				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認めない）      2. 科目等履修生（認めない） 難易度：B				

授業科目名	社会保障論 I				
担当教員名	李 蓮花 LI Lianhua		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年		単位数	2	曜日・時限	水 5・6
キーワード	社会保障、福祉、リスク、少子高齢化、国際比較、再分配、福祉国家				
授業の目標	現代社会で欠かせない社会保障制度の歴史、理念および主な制度の仕組みを学び、グローバルな視点から日本の社会保障の特徴と現在直面している諸課題を理解します。				
学習内容	社会保障論 I では、社会保障・福祉国家の歴史と全体像を押さえてから、現代日本で焦点となっている貧困と生活保護、少子化対策、および医療保障について、国際比較や映像資料などを通じて詳しく学びます。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 社会保障と福祉国家：定義、歴史、思想</li> <li>3. 国際比較からみる全体像</li> <li>4. 日本の社会保障（1）</li> <li>5. 日本の社会保障（2）</li> <li>6. 貧困と最低生活保障（1）</li> <li>7. 貧困と最低生活保障（2）</li> <li>8. 貧困と最低生活保障（3）</li> <li>9. 少子化と育児支援（1）</li> <li>10. 少子化と育児支援（2）</li> <li>11. 少子化と育児支援（3）</li> <li>12. 医療保障（1）</li> <li>13. 医療保障（2）</li> <li>14. 医療保障（3）</li> <li>15. 前期復習</li> </ol>				
受講要件	社会保障論 II とあわせて履修することが望ましいです。				
テキスト	指定なし（学情で配布する資料を使用します）				
参考書	椋野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障』（第 12 版），有斐閣，2015 年，1944 円；小塩隆士『18 歳からの社会保障読本』，ミネルヴァ書房，2015 年，2700 円。				
予習・復習について	配布資料に事前に目を通してください。				
成績評価の方法・基準	レポート 30%、中間テスト 30%、期末テスト 40%				
オフィスアワー	水曜日 17：45～18：45				
担当教員からのメッセージ	我々の生活と密接に関連しますが、複雑で難しそうな社会保障。国際比較や映像などを通じて、多面的に、体系的に学びます。				

授業科目名	日本語学概論 I Introduction to Japanese Linguistics I				
担当教員名	勝山 幸人 KATSUYAMA Yukito		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人文 B 棟 519	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年		単位数	2	曜日・時限	水 5・6
キーワード	日本語、国語学、音声学、アクセント、文法論、形態論、統語論、日本語教育				
授業の目標	日本語における音声と文法の特徴について学ぶ。				
学習内容	中一種免(国語)、高一種免(国語)、及び日本語教育能力検定の受験資格を取得する人は、必須科目となります。ただし、「日本語学概論Ⅱ」と合わせて、4単位が必要になるので、注意してください。				
授業計画	<p>日本語学概論 I で学ぶことは、おもに日本語の音声(前半)と日本語の文法(後半)の分野になります。</p> <p>言語研究の究極の目的は、音声言語の解明にあります。音声が一次的な言語コミュニケーションと呼ばれる所以です。前半(概ね、1 講から 9 講)では、まず、音と音声、音韻の違いについてそれぞれしっかり認識したうえで、現代日本語の母音、子音、半母音、モーラの各音素の特色について学びます。実際の音声を聞いて、国際音声字母 IPA で表記したり、子音の調音点、調音方法、声帯振動の有無について観察したりします。拍と音節の違い、アクセントの式と型、イントネーションやプロミネンスにも及びます。</p> <p>後半(概ね、10 講から 15 講)では、現代日本語の文法のうち、おもに「単語」とは何かということ扱う形態論と、述語のカテゴリーを中心に、「文」とは何かということの問題にする統語論について学びます。時間があれば、橋本進吉や時枝誠記など、代表的な日本語文法論の特色についても、学習したいと思います。</p>				
受講要件	毎回きちんと出席できる自信のない人は、はじめから受講しないでください。				
テキスト	『日本語要説』(ひつじ書房)1,900 円+税				
参考書	適宜、紹介します。				
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	出席(遅刻を含む)・平常点と定期試験				
オフィスアワー	水曜日・昼休み				
担当教員からのメッセージ	初めて学ぶ人にもよくわかるように説明します。ただ、語学ですから、一回でも遅刻や欠席をすると、あとが何もわからず、つまらなくなります。教員を目指す人の必須科目でもありますから、厳しい授業になりますが、絶対にためになるので、がんばって勉強してください。				

授業科目名	臨床心理学Ⅱ				
担当教員名	笠井 仁 KASAI Hitoshi		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人文A420	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年		単位数	2	曜日・時限	水 7・8
キーワード	心理的援助、適応と不適応、実践				
授業の目標	人間援助の学問としての臨床心理学について基礎的な知識を得る。				
学習内容	臨床心理学は、人間の心まつわる諸問題の理解と援助に関する学問である。この授業では、臨床心理学の歴史的背景、基礎となる理論、領域と対象、援助の実際、研究の現状について学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床心理学とは何か</li> <li>2. 歴史的背景</li> <li>3. 基礎となる理論</li> <li>4. 実践の領域</li> <li>5. 心理アセスメント</li> <li>6. 援助の対象（1）：発達臨床</li> <li>7. 援助の対象（2）：疾患と障害</li> <li>8. 援助の対象（3）：家族・コミュニティにおける諸問題</li> <li>9. 援助の方法と過程（1）：源流としての催眠</li> <li>10. 援助の方法と過程（2）：力動論的アプローチ</li> <li>11. 援助の方法と過程（3）：行動論的アプローチ</li> <li>12. 援助の方法と過程（4）：人間論的アプローチ</li> <li>13. 援助の方法と過程（5）：システム論的アプローチ</li> <li>14. 臨床心理学の研究</li> <li>15. 臨床心理学の倫理</li> </ol>				
受講要件	心理学概論、基礎心理学を受講していることが望ましい。				
テキスト	とくに指定しない（資料を配布する）。				
参考書	下山晴彦（編）『よくわかる臨床心理学』（ミネルヴァ書房）。下山晴彦・丹野義彦（編）『講座臨床心理学』（東京大学出版会）全6巻。その他、そのつど指示する。				
予習・復習について	各テーマについて、さらに発展的に参考書等により予習・復習することを期待する。				
成績評価の方法・基準	授業毎の小レポート（30%）と最後の筆記試験（70%）により評価する。				
オフィスアワー	火曜日 7・8時限				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 単なる知識の習得ではなく、その知識が得られた背景にも思いをめぐらせつつ、積極的に自分の頭と心を働かせながら講義に参加することを期待する。				

授業科目名	西洋史概説				
担当教員名	藤井 真生 FUJII Masao		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		単位数	2	曜日・時限	水 9・10
キーワード	古代文明、ギリシャ民主政、ローマ帝国、キリスト教、国家形成、封建社会、中世都市				
授業の目標	多様な人間・社会について、歴史・民族・文化・制度といったさまざまな条件を考慮し、深く理解することができ、同時に共生への志向を尊重する態度を身につける。				
学習内容	古代オリエント世界から中世ヨーロッパ世界まで、時代をおっていくつかのトピックをとりあげる。高校で習う世界史よりもテーマを限定し、その分詳しい史料紹介や歴史的意義の考察に重点をおいて学ぶこととする。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 古代文明の発生（1）</li> <li>2. 古代文明の発生（2）</li> <li>3. ギリシャの民主政（1）</li> <li>4. ギリシャの民主政（2）</li> <li>5. ローマ帝国の拡大（1）</li> <li>6. ローマ帝国の拡大（2）</li> <li>7. キリスト教の誕生（1）</li> <li>8. キリスト教の誕生（2）</li> <li>9. 中世国家の形成（1）</li> <li>10. 中世国家の形成（2）</li> <li>11. 封建社会の身分と支配（1）</li> <li>12. 封建社会の身分と支配（2）</li> <li>13. 中世都市の成立（1）</li> <li>14. 中世都市の成立（2）</li> <li>15. 中世から近世へ</li> </ol>				
受講要件	とくになし。				
テキスト	授業後に、スライド資料を学務情報システムで配信します。				
参考書	各回のテーマごとに、講義内で案内します。				
予習・復習について	とくに予習は求めませんが、評価方法との関連で、講義内容は自分なりにまとめておくことが必要となります。				
成績評価の方法・基準	テーマごと（「古代文明の発生」「ギリシャの民主政」など）に講義内容を要約した文章を書いてもらいます。各回の平均点に授業貢献度（発言回数など）を加味したものを最終的な評価とします。				
オフィスアワー	月曜日午前				
担当教員からのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 県立大学単位互換（認める）</li> <li>2. 科目等履修生（認める）</li> </ol> 難易度 B 2回に1度は文章にまとめてもらうので、必ず各テーマの1回目の内容を整理してから2回目へのぞんでください。また、適切な日本語表現も評価ポイントとなるため、西洋中世にかぎらず歴史の概説書を読み、文章表現を学んでおくことをおすすめします。				



授業科目名	西洋社会史Ⅱ				
担当教員名	岩井 淳 IWAI Jun		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人文A棟219	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		単位数	2	曜日・時限	水9・10
キーワード	近世史、近代史、イングランド、スコットランド、ウェールズ、アイルランド、ブリテン国家、ピューリタン革命				
授業の目標	現在のイギリスの正式名称は、「グレート・ブリテンおよび北アイルランド連合王国」です。イギリスは、イングランドだけで説明できず、スコットランドやウェールズ、北アイルランドといったさまざまな地域から成り立っています。この授業では、多様な地域や民族を包括する連合国家が生まれてきたプロセスを、複合国家成立の歴史として、わけてもピューリタン革命期に焦点を絞って考察します。				
学習内容	この授業では、連合王国を構成してきたイングランド、スコットランド、ウェールズ、アイルランドの特色を最初に概観します。続けて、それらの地域が、中世以来、独自のまとまりをもって成立したこと、同時に対立関係や協力関係を伴いつつ、征服や従属を繰り返してきたことを示します。そうした関係は、16世紀以降に大きく変化します。イングランドが中心的な勢力として登場し、スコットランドと戦ったり、アイルランドへの入植を積極的に進めました。その中でウェールズでは、比較的順調にイングランド化が進みました。1640年に始まるピューリタン革命が、イングランド中心のブリテン連合国家が出現する過程で、重要な画期となったことを考察します。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. この授業の目的と計画</li> <li>2. 「ピューリタン革命」とは何か</li> <li>3. 複合国家とは何か</li> <li>4. 映像で見るウェールズ</li> <li>5. イングランドとウェールズの概観</li> <li>6. スコットランドとアイルランドの概観</li> <li>7. 17世紀前半(初期ステュアート期)の政治と宗教</li> <li>8. 初期ステュアート朝の危機と革命勃発</li> <li>9. ピューリタン革命の展開</li> <li>10. 国王処刑</li> <li>11. 映像で見るアイルランド</li> <li>12. クロムウェルのスコットランド・アイルランド征服</li> <li>13. 王政復古と複合国家体制</li> <li>14. 名誉革命と複合国家体制の確立</li> <li>15. まとめと展望</li> </ol>				
受講要件	世界史やイギリス史について、基本的知識をもっていることが望ましいです。				
テキスト	岩井淳『ピューリタン革命と複合国家』世界史リブレット、山川出版社、729円。				
参考書	岩井淳編『複合国家イギリスの宗教と社会』ミネルヴァ書房を参考書とします。その他の参考書は、必要に応じて指示します。				
予習・復習について	テキストや配布プリントを使って、予習・復習をしてください。				
成績評価の方法・基準	出席状況や試験の結果によって、総合的に評価します。				
オフィスアワー	金曜日3・4時限。				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換(認める)    2. 科目等履修生(認める)    3. 難易度(B) 歴史学やイギリスに興味のある方、大歓迎です。				

授業科目名	<p style="text-align: center;">憲法総論・統治機構 Constitutional Law/Government</p>				
担当教員名	小谷 順子 KOTANI Junko		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人文 A 棟 6 1 2	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年		単位数	2	曜日・時限	木 1・2
キーワード	憲法、法の支配、法治主義、立憲主義、権力分立、人権保障、基本的人権、自由、権利、統治				
授業の目標	国家の最高法規である「憲法」の歴史的背景、意義、及び機能に関する基礎知識を習得した上で、日本国憲法の基本原則及び統治機構をめぐる各種論点（時事的な論点も含む）に関する詳細な知識・応用力を習得することを目標とする。				
学習内容	まず、「憲法」の歴史的背景・近代的意義を確認した上で、日本における「憲法」の変遷、「日本国憲法」の基本的原則について学ぶ。その後、国会・内閣・裁判所を主軸とする統治機構に関する日本国憲法の規定を確認した上で、この分野における憲法学上の各種問題点について、国内の判例・学説や外国の例を参照しつつ学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 法とは何か、憲法・憲法学とは何か</li> <li>2. 憲法と立憲主義（憲法の意味・分類・特質・立憲主義）</li> <li>3. 日本憲法史（明治憲法、日本国憲法）</li> <li>4. 国民主権の原理（国民主権）</li> <li>5. 国民主権の原理（天皇制）</li> <li>6. 平和主義の原理</li> <li>7. 国会（権力分立、政党）</li> <li>8. 国会（国会の地位・組織・活動）</li> <li>9. 国会（衆議院の解散、一票の格差）</li> <li>10. 内閣</li> <li>11. 裁判所（裁判所の組織・権能、司法権の意味と範囲）</li> <li>12. 裁判所（司法権の意味と範囲）</li> <li>13. 裁判所（裁判員制度）</li> <li>14. 憲法の保障（違憲審査制）</li> <li>15. 憲法の保障（憲法改正）</li> </ol>				
受講要件	特になし				
テキスト	芦部信喜著・高橋和之補訂『憲法（第6版）』（岩波書店、2015年）、六法（出版社は問わないが、最新のものの）。この2点は、毎回の授業に必携。				
参考書	判例集（例）：野中俊彦・江橋崇編著『憲法判例集（第10版）』（有斐閣新書、2008年）、『憲法判例百選Ⅱ（第6版）』（有斐閣、2013年）など。用語集（例）：大沢秀介・大林啓吾編『確認憲法用語』（成文堂、2014年）など。				
予習・復習について	予習： 予め教科書の該当箇所を読む。 復習： 毎回の講義終了後、各自で、学務情報システム上の「授業支援システム」にログオンし、授業内容を再確認するための小テストを受験する。				
成績評価の方法・基準	授業支援システムの「小テスト」の成績 20-40%程度、期末試験 60-80%程度で評価する予定。期末試験は、教科書等の一切の資料の参照不可。 ※授業支援システムについては、授業中に説明する。				
オフィスアワー	毎週の授業終了後。その他、電子メールにて、いつでも質問可。				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換(○) 2. 科目等履修生(○) 3. 難易度(A) 難易度(A)は、高校の公民（現代社会、政治経済）レベルの知識を当然に修得していることを前提としています。				

授業科目名	日本言語文化各論VI Advanced Studies in Japanese Language and LiteratureVI				
担当教員名	小二田 誠二 KONITA Seiji	所属等	学術院人文社会科学領域		
		研究室	人文A棟 323		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		単位数	2	曜日・時限	木 1・2
キーワード	江戸/現代、戯作、見立て、型、二次創作、浮世絵、芝居、音読、現代語訳				
授業の目標	江戸時代の様々な言語表象を読み解きながら、現代に活かせるヒントを探ります。 好奇心を発揮して魅力をたくさん発見すること、それをわかりやすく誰かに伝えることの両方を目指します。				
学習内容	高校までの授業では殆ど触れることのない江戸時代の文芸には、思いがけない深さもあり、びっくりするような豊かな表現もたくさんあります。 この授業では、皆さんと一緒に江戸時代の様々な作品を読み解きながら、その魅力を、授業を取っていない同世代の人たちに伝え、活かしていくためのガイドブック（のような物）を作ろうと思っています。				
授業計画	<p>途中でゲストによる特別講義を入れるかもしれません。 受講生の動向によって内容を大きく変える場合があります。</p> <p>一回目 江戸に驚いた話 私の大学一年生当時の記憶をたどりながら、この授業の狙いについて話します。 皆さんの予備知識も確認し、授業の進め方を調整します。 以下の項目は、授業一回ごとの内容を表すわけではありません。 戯作とオタクカルチャー 二次創作ばかりじゃない。 観察力と再現力 江戸には隠しカメラ・マイクがあった？ 言葉の遊び、絵画の遊び 駄洒落 擬人化 見立て 素人文芸 江戸の投稿サイト？ 音楽と演劇 身体 楽器 人形 実用書 そしてやっぱり二次創作 等々。</p> <p>基本的に、私が話題を提供します。 それらをもとにして、皆さんが、私も気づかないような魅力を見つけること、それを、ふさわしいメディアで発信すること、までが授業です。 私は情報提供とヒントを出すだけ。 毎回わいわい話し合ったり、みんなで書いたりする時間を取ります。</p>				
受講要件	古文が苦手でも構いませんが、無理、と言う人は無理です。 若干ですが、性的表現/暴力表現等を含む事を予め承知して下さい。				
テキスト	授業中に配布します。 かなり大量になりますが、配布された物は次回までに全部しっかり読むこと。				
参考書	授業中に適宜紹介。 事前に江戸時代の大雑把な歴史と文化史・文学史に関する参考書や教科書などを読んでおくこと。 最初の回に皆さんの予備知識チェックをします。 江戸時代の作品を読んでおいてくれればなお良い。				
予習・復習について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的に様々な事に興味を持ち行動すること。</li> <li>・授業で気になったことは、その日のうちに調べて、「書く」こと。</li> </ul>				
成績評価の方法・基準	最終レポートのみ。出欠は評価の対象にしません。ただし、欠席して書けるような課題は出しません。 任意のレポートによって得点加算、遅刻による減点等あり。 最終レポートは公開します。 詳細は最初の回に。				
オフィスアワー	あなたと私の空き時間。 私の時間割は <a href="http://www.ipc.shizuoka.ac.jp/~jjskoni/time.html">http://www.ipc.shizuoka.ac.jp/~jjskoni/time.html</a> に掲載します。 確認の上、連絡してください。				
担当教員からのメッセージ	一年生向けの専門科目としては、かなり「大変」な授業だと思いますが、「本で読めばわかること」ではない、学問の意味みたいな事を含め、多くを学べる時間にするつもりです。一緒に楽しみましょう。 1 県立大学単位互換（認めない） 2 科目等履修生（認めない） 3 難易度（B）				

授業科目名	英米言語文化基礎論 Introduction to English Studies				
担当教員名	鈴木 実佳 SUZUKI Mika		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人文 A 棟 5 1 7	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年		単位数	2	曜日・時限	木 3・4
キーワード	英語学、生成文法、英語				
授業の目標	<p>特に、人文社会科学部 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）2・3 及び言語文化学科のディプロマ・ポリシー 1 に示されているような知識と教養を得ることを目標とする。言語文化学科の教育課程編成実施の方針（カリキュラム・ポリシー）1 に示されているように、導入的基礎知識を得るための基礎科目として設定されている。</p> <p>（鈴木）イギリスの文化のひとつの大きな特徴をなす過去の遺産 <b>heritage</b> 利用の考え方を探る。</p> <p>（小町）英語を理論的研究／実証的研究の対象に位置づけ、「ことばの体系」の探求を通じて、人間の本質をさぐるきっかけを提供する。</p>				
学習内容	<p>（鈴木）<b>heritage</b> というものが、文学や観光業やイベントでどのような扱われ方をしているかを示し、未来を構想するうえでそれがどのような役割を果たしているのかについて考察する。</p> <p>（小町）言語表現の背後に隠れている、言語使用者である我々自身も意識が及ばないような規則性について考える。その際に、生成文法研究という言語学におけるひとつの考え方を紹介し、それを手掛かりに言語のあり方を考える。</p>				
授業計画	<p>（鈴木）過去からの遺産と未来について、以下の順に話題をとりあげ、イギリスについて学ぶ基礎を提供する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 世界遺産、national heritage</li> <li>2. 文化の継承</li> <li>3. 文学</li> <li>4. イギリスの未来</li> </ol> <p>（小町）人間の有する言語知識の性質について、以下の観点から議論を展開する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 言語知識の種固有性</li> <li>2. 言語知識の領域固有性</li> <li>3. 言語知識の獲得</li> <li>4. 言語知識の性質（形態論・統語論・意味論）</li> </ol>				
受講要件	受講希望者数により制限を課す（言語文化学科の1年生を優先）。				
テキスト	（鈴木）特になし。ハンドアウトを配布することもある。 （小町）ハンドアウト				
参考書	必要に応じて指示します。				
予習・復習について	予習・復習共に欠かさないこと。				
成績評価の方法・基準	コメントペーパーや筆記試験等により総合的に評価するが、基本的に2人の担当教員それぞれの評価を合わせて成績を定める。なお試験の実施方法等については、各教員が授業時に行う指示を確認すること。				
オフィスアワー	（鈴木）前期火曜 5・6 限。[後期水曜 5・6 限] メールにて連絡をとってください。 suzuki.mika@shizuoka.ac.jp （小町）金曜 7・8 時限。その他の時間を希望する場合は、メールで連絡を取ってください。連絡用メールアドレス： koma@shizuoka.ac.jp				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 難易度（A）				

授業科目名	社会心理学 I				
担当教員名	橋本 剛 HASHIMOTO Takeshi		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人文 A 棟 4 1 1	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		単位数	2	曜日・時限	水 3・4
キーワード	社会心理学、社会的認知、社会的推論、社会的影響、集団力学				
授業の目標	社会心理学、特に社会的認知、社会的影響、集団力学に関する基礎知識の学びを通じて、さまざまな条件における多様な人間の心のあり方について深く理解しつつ、共生への志向を高める。また、そのために必要な論理的思考力と情報リテラシーを修得する。				
学習内容	人間の行動は、主体的要因のみならず社会環境的要因によっても規定されている。同時に、個人の社会的行動は、社会のあり方を大きく規定することにもなる。本講義では、この双方向的ダイナミクスを包括的に議論する学問である社会心理学の主要な知見を概観し、それらの機序が社会においてどのように体现されるかの理解を深めることを目指す。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会心理学とは</li> <li>2. 社会的認知</li> <li>3. ステレオタイプ</li> <li>4. 社会的推論</li> <li>5. 感情と道徳</li> <li>6. 態度と説得</li> <li>7. 同調と服従</li> <li>8. 社会的促進と社会的手抜き</li> <li>9. 集団意思決定とリーダーシップ</li> <li>10. 集団間関係と社会的アイデンティティ</li> <li>11. 攻撃行動</li> <li>12. 社会的公正と規範</li> <li>13. 社会的ジレンマと協力</li> <li>14. 環境行動</li> <li>15. 文化と進化</li> </ol>				
受講要件	心理学概論と基礎心理学 I を履修済みであることが望ましい。該当しない場合は自習で補うこと。				
テキスト	北村英哉・内田由紀子（編著）『社会心理学概論』ナカニシヤ出版（2016年3月刊行予定）				
参考書	吉田俊和・元吉忠寛（編著）『体験で学ぶ社会心理学』ナカニシヤ出版／山岸俊男（編）『社会心理学キーワード』有斐閣／浦光博・北村英哉（編著）『個人の中の社会』誠信書房／池田謙一他『社会心理学』有斐閣／池上知子・遠藤由美『グラフィック社会心理学 [第2版]』サイエンス社／その他随時紹介する。				
予習・復習について	文献等を活用して積極的に予習・復習することを推奨する。				
成績評価の方法・基準	試験成績（85%）と各回授業時の小レポート（15%）により評価する。				
オフィスアワー	水曜日 1・2 限を予定している。				
担当教員からのメッセージ	社会心理学の全体像を理解するために、後期開講の「社会心理学 II」、および来年開講予定の「臨床社会心理学 I」とあわせて受講することが望ましい。難易度 B。				

授業科目名	<p style="text-align: center;">日本語文化各論Ⅲ Advanced Studies in Japanese Language and LiteratureⅢ</p>				
担当教員名	<p style="text-align: center;">小二田 誠二 KONITA Seiji</p>		所属等	<p style="text-align: center;">大学院人文社会科学領域</p>	
			研究室	<p style="text-align: center;">人文 A 棟 323</p>	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		単位数	2	曜日・時限	金 1・2
キーワード	江戸時代、文章、現代語訳、音読、戯作、口語、文語、話芸、語り、話、注釈、解釈				
授業の目標	古い（主に江戸時代の）日本語で書かれた様々な文章を理解し、音読できるようになること。それを通して、調べ方を身につけること。日本語の様々な文章表現について知ること。				
学習内容	古い（主に江戸時代の）日本語で書かれた様々な文章を、声に出して読む事、現代語に訳す事を通して、日本の表現の歴史や、文章解釈について学びます。最終的に、発表の機会を設ける予定。				
授業計画	<p>受講生数、受講生の希望によって内容を決めていきます。 以下は、基本的な事項です。 第二週までにテキストを確定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 古文を読むこと</li> <li>2 様々な文体 テキスト選び</li> <li>3 かな・崩し字・句読点・引用符</li> <li>4 語釈の方法</li> <li>5 辞書、或いは辞書にない言葉</li> <li>6 声に出して読む事</li> <li>7 現代語訳</li> <li>8 発表に向けて</li> </ol>				
受講要件	基本的な古文がよめること。 積極的に発言できる事。				
テキスト	確定後、配付します。				
参考書	古語辞典（電子辞書可）は常に持っていて下さい。 類語辞典もあればなお良い。				
予習・復習について	配付資料の判らないところ、音読できないところは確実に予習しておく事。 授業中の疑問点は次回までに調べて提出する事。				
成績評価の方法・基準	小レポート 14 回（必須 詳細は第 1 回で説明） 採集レポート（80%） 発表（20%）				
オフィスアワー	空き時間随時。私の時間割は <a href="http://www.ipc.shizuoka.ac.jp/~jjskoni/time.html">http://www.ipc.shizuoka.ac.jp/~jjskoni/time.html</a> で公開しています。				
担当教員からのメッセージ	<p>講義科目ですが、受講生の積極的な参加が無いと成り立たない授業です。 黙って聞いているだけ、単位が欲しいだけ、と言う人は来ないで下さい。</p> <p>科目等履修生（○） 県立大学（×） 市民開放授業（○） 難易度 B</p>				

授業科目名	法制史 I Legal History I				
担当教員名	橋本 誠一 HASHIMOTO Seiichi		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人文 A 棟 6 0 9	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年		単位数	2	曜日・時限	金 1・2
キーワード	ローマ法、ゲルマン法、近世自然法、パンデクテン法学、ドイツ法				
授業の目標	この授業では以下の能力を身に付けることを目標とします。 【知識】 古代から近代に至るヨーロッパ法史（とくにドイツ法史）の基礎的知識を習得する。 【思考】 歴史的資料に基づいて実証的に考えることができる。 【技術】 実証的考察を論理的に文章表現することができる。				
学習内容	【予習】 授業用資料を学務情報システムからダウンロードし、一通り読んでおく。 【授業】 週替わりで著名な法テキストを取り上げ、その背景、内容等について講義する。 【復習】 講義内容と資料を踏まえ、レポートを作成・提出する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>はじめに一授業の内容と進め方</li> <li>十二表法</li> <li>ガイウス「法学提要」(1)</li> <li>ガイウス「法学提要」(2)</li> <li>タキトゥス「ゲルマニア」</li> <li>ユスチニアヌス法典（市民法大全）</li> <li>サリカ法典</li> <li>ザクセン・シュピーゲル</li> <li>カロリナ刑事法典</li> <li>“Das Volkacher Salbuch”（1504）を見る</li> <li>近世自然法論</li> <li>プロイセン一般ラント法</li> <li>ドイツ帝国憲法</li> <li>ドイツ民法典（BGB）</li> <li>まとめ</li> </ol>				
受講要件	・法的知識（憲法、民法、刑法、民刑訴法など）と世界史（とくにヨーロッパ史）の基礎知識があれば、いうことありません。				
テキスト	・事前に学務情報システムから「授業用資料」をダウンロードして下さい。				
参考書	・各講ごとに、授業用資料の末尾に参考文献一覧を付していますので、参考にして下さい。				
予習・復習について	・「学習内容」欄に記載した通りです。 ・なお、法学や歴史学の基礎的知識について説明する時間的余裕がなかなかありませんので、分からないところは自分でも学習するよう心がけてください。				
成績評価の方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート（60%）と択一式小テスト（40%）の結果をもとに成績を評価します。</li> <li>・択一式小テストは第15講（最終講）の時間内に実施します（試験時間30分、穴埋め問題、ノート・資料等の持込「可」）。</li> <li>・レポートは、講義内容から自分で一つのテーマを選択し、参考文献を読んだ上で作成する。字数4000字以上。</li> </ul>				
オフィスアワー	・月曜日 3・4 時限（10:20～11:50）				
担当教員からのメッセージ	・県立大学との単位互換の可否（○）、科目等履修生の可否（○）、難易度（やや難）				

授業科目名	ドイツ言語文化特論IV				
担当教員名	大菌 正彦 OZONO Masahiko		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人文A棟423	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		単位数	2	曜日・時限	金3・4
キーワード	ドイツ語、言語運用能力、リスニング、多文化理解				
授業の目標	すでに初級レベルの力が身につけている受講生を対象に、ドイツ語の運用能力をさらに伸ばすことが目的です。この授業では、特に「聴く」能力と「朗読する」能力の向上に重点を置きます。また、英語以外の外国語を学ぶことで、文化の多元的理解を目指します。				
学習内容	子供向けに作成されたドイツのアニメーションDVDを視聴しながら（字幕はありません）、聞き取りの練習や発音・朗読の練習を行います。練習を通して、文法・語彙を体で覚えた知識とし、アクティブなドイツ語力を身につけていきます。なお、使用する教材は子供向けの絵本をもとに作成されたもので、登場人物は動物たちですが、異なる文化や多様性といった現代的なテーマがさりげなく取り上げてあります。あわせて異文化を考える機会にしたいと思います。				
授業計画	<p>Matthias Sotkeによる絵本シリーズ『Nulli &amp; Priesemut』を題材として取り上げます。このシリーズはアニメーション化されており、授業ではそのDVDも用います。1話10分足らずの短いものですが、しっかりと学習していきたいと思えます。次のようなテーマがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Gibt es eigentlich Brummer, die nach Mohren schmecken?</li> <li>2. Der kunterbunte Zauberesel?</li> <li>3. Huch! Wir kriegen Besuch!</li> <li>4. Alle Frosche fliegen hoch!?</li> <li>5. Wer baut denn hier 'nen falschen Schneemann?</li> <li>6. Ich mach Bubu ... was machst du?</li> <li>7. Eine Frage des Geschmacks</li> <li>8. Das Wettrennen</li> <li>9. Alte Familienfotos</li> <li>10. Gluhwurmchen flimmere</li> <li>11. Tohuwabohu in Omas Küche</li> <li>12. Foto Klick</li> <li>13. Ein Baum für den Weihnachtsmann</li> </ol>				
受講要件					
テキスト	プリントで配布します。				
参考書	独和辞典は必携です。その他授業中に適宜紹介します。				
予習・復習について	授業1回あたり、2-3時間程度の授業外学習が前提です。				
成績評価の方法・基準	筆記試験の成績（50%）および平常点（50%）をもとに評価します。筆記試験は授業時間中に2回ほど実施する予定です（聞き取り問題を含む）。平常点は授業への準備・参加状況をもとに評価します。また、正当な理由なく5回以上欠席した場合は成績評価の対象外となります。				
オフィスアワー	金曜日昼休み				
担当教員からのメッセージ					



授業科目名	比較文化各論Ⅱ Advanced Studies in Comparative CultureⅡ				
担当教員名	大原 志麻 Shima Ohara		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人文A棟522	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年		単位数	2	曜日・時限	金3・4
キーワード	伝説、スペイン、ラテンアメリカ、国際関係、比較文化、サンティアゴ、コンポステーラ、巡礼、キリスト教、聖人				
授業の目標	キリスト教世界における重要な聖人の信仰と巡礼を通して、ヨーロッパ、ラテンアメリカ、アジアにおける文化の形成について理解する。				
学習内容	スペインでの聖ヤコブの遺骸「発見」以降のサンティアゴの奇跡の戦略的利用、レコンキスタ終了後のサンティアゴの忘却、その後ラテンアメリカで断片的なイメージがどのようにコンキスタドーレスに用いられ、現代スペインで再び想起され、拡散された過程をみていく。				
授業計画	キリスト教の聖人であるサンティアゴの巡礼は、今日、国やカトリック信仰の枠組みを超えたブームとなっている。スペインの国家聖人として一貫した信仰や伝統があるようにみえるサンティアゴだが、解釈の変化、信仰の浮き沈みや忘却に晒されてきた。サンティアゴ伝説には史実が欠落している。古代以降の各時代背景においてどのような人々の解釈や伝説を積み重ねてきて今日に至るのだろうか。またサンティアゴ信仰がスペインで断絶した後に、残存したイメージがラテンアメリカでどのようにアダプテーションしたのだろうか。形成された伝説がどのように現代スペインの文化政策に利用され、それが日本をはじめとする外国でどのように受容されているのだろうか。サンティアゴを中心とした伝説のアダプテーションの比較を通して、サンティアゴという世界中で最も動きのある聖人の特異性や伝説の形成を理解する。				
受講要件					
テキスト	授業中に配布します。				
参考書	授業中に紹介します。				
予習・復習について	授業中に紹介した参考文献や授業内容に関わる文献を積極的に読みましょう。				
成績評価の方法・基準	出席点（4回の欠席で受講資格喪失）、受講態度、期末レポート（もしくは試験）で評価します。				
オフィスアワー	水曜日9・10限、人A523大原研究室にて。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	アジア経済論 I Asian Economy I				
担当教員名	朴 根好 PARK Keunho		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	共通 L 棟 406	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年		単位数	2	曜日・時限	金 5・6
キーワード	グローバル化、BRICs、日本とアジア				
授業の目標	日本にとって、アジアとの経済関係の重要性は益々高まるばかりである。そのアジア経済はまた、ダイナミックに変化して世界でもっとも注目されている。世界経済におけるアジアの位置と今後の課題について考えていきたい。				
学習内容	〔1〕アジアの巨大市場 (2) BRICs の競争力 (3) 日本とアジアの経済関係				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス：なぜアジア経済を注目するのか</li> <li>2. アジアの巨大市場とどう向き合うか</li> <li>3. アジアのダイナミックと華僑・印僑のネットワーク</li> <li>4. 中国の社会主義市場経済と経済政策の特質</li> <li>5. 中国企業のグローバル戦略</li> <li>6. 中国の産業競争力とクリエイティブ</li> <li>7. インド経済とソフトウェア産業</li> <li>8. インドの知的基盤産業と人材</li> <li>9. 東南アジアの社会・経済の変容</li> <li>10. アジアの人口・食糧問題</li> <li>11. 飽食社会とエコロジー</li> <li>12. ネクスト・ビジネス (1) BOP 市場におけるソーシャル・イノベーション</li> <li>13. ネクスト・ビジネス (2) IT でソーシャル・イノベーション</li> <li>14. 世界を変えるビジネス：グラミン銀行と社会的企業</li> <li>15. アジア巨大市場と日本企業の課題：新興国市場戦略</li> </ol>				
受講要件	特になし				
テキスト	講義レジメ配布				
参考書	なし				
予習・復習について	毎回、宿題のプリントを配る				
成績評価の方法・基準	筆記試験 60%、小レポート 40%を目安に、総合的に考慮のうえ評価する予定。 (詳しくはガイダンスで)				
オフィスアワー	毎週火曜日 17 時～18 時 (予定)				
担当教員からのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 県立大学単位互換 (認める)</li> <li>2. 科目等履修生 (認める)</li> <li>3. 難易度(B)</li> </ol>				

授業科目名	芸術文化思想				
担当教員名	上利 博規 AGARI Hiroki		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人文A棟421	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年		単位数	2	曜日・時限	金5・6
キーワード	芸術、芸能、音楽、美術、舞踊、演劇、文学、美学、日本文化、アジア				
授業の目標	西洋の古代から現代までの芸術文化について、各ジャンルの具体的事例を用いながらその社会的背景や思想について概観したのち、日本における芸術文化の歴史とその思想を概観し、さらにアジアにおける代表的な芸能・芸術文化と比較する。				
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 西洋における古代から現代までの芸術文化史と美学・芸術学史 ジャンルについては、音楽、美術、文学、舞踊、演劇を扱う。 メディア論において、版画、写真、映画などについても触れる。</li> <li>2 日本の芸能・芸術文化史と美学・芸術学史 特に、明治における西洋芸術の導入に伴う混乱・変容などを考える。</li> <li>3 アジアの芸能・芸術文化史 ポイントの1つは、伝統的な芸能・芸術文化の形成とその思想的・社会的・宗教的背景 もう1つは、アジアの近代化に伴う、アジアの伝統文化の変容の過程と現代</li> </ol>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 古今東西の芸術文化の見取り図</li> <li>2 西洋古代の芸術文化 原始時代から古代文明における芸術文化の役割 古代ギリシアと古代ローマの芸術文化</li> <li>3 中世キリスト教社会と芸術文化</li> <li>4 ルネサンス時代の芸術文化</li> <li>5 バロック時代の芸術文化</li> <li>6 近代市民社会と芸術文化</li> <li>7 現代と芸術文化</li> <li>8 古代日本の芸能・芸術文化</li> <li>9 中世日本の芸能・芸術文化</li> <li>10 日本の近代化と芸術文化</li> <li>11 アジアの伝統文化 インド音楽と演劇 『ラーマーヤナ』と東南アジアの芸術文化</li> <li>12 シルクロードと芸術文化の伝播と変容</li> <li>13 アジアの近代化と芸術文化の変容 写真と映画の流入 小説の流入と自己意識化の過程</li> <li>14 日本・アジアの現代的状況</li> <li>15 総論 今日芸術についてどう考えるか</li> </ol>				
受講要件	特になし				
テキスト	プリントを配布します。				
参考書	多岐にわたるので、そのつど指示します。				
予習・復習について	特に復習が大切です。音楽、舞踊、演劇などの時間を必要とするものをはじめとして、授業内で示す事例には限りがありますから、授業後に自分で具体的な作品を調べてみてください。				
成績評価の方法・基準	試験を行います。				
オフィスアワー	前期 水曜 11:50～12:45 後期 月曜 15:00～16:00				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	日本文学概論 I Introduction to Japanese Literature I				
担当教員名	袴田 光康 Hakamada Mitsuyasu		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	323	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		単位数	2	曜日・時限	金 5・6
キーワード	古典、文学史、注釈、素材、モデル、歴史、虚構、読者				
授業の目標	文学作品において「素材」とはどのような意味を持つのか。具体的に『源氏物語』を取り上げてその素材と作品の関係を検討し、作品における虚構の論理について考える力を養う。				
学習内容	文学作品は、さまざまな素材を基にしながら独自の表現を生成している。作者自身の体験、周囲の出来事、書物による知識、先行する作品、歴史上の人物や事件など、作者を取り巻くあらゆるものが素材となりえる。しかし、その一方で、私たち読者には何を何処まで素材としているのか厳密に判断することが難しいのも事実である。テキスト—素材(プレテキスト)—読者の三者は、果たしてどのような関係にあるのであろうか。この授業では、『源氏物語』を中心とした古典作品を取り上げ、出典や歴史的モデルを具体的に分析しながら、虚構の表現の論理について考えていく。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「作者の死」について</li> <li>2. 素材としてのプレテキスト</li> <li>3. テキスト論と古注釈</li> <li>4. 『源氏物語』の物語論①</li> <li>5. 『源氏物語』の物語論②</li> <li>6. 出典と準拠</li> <li>7. 「長恨歌」引用の方法①</li> <li>8. 「長恨歌」引用の方法②</li> <li>9. 歴史と時代設定</li> <li>10. 歴史とモデル</li> <li>11. 歴史離れと虚構の論理</li> <li>12. 『栄花物語』の史実と虚構①</li> <li>13. 『栄花物語』の史実と虚構②</li> <li>14. 作者と素材と読者</li> <li>15. まとめ</li> </ol>				
受講要件	特になし。				
テキスト	コピーを配布します。				
参考書	三谷邦明『物語の方法 I・II』、有精堂、1989年 日向一雅『源氏物語の準拠と話型』、至文堂、1999年				
予習・復習について	小テストを行うので、復習をして授業に臨むこと。				
成績評価の方法・基準	小テスト 40%、最終レポート 50%、授業への取り組み 10%				
オフィスアワー	金曜日の 11:00~12:00 (事前にメールで連絡をいただけると、ありがたいです。)				
担当教員からのメッセージ	古典は難しいという苦手意識があるかもしれませんが、ちょっと気になる『源氏物語』に触れるいい機会になるとと思いますので、勇気を出してみてください。				

授業科目名	哲学の歴史 I			
担当教員名	田中 伸司 TANAKA Shinji	所属等	学術院人文社会科学領域	
		研究室	人文 A 棟 4 1 8	
分担教員名				
クラス		学期	前期	必修選択区分
対象学年		単位数		曜日・時限
キーワード	哲学史、真理、倫理			
授業の目標	古代ギリシアから中世スコラ学へと至る哲学史を通じて、哲学に関する基本的な概念を身につける。			
学習内容	古代ギリシアから古代ローマそして西欧中世における哲学を概観します。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション：アルケー</li> <li>2. ギリシア哲学の端緒：パルメニデスと「アキレスとカメ」</li> <li>3. パルメニデスの衝撃を受けて：ピュタゴラス派、エンペドクレス、デモクリトス</li> <li>4. ソクラテスとソフィスト：『ソクラテスの弁明』</li> <li>5. プラトン（1）：『ラケス』『ゴルギアス』</li> <li>6. プラトン（2）：『パイドン』『国家』</li> <li>7. プラトン（3）：『パルメニデス』『テアイテトス』『ソピステス』『ティマイオス』</li> <li>8. アリストテレス（1）：存在と原因</li> <li>9. アリストテレス（2）：魂論、倫理学、政治学</li> <li>10. ローマ期の哲学（1）：ストア派、懐疑主義、エピクロス派</li> <li>11. ローマ期の哲学（2）：ストア派、懐疑主義、エピクロス派</li> <li>12. ヘブライズムと新プラトン主義</li> <li>13. アウグスティヌス</li> <li>14. アラビア圏での展開とスコラ哲学</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			
受講要件	人間学概論および哲学概論を履修していること。			
テキスト	テキストは定めません。プリントを配布します。			
参考書	中央公論新社の『哲学の歴史』シリーズ、とくに第一巻から三巻は参考になると思います。			
予習・復習について	レポートに向けては、じぶんで、きちんとしたノートを作成することが有益です。関心のある思想については、片っ端から図書館で本を借りて読んでください。			
成績評価の方法・基準	学期末の試験によって評価します。学期末の試験を受けるためには、8割の出席が必要です。出席確認については、コメントペーパーを利用する予定です。			
オフィスアワー	金曜日 9・10 時限（16：05-17：35）。必ずメールでアポイントメントをとってください。アドレスは、jsstana アットマーク ipc.shizuoka.ac.jp *「アットマーク」を@に変えて使用してください。			
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める）      2. 科目等履修生（認める）      3. 難易度（B）			

授業科目名	天文学 Astronomy				
担当教員名	内山 秀樹 UCHIYAMA Hideki		所属等	学術院教育学領域	
			研究室	教育学部C棟405	
分担教員名					
クラス	理科	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	3年	単位数	1	曜日・時限	月5・6
キーワード	天文学史、宇宙論、恒星、惑星、天体に関する基礎物理				
授業の目標	小・中学校および高校地学で扱う天文学の教科内容を指導するために、その基礎的概念や学問体系への理解を深める。また、先人達がどのように宇宙を捉えて来たのかを学び、現在の人類が科学的な実証の上にたどり着いている最新の宇宙観を理解する。				
学習内容	指定の教科書に沿った講義を行う。最初に、どのような観測・考察に基づき、先人たちが初期の天動説から地動説に辿り着いたのかを学ぶ。合わせて小・中学校で扱う、基本的な天体の運行を理解する。次に基礎物理に基づき、天体の成り立ちを理解する。最後に、現在の科学の立場から見た、宇宙の起源と未来について学ぶ。				
授業計画	以下を予定している。但し、受講者の希望により、一部トピックの変更もあり得る。 1 コペルニクス以前の宇宙～我々から見た星々の運行 2 コペルニクスの転回～天動説と地動説 3 太陽系の天体～太陽・地球・月・惑星 4 恒星からの光を読み解く～観測的天文学 5 太陽系を越えて～宇宙の階層構造 6 恒星の一生 7 宇宙の起源と未来 8 まとめ				
受講要件	なし。ただし、高校程度の物理学を授業中に解説しつつ扱うため、事前に「基礎物理学」「物理数学」「物理演習 I」を受講していると内容の理解が容易になる。				
テキスト	「ケンブリッジ物理学コース 宇宙の科学 天文学入門」、ブライアン・ミルナー 著・坪田幸政 訳、丸善出版、2012年、ISBN-13: 978-4621085363				
参考書	適宜指示する。				
予習・復習について	予習・復習のどちらでも良いので教科書の該当箇所を必ず読むこと。				
成績評価の方法・基準	レポート問題を課す。				
オフィスアワー	月・木の7・8時限、教育学部 C棟 405				
担当教員からのメッセージ	是非、教科書を読み通して下さい。1冊の本をきちんと読み通すことは自信になり、今後発展的な内容を学ぶ時や必要があって天文学を学び直す時、きっと役に立つ足がかりになります。教科書で理解しにくい点、実感しにくい点を授業で補って行きたいと思います。分からない点があったら、授業中やオフィスアワーに、どんどん質問して下さい。				

授業科目名	書写研究 Japanese Handwriting (Semi-cursive Style)				
担当教員名	杉崎 哲子 SUGIZAKI Satoko		所属等	学院院教育学領域	
			研究室	教育学部A棟602	
分担教員名					
クラス	B組	学期	前期		必修選択区分 必、選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	月7・8
キーワード	均衡・均斉、流動性、楷書の変容				
授業の目標	中学校国語の免許状に必要な書写領域について研究する。				
学習内容	行書の筆使い及び字形について講義と実技を行う。				
授業計画	1 行書の基本的な筆使いと基本点画の書き方 2 行書の筆使い①点画の曲線化 3 〃 4 行書の筆使い②点画の変化 5 〃 6 行書の筆使い③点画の変化（楷書の許容との関連） 7 〃 8 〃 9 行書の筆使い④点画の連結 10 〃 11 行書の筆使い⑤点画の省略 12 〃 13 筆順と違いと字形 14 〃 15 まとめ				
受講要件					
テキスト	『明解 書写教育（改訂版）』全国大学書写書道教育学会				
参考書					
予習・復習について	必要に応じて指示する。				
成績評価の方法・基準	出席状況と提出課題（毛筆・硬筆）の内容及び筆記試験（40%反映させる）による。実技科目であるため、欠課時数が5分の1を超える場合、基本的に単位は認められない。				
オフィスアワー	水曜昼休み				
担当教員からのメッセージ	指導法を学ぶだけでなく、授業で学習したことを日常生活に生かし、積極的に「文字を書くこと」を楽しんでください。				

授業科目名	線形代数学基礎 Introduction to Linear Algebra			
担当教員名	四之宮 佳彦 SHINOMIYA Yoshihiko	所属等	学術院教育学領域	
		研究室		
分担教員名				
クラス		学期	前期	必修選択区分
対象学年		単位数		曜日・時限 月 9・10
キーワード	行列、連立1次方程式、行列式			
授業の目標	線形代数学は、比例 $y=ax$ の高次元化である $y=Ax$ 、さらにそのベクトル空間への一般化である線形写像を扱う学問である。ここで、 $x, y$ はベクトル、 $A$ は行列である。この講義では、その線形代数学の基礎として、行列、連立一次方程式、行列式について学ぶ。			
学習内容	高等学校で数学C を履修していないことを前提にして、線形代数学の講義を行う。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 行列の定義</li> <li>2. 行列の演算 (1)</li> <li>3. 行列の演算 (2)</li> <li>4. 行列と連立一次方程式</li> <li>5. 行列の基本変形</li> <li>6. 簡約な行列</li> <li>7. 連立一次方程式の解法 (1)</li> <li>8. 連立一次方程式の解法 (2)</li> <li>9. 正則行列であるための必要十分条件</li> <li>10. 置換</li> <li>11. 行列式の定義と性質 (1)</li> <li>12. 行列式の性質 (2)</li> <li>13. 行列式の余因子展開</li> <li>14. クラームルの公式</li> <li>15. 期末試験</li> </ol>			
受講要件				
テキスト	テキスト 三宅敏恒著 『線形代数学－初歩からジョルダン標準形へ』 培風館 ISBN-13: 978-4563003814			
参考書	三宅敏恒著『線形代数の演習』培風館 ISBN-13: 978-4563004781			
予習・復習について	講義中に指示する。			
成績評価の方法・基準	レポートの提出状況と成績、及び期末試験の成績を合わせて評価する。			
オフィスアワー	最初の講義で紹介する。			
担当教員からのメッセージ	内容の多くは初めて勉強する事柄だと思います。 休まず出席することが特に大切です。遅刻もしないように気をつけよう。			



授業科目名	集合と論理基礎 Sets and Logic			
担当教員名	山田 耕三 YAMADA Kohzo	所属等	大学院教育学領域	
		研究室	教育学部 I 棟 401	
分担教員名				
クラス		学期	前期	必修選択区分
対象学年		単位数		曜日・時限
キーワード	集合、集合の演算、命題、真理値、論理演算、直積集合、写像、関数、同値関係			
授業の目標	すべての数学の基礎である「集合と論理」について、基本的事項を学ぶ。目標は、集合を正しく書き表し、具体的な集合の演算ができるようになること、集合演算と論理演算の関係を理解すること、写像と関数の概念を理解し、数学のいろいろな場面で使えるようになること。			
学習内容	下記の授業計画に従い、集合とその基本演算、命題と論理演算、直積集合と写像、同値関係と分類について講義します。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 集合とその表し方</li> <li>2. 部分集合と集合の相等</li> <li>3. 集合の演算</li> <li>4. 補集合とド・モルガンの公式</li> <li>5. 命題と論理演算</li> <li>6. 真理値と論理演算の基本性質</li> <li>7. 命題 <math>p \rightarrow q</math> と <math>p \leftrightarrow q</math></li> <li>8. 中間テスト</li> <li>9. 直積集合</li> <li>10. 写像</li> <li>11. 像と逆像</li> <li>12. 全射, 単射, 全単射</li> <li>13. 関係と集合の分割</li> <li>14. 同値関係</li> <li>15. 同値類と商集合</li> </ol>			
受講要件				
テキスト	大田春外著『はじめての集合と位相』日本評論社			
参考書	最初の講義で紹介します。			
予習・復習について	教科書を予習して、問と演習問題を解いておこう。			
成績評価の方法・基準	数回行う小テスト、中間テストと期末試験の成績を総合して判断します。			
オフィスアワー	最初の授業でお知らせします。			
担当教員からのメッセージ	本講義は、初めて学ぶ内容。毎回出席して、しっかりノートをとろう。			

授業科目名	<p style="text-align: center;">西欧文化史 History of Western Culture</p>				
担当教員名	<p style="text-align: center;">伊藤 宏二 ITO Koji</p>		所属等	<p style="text-align: center;">大学院教育学領域</p>	
			研究室	<p style="text-align: center;">教育学部A棟611</p>	
分担教員名					
クラス	国際	学期	前期		必修選択区分
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	火5・6
キーワード	近世ヨーロッパ、人物、国家・戦争・社会				
授業の目標	近世ヨーロッパに生きた人物たちについて学習する				
学習内容	ヨーロッパにおける近世（16～18世紀）という時代は、近現代社会の基礎を築いた画期的な時代であった反面、旧時代から続く伝統に社会的諸基盤が圧倒的に制約もされ、また、その時期にしか見られない事象も多く見出し得る特徴的な時代である。本授業では、このような一見捉えにくい時代のヨーロッパ社会に生きた人々の人生を知ることを通じて、当時のヨーロッパ社会の実像を捉える一助としたい。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス</li> <li>2 アンリ4世</li> <li>3 グスタフ・アドルフ</li> <li>4 ピョートル1世</li> <li>5 エリザベス1世</li> <li>6 クリスティーナ女王</li> <li>7 マリア・テレジア</li> <li>8 ルイ14世</li> <li>9 ヨーゼフ2世</li> <li>10 ボグダン・フメリニツキー</li> <li>11 レンナート・トーシュテンソン</li> <li>12 ヨハン・アドラー・サルヴィウス</li> <li>13 鉄腕ゲッツ</li> <li>14 傭兵ブレーカー</li> <li>15 まとめ</li> </ol>				
受講要件	市民開放講座対象科目です				
テキスト	毎時プリントを配布する。				
参考書	特になし				
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	授業態度、レポート				
オフィスアワー	メール（ <a href="mailto:ekitou@ipc.shizuoka.ac.jp">ekitou@ipc.shizuoka.ac.jp</a> ）で連絡を取るか、授業後に申し出ること				
担当教員からのメッセージ	準備の都合により、内容に変更が生じる場合もあり得ます。あらかじめご了承ください。				

授業科目名	幾何学 I Geometry I				
担当教員名	四之宮 佳彦 SHINOMIYA Yoshihiko		所属等	学院院教育学領域	
			研究室		
分担教員名					
クラス	数学	学期	前期		必修選択区分 必、選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火 7・8
キーワード	円周率、合同、相似、1次変換、2次曲線、ユークリッド原論、連分数、ファレイ和、フォードの円				
授業の目標	1年生で学習した「線形代数学、集合と論理、微分積分学」の内容を使って、小中学校および高等学校の幾何学について考える。				
学習内容	幾何学の3つのトピックス「円周率、フォードの円、2次曲線」について講義をする。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 円周率 1 (多角形による近似)</li> <li>2. 円周率 2 (無限級数による近似)</li> <li>3. 円周率の無理数性</li> <li>4. 連分数</li> <li>5. ファレイ和</li> <li>6. フォードの円</li> <li>7. 連分数, ファレイ和, フォードの円</li> <li>8. 合同と相似</li> <li>9. 直交行列と直交変換 1</li> <li>10. 直交行列と直交変換 2</li> <li>11. 放物線, 楕円, 双曲線</li> <li>12. 放物線, 楕円, 双曲線</li> <li>13. 円錐曲線</li> <li>14. 2次曲線の分類</li> <li>15. 2次曲線の分類</li> </ol>				
受講要件	集合と論理基礎と線形代数基礎を受講していること。				
テキスト	大田春外著『高校と大学をむすぶ幾何学』日本評論社 ISBN978-4-535-78619-6				
参考書	講義中に紹介する。				
予習・復習について	授業後にしっかり復習して、ノートを整理し、演習問題を解くことが重要である。				
成績評価の方法・基準	中間テストと期末試験の成績に、授業への参加状態を加味します。				
オフィスアワー	初回の講義のときに説明する。				
担当教員からのメッセージ	毎回出席することが、単位取得のための必要条件。				

授業科目名	微分積分学基礎 introduction to Calculus			
担当教員名	大和田 智義 OWADA Tomoyoshi	所属等	学術院教育学領域	
		研究室	教育学部 I 棟 4 1 0	
分担教員名				
クラス		学期	前期	必修選択区分
対象学年		単位数		曜日・時限 火 9・10
キーワード	極限、関数、連続関数、微分、自然対数			
授業の目標	微分積分学の基礎を学ぶ。			
学習内容	高等学校で数学 III を履修していないことを前提にして、下記の授業計画にしたがって微分積分学の講義を行う。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 数列の極限</li> <li>2. 関数の極限</li> <li>3. 連続関数 1</li> <li>4. 連続関数 2</li> <li>5. 導関数 1</li> <li>6. 導関数 2</li> <li>7. 高次導関数</li> <li>8. 小テスト</li> <li>9. 平均値の定理</li> <li>10. テイラーの定理 1</li> <li>11. テイラーの定理 2</li> <li>12. 微分法の応用 1</li> <li>13. 微分法の応用 2</li> <li>14. 微分法の応用 3</li> <li>15. 小テスト</li> </ol>			
受講要件	数学教育専修の学生			
テキスト	微分積分概論 (数学基礎コース)高橋 泰嗣・加藤 幹雄 著 サイエンス社 ISBN-10: 478190873X			
参考書	講義中に紹介する。			
予習・復習について	講義中に指示する。			
成績評価の方法・基準	最初の講義で伝えます。			
オフィスアワー	最初の講義で伝えます。			
担当教員からのメッセージ	高校までの計算主体の講義から、「何故そうなるのか」という理論展開を中心とした講義になります。理論的な考え方は講義を聞くだけでは身につけません。授業で学習した内容を、自分の力で正しく理解できるようになるまで、何度でもノートを読み返して復習するようにしてください。			

授業科目名	解析学 I Analysis I				
担当教員名	大和田 智義 OWADA Tomoyoshi		所属等	大学院教育学領域	
			研究室	教育学部 I 棟 4 1 0	
分担教員名					
クラス	数学	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	水 1・2
キーワード	不定積分、定積分、広義積分				
授業の目標	この授業では、不定積分の様々な計算方法を習得します。また、微分積分の基本定理を通じて、定積分と不定積分の関係を正しく理解します。				
学習内容	この授業は 1 年生の微分積分学の続きです。高校の授業では学習しなかった複雑な計算が正しく出来る力を身につけます。また、定積分の定義を正しく理解して、その図形的な意味を理解します。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 不定積分の公式 1</li> <li>2. 不定積分の公式 2</li> <li>3. 不定積分の計算 1</li> <li>4. 不定積分の計算 2</li> <li>5. 定積分の定義</li> <li>6. 定積分の計算 1</li> <li>7. 定積分の計算 2</li> <li>8. 小テスト</li> <li>9. 回転体の表面積</li> <li>10. 回転体の体積</li> <li>11. 曲線の長さ 1</li> <li>12. 曲線の長さ 2</li> <li>13. 広義積分 1</li> <li>14. 広義積分 2</li> <li>15. 小テスト</li> </ol>				
受講要件	1 年生の微分積分学の授業の続きだから、それを承知で受講すること。				
テキスト	「微分積分」石原 繁, 浅野 重初 著, 裳華房				
参考書	「やさしく学べる微分積分」石村園子著 共立出版				
予習・復習について	予習は特に必要ないが、復習は必ず行うこと。				
成績評価の方法・基準	2 回行う小テスト、レポートおよび授業の取組み等で総合的に判断する。				
オフィスアワー	最初の講義のときに伝える				
担当教員からのメッセージ	ノートをしっかりととり、復習に時間をかけて学習した理論展開をよく理解するようにしてほしい。				

授業科目名	代数学 I Algebra I				
担当教員名	谷本 龍二 TANIMOTO Ryuji		所属等	大学院教育学領域	
			研究室	教育学部 I 棟 403	
分担教員名					
クラス	数学	学期	前期		必修選択区分 必、選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水 5・6
キーワード	1次関係、1次従属、1次独立、基底、次元、線形写像、核、像				
授業の目標	以下の(1), (2)を目標とする. (1) ベクトル空間の基底を理解する. (2) 線形写像の表現行列を理解する.				
学習内容	ベクトル空間の基底の計算方法, 線形写像の表現行列の計算方法などを学ぶ.				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 1次関係, 1次従属と1次独立</li> <li>2. 1次独立なベクトルの最大個数, 1次結合</li> <li>3. 部分空間の生成系</li> <li>4. ベクトル空間の基底と次元 基底の計算? : 生成系の分かっているベクトル空間</li> <li>5. 基底の計算①: 連立一次方程式の解空間</li> <li>6. 基底の計算②: 数ベクトル空間</li> <li>7. 基底の計算③: その他</li> <li>8. 線形写像, 線形写像の表現行列</li> <li>9. 基底変換を用いた線形写像の表現行列の求め方</li> <li>10. 線形写像の像と核</li> <li>11. 像の基底の計算</li> <li>12. 核の基底の計算</li> <li>13. 次元公式, 階数</li> <li>14. 補足</li> <li>15. まとめ</li> </ol>				
受講要件	線形代数学基礎および線形代数学を履修していること.				
テキスト	線形代数学基礎から用いているテキストを引き続き用いる.				
参考書	必要があれば適宜紹介する.				
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	テスト60点, 小テスト20点, レポート20点を用いて成績評価をする.				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	書写基礎 The Basic Handwriting			
担当教員名	杉崎 哲子 SUGIZAKI Satoko		所属等	学術院教育学領域
			研究室	教育学部A棟602
分担教員名				
クラス		学期	前期	必修選択区分
対象学年		単位数		曜日・時限
キーワード	書写、字形、字体、筆順			
授業の目標	小中学校国語科書写の内容を講義と実技を通して理解し、書写の原理を把握する。			
学習内容	「毛筆は硬筆の基礎を養う」との観点から、毛筆を中心に書写の基本を系統的・段階的に学習する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 基本点画</li> <li>3. 字形のとり方① (長短、画間、方向)</li> <li>4.       "       ② (交わり方、接し方)</li> <li>5.       "       ③ (組立て方・左右)</li> <li>6.       "       ④ (       "       ・上下)</li> <li>7.       "       ⑤ (       "       ・内外)</li> <li>8. 平仮名</li> <li>9. 片仮名</li> <li>10. 行書の特徴① (変化・連続)</li> <li>11.       "       ② (省略)</li> <li>12. 文字の大小</li> <li>13. 配置・配列</li> <li>14. 書式</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			
受講要件	中学校国語免許取得予定者。原則として、Aは国語教育専修と書文化専攻、Bは他の専修・専攻。			
テキスト	『新編書写指導』全国大学書写書道教育学会編			
参考書				
予習・復習について	適宜宿題を課す			
成績評価の方法・基準	毎時の提出課題(毛筆、硬筆)の質と最終回の筆記試験によって、理解度と取り組みの姿勢、技能面を見る。筆記試験の結果は40%反映させる。実技科目であるため、欠課時数が総授業時数の5分の1を超えた場合は基本的に単位を認めることは難しい。			
オフィスアワー	火曜昼休み			
担当教員からのメッセージ	作品の出来不出来などの技能的な結果ばかりを気にするのではなく、原理原則を理解して指導できるようになるという自覚を持って、意欲的に「書く」ようにしてください。			

授業科目名	放射線計測・管理学概論 Fundamental Measurement and Management for Radiation Protection				
担当教員名	大矢 恭久 OYA Yasuhisa		所属等	学術院理学領域	
			研究室	理学部 A202	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 ー
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	月 1・2
キーワード	放射線計測、放射線管理、主任者試験				
授業の目標	放射線計測・管理についての基礎知識を習得する。				
学習内容	必要な放射線測定および管理技術に関する基礎知識を演習問題を解きながら講義する。(放射線取扱主任者試験の計測・管理科目に該当する。)				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 放射線量と単位</li> <li>2. 気体の検出器</li> <li>3. 固体・液体の検出器</li> <li>4. 個人被ばく線量の測定</li> <li>5. その他の測定器</li> <li>6. 放射線測定の実際</li> <li>7. 演習(1)</li> <li>8. 放射線管理と防護の基準</li> <li>9. 防護量と実用量・防護の基準</li> <li>10. 体外放射線に対する防護</li> <li>11. 体内に取り込まれる放射性物質の防護、健康診断</li> <li>12. 場所の管理、個人被ばく管理、取扱施設</li> <li>13. 個人被ばく管理～放射性廃棄物の処理</li> <li>14. 放射性物質の保管～事故対策</li> <li>15. 演習(2)</li> </ol> <p>ただし、講義の進捗により前後することがある。</p>				
受講要件	特になし				
テキスト	放射線概論 (飯田博美、通商産業研究社)				
参考書	放射線取扱主任者試験問題集 第1種、第2種 (通商産業研究社)				
予習・復習について	ホームページで公開している講義資料にあらかじめ予習しておくことが望ましい。また、テキストの各章末問題は適宜復習を兼ねて行うこと。				
成績評価の方法・基準	講義中の演習(30%)および試験(70%)。				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ	放射線取扱主任者試験を受験希望する人は放射線物理学概論、放射化学概論 (化学科は放射化学 I)、放射線生物学概論、放射線管理実習も受講することをお勧めします。ただし本授業の受講要件ではありません。				



授業科目名	シミュレーション数理科学 I Mathematical Science Simulation I				
担当教員名	田中 直樹 TANAKA Naoki		所属等	学術院理学領域	
			研究室	理学部 C 棟 602	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	月 3・4
キーワード	偏微分方程式、差分解法、作用素半群の積公式				
授業の目標	熱伝導という物理現象を題材に，1．現象の数学モデル化の方法，2．数学モデルへの実解析学的な立場からの接近方法，3．数学モデルへの数値解析的な接近方法，に関する基本的な考え方を身につける。				
学習内容	微分積分学の知識をもとに，熱伝導という物理現象の数学モデル化から始める。このモデルは偏微分方程式で与えられる。この授業では，偏微分方程式の数値解法の代表的な方法である差分解法，および，シミュレーションにより現象の可視化について学習する。その際，偏微分方程式を近似する差分方程式をどのように構成するのか，また，どのような場合に差分方程式の解が偏微分方程式の解に収束するのか，などの直面する数学的問題への解決法を作用素半群の近似理論を題材とし講義する。				
授業計画	次の計画で進めるが，受講生の理解状況に応じて変更することがある。  1. 熱伝導の現象の数学モデル化 2. 必要な数学用語の準備 3. 作用素半群の積公式 4. 差分法による偏微分方程式の解法 5. Mathematica によるシミュレーション				
受講要件					
テキスト					
参考書					
予習・復習について	授業中にすべてを理解することは一般的に不可能である。予習と復習を必ず行い，理解度を高めてほしい。				
成績評価の方法・基準	受講態度と小テスト（20%）および最終試験（80%）により総合的に判断する。				
オフィスアワー	初回の授業の時に，曜日と時限を決めるが，随時質問に応じる。但し，事前に在室を確認すること。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	量子力学Ⅲ Quantum Mechanics III				
担当教員名	鈴木 淳史 SUZUKI Junji		所属等	大学院理学領域	
			研究室	理学部 A棟 502	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	4年	単位数	2	曜日・時限	月3・4
キーワード	量子力学				
授業の目標	量子力学をより深く理解し、使いこなせるようにする。				
学習内容	量子力学の重要な概念を発展させ、具体的な問題に応用する。				
授業計画	1. 量子力学の形式の復習 2. 時間によらない摂動論 3. シュレジンガー表示、ハイゼンベルグ表示、相互作用表示 4. 時間に依存する摂動論 5. WKB法と接続問題 6. 断熱遷移 7. 非断熱遷移 8. 散乱問題 9. 第2量子化 以上の内容を各1-2回で議論する。				
受講要件	量子力学I、IIを履修済みであること。				
テキスト	講義中に紹介する。				
参考書	講義中に紹介する。				
予習・復習について	講義時間の2倍の自習が標準である。				
成績評価の方法・基準	提出物と学期末試験				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	物理数学 I Mathematics for Physics I				
担当教員名	嘉規 香織 KAKI Kaori		所属等	大学院理学領域	
			研究室	理学部 A 棟 405 号室	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	月 3・4
キーワード	常微分方程式、フーリエ級数、フーリエ変換				
授業の目標	物理で登場する基礎的な微分方程式が解けるようになること。また、フーリエ級数、フーリエ変換の考え方を理解すること。				
学習内容	授業の前半は基礎的な微分方程式を取り上げ、その解法を説明する。後半ではフーリエ級数、フーリエ変換について学ぶ。なるべく物理における具体的な応用例に即して議論をすすめる。				
授業計画	<p>主な内容は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 微分方程式について、一般解と特殊解</li> <li>2. 1 階微分方程式, 変数分離型, 線形微分方程式, 完全形</li> <li>3. 2 階微分方程式</li> <li>4. 定数係数線形微分方程式、線形独立性、ロンスキアン</li> <li>5. 線形非斉次微分方程式</li> <li>6. フーリエ級数とフーリエ変換</li> <li>7. フーリエ変換の応用</li> </ol>				
受講要件	基礎物理学 I, 基礎物理学 II, 力学 I, 力学 II の単位を取得していることが望ましい。				
テキスト	「物理のための数学」 岩波 和達三樹				
参考書					
予習・復習について	講義時間の 2 倍が自己学習時間である。				
成績評価の方法・基準	出席、宿題、および定期試験				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ	この授業で学ぶことは物理学科のすべての授業で使うことになるので、しっかりと理解してください。				

授業科目名	有機化学Ⅲ Organic Chemistry III				
担当教員名	山中 正道 YAMANAKA Masamichi		所属等	大学院理学領域	
			研究室	理学部 B 棟 3 1 1 室	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	月 3・4
キーワード	構造有機化学、立体化学、有機反応機構論、アルケン、アルキン、非局在化電子系、有機電子論				
授業の目標	有機化学を構造論と反応論の両面から理解する				
学習内容	有機化学 I、II では、有機化合物は官能基によって分類され、その反応は官能基の変換であることを学んだ。本講義でも引き続き官能基の構造とその反応性について、アルケン、アルキン、さらに非局在化したパイ電子系化合物を中心に学習する。また、有機反応を電子の動きと結合の分極性に基づくと考える有機電子論を基に様々な反応を学び理解する。				
授業計画	テキストに従って以下の章を解説する。 11 章 アルケン 12 章 アルケンの反応 13 章 アルキン 14 章 非局在化したパイ電子系				
受講要件					
テキスト	「ボルハルト・ショアー 現代有機化学 上(第 6 版)」(古賀憲司・野依良治ら監修)(化学同人)				
参考書	「ボルハルト・ショアー 現代有機化学 下(第 6 版)」(古賀憲司・野依良治ら監修)(化学同人)				
予習・復習について	予習、復習を励行して欲しい。また、テキストの練習問題を解くことが望ましい。				
成績評価の方法・基準	期末試験により評価する。				
オフィスアワー	時間がある限り随時対応する。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	発生生物学 I Developmental Biology I				
担当教員名	徳元 俊伸 TOKUMOTO Toshinobu		所属等	学術院理学領域	
			研究室	総合研究棟 625 室	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	月 3・4
キーワード	配偶子形成、転写因子、誘導シグナル、モデル生物				
授業の目標	近年解明が進んでいる動物の発生の分子機構、その研究手法について理解する。				
学習内容	発生生物学は分子生物学の手法を用いることにより、近年めざましい進展を果たした。その発展の原動力となったのは発生過程で重要な機能を担う分子の同定法（遺伝子配列の決定）が確立されたことにある。さらにその遺伝子の導入、除去などの手法を駆使することで発生過程を実験的に改変する技術が確立され、今ではこれらの技術を基礎とした様々な研究から発生機構が分子のレベルで理解できるようになってきた。本講義では近年明らかになった発生の分子機構を概説する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発生生物学の隆盛</li> <li>2. 発生における一般的な問題</li> <li>3. 発生に関わる重要な分子群(1)</li> <li>4. 発生に関わる重要な分子群(2)</li> <li>5. 発生における共通現象(1)</li> <li>6. 発生における共通現象(2)</li> <li>7. 発生における共通現象(3)</li> <li>8. 発生遺伝学</li> <li>9. 実験発生学(1)</li> <li>10. 実験発生学(2)</li> <li>11. 発生研究に必要な技術(1)</li> <li>12. 発生研究に必要な技術(2)</li> <li>13. モデル生物・アフリカツメガエル(1)</li> <li>14. モデル生物・アフリカツメガエル(2)</li> <li>15. モデル生物・ゼブラフィッシュ</li> <li>16. 試験</li> </ol>				
受講要件	「発生生物学 II」をセットで履修することが望ましい。				
テキスト					
参考書	エッセンシャル発生生物学、羊土社、 Jonathan Slack 著 大隈典子 訳 ウィルト発生生物学、東京科学同人				
予習・復習について	各回につき、予習・復習のためテキストを読むこと。				
成績評価の方法・基準	出席確認を兼ねて毎回、復習のための小テストを実施する。この小テストと本試験 1 回の成績を合計して理解度を評価する。				
オフィスアワー	月曜日 7・8 時限（2 時 25 分・3 時 55 分）を予定				
担当教員からのメッセージ	本講義を履修することにより分子レベルの発生学の概略が理解できるようになると期待している。				

授業科目名	植物生理学 Plant Physiology				
担当教員名	栗井 光一郎 AWAI Koichiro		所属等	学術院理学領域	
			研究室		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	月3・4
キーワード	光合成、光形態形成、膜脂質、貯蔵脂質				
授業の目標	植物の光形態形成反応，光合成，膜脂質合成の基礎を学び，植物のエネルギー獲得戦略について理解を深める。				
学習内容	植物生理学のなかで，植物特有の反応である光形態形成，光合成を中心に学ぶ。また，膜脂質やバイオディーゼルの合成と分解機構についてその合成と分解機構を学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス，光形態形成</li> <li>2. 光による制御</li> <li>3. フィトクロム</li> <li>4. クリプトクロム，フォトトロピン</li> <li>5. 植物細胞と葉緑体分化</li> <li>6. 光合成概説</li> <li>7. 光捕集，電子伝達 I</li> <li>8. 電子伝達 II</li> <li>9. トピックス：遺伝子導入植物</li> <li>10. 炭酸固定，光呼吸</li> <li>11. C4 植物と CAM 植物，藻類の炭酸濃縮</li> <li>12. 細胞膜</li> <li>13. 脂肪酸合成</li> <li>14. 膜脂質合成</li> <li>15. 貯蔵脂質の合成と分解</li> </ol>				
受講要件	他の植物学系の講義も履修することが望ましい。				
テキスト	ベーシックマスター植物生理学（オーム社）				
参考書	Biochemistry & Molecular Biology of Plants, Buchanan 編 ほかプリントを適宜配布する				
予習・復習について	期間中に小テストを行うので，予習復習をしっかりと行うこと。				
成績評価の方法・基準	小テストおよび試験の結果より総合的に判断する。試験は期末試験 1 回で終了の予定。講義した植物生理学の基本的な理解ができているかを判断する。プリント，ノートは持ち込み不可。				
オフィスアワー	月曜日 7・8 時限を予定。				
担当教員からのメッセージ	地球上全ての生物は光合成の影響を受け，ほとんどの生物が光合成によって得られたエネルギーに依存しています。光合成の仕組みを理解することは，エネルギー循環の最初の部分を理解することです。エネルギー問題が大きく取り上げられている現在，光合成の正しい知識を身に付け，社会に還元する人材となってほしい。				

授業科目名	生物環境科学概論 I Introduction to Biogeosphere Sciences I				
担当教員名	塚越 哲 TSUKAGOSHI Akira		所属等	学術院理学領域	
			研究室	理学部C棟 507	
分担教員名	佐藤 慎一				
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	月3・4
キーワード	生物、古生物、進化				
授業の目標	生物界の成り立ちを地質学的時間スケールで理解するための基礎を身につける。				
学習内容	進化古生物学の体系と理論と基本概念を解説し、古生物を生物学的・進化的側面から学ぶ。				
授業計画	<p>古生物学の背景</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>古生物学の概要</li> <li>化石の保存と記録の不完全性</li> </ol> <p>化石の研究方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>化石の観察と採集</li> <li>化石の同定と記載</li> </ol> <p>古生物の研究例</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>成長と個体発生</li> <li>生活様式と個古生態</li> <li>化石を用いた古環境解析</li> </ol> <p>8. 中間試験</p> <p>初期生命の記録</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>生命の誕生</li> <li>10, 11. 真核生物の進化</li> <li>12, 13. 地球環境と水陸分布の変遷</li> <li>14, 15. 進化のパターンと化石生物</li> </ol> <p>16. 期末試験</p>				
受講要件	なし。				
テキスト	特に定めない。配布したプリントは毎回持参すること。				
参考書	なし。プリントを適宜配布。				
予習・復習について	予習・復習とも各自しっかりやること。				
成績評価の方法・基準	試験による。事情によりレポート等の代替措置を取る場合もある。				
オフィスアワー	なし。				
担当教員からのメッセージ	なし。				

授業科目名	多様性生物学 Biodiversity				
担当教員名	塚越 哲 TSUKAGOSHI Akira		所属等	大学院理学領域	
			研究室	理学部C棟 507	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期前半		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	1	曜日・時限	月3・4
キーワード	生物多様性、分類、分類学、個体発生、形態、進化				
授業の目標	生物のもつ分類学的、形態学的多様性の認識と理解を深める				
学習内容	ヒトはどのようにして生物を分類しその多様性を把握するのか、またその多様性は自然界でどのように創出されるのかについて基礎から学ぶ。				
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物の種数</li> <li>・ヒトの認識と分類</li> <li>・個体発生と系統発生</li> </ul> <p>以上の内容をオムニバス形式で行う。</p>				
受講要件	なし。				
テキスト	なし。				
参考書	適宜指示する。				
予習・復習について	キーワードについて、あらかじめ文献やインターネット等で学習しておくことが望ましい。また、授業でわからないことは放置せず、各自よく復習すること。質問も歓迎する。				
成績評価の方法・基準	筆記試験またはレポート、もしくは両方。				
オフィスアワー	下記参照。				
担当教員からのメッセージ	席をはずすことが多いので、来室の際は電子メール<tsukagoshi.akira@shizuoka.ac.jp>もしくは電話054-238-4800（直通）であらかじめ連絡をください。特に重要な質問などがあれば、授業で取り上げることもあります。それから、授業中の飲食は慎んでいただきたい（当たり前のことですが）。				



授業科目名	構造地質学 Structural Geology				
担当教員名	道林 克禎 MICHIBAYASHI Katsuyoshi		所属等	大学院理学領域	
			研究室	理学部C棟 401	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期後半		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	1	曜日・時限	月3・4
キーワード	地質構造、歪、応力、変形メカニズム、断層、節理、褶曲、岩石組織				
授業の目標	構造地質学は地殻の構造(地質構造)を解析するための基礎となり、また応用範囲の広い分野でもある。本講義ではその基礎となる歪と応力の関係、実際に形成される断層や褶曲などの記載方法と、形成にいたる運動過程・物理過程についての基礎的取扱いについて解説する。				
学習内容	この講義では、最初に地質構造とは何かを解説し、その地質構造を形成する歪と応力の力学的基礎を学ぶ。それらをふまえて地下深部から表層部の異なる環境下において断層や褶曲などがどのような過程を経て形成され、発達していくのかを学ぶ。				
授業計画	<p>おおよそ以下の順序で講義を行う。ただし、一項目が一回の講義になるとは限らない。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地質構造とは何か? 地質構造の記載</li> <li>2. 歪と応力の基礎</li> <li>3. 地殻物質の性質</li> <li>4. 変形メカニズムと変形相</li> <li>5. 断層と節理</li> <li>6. 褶曲</li> <li>7. 岩石組織</li> </ol>				
受講要件					
テキスト					
参考書	狩野謙一・村田明広: 構造地質学. 朝倉書店, 1998年 天野一男・狩野謙一: フィールドジオロジイ 6 「構造地質学」. 共立出版, 2009年				
予習・復習について	参考書を講義前・後に読んでおくと良い。				
成績評価の方法・基準	地質構造の形成過程と形成条件が理解されているかについて、期末テストの結果などから総合的に評価する				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ	関連した内容を持つ構造岩石学、地震地質学、テクトニクスなどの基礎となる分野である。				

授業科目名	線型代数学 I Linear Algebra I				
担当教員名	保坂 哲也		所属等	大学院理学領域	
			研究室	理学部C棟 606 室	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	月 7・8
キーワード	行列、連立 1 次方程式、行列式				
授業の目標	(1) 線形代数のはじめを学びます。行列という概念に親しんでもらいます。 (2) 数学の論証に慣れ親しんでもらいます。				
学習内容	行列、行列の演算、連立方程式、行列式を学びます。				
授業計画	教科書に沿って授業を進めます。  1. 行列とその演算 2. 置換 3. 行列式 4. 余因子展開 5. 連立 1 次方程式 6. 行列の階数				
受講要件	理学部数学科 1 年生の必修科目です。				
テキスト	基礎講義 線形代数学 (二木昭人 著, 培風館, ISBN-13: 978-4563002756)				
参考書	線型代数, 長谷川浩司, 日本評論社, 2004.04, ISBN:978-4-535-78371-3 (線型代数学の書籍はたくさんあります。図書館でいろいろ手に取ってください。)				
予習・復習について	復習は必須です。また、演習の授業で与えられた問題は全て解答してください。演習が最も重要です。				
成績評価の方法・基準	小テストやレポート 20%、期末試験 80%で評価します。				
オフィスアワー	授業の中でオフィスアワーの時間を指定します。				
担当教員からのメッセージ	数学は、講義をただ聴くだけで理解することは困難な学問です。演習問題や課題を解くことを通して理解を深めてください。				

授業科目名	解析学 Introduction to Analysis				
担当教員名	松本 敏隆 MATSUMOTO Toshitaka		所属等	学術院理学領域	
			研究室	理学部C棟510	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	火1・2
キーワード	$\sigma$ 集合体、測度、可測空間、可測関数、ルベーグの収束定理、Fubini の定理				
授業の目標	$\sigma$ 集合体、測度、可測空間、可測関数などの定義を体得し、ルベーグ積分に関する定理の証明において、その行間の内容を補って理解する習慣を身につける。積分記号と極限記号の交換可能性を意味する単調収束定理・ルベーグの収束定理、および積分の順序交換に関する Fubini の定理など基本的で重要な定理の修得を目標とする。				
学習内容	ルベーグ積分は、リーマン積分の問題点（完備性の欠落など）を改良した積分である。まず、広い意味の長さを指す言葉「測度」の概念を導入し、その性質を調べる。さらに、関数の積分を定義するために、被積分関数として「可測関数」の概念を導入する。それらをもとにルベーグ積分を定義し、積分に関する諸定理（単調収束定理、ルベーグの収束定理、Fubini の定理など）を解説する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Riemann 積分と面積</li> <li>2. <math>\sigma</math>集合体</li> <li>3. 測度の定義と諸性質</li> <li>4. 測度空間の完備化</li> <li>5. 外測度</li> <li>6. Hopf-Kolmogorov の拡張定理</li> <li>7. Borel 測度</li> <li>8. Lebesgue 測度</li> <li>9. 可測関数の定義と諸性質</li> <li>10. Egorov の定理と Lusin の定理</li> <li>11. 積分の定義</li> <li>12. 積分に関する諸性質</li> <li>13. 収束定理</li> <li>14. 直積測度</li> <li>15. Fubini の定理</li> </ol>				
受講要件	微分積分学 I、II の内容を理解していることが望ましい。				
テキスト	特になし。				
参考書	ルベーグ積分入門、伊藤清三、裳華房、ISBN 4-7853-1304-8 測度と積分、鶴見茂、理工学社、ISBN 4-8445-0115-1				
予習・復習について	予習と復習を行い、理解度を高めてほしい。				
成績評価の方法・基準	定期試験の結果（80%）、受講態度・レポート（20%）により総合的に判断する。				
オフィスアワー	最初の講義の際に連絡する。				
担当教員からのメッセージ	測度論は、解析学 I で学ぶ $L^p$ 空間（ $p$ 乗可積分空間）の基礎であり、確率論や偏微分方程式への応用にも用いられる理論である。実数論や集合論と関係する抽象的な概念のため、初めのうちは取り付きにくい感じがするかも知れないが、行間の内容を補い理解を深めて欲しい。				

授業科目名	熱化学 Thermochemistry				
担当教員名	河合 信之輔 KAWAI Shinnosuke		所属等	大学院理学領域	
			研究室	理B302, 理B308	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火1・2
キーワード	熱力学第二法則、エントロピー、自由エネルギー、変化の方向、化学平衡、統計熱力学、ボルツマン分布				
授業の目標	物理化学のひとつの柱である化学熱力学を理解・体得し、どんな問題にも応用できるような基礎をつくる。				
学習内容	講義前半では、熱力学第二、第三法則を学び、熱力学の理論体系の成り立ちを理解する。講義後半は、熱力学に分子論的な基礎づけを与える理論としての統計力学を学び、エントロピーや自由エネルギー等の諸概念の分子的意味を理解する。				
授業計画	<p>テキストの次の章を講義する。</p> <p>第1～4回：第2章 熱力学第一法則  基本的な概念（仕事、熱、エネルギー）  状態関数（内部エネルギー、エンタルピー）  完全微分と不完全微分  熱化学（標準生成エンタルピー、反応エンタルピー）</p> <p>第5～8回：第3章 熱力学第二法則  自発変化の方向  エントロピー（定義、自発性との関係、第2法則のエントロピーによる表現）  熱力学第三法則  自由エネルギー（ヘルムホルツエネルギーとギブスエネルギー）</p> <p>第9～10回：第7章 化学平衡  平衡状態（自由エネルギーと平衡条件、平衡の温度・圧力依存性）  平衡電気化学（半反応と電極、起電力）</p> <p>第11～15回：第16章 統計熱力学  分子状態の分布（確率分布、配置と重み）  エントロピーの分子論的意味  ボルツマン分布  分配関数</p>				
受講要件	微分積分，確率論，力学，および1年次の基礎熱化学の知識を前提とする。				
テキスト	「アトキンス 物理化学(上)(下)」(東京化学同人)第2, 3, 7, 16章				
参考書	授業中に適宜引用文献を挙げる				
予習・復習について	新しく学ぶ諸概念や論理展開のしかたを理解するのに苦労する分野であるので、週1～2時間（以上）を目安に、しっかりと予習復習および教科書や配布プリントの演習問題に取り組むこと。				
成績評価の方法・基準	毎回課される小レポートの提出を、出席代わりとする。 成績は、小テストと最終試験の点数を半分ずつの割合で加算して評価する。				
オフィスアワー	随時。ただし会議等の都合で研究室に不在の時間があるので、事前に連絡を取ってもらったほうが安全ではある（sskawai@shizuoka.ac.jp）				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	有機化学 I Organic Chemistry I				
担当教員名	小林 健二 KOBAYASHI Kenji		所属等	大学院理学領域	
			研究室	小林研究室 (総合研究棟 514)	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	火 1・2
キーワード	混成軌道、有機電子論、有機反応機構、構造有機化学、立体化学、アルカン、シクロアルカン、立体異性体				
授業の目標	有機化学の基礎概念を学び、構造有機化学を理解する。				
学習内容	有機化学の基礎概念として、共有結合の電子状態と混成軌道について学ぶ。次に、構造と反応性の基本概念を学ぶ。そして、構造有機化学に関して、立体配座、立体配置、光学異性体について学習する。				
授業計画	<p>テキストに従って以下の章を解説する。</p> <p>1章 有機分子の構造と結合  2章 構造と反応性  3章 アルカンの反応  4章 シクロアルカン  5章 立体異性体</p>				
受講要件					
テキスト	「ボルハルト・ショアー 現代有機化学 上 (第6版)」(古賀憲司・野依良治ら監訳) (化学同人)				
参考書					
予習・復習について	予習、復習を励行して欲しい。また、テキストの練習問題を解くことが望ましい。				
成績評価の方法・基準	試験により評価する。				
オフィスアワー	特に時間は定めないので疑問点などがあつたら遠慮せずに研究室に来て下さい。あらかじめ連絡してもらえると有り難い。				
担当教員からのメッセージ	有機化学は、物質を創製・合成し、その特性を探究する重要な学問分野です。				

授業科目名	放射化学Ⅱ Radiochemistry II				
担当教員名	矢永 誠人 YANAGA Makoto		所属等	大学院理学領域	
			研究室	理学部A棟 201	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	火 1・2
キーワード	天然放射性核種、人工放射性核種、核反応、放射化分析、放射化学分離、R I の利用				
授業の目標	原子核の性質を理解するとともに、同位体、特に放射性同位体を利用した化学の実際を修得する。				
学習内容	<p>I. 元素を構成している同位体について、安定同位体と放射性同位体に分けて考え、これらがどのような過程によって生成・分布しているのかという点を目指して概説する。これを理解するために必要な放射性同位体および安定同位体の物理的性質、化学的性質および放射性同位体をつくる核反応についても述べる。</p> <p>II. きわめて類似した同位体どうしの化学的性質は、同位体をトレーサーなどとして利用できる。他方、わずかながら検出される同位体間の性質の差を利用して、同位体の分離はもちろん、他の方法では難しい研究にも特色を生かして応用されている。それらの典型的なものおよび基礎を学ぶ。</p>				
授業計画	<p>以下の項目について、基礎的・基本的な事項を解説する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>核反応 <ol style="list-style-type: none"> <li>核反応</li> <li>核反応断面積と生成放射能</li> <li>核反応の種類</li> <li>核分裂反応</li> <li>核融合反応</li> </ol> </li> <li>元素の起源 <ol style="list-style-type: none"> <li>Hubble の法則</li> <li>宇宙温度変化と物質の創成</li> </ol> </li> <li>年代測定法 <ol style="list-style-type: none"> <li>宇宙年代学</li> <li>放射性壊変を利用する年代測定の原理</li> <li>年代測定</li> </ol> </li> <li>核・放射化学的分析 <ol style="list-style-type: none"> <li>放射化学的分離法</li> <li>放射化分析</li> <li>放射分析</li> <li>同位体希釈分析</li> </ol> </li> </ol>				
受講要件	放射化学Ⅰ、放射化学概論、放射線物理学概論のいずれかを受講していることが望ましいが、これらの科目を履修していない者に対しては配慮する。				
テキスト	放射化学概論 第3版 (富永健、佐野博敏著、東京大学出版会)				
参考書	適宜、資料を配布する。				
予習・復習について	予習および復習、特に復習は重要である。聞いたこと、あるいは、疑問に思ったことをそのままにせず、自ら調べることにより、さらに実力が養成される。				
成績評価の方法・基準	授業時の演習課題と期末試験により総合的に評価する。				
オフィスアワー	午前9時頃から午後6時頃まで、随時、質問等を受けつける。				
担当教員からのメッセージ	放射化学Ⅰなど、要件に記した科目を履修していることが望ましいが、未履修者に対しても考慮しつつ講義を進めていく。				

授業科目名	内分泌学 Endocrinology				
担当教員名	鈴木 雅一 SUZUKI Masakazu		所属等	大学院理学領域	
			研究室	理 A616	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	火 1・2
キーワード	脊椎動物、内分泌、ホルモン、進化				
授業の目標	脊椎動物の内分泌現象の原理と多様性を理解する。				
学習内容	人間の身体の中では多様な器官が機能しているが、それぞれの器官やそこで働く分子システムには生命の進化とともに歩んだ歴史がある。本講義では、哺乳類の内分泌系の機能を中心に解説しながら、内分泌器官やホルモン等の多様性および進化の道筋についても比較動物学的観点から考察する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 内分泌学の歴史</li> <li>2. 内分泌腺とホルモン</li> <li>3. 松果体とホルモン</li> <li>4. 視床下部・脳下垂体 I</li> <li>5. 視床下部・脳下垂体 II</li> <li>6. 甲状腺ホルモン</li> <li>7. 副腎のホルモン I</li> <li>8. 副腎のホルモン II</li> <li>9. 性分化・生殖とホルモン</li> <li>10. 妊娠・出産・授乳とホルモン</li> <li>11. 水・電解質調節とホルモン I</li> <li>12. 水・電解質調節とホルモン II</li> <li>13. カルシウムの調節とホルモン</li> <li>14. 糖分の調節とホルモン</li> <li>15. 無脊椎動物のホルモン</li> <li>16. 試験</li> </ol>				
受講要件					
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。				
参考書	<p>生命をあやつるホルモン（編；日本比較内分泌学会：講談社）</p> <p>比較内分泌学序説（編；日本比較内分泌学会：学会出版センター）など</p>				
予習・復習について	関連する事項について、随時、生物学の本を参照して自ら理解を深めて欲しい。				
成績評価の方法・基準	主として最終授業の試験の結果で成績評価する。レポートを課した場合、それも評価の対象とする。				
オフィスアワー	随時受け付ける。				
担当教員からのメッセージ	内分泌に関連した本を一冊でも読んで欲しい。				

授業科目名	層序学 Stratigraphy				
担当教員名	北村 晃寿 KITAMURA Akihisa		所属等	大学院理学領域	
			研究室	共通教育 C 棟 311	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	火 1・2
キーワード	層序学、層序区分、層序単元、模式層と模式地、岩相層序、生層序、古地磁気層序、火山灰層序、サイクル層序、シーケンス層序				
授業の目標	地層に保存された地質記録や化石記録の理解に不可欠な層序学を習得する。				
学習内容	層序学の体系と理論と基本概念を解説する。講義はパワーポイントと配布資料で行う。パワーポイントで「ノート」と示した箇所は、筆記具でノートに書き込むか、PCに打ち込むか、あるいは記憶する。カメラ撮影は許可しない。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 層序学とは何か（地層体系化の手順、様々な層序学、層序学関連小史）</li> <li>2. 層序学の基本原理（公式層序単元、岩相層序単元各説）</li> <li>3. 層序区分の標準化（年代層序尺度、地質年代単元、GSSPと“黄金の楔”）</li> <li>4. 層序単元の命名（模式、国際層序ガイド、地層命名法、先取権の原則）</li> <li>5. 生層序学の基礎（生層準(FAD, LAD)、誘導・導入化石、異時性、生層序帯各説、示準化石各説）</li> <li>6. 生層序学の実際（CSRS、グラフ対比法、AEO、CONOP、RASC、生層準の区間推定）</li> <li>7. 層序と編年（GSSA、複合年代尺度の構築、年輪・骨格編年、交差年代決定）</li> <li>8. 示準化石、微化石層序</li> <li>9. 古地磁気層序、火山灰層序学（概念、事例）</li> <li>10. イベント層序学、サイクル層序1（サイクル層序の概念、生態層序、海洋酸素同位体層序）</li> <li>11. サイクル層序2、海洋酸素同位体層序</li> <li>12. 同位体層序学、第四紀の層序、14C年代</li> <li>13. シーケンス層序1（シーケンス層序の原理）</li> <li>14. シーケンス層序2（海水準変動）</li> <li>15. 層序学の応用</li> </ol>				
受講要件	なし。				
テキスト	なし。				
参考書	適時、プリントを配布する。				
予習・復習について	ノート、配布プリントを使って、予習復習を行うこと。				
成績評価の方法・基準	レポートの内容と試験の結果から、成績評価を行う。				
オフィスアワー	授業で個々に通知する。				
担当教員からのメッセージ	本講義をより深く理解したい者は、「堆積学」をあわせて受講することを推奨する。				



授業科目名	代数学 Algebra				
担当教員名	毛利 出 MORI Izuru		所属等	大学院理学領域	
			研究室	理学部C棟511	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	火3・4
キーワード	環、整域、イデアル、環準同型、剰余環、多項式環、加群				
授業の目標	環の基本的性質と例に精通する。				
学習内容	大雑把に言って、足し算、引き算、掛け算が定義できる集合を環といい、さらに割り算も定義できる集合を体という。体の代表的な例には、有理数の集合、実数の集合、複素数の集合など、体でない環の代表的な例には、整数の集合、多項式の集合、正方行列の集合などがある。この講義では、環の基本的な性質をこれらの代表的な例を通して徹底的に学習する。また時間があれば加群についても触れる。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 環、体</li> <li>2. 整域、ユークリッド整域</li> <li>3. 多項式環</li> <li>4. イデアル、単項イデアル整域</li> <li>5. 剰余環</li> <li>6. 環準同型</li> <li>7. 局所化、商体</li> <li>8. 素元分解整域</li> <li>9. 加群</li> </ol>				
受講要件	代数学入門を履修していること。				
テキスト	テキストは指定しないが環論を含む代数学の入門書を1冊は購入すること。				
参考書	代数学（倉田吉喜著）近代科学社 代数入門一群と加群（堀田良之著）裳華房				
予習・復習について	授業内容はその日のうちに復習すること。分からないところは次の講義の前までに質問し解決しておくこと。				
成績評価の方法・基準	授業参加態度、小テスト、学期末試験などにより評価する。				
オフィスアワー	最初の授業で連絡する。				
担当教員からのメッセージ	環は群より親しみやすいと思うので、群が難しかった学生も頑張ってほしい。				

授業科目名	電磁気学Ⅲ Electromagnetism III				
担当教員名	土屋 麻人 TSUCHIYA Asato		所属等	学術院理学領域	
			研究室	理 A401	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	火3・4
キーワード	Maxwell 方程式、電磁波の伝搬、電磁波の放射、電磁ポテンシャル、ゲージ変換、遅延ポテンシャル、先進ポテンシャル、誘電体				
授業の目標	Maxwell 方程式に基づいて、電磁波の伝搬と放射を理解する				
学習内容	Maxwell 方程式に基づいて、電磁波の伝搬と放射を学習する。さまざまな応用にも触れる。				
授業計画	1. Maxwell 方程式の一般的性質 2. 電磁波の伝搬 3. 電磁波の放射 4. 誘電体中の電磁波				
	1	Maxwell 方程式の一般的性質			
	2	電磁ポテンシャルとゲージ変換			
	3	真空中の電磁波の基本法則			
	4	平面波解 1			
	5	平面波解 2			
	6	フーリエ変換と一般解			
	7	初期値問題			
	8	遅延ポテンシャルと先進ポテンシャル 1			
	9	遅延ポテンシャルと先進ポテンシャル 2			
	10	電気双極子放射 1			
	11	電気双極子放射 2			
	12	点電荷による電磁波の放射			
	13	誘電体中の Maxwell 方程式			
	14	誘電体中の電磁波、波束と群速度			
	15	電磁波の反射と屈折			
受講要件	電磁気学 I,II が履修済みであること。				
テキスト	なし				
参考書	砂川重信「理論電磁気学」紀伊国屋書店、ジャクソン「電磁気学（上）（下）」吉岡書店、ランダウ・リフシッツ「場の古典論」東京図書				
予習・復習について	復習が大事である。				
成績評価の方法・基準	期末試験				

オフィスアワー	随時
担当教員からのメッセージ	電磁気学の美しさを味わってください。

授業科目名	量子化学Ⅱ Quantum Chemistry I I				
担当教員名	松本 剛昭 MATSUMOTO Yoshiteru		所属等	学術院理学領域	
			研究室	総 512	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	火 3・4
キーワード	シュレーディンガー方程式、水素型原子、オービタル、スピン軌道相互作用、原子価結合法、分子軌道法、ヒュッケル近似				
授業の目標	量子力学の原理に基づいて、原子内部の電子運動を系統立てて理解することを目指す。また、原子で導入したオービタルの概念を分子に拡張して、分子を形成する化学結合の量子化学的記述法の理解を目指す。				
学習内容	「量子化学Ⅰ」で学んだ粒子運動の量子力学的な記述に基づいて、原子中にある電子の波動関数とエネルギー準位を概観し、角運動量の相互作用を考慮した原子スペクトルの解釈方法を学ぶ。また、分子構造を計算するための基礎的の双壁をなす原子価結合法と分子軌道法を取り上げ、化学結合の形成に電子が果たす役割の重要性を学ぶ。				
授業計画	<p>水素原子型の構造とスペクトル</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水素型原子の構造</li> <li>・原子オービタルとそのエネルギー</li> <li>・分光学的遷移と選択律</li> </ul> <p>多原子分子の構造</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オービタル近似</li> <li>・つじつまの合う場のオービタル</li> </ul> <p>複雑な原子のスペクトル</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・量子欠損とイオン化極限</li> <li>・一重項状態と三重項状態</li> <li>・スピン-軌道カップリング</li> <li>・項の記号と選択律</li> </ul> <p>ボルン-オッペンハイマー近似</p> <p>原子価結合法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・等核二原子分子</li> <li>・多原子分子</li> </ul> <p>分子軌道法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水素分子イオン</li> <li>・等核二原子分子</li> <li>・異核二原子分子</li> </ul> <p>多原子分子系の分子オービタル</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒュッケル近似</li> <li>・計算化学</li> <li>・分子の性質の予測</li> </ul>				
受講要件	「量子化学Ⅰ」の内容、簡単な微分積分に関する知識				
テキスト	「アトキンス 物理化学（上）」（東京化学同人）第10章、第11章				
参考書	「量子化学 基礎からのアプローチ」真船文隆著（化学同人） 「物理化学 分祀論的アプローチ」マッカーリ・サイモン著 千原・江口・齋藤 訳（東京化学同人）				
予習・復習について	テキストを使った予習を大事にすること。さらに、講義毎に与える演習問題に各自取り組むこと。				
成績評価の方法・基準	期末試験の結果で評価する。				
オフィスアワー	特に定めません。いつでも質問してください。				
担当教員からのメッセージ	「量子化学Ⅰ」で学んだシュレーディンガー方程式は、実在の原子分子の構造を詳細に理解するための概念であると言っても過言ではありません。量子化学を駆使することで、Na や O <sub>2</sub> のように構造式で理解していた原子分子を、内部の奥深くから原理的に知ることができるはず。量子化学は議論すればするほど身につきますので、質問に来てもらうのは大歓迎です。				

授業科目名	発生生物学Ⅱ Developmental Biology II				
担当教員名	塩尻 信義 SHIOJIRI Nobuyoshi		所属等	大学院理学領域	
			研究室	理学部A棟 611	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	火3・4
キーワード	器官形成、誘導、形態形成、細胞分化、細胞間相互作用、遺伝子発現、実験発生学				
授業の目標	発生過程で多様な器官が形成される仕組みを、細胞レベルならびに分子レベルで理解する。				
学習内容	多細胞動物の体は、特有の機能と形態・構造をそれぞれ有する多様な器官から構成されており、それらの統合により個体自身ならびに個体の属する種が維持される。本講義では、マウスやニワトリなどの高等脊椎動物をモデルとして、発生過程で多様な器官が形成される仕組みについて、どのような実験によりその仕組みが証明されたかなど、実験発生学の成果にもとづきながら解説する。特に、各器官形成系でおこる細胞分化、増殖、細胞移動、誘導、形態形成、細胞間相互作用など“細胞社会”として制御されている側面とその分子メカニズムについて講義する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに</li> <li>2. 卵割から胚葉形成まで</li> <li>3. 神経胚形成</li> <li>4. 発生運命地図と誘導・体軸形成</li> <li>5. 表皮の発生・分化</li> <li>6. 神経堤細胞の移動と分化</li> <li>7. 体節の形成</li> <li>8. 心臓形成と血管系の発生</li> <li>9. 造血細胞の起源</li> <li>10. 排出器官の発生</li> <li>11. 生殖巣の形成</li> <li>12. 生殖輸管などの発生</li> <li>13. 消化器官の発生</li> <li>14. 肝臓形成</li> <li>15. まとめ</li> </ol>				
受講要件	特になし。				
テキスト	武田洋幸・相賀裕美子著『発生遺伝学』（東京大学出版会）				
参考書	東中川徹他編著「ベーシックマスター発生生物学」（オーム社）、八杉貞雄著「動物の形態－進化と発生－」（裳華房）など。随時紹介する。				
予習・復習について	予習・復習を必ず行って下さい。				
成績評価の方法・基準	レポート、期末試験などに基づいて総合的に評価する。				
オフィスアワー	特に指定しませんが、質問があれば研究室まで。				
担当教員からのメッセージ	発生現象は見ていて大変美しいものです。またその仕組みも巧妙です。				

授業科目名	地球環境学 Global Environment				
担当教員名	加藤 憲二 KATO Kenji		所属等	学術院理学領域	
			研究室	共通教育 C 棟 602	
分担教員名	佐藤 慎一				
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	火 3・4
キーワード	地球環境、海洋、生態系、物質循環、生物多様性				
授業の目標	地球上で今おこっている環境問題をトピック的に眺めるのではなく、それらがなぜ問題なのか、問題の根っこはどこにあるのかについて地球科学を学ぶ者として必須となる知識も整理しながら学ぶ。しくみを理解する、しくみを動かす力を理解する、そして人間と地球環境のありようを考える。				
学習内容	地球環境を統合的に理解することを目指して、考え方のツールとしての時間軸、空間スケールの捉え方から、物質循環の意味、生態系のありようを学ぶ。				
授業計画	第1回 地球環境をどのように捉えるか；空間と時間（加藤） 第2回 地球環境変動史（1）（佐藤） 第3回 地球環境変動史（2）（佐藤） 第4回 環境変動と生物多様性（1）（佐藤） 第5回 環境変動と生物多様性（2）（佐藤） 第6回 海洋の環境変動と生物の分布パターン（佐藤） 第7回 水循環（加藤） 第8回 物質循環（1）；CとN，バランスをとる仕組み（加藤） 第10回 物質循環（2）；Sと重金属、環境影響と汚染について（加藤） 第11回 生態系の捉え方（1）生体濃縮、カスケード、富栄養化と汚染の違い（加藤） 第12回 生態系の捉え方（2）遷移、進化（加藤） 第13回 人間活動と地球環境（1）（佐藤） 第14回 人間活動と地球環境（2）（佐藤） 第15回 エネルギーと環境、環境倫理（加藤）  講義の順序は入れ替わることがあります。Case sensitive!				
受講要件	出席するだけでなく授業に＜参加する＞こと。				
テキスト	プリント				
参考書	鈴木秀夫『森林の思考・砂漠の思考』（NHK ブックス）、川田順造『マグレブ紀行』（中公新書） 和辻哲郎の『風土』（岩波文庫） Environmental Science, International Student Version, Botkin & Keller, Wiley, 2012.				
予習・復習について	1回の授業につき、予習・復習合わせて週1時間程度推薦された文献や資料を読む。				
成績評価の方法・基準	成績は課題レポートと試験による。				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	線型代数学Ⅲ Linear Algebra III				
担当教員名	浅芝 秀人 ASASHIBA Hideto		所属等	大学院理学領域	
			研究室	理学部 C 棟 615	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火 5・6
キーワード	Jordan 標準型				
授業の目標	ジョルダン標準型について学ぶ.				
学習内容	線形代数学 II の続きとして正規行列とジョルダン標準型について学ぶ.				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 線形代数 I, II の復習</li> <li>2. 正規行列のユニタリ行列による対角化</li> <li>3. 最小多項式</li> <li>4. ジョルダン標準型の理論</li> <li>5. ジョルダン標準型の計算</li> </ol>				
受講要件	線形代数 I, II の内容を理解していること.				
テキスト	基礎講義 線形代数学 (二木昭人著 培風館)				
参考書					
予習・復習について	授業を受ける前には前回までの内容を理解してくること.				
成績評価の方法・基準	平常点 (レポート) 20%, 試験 80%で評価する.				
オフィスアワー	年度の初めに掲示する.				
担当教員からのメッセージ	分からないところがあれば, できるだけ早く質問に来てください.				

授業科目名	生物多様性科学 Biodiversity Science				
担当教員名	栗井 光一郎 AWAI Koichiro		所属等	学術院理学領域	
			研究室		
分担教員名	徳岡 徹、竹内 浩昭				
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	火 5・6
キーワード	多様性、進化、細胞内共生				
授業の目標	様々な生物のもつ特徴、多様性、生活環を中心とした基礎的知識を身に付けると共に、地球のいたるところで活動する生物を体系的に理解する。				
学習内容	生物の多様性、特徴、進化、環境適応機構を総合的に学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生体膜・生物の分類 (栗井 光一郎)</li> <li>2. 原核生物：古細菌, 細菌 (栗井 光一郎)</li> <li>3. 原生生物：エクスカバータ (栗井 光一郎)</li> <li>4. 原生生物：クロモアルベオラータ (栗井 光一郎)</li> <li>5. 原生生物：アーケプラスチダ (栗井 光一郎)</li> <li>6. 原生生物：リザリア, ユニコンタ (栗井 光一郎)</li> <li>7. 菌類 (栗井 光一郎)</li> <li>8. 植物：コケ植物 (徳岡 徹)</li> <li>9. 植物：シダ植物 (徳岡 徹)</li> <li>10. 植物：裸子植物 (徳岡 徹)</li> <li>11. 植物：被子植物 (1) 単子葉植物 (徳岡 徹)</li> <li>12. 植物：被子植物 (2) 双子葉植物 (徳岡 徹)</li> <li>13. 動物：形態における多様性と進化 (竹内 浩昭)</li> <li>14. 動物：機能における多様性と進化 (竹内 浩昭)</li> <li>15. 動物：生態における多様性と進化 (竹内 浩昭)</li> </ol>				
受講要件	特になし				
テキスト	特に指定しない				
参考書	丸善 キャンベル生物学-原書第9版- ほかプリントを適宜配布する				
予習・復習について	期間中に小テストを行うので、予習復習をしっかりと行うこと				
成績評価の方法・基準	出席、小テストおよび試験の結果より総合的に判断する。試験は期末試験1回で終了の予定。講義した多様性生物学の基本的な理解ができているかを判断する。プリント、ノートは持ち込み不可。				
オフィスアワー	月曜日 7・8時限を予定 (栗井)				
担当教員からのメッセージ	生物の生理生態、進化を知ること、地球上に存在する様々な生物を体系的に理解することが可能となる。実験生物だけではなく、生き物とは何かということを学んでほしい。				



授業科目名	幾何学 Geometry				
担当教員名	久村 裕憲 KUMURA Hironori		所属等	大学院理学領域	
			研究室	理学部 C 棟 603	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	火 7・8
キーワード	微分可能多様体、写像の微分、ベクトル場				
授業の目標	微分可能多様体の基礎を学ぶ。				
学習内容	局所的に $n$ 次元のユークリッド空間の開集合と微分同相な空間を微分可能多様体という。多様体上では微分・積分が展開される。この授業では、多様体のほんの入口を学ぶ。				
授業計画	(1) 微分可能多様体 (2) 接ベクトル空間 (3) 関数・写像の微分 (4) ベクトル場 (5) 微分形式				
受講要件					
テキスト	松本幸夫著「多様体の基礎」東京大学出版会				
参考書	村上信吾著「多様体」共立出版				
予習・復習について	教科書に沿って授業を行うので予習を良くして下さい。また課題を出すので、課題を解くことを通して理解を深めてください。				
成績評価の方法・基準	レポート、試験等を総合的に判断する。				
オフィスアワー	授業時間中に指示する。				
担当教員からのメッセージ	授業中内で全てが理解できる、ということはおそらくないです（それが普通です）。毎回の授業で、しっかりノートを取って、復習をしてはじめて理解ができます。特に、この授業では課題を出すので、課題を解くことを通して理解を深めてください。				

授業科目名	数理論理学 Mathematical Logic				
担当教員名	鈴木 信行 SUZUKI Nobuyuki		所属等	大学院理学領域	
			研究室	理学部 C 棟 601	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	水 1・2
キーワード	古典命題論理、古典述語論理、完全性定理				
授業の目標	数理論理学の基礎となる古典論理とその完全性を理解する。				
学習内容	近代的論理学としての数理論理学は、19世紀中葉の George Boole をその嚆矢とし、前世紀の前半に、哲学・数学の基礎付け・コンピュータの基礎理論等との関連の中で大きく進歩した。その後、哲学・理論計算機科学・社会科学などのさまざまな分野の基礎および応用と関連を増しつつ、ますます発展してきている。本講義では、数理論理学の基礎となる古典論理について概説する。				
授業計画	下記の2までを目標に講義し、余裕があれば3まで言及したい 1.古典命題論理 構文論：命題計算 NK 意味論：付値と真理表 古典命題論理の完全性定理 真理関数・標準形・Boole 代数 2.古典述語論理 構文論：述語計算 NK 意味論：第1階構造とモデル Godel の完全性定理とその応用 3.Sequent Calculi Gentzen の LK、LJ 基本定理とその応用				
受講要件	数学科 2 年までの授業が一通り理解できていること（単位取得は不問）				
テキスト	なし（プリント配布の予定）				
参考書	A mathematical introduction to logic, Enderton, Academic Press, 2000, 978-0122384523 数理論理学、鹿島亮、朝倉書店、978-4-254-11765-3 数学基礎論、新井敏康、岩波書店、978-4-00-005536-9 ほかにも良書があるので講義中に適宜指示する。				
予習・復習について	この講義は、数学科の専門科目である。2年までの講義に比べたとき、難しくなるのは当然である。予習・復習などをしっかりやって欲しい。				
成績評価の方法・基準	試験の得点による。(適宜、レポートの評価を加算する。)				
オフィスアワー	開講時に連絡する。				
担当教員からのメッセージ	予習・復習などの自宅での自発的かつ積極的勉強なくしては、身に付くものも少ない。大学の講義は、これを前提としている。				

授業科目名	物理数学Ⅱ Mathematics for Physics II				
担当教員名	森田 健 MORITA Takeshi		所属等	大学院理学領域	
			研究室	理 A402	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	水 1・2
キーワード	複素数、複素関数、留数定理				
授業の目標	複素関数の微積をきちんと扱えるようになる。				
学習内容	複素関数論を学ぶ。そしてその物理学への応用を紹介する。				
授業計画	<p>おおむね参考書にあげた神保 道夫「複素関数入門」にそって次のように講義を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複素平面</li> <li>2. ベキ級数</li> <li>3. 複素関数の微分</li> <li>4. コーシーの積分定理</li> <li>5. 留数定理とその応用</li> </ol>				
受講要件	微分、積分、ベクトル解析を理解していること。				
テキスト					
参考書	神保 道夫「複素関数入門」岩波書店、松下貢「物理数学」裳華房、アルフケン・ウェーバー「関数論と微分方程式」講談社				
予習・復習について	復習をすること。何か一冊複素関数に関する本を持っていると良い。(必ずしも参考書に挙げたもので無くても良い。)				
成績評価の方法・基準	試験によって成績を評価する。場合によってはレポートなどを課す。				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ	物理学において複素関数の扱いはフーリエ解析や量子力学で必須となるのでしっかり理解して欲しい。またただ単に物理学で重要なだけでなく、複素関数自体がとても面白い分野なので少しでもそのおもしろさを伝えたい。				

授業科目名	基礎生化学 Basic Biochemistry				
担当教員名	瓜谷 眞裕 URITANI Masahiro		所属等	学術院理学領域	
			研究室	理学部 A 棟 312 室	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	水 1・2
キーワード	生体分子、ヌクレオチド、核酸、アミノ酸、タンパク質、単糖、多糖、脂質、生体膜、酵素				
授業の目標	アミノ酸とタンパク質、糖、脂質、ヌクレオチドと核酸などの生物特有の物質について、それらの構造と機能を学ぶ。生体膜の構造と酵素反応の仕組みを学習する。				
学習内容	生物はタンパク質、糖、脂質などの生物特有の物質から構成される複雑で精巧な機械といえます。そしてこの機械は DNA という核酸にコードされた情報にしたがって作られ、またその機能が制御されています。この生物機械の働きはすべて生体物質間の化学反応に依存しています。この講義では化学の視点から生体物質の構造と働きを学ぶとともに、生物を理解する上で必要な生化学の基礎を学びます。				
授業計画	<p>テキストに沿って以下の内容を解説します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス、生化学の基礎：生命の科学</li> <li>2. 生化学の基礎：水の性質、生体分子：ヌクレオチド、核酸、遺伝情報</li> <li>3. 生体分子：ヌクレオチド、核酸、遺伝情報</li> <li>4. 生体分子：アミノ酸</li> <li>5. 生体分子：タンパク質の一次構造</li> <li>6. 生体分子：タンパク質の三次元構造</li> <li>7. 生体分子：タンパク質の三次元構造、タンパク質の機能</li> <li>8. 生体分子：タンパク質の機能</li> <li>9. 生体分子：単糖と多糖</li> <li>10. 生体分子：脂質と生体膜</li> <li>11. 生体分子：脂質と生体膜</li> <li>12. 生体分子：膜輸送、酵素：酵素触媒</li> <li>13. 酵素：酵素触媒</li> <li>14. 酵素：酵素の反応速度論</li> <li>15. 復習と総括</li> </ol>				
受講要件	理系基礎科目の生物学 I 及び生物学 II を履修していることが望ましい。				
テキスト	ヴォート基礎生化学 第 4 版（東京化学同人）				
参考書	細胞の分子生物学 第 5 版（ニュートンプレス）				
予習・復習について	教科書やノートをよく読むなど、日々の予習と復習が必要である。				
成績評価の方法・基準	単位の認定には、原則として3分の2以上の出席が必要です。単位の認定と成績の評価は、小テストとレポート（両方で 30%）および期末試験（70%）の総点で判断します。				
オフィスアワー	特に設けませんが可能な限り対応します。				
担当教員からのメッセージ	<p>化学科でなぜ生物を学ぶの？と思うかも知れませんが、生命現象は化学の知識で理解できるものです。生化学はその学問分野であり、化学の中の主要な分野のひとつを占めています。遺伝子操作や iPS 細胞などのバイオ技術も生化学の延長線上にあります。生化学を学べばバイオ技術の原理が分かり、物質（化学）という視点からの生命観が得られるようになります。生化学の理解には化学の知識が必要ですが、化学科の学生はそのような学習環境にあるのでたいへん有利ということが言えます。</p> <p>テキストのヴォート基礎生化学（第 3 版）は、本講義以外にも代謝生化学、情報生化学、応用生化学でも使います。</p>				

授業科目名	有機化学V Organic Chemistry V				
担当教員名	坂本 健吉 SAKAMOTO Kenkichi		所属等	大学院理学領域	
			研究室	理学部B棟 301号室	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	水 1・2
キーワード	有機化学、反応機構、官能基				
授業の目標	有機化合物の構造と反応を理解する。				
学習内容	2年次の有機化学IVの講義に引き続き、以下の項目についてテキストをもとに学習する。本講義で取り扱う内容は、現代有機化学の基礎を数多く含んでいる。有機反応の原理と多様性、材料・医薬品合成などの基礎をなす有機合成化学の重要性など、有機化学の魅力を感じてほしい。				
授業計画	19章 カルボン酸 20章 カルボン酸誘導体 21章 アミンおよびその誘導体 22章 ベンゼンの置換基の反応 23章 エステルエノラートと Claisen 縮合				
受講要件	特になし				
テキスト	「ボルハルト・ショアー 現代有機化学 下 (第6版)」(古賀憲司・野依良治ら監訳) (化学同人)				
参考書					
予習・復習について	予習、復習を励行して欲しい。また、テキストの練習問題を解くことが望ましい。				
成績評価の方法・基準	試験により評価する。				
オフィスアワー	随時対応するが不在の場合もあるので、要事前連絡。				
担当教員からのメッセージ	有機化学は、物質を創製・合成し、その特性を探究する重要な学問分野です。				

授業科目名	地球物理学 Geophysics				
担当教員名	生田 領野 Ryoya IKUTA		所属等	大学院理学領域	
			研究室	共通教育C棟 306	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	水 1・2
キーワード	地球物理学、地震学、測地学、弾性体力学				
授業の目標	地球物理学の基礎を学び、地学現象を物理的に捉える思考力を養う。				
学習内容	地球物理学で用いられる数学的／物理学的知識と思考法を学び、適宜演習を行う。				
授業計画	1. 1. 地球物理学入門：質点系の力学 2. 2. 地球物理学入門：極座標変換と2体問題 3. 3. 地球物理学入門：ベクトルと行列 4. 4. 地球物理学入門：質点系から連続体へ：弾性体中の波動方程式の導出その1 5. 5. 地球物理学入門：質点系から連続体へ：弾性体中の波動方程式の導出その2 6. 6. 地球物理学入門：人類の至宝 オイラーの公式を理解する 7. 7. 地球物理学入門：フーリエ級数とフーリエ積分 8. 8. 地球物理学入門：線形システムへの入出力その1 9. 9. 地球物理学入門：線形システムへの入出力その2 10. 10. 地震を計測する=地震計の物理学 11. 11. 地震波の伝搬=走時曲線・レイパラメター 12. 12. 震源と断層 =地震の規模・岩石の破壊 13. 13. プレート境界型地震=アスペリティと比較沈み込み帯学 14. 14. 地球を測量する 15. 15. 東海地震				
受講要件					
テキスト	とくになし。				
参考書	地球科学に関連するシリーズの教科書の固体地球物理学関連 (例) 新版地学教育講座2「地震と火山」：安藤雅孝ほか，東海大出版 ・「地震学 第3版」：宇津徳治，共立出版株式会社 ・測地学会テキスト（一般向けの「測地学」の教科書）HP：				
予習・復習について	予習／復習大事です。数学的・物理学的思考に不慣れな人は特に復習頑張ってください。オフィスアワーも上手に使ってください。				
成績評価の方法・基準	レポートとテストの成績				
オフィスアワー	水曜日 正午～夕方				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	統計学 Mathematical Statistics				
担当教員名	板津 誠一 ITATSU Seiichi		所属等	大学院理学領域	
			研究室	理学部 C 棟 605	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	水 3・4
キーワード	仮説検定、十分統計量、一様最小分散不偏推定量、条件付期待値				
授業の目標	「数理統計学」について講義する。ある現象を観測したり、ある集団を推測するため、標本をもとにもとの集団についての解析をすることが統計的推測である。推測する対象について実際のデータをもとにどのように分析し、どのように判断するかという問題を考えることを目標とする。				
学習内容	数理統計学の基本的な考え方がどのように定式化され基礎付けられることを解説する。講義では確率分布・条件付平均値などをもとに統計的推測の基礎である仮説検定、推定、統計量を学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 確率空間と確率分布</li> <li>2. 確率, 確率変数, 期待値</li> <li>3. 条件付確率</li> <li>4. 条件付密度関数, 条件付頻度関数</li> <li>5. 条件付期待値の定義</li> <li>6. 条件付期待値の性質</li> <li>7. 多次元確率変数の変換</li> <li>8. 統計的推測, 重要な分布</li> <li>9. 仮説検定</li> <li>10. ネイマン-ピアソンの基本定理</li> <li>11. 十分統計量</li> <li>12. 因子分解定理</li> <li>13. 推定</li> <li>14. 推定量</li> <li>15. クラメル・ラオの定理</li> </ol>				
受講要件					
テキスト	テキストはとくに指定しない。				
参考書	柳川堯「統計数学」近代科学社 ISBN: 4-7649-1014-4				
予習・復習について	配布するレジюмеおよび各自のノートで予習・復習をしてください。				
成績評価の方法・基準	定期試験を主に、レポートおよび演習問題を加えて評価します。				
オフィスアワー	月曜 9・10時限				
担当教員からのメッセージ	(※この科目は隔年開講です)				

授業科目名	電磁気学 I Electromagnetism I				
担当教員名	嶋田 大介 SHIMADA Daisuke		所属等	学術院理学領域	
			研究室	理A407 (理学部A棟)	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水3・4
キーワード	電場、電位、電流、磁場、ベクトルポテンシャル、ベクトル解析				
授業の目標	ベクトル解析を用いて静電場を理解することを目標とする。				
学習内容	物理学科で学ぶ電磁気学ではベクトル解析を用いる。ベクトル解析の意味や計算方法を詳しく説明し、電磁気学にどのように応用されているかを解説する。ベクトル解析を用いることで、電磁気学は簡潔に表現されることを学ぶ。				
授業計画	<p>テキストの第8章までの内容を、次の順に解説する予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 静電場 <ul style="list-style-type: none"> <li>クーロン力</li> <li>電場</li> <li>表面積分、体積分、ガウスの発散定理</li> <li>ガウスの法則</li> </ul> </li> <li>2. 電位 (スカラーポテンシャル) <ul style="list-style-type: none"> <li>線積分、ストークスの定理</li> <li>保存力</li> <li>スカラーポテンシャル</li> <li>ポアソン方程式</li> </ul> </li> <li>3. 定常電流 <ul style="list-style-type: none"> <li>電流密度</li> <li>保存則</li> <li>オームの法則</li> <li>ジュールの法則</li> <li>回路を流れる電流</li> </ul> </li> <li>4. 静磁場 <ul style="list-style-type: none"> <li>ビオ・サバールの法則</li> <li>ベクトルポテンシャル</li> <li>アンペールの法則</li> </ul> </li> </ol>				
受講要件	一年次の物理学科専門科目と理系基礎科目を修得していることが望ましい。				
テキスト	電磁気学 横山順一 著 講談社 ISBN: 4061572040 (電磁気学IIの授業でも使用する)				
参考書	ファインマン物理学〈3〉電磁気学 ファインマン 著 岩波書店 ISBN 4000077139				
予習・復習について	予習と復習は授業内容の理解に必要であるため、必ず行うこと。				
成績評価の方法・基準	試験とレポートによって成績を評価する。				
オフィスアワー	適宜 (必要に応じて設定する場合がある)				
担当教員からのメッセージ	電気と磁気の現象を統一的な立場から理解する電磁気学は、物理の分野だけでなく、産業界においても重要である。この電磁気学を学ぶためには、 $\nabla$ (ナブラ) 演算子の意味と使い方を理解する必要がある。授業ではこの点を詳しく説明するので、物理を理解するための道具として、 $\nabla$ 演算子を自在に使えるようになって欲しい。				



授業科目名	<p style="text-align: center;">相対性理論 The Theory of Relativity</p>				
担当教員名	嘉規 香織 KAKI Kaori		所属等	学術院理学領域	
			研究室	理学部 A 棟 4 0 5 号室	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期後半		必修選択区分 選必
対象学年	3 年	単位数	1	曜日・時限	水 3・4
キーワード	特殊相対性理論				
授業の目標	(特殊) 相対性理論の考え方を理解し, 基礎知識を習得する.				
学習内容	相対性理論 (主に特殊相対性理論) の基本事項について解説する.				
授業計画	<p>(1) 特殊相対性理論の基礎 歴史的序論/Michelson-Morley の実験/Lorentz 変換 (特別な場合) /Lorentz 変換からの結果</p> <p>(2) テンソル算 一般の Lorentz 変換/Minkowski 空間, 虚時間/スカラー, ベクトル, テンソル/テンソルの等式, 和, 差, 積と縮約/ 反対称テンソル, テンソル密度, デュアル. テンソル</p> <p>(3) 相対論的電磁気学 真空中の Maxwell の方程式 (復習) /Maxwell の方程式の相対論的書き換え/現象論的電気力学の相対論的書き換え</p> <p>(4) 相対論的力学 相対論的運動学/力学の基礎方程式の相対論的修正/エネルギーおよび運動量/Hamilton の原理</p> <p>(5) 一般相対性理論 特殊相対性理論に対する反省/一般相対性原理/等価原理</p>				
受講要件	力学 I, II, 電磁気学 I,II, 数学 II,IV (線形代数 A,B)を修得していること.				
テキスト	特に指定しない.				
参考書					
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	提出物および学期末試験				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	溶液化学 Solution Chemistry				
担当教員名	加藤 知香 KATO Chika		所属等	大学院理学領域	
			研究室	理学部A棟 307	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水3・4
キーワード	溶液内化学平衡、酸塩基平衡、沈澱平衡、錯体平衡、酸化還元平衡				
授業の目標	溶液内イオン平衡の厳密な取り扱いの習得を目的としている。平衡定数を基に、反応物および生成物の平衡濃度の計算方法を学ぶ。				
学習内容	分析化学においては溶液内反応が最もよく利用されている。水と電解質溶液の性質、溶液内化学平衡の基礎理論、各種の化学反応とその分析化学への応用など、主として分析化学を学ぶために必要な溶液化学の基礎を解析する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>第1章 溶液と濃度 (モル濃度、規定度、式量濃度)</li> <li>第1章 溶液と濃度 (重量パーセント、ファクター、規定液の調製)</li> <li>第2章 活量と濃度 (活量と活量係数、イオン強度)</li> <li>第2章 活量と濃度 (デバイーヒュッケルの式、電解質と非電解質)</li> <li>第3章 溶液内化学平衡 (化学平衡と質量作用の法則、平衡定数と自由エネルギー)</li> <li>第3章 溶液内化学平衡 (化学平衡の移動、平衡定数を用いる計算)</li> <li>第4章 酸塩基平衡 (酸と塩基、水のイオン積と pH、弱酸または弱塩基のみを含む溶液、弱酸と共役塩基を含む溶液、弱塩基と共役酸を含む溶液)</li> <li>第4章 酸塩基平衡 (緩衝溶液、酸と塩基の混合、多塩基酸、多塩基酸の塩、酸塩基滴定曲線)</li> <li>第5章 沈澱平衡 (溶解度と溶解度積、単純な沈澱平衡、共通イオンを含む沈澱平衡)</li> <li>第5章 沈澱平衡 (分別沈澱、沈澱平衡の pH による影響、硫化物の沈澱、沈澱滴定曲線)</li> <li>第6章 錯体平衡 (安定度定数、平均配位数とジョブの連続変化法、錯体平衡の pH による影響)</li> <li>第6章 錯体平衡 (錯体平衡と沈澱平衡の競合、EDTA を含む溶液の平衡、キレート滴定曲線)</li> <li>第7章 酸化還元平衡 (半反応と電池反応、標準水素電極と基準電極、標準電極電位)</li> <li>第7章 酸化還元平衡 (起電力と平衡定数、酸化還元反応と電位、酸化還元滴定曲線)</li> <li>第8章 溶液内イオン平衡とグラフ</li> </ol>				
受講要件					
テキスト	小倉興太郎著 「溶液内イオン平衡と分析化学」(丸善)				
参考書					
予習・復習について	テキストの例題は、予習・復習で必ず解いておくこと。				
成績評価の方法・基準	基本的に期末試験で判断するが、受講態度も加味する。				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ	講義には関数電卓を持って来てください。				

授業科目名	情報生化学 Biochemistry of Information				
担当教員名	大吉 崇文 OYOSHI Takanori		所属等	学術院理学領域	
			研究室	大吉研究室（理学部A棟 310）	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	水 3・4
キーワード	核酸、遺伝子発現、転写、翻訳、DNA複製、DNA組み換え、染色体、染色体分配				
授業の目標	生命を情報という視点から学習し、その原理を学ぶ。				
学習内容	生命の遺伝情報という視点から解説します。生物の性質および形態を決定するのが遺伝情報であり、この遺伝情報の本体とは何か、どのようにしてこの情報を利用しているのか、そしてどのような仕組みで子孫へこの情報を受け継いでいくのかを解説します。				
授業計画	<p>テキストにそって、以下の内容を解説します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 転写</li> <li>2. 核酸の構造 (I)</li> <li>3. DNA の複製</li> <li>4. DNA の修復</li> <li>5. DNA の組み換え</li> <li>6. 核酸の構造 (II)</li> <li>7. RNA プロセッシング</li> <li>8. 翻訳</li> <li>9. 遺伝発現の調節</li> <li>10. ヌクレオチド代謝</li> </ol>				
受講要件	基礎生化学、代謝生化学の履修を前提とする。生物学 I・II を履修していることが望ましい。				
テキスト	ヴォート基礎生化学・第4版（東京化学同人）				
参考書	細胞の分子生物学・第5版（ニュートンプレス）				
予習・復習について	ヴォート基礎生化学の予習と復習が必要である。				
成績評価の方法・基準	期末試験とレポートで評価する。				
オフィスアワー	月曜日～金曜日 8:00～19:00				
担当教員からのメッセージ	情報生化学は、DNA からの遺伝情報の伝達順序である「セントラルドグマ」を分子レベルで理解する科目です。特に生体分子の構造と機能との関連を意識して当該分野を理解してもらいたい。				

授業科目名	細胞生物学 Cell Biology				
担当教員名	丑丸 敬史 USHIMARU Takashi		所属等	学術院理学領域	
			研究室	総合研究棟 702	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	水 3・4
キーワード	細胞周期、シグナル伝達、細胞老化、アポトーシス、癌、DNA複製、染色体分離分配				
授業の目標	細胞の増殖のしくみに焦点をあてるとともに、細胞の積極的な死のしくみも学ぶ。				
学習内容	授業計画を参照。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 普遍的な真理とモデル生物</li> <li>2. モデル生物としての酵母</li> <li>3. 細胞内のシグナル伝達</li> <li>4. G1期に起きるイベント（中心体の複製開始。中心体の細胞周期を通じた挙動）</li> <li>5. S期に起きるイベント（DNA複製。なぜ複製は一回しか起こらないか）</li> <li>6. DNA複製チェックポイント（DNA複製が遅れた場合にS期から脱出しない機構）</li> <li>7. M期に起きるイベント・1（染色体の分離。正確に1コピーずつ分配する機構）</li> <li>8. M期に起きるイベント・2（染色体分離の完了とM期からの脱出）</li> <li>9. DNAダメージチェックポイントと細胞周期（DNAダメージを修復するまで次の細胞周期に進まない機構）</li> <li>10. 細胞分化と細胞周期（増殖か分化か？ G1期での選択）</li> <li>11. アポトーシス</li> <li>12. 癌（癌発症の機構）</li> </ol>				
受講要件	分子生物学、生化学をすでに受講していることが望ましい。				
テキスト	『細胞の分子生物学』（第15, 17, 18章）。				
参考書	必要に応じてプリントを配布する。				
予習・復習について	予習・復習として授業範囲のテキスト又はプリントを読む。				
成績評価の方法・基準	毎回の小テスト、期末のテスト、レポート。				
オフィスアワー	特に定めないが、夕方以降がありがたい。いない場合もあるため、来る前にはメール等で連絡をして欲しい。 sbtushi@ipc.shizuoka.ac.jp				
担当教員からのメッセージ	授業に積極的に参加して、質問を活発にして欲しい。				

授業科目名	地球ダイナミクス概論Ⅱ Introduction to Geodynamics II				
担当教員名	道林 克禎 MICHIBAYASHI Katsuyoshi		所属等	学術院理学領域	
			研究室	理学部C棟 401	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水3・4
キーワード	地球変動、マントル対流、大陸移動説、海洋底拡大説、テクトニクス、造山運動、地殻変動、日本列島、東海地域				
授業の目標	地球のダイナミクスを理解する上で重要な地球の熱進化過程,プレートテクトニクスを学び,それらをふまえて日本列島で起こる様々な地殻変動の意味を理解する.				
学習内容	概論Ⅰに引き続き,地球のダイナミクスを解説するうえで重要な地球内部の構造を理解するための地球変動史を解説する.引き続いて,地殻およびマントル上部の運動を支配するプレートテクトニクスの理論について,その成り立ちと概要を解説する.これらをふまえて,日本列島周辺の過去から現在にかけてのプレートシステムの変遷,変動帯日本列島,とりわけ地殻変動の活発な東海地域周辺の位置づけ,成り立ちを明確にする.				
授業計画	1 項目 1 時間とは限らない  1 地球の誕生と層構造 2 コア・マントル 3 プレートテクトニクス 4 巨大火成岩岩石区 5 沈み込み帯 6 大陸成長 7 日本の地質構造 8 東海地域の地殻変動と地質構造				
受講要件					
テキスト					
参考書	適宜紹介する				
予習・復習について	レポート等と併せて授業内容に関係した部分について適宜参考書等を独習しておくことを勧める.授業時間中に不明の点について随時質問できるように予習・復習する姿勢を養うこと.				
成績評価の方法・基準	レポート,期末試験,出席状況などを総合して評価する.				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	堆積学 Sedimentology				
担当教員名	北村 晃寿 KITAMURA Akihisa		所属等	大学院理学領域	
			研究室	共通教育 C 棟 311	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期前半		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	1	曜日・時限	水 3・4
キーワード	堆積作用、堆積構造、岩相解析、堆積環境、海水準変動				
授業の目標	堆積学についての基礎的かつ必須事項を修得する。				
学習内容	<p>生物進化や地球環境の変遷を明らかにする際に、地層中に残された様々な記録は大変に役立つ。それらの記録から正しい情報を引き出すためには、地層がどのように形成されたかを理解する必要がある。そこで、本講義では堆積作用、堆積構造、岩相解析、堆積環境、海水準変動に関して解説する。</p> <p>講義はパワーポイントと配布資料で行う。パワーポイントで「ノート」と示した箇所は、筆記具でノートに書き込むか、PCに打ち込むか、あるいは記憶する。カメラ撮影は許可しない。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 堆積作用一砕屑物の運搬と沈降</li> <li>2. 堆積構造とベッドフォーム</li> <li>3. 堆積重力流</li> <li>4. 生物攪拌</li> <li>5. 岩相解析・河川とデルタの堆積物</li> <li>6. 浅海・海底扇状地の堆積物</li> <li>7. 海水準変動</li> </ol>				
受講要件	なし				
テキスト	なし。				
参考書	岩相解析および堆積構造（八木下晃司著・古今書院）。 毎回プリントを配布する。				
予習・復習について	配布資料とノートをもとに予習・復習すること。				
成績評価の方法・基準	試験結果とレポートの内容を加味して評価をする。ただし、出席 70%未満の場合は不可とする。				
オフィスアワー	相談内容・日時に関しては、まずメールで連絡下さい(アドレス：seakita@ipc.shizuoka.ac.jp)				
担当教員からのメッセージ	なし				

授業科目名	地球環境微生物学 Environmental microbiology on earth				
担当教員名	加藤 憲二 KATO Kenji		所属等	学術院理学領域	
			研究室	共通教育 C 棟 602	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期後半		必修選択区分 選必
対象学年	3 年	単位数	1	曜日・時限	水 3・4
キーワード	多様な地球環境、微生物生態系、物質循環				
授業の目標	地球環境を理解する上で微生物の働きを理解することは必須である。多様な環境の中での微生物の生態と機能を学ぶ。				
学習内容	原核生物（バクテリアとアーキアから成る）は地球上に最初の生命として登場してから35億年ほどの間に自らの代謝機能を進化させ、地球環境をも変化させながら、その分布域を地球のあらゆる空間へと広げた。暗黒で無酸素の地下圏にも微生物による広大な生命圏が存在することを明らかになっている。生命の持続的維持装置である生態系には、必ず原核生物が主要メンバーとして含まれており、その維持に重要な役割を果たしている。さまざまな地球上の生態系で、原核生物がどのような活動をしているかを水圏から地下圏にわたって講義する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>“微生物”とは？ <ol style="list-style-type: none"> <li>原核生物を定義する</li> <li>原核生物 vs. 真核生物</li> <li>コッホの4原則</li> </ol> </li> <li>Koch, Pasteur, Winogradsky <ol style="list-style-type: none"> <li>Winogradsky 登場</li> <li>VBNC(viable but non-culturable, yet)：自然界は培養できない未知の原核生物であふれている。</li> </ol> </li> <li>水圏生態系の中の微生物 <ol style="list-style-type: none"> <li>炭素循環と好気性従属栄養細菌</li> <li>微生物ループ、ボトムアップとトップダウン</li> <li>複雑に仕組まれた生態系の中の光合成細菌</li> <li>湖や海の沿岸の底では硫酸還元菌</li> </ol> </li> <li>バイオマット <ol style="list-style-type: none"> <li>高温極限環境で硫化水素を使った化学合成</li> <li>高温極限環境で誕生した酸素発生型の光合成細菌</li> </ol> </li> <li>窒素循環と微生物 <ol style="list-style-type: none"> <li>窒素は地球内部に大きなリザーバーがない</li> <li>脱窒（硝酸還元）作用</li> </ol> </li> <li>地下圏には膨大な微生物圏がある <ol style="list-style-type: none"> <li>メタン生成アーキアと微生物コンソーシアム</li> </ol> </li> <li>地球科学と生命科学の連携 <ol style="list-style-type: none"> <li>これからどのようなことが明らかになっていくだろうか</li> <li>それにはどのような意味があるか</li> </ol> </li> </ol>				
受講要件	化学と生物学について必要に応じて高等学校程度の知識は整理、理解しておくこと。				
テキスト	特に定めない。				
参考書	適宜紹介する。				
予習・復習について	配付された資料を次回までに理解すること。講義の前に前回の講義内容を見直すこと。これらは必須。また次に語られる内容について自分なりに少しいメージを持つことが望ましい。				
成績評価の方法・基準	授業への参加（出席することだけではない）と期末試験によって行う。				
オフィスアワー	講義終了後と月曜日の昼休み時間があるがたい。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	集合・位相 Introduction to Set theory and Topology				
担当教員名	横山 美佐子 YOKOYAMA Misako		所属等	学院院理学領域	
			研究室	理 C614	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水 5・6
キーワード	集合、写像、連続、開集合、閉集合				
授業の目標	現代数学の基礎である集合や写像、位相の基礎を学ぶ。				
学習内容	集合と位相空間論の基本的事項について講義する。				
授業計画	<p>おおよそ、次のような内容を講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 集合</li> <li>2. 写像</li> <li>3. 集合族の演算</li> <li>4. 同値関係</li> <li>5. 無限集合</li> <li>6. ここまでのまとめ</li> <li>7. 関数空間</li> <li>8. 距離空間</li> <li>9. 開集合と閉集合</li> <li>10. ここまでのまとめ</li> <li>11. 収束性</li> <li>12. 連続</li> <li>13. 一様連続</li> <li>14. 完備距離空間</li> <li>15. 位相空間</li> </ol>				
受講要件					
テキスト	理工基礎 演習 集合と位相 鈴木晋一著 サイエンス社				
参考書					
予習・復習について	毎回復習してください。				
成績評価の方法・基準	中間・期末試験を実施する予定。場合により、レポートを適宜出題することがある。				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ	演習の授業で積極的に問題を解いてください。				



授業科目名	基礎物理学 I Fundamental Physics I				
担当教員名	松山 晶彦 MATSUYAMA Akihiko		所属等	学術院理学領域	
			研究室	共通教育C棟C414	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期前半		必修選択区分 必
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	水5・6、金3・4
キーワード	力学、微分、積分				
授業の目標	物理学の基礎にある力学を学びながら、大学で物理学を学ぶために必要な数学を習得する。				
学習内容	適宜演習を交えながら力学と基礎的な数学を並行して学んでいく。「基礎物理学 I」では、これから必要になる基礎的な数学の習得に重点が置かれる。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 微分積分の復習</li> <li>2. 複素数、スカラーとベクトル、ベクトルの内積、ベクトルの外積</li> <li>3. ベクトルの微分、速度ベクトル、加速度ベクトル</li> <li>4. ニュートンの運動の3法則</li> <li>5. テイラー展開</li> <li>6. 偏微分、全微分</li> <li>7. 多変数関数のテイラー展開</li> <li>8. 微分方程式</li> </ol> <p>この講義は週に2回開講され、前期の前半16回分をもって終了する。前期の後半は、「基礎物理学 II」の講義が同じ形式で開講される。</p>				
受講要件	なし				
テキスト	和達 三樹著「物理のための数学（物理入門コース10）」（岩波書店、ISBN-13: 978-4000076500）				
参考書	吉岡 大二郎著「力学(朝倉物理学選書)」（朝倉書店、ISBN-13: 978-4254137569）				
予習・復習について	授業のノートや教科書を読み、よく考えて、手を動かし計算して、復習することが大切である。授業中は理解できたつもりでも後になると分からなくなってしまうことはよくあるので、その日のうちにノートをまとめる習慣をつけると良い。				
成績評価の方法・基準	出席、宿題、発表、および定期試験				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ	授業中も質問は随時受け付けるので、なるべくその場で理解するよう努力してほしい。				

授業科目名	基礎物理学Ⅱ Fundamental Physics II				
担当教員名	松山 晶彦 MATSUYAMA Akihiko		所属等	学術院理学領域	
			研究室	共通教育C棟C414	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期後半		必修選択区分 必
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	水5・6、金3・4
キーワード	微分、積分、力学				
授業の目標	基礎物理学Ⅰに引き続き、物理学の基礎にある力学を学びながら、大学で物理学を学ぶために必要な数学を習得する。				
学習内容	適宜演習を交えながら、力学と基礎的な数学を並行して学んでいく。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 簡単な運動の解析</li> <li>2. 力積と運動量保存則</li> <li>3. 極座標</li> <li>4. 角運動量と力のモーメント</li> <li>5. 中心力と角運動量保存則</li> <li>6. 線積分と仕事</li> <li>7. 保存力と力学的エネルギー保存則</li> <li>8. 重積分</li> <li>9. 万有引力のポテンシャルエネルギー</li> </ol> <p>この講義は週に2回開講され、前期の後半16回分をもって終了する。前半は、「基礎物理学Ⅰ」の講義が同じ形式で開講される。</p>				
受講要件	基礎物理学Ⅰの単位を取得していることが望ましい。				
テキスト	吉岡 大二郎著 「力学(朝倉物理学選書)」 (朝倉書店、ISBN-13: 978-4254137569)				
参考書	和達 三樹著「物理のための数学(物理入門コース10)」(岩波書店、ISBN-13: 978-400076500)				
予習・復習について	授業のノートや教科書を読み、よく考えて、手を動かし計算して、復習することが大切である。授業中は理解できたつもりでも後になると分からなくなってしまうことはよくあるので、その日のうちにノートをまとめる習慣をつけると良い。				
成績評価の方法・基準	出席、宿題、発表、および定期試験				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ	授業中も質問は随時受け付けるので、なるべくその場で理解するよう努力してほしい。				

授業科目名	地球科学入門 I Introduction to Geosciences I				
担当教員名	石橋 秀巳 ISHIBASHI Hidemi		所属等	学術院理学領域	
			研究室	共通教育 C 棟 310	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	木 1・2
キーワード	地球システム、鉱物、岩石、火山、マグマ、噴火、火成活動				
授業の目標	英語で書かれた教科書に沿って学習しながら、地球科学の基礎的素養を幅広く身につける。 地球科学の専門用語を英語と日本語に対応させ、その内容を理解する。				
学習内容	英語の教科書を使いながら、地球科学の基本的な考え方と、鉱物・岩石・火山に関する地球科学の基礎知識を学習する。				
授業計画	Chap.1. Introduction to Earth Science Chap.2 Matter and Minerals Chap.3. Rocks: Materials on the Solid Earth Chap.9. Volcanoes and Other Igneous Activity				
受講要件	特になし				
テキスト	Tarbuck, E. J., Ludgens, F. K., Tasa, D., Earth Science. 14th Edition. (2015)PEARSON, ISBN 10: 1-292-06131-6 ニューステージ新地学図表 - 地学基礎+地学 (浜島書店, 2013)				
参考書	酒井治孝著「地球学入門 惑星地球と大気・海洋のシステム」東海大学出版会, 2003, ISBN978-4-486-01615-1				
予習・復習について	英語辞書などを使って教科書をよく読み、十分に予習してきてください。				
成績評価の方法・基準	出席、小テスト・小レポートおよび試験の成績により総合的に評価する。				
オフィスアワー	相談の際はメールでアポイントをとってください。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	統計力学 I Statistical Mechanics I				
担当教員名	鈴木 淳史 SUZUKI Junji		所属等	大学院理学領域	
			研究室	理学部 A 棟 502	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	木 3・4
キーワード	温度、エントロピー				
授業の目標					
学習内容	マクロな立場で構築された熱力学をミクロな立場から理解する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 確率の復習</li> <li>2. 確率過程, 分布関数</li> <li>3. 解析力学の復習</li> <li>4. ブラウン運動</li> <li>5. 一般力, ゆらぎ</li> <li>6. Boltzmann の H 関数</li> <li>7. ミクロとマクロ</li> <li>8. 統計集団の考え方</li> <li>9. ミクロカノニカル集団とエントロピー</li> <li>10. カノニカル分布と自由エネルギー</li> </ol>				
受講要件	3年生の科目の受講条件をクリアしていること。				
テキスト	授業初回に紹介する。				
参考書	「大学演習 熱学・統計力学」 裳華房 久保亮五 編 など				
予習・復習について	毎回やること。特に復習が重要				
成績評価の方法・基準	中間・期末試験（欠席は受講放棄とみなす）とレポート・出席で総合評価				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	構造錯体化学 Structural Coordination Chemistry				
担当教員名	近藤 満 KONDO Mitsuru		所属等	グリーン科学技術研究所	
			研究室	総合研究棟 501	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	木 3・4
キーワード	錯体化学、錯体の命名法、錯体の立体構造、配位子場理論、電子スペクトル、磁気的性質、第一遷移元素の化合物				
授業の目標	配位化合物を理解するための基本的な法則や原理を学ぶ。				
学習内容	金属原子または金属イオンが、陰イオンや中性分子の無機化合物、あるいは有機化合物との組み合わせから、多様な金属錯体（配位化合物ともよばれる）を生成する。金属錯体や、金属を含む化合物が様々な色を出すしくみ、さらに、その制御された立体構造や種々の化学的・物理的性質がどのような原理で発現するのかを学ぶ。錯体化学の基礎となる命名法や異性現象、配位結合の理論と構造および性質との関係、さらに個々の第一遷移金属の性質について解説する。				
授業計画	テキストの章に従い、次の項目を講義する。 20～23章: dブロック金属の化学 29章: 生体内の微量金属				
	回	内容			
	1	21章 dブロック金属の化学: 配位化合物／結晶場理論			
	2	21章 dブロック金属の化学: 配位化合物／八面体型錯体の結晶場 他			
	3	21章 dブロック金属の化学: 配位化合物／金属イオンのジオメトリーと結晶場の関係 他			
	4	21章 dブロック金属の化学: 配位化合物／高スピンおよび低スピン 他			
	5	21章 dブロック金属の化学: 配位化合物／金属錯体の電子スペクトルについて			
	6	21章 dブロック金属の化学: 配位化合物／金属錯体の磁気的性質			
	7	20章 dブロック金属の化学: 概説／金属錯体の構造全般			
	8	22章 dブロック金属の化学: 第一列金属／産出、用途他			
	9	22章 dブロック金属の化学: 第一列金属／チタン、バナジウム、マンガン、鉄 他			
	10	22章 dブロック金属の化学: 第一列金属／コバルト、ニッケル、銅 他			
	11	23章 dブロック金属の化学: 第二列および第三列金属／産出、用途他			
	12	23章 dブロック金属の化学: 第二列および第三列金属／ニオブ、タンタル、タングステン 他			
	13	23章 dブロック金属の化学: 第二列および第三列金属／ロジウム、イリジウム、白金 他			
	14	29章 生体内の微量金属/金属貯蔵と輸送 他			
	15	29章 生体内の微量金属/生体内に見られる種々の反応			
受講要件	「無機化学Ⅰ」で学ぶ無機化学の基礎が理解されているものとして解説する。				
テキスト	Catherine E, Housecroft・Alan G. Sharpe 著／巽 和行・西原 寛・他 監訳 「ハウスクロフト無機化学(下)」(東京化学同人)				
参考書	必要に応じて講義中に紹介する。				

予習・復習について	授業毎に予習と復習をすること。
成績評価の方法・基準	出席状況と期末試験の得点を総合して評価する。
オフィスアワー	特に指定しない。
担当教員からのメッセージ	質問はできるだけ授業中に。研究室での質問等も随時受け付ける。

授業科目名	植物系統分類学 Plant Systematics				
担当教員名	徳岡 徹 TOKUOKA Toru		所属等	大学院理学領域	
			研究室	理学部A棟 517	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	木 3・4
キーワード	被子植物、系統、形態、進化				
授業の目標	地球上には非常に多様な植物が生育している。この多様な形態を学び、この多様性を生み出した進化を理解する。				
学習内容	被子植物は地球上に約25万種ある。これらを進化の順序に従って整然と分類することを目標に研究者は植物の様々な形態から始まりDNAデータまでを詳細に観察してきました。これらの知見を紹介し、様々な植物それぞれの特徴を学び、現在見られる膨大な多様性を生み出した進化がどのように起こったのかを考える。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス：植物の多様性</li> <li>2. 分類とは</li> <li>3. 系統解析の基礎 1</li> <li>4. 系統解析の基礎 2</li> <li>5. 系統解析の基礎 3</li> <li>6. 生活環、藻類、コケ類</li> <li>7. シダ植物 1</li> <li>8. シダ植物 2、裸子植物 1</li> <li>9. 裸子植物 2</li> <li>10. 被子植物の共有派生形質</li> <li>11. 原始的被子植物</li> <li>12. 単子葉植物</li> <li>13. 離弁花植物</li> <li>14. 合弁花植物</li> <li>15. まとめ</li> </ol>				
受講要件					
テキスト	特に指定しない。資料は随時配布します。				
参考書	Plant Systematics: A Phylogenetic Approach, Walter S. Judd (ed.), Sinauer, 2002, 0878934030 被子植物の系統、田村道夫、三省堂、1974、BN01321887 (NCID)				
予習・復習について	関連する事項について、参考書などを活用して予習・復習するようにしてください				
成績評価の方法・基準	授業中の小レポートと期末試験により評価する				
オフィスアワー	特に定めていないが、随時受け入れます				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	放射線物理学概論 Fundamentals of Radiation Physics				
担当教員名	近田 拓未 CHIKADA Takumi		所属等	大学院理学領域	
			研究室	理学部 A 棟 204	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 ー
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	木 5・6
キーワード	放射線、放射性核種、放射線取扱主任者				
授業の目標	全学科の2～4年生を対象とした、放射線取扱主任者試験に向けて必要となる放射線物理学の基礎の理解				
学習内容	原子核の構造、放射性崩壊、核反応および放射線と物質の相互作用等を解説するとともに逐次演習を行う。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 原子の構造 原子模型、励起と電離、X線、オージェ効果</li> <li>2. 原子核の構造 原子質量単位、結合エネルギーと原子核の大きさ</li> <li>3. 放射性壊変 <math>\alpha</math>壊変、<math>\beta</math>壊変、<math>\gamma</math>線の放出と原子核のエネルギー準位、自発核分裂、壊変の法則、壊変図式</li> <li>4. 核反応 核反応の表式、核反応断面積、放射性核種の生成、核反応の種類、放射化</li> <li>5. 加速器 加速器の原理、加速器の種類</li> <li>6. 荷電粒子と物質の相互作用 電離と励起、阻止能と飛程、電子と物質の相互作用、重荷電粒子と物質の相互作用</li> <li>7. 光子と物質の相互作用 光電効果、コンプトン効果、電子対生成、光子の減弱と物質へのエネルギー伝達、衝突カーマ、吸収線量、照射線量</li> <li>8. 中性子と物質の相互作用 中性子捕獲反応、弾性散乱、その他の中性子反応</li> </ol>				
受講要件	特になし				
テキスト	放射線概論 第8版 (柴田 徳思 編、通商産業研究社)				
参考書	放射線取扱主任者試験問題集 第1種、第2種 (発行：通商産業研究社)				
予習・復習について	毎回の講義内容を演習問題とともに必ず復習すること。				
成績評価の方法・基準	毎回の演習および期末試験により評価する。				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ	<p>放射線取扱主任者試験の受験を目指す学生は、本講義の他に放射化学概論（化学科の学生には別途放射化学 I・IIが開講される）、放射線生物学概論、放射線計測・管理学概論を受講することで試験範囲の大半を網羅できます。</p> <p>放射線取扱主任者は、多くの企業や研究機関で必要とされる国家資格です。学生時代に資格を取り、自らに付加価値を付けよう！</p>				



授業科目名	複素解析学 Complex Analysis				
担当教員名	奥村 善英 OKUMURA Yoshihide		所属等	大学院理学領域	
			研究室	理学部 C 棟 613	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	金 1・2
キーワード	積分公式、整級数、一致の定理、Liouville の定理、最大値の原理、Laurent 展開、孤立特異点、有理型関数、留数定理、偏角の原理				
授業の目標	正則関数と有理型関数の理論を中心に解説を行います。 はじめに「関数論入門」の続きとして、Cauchy の積分定理を用いて、正則関数の性質を導きます。Cauchy の積分公式、べき級数の性質、Taylor 展開、一致の定理、Liouville の定理、最大値の原理そして代数学の基本定理等を扱います。次に、有理型関数の説明として、Laurent 展開、孤立特異点（特に極、真性特異点）、留数定理等を扱います。さらに、これらの応用として、実定積分の計算、偏角の原理と Rouché の定理を説明します。				
学習内容	複素解析学（関数論）は微分積分学に続いて学習される数学の基礎的な分野です。純粋数学の多くの美しい結果や驚くべき結果をうみ出す肥沃な領域です。純粋数学の中心をなす諸分野（例えば、リーマン面論、複素多様体論、タイヒミュラー空間論、代数幾何学、整数論等）は、複素解析学の上に築かれていると言えます。また、複素解析学は物理学等の自然科学諸分野にも、広く応用されています。 本学科における複素解析学の授業は四部から成っています。第一部は「関数論入門」、第二部は「複素解析学」、第三部は「複素解析学 I」、そして第四部は「複素解析学 II」です。 第一部および第二部では、複素解析学の基礎の習得を目標とします。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>積分定理</li> <li>積分公式</li> <li>Liouville の定理と代数学の基本定理</li> <li>べき級数の性質</li> <li>Taylor 展開</li> <li>一致の定理</li> <li>最大値の原理</li> <li>Laurent 展開</li> <li>孤立特異点</li> <li>留数定理</li> <li>有理型関数</li> <li>実定積分の計算 1</li> <li>実定積分の計算 2</li> <li>偏角の原理</li> <li>Rouché の定理</li> </ol>				
受講要件	「関数論入門」を受講していることが望ましい。				
テキスト	谷口健二・時弘哲治, 複素解析 (裳華房) 洲之内治男著, 演習 関数論 (サイエンス社).				
参考書	神保道夫著, 複素関数入門 (岩波書店). 林一道著, 初等関数論 (裳華房). 藤本 淳夫著, 複素解析学概説 (培風館). 野口潤次郎著, 複素解析概論 (裳華房). L.V.アールフォルス著, 複素解析 (現代数学社). 佐藤宏樹著, 複素解析学 (近代科学社). 谷口雅彦・奥村善英共著, 双曲幾何学への招待 (培風館). 辻正次・小松勇作共編, 大学演習関数論 (裳華房).				
予習・復習について	この講義では、美しい結果や驚くような結果が多く出てきます。最初は説明や証明が難しいかもしれませんが、そのからくりが理解できるように、講義、講義ノートや教科書を見直して下さい。				
成績評価の方法・基準	定期試験を主に、受講態度、レポート等を加えて評価し判定します。				
オフィスアワー	講義中に連絡します。				
担当教員からのメッセージ	この講義から、複素解析学の第二部の勉強がはじまります。複素関数論の美しい結果や驚くような結果を味わって下さい。そして、複素関数論が他の分野と密接に関わり、実り多い学問であることを実感して下さい。				

授業科目名	量子力学 I Quantum Mechanics I				
担当教員名	土屋 麻人 TSUCHIYA Asato		所属等	大学院理学領域	
			研究室	理 A401	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	金 1・2
キーワード	粒子性と波動性、重ね合わせの原理、波束、シュレディンガーの波動方程式、波動関数、確率解釈、エルミート演算子、トンネル効果、束縛状態、水素原子				
授業の目標	量子力学の考え方を習得し、基本的な問題を解いて、量子力学の理解を深めることを目標とする。				
学習内容	実験事実をもとに量子力学の基本的な考え方を説明し、典型的な問題について解説しながら、量子力学の基本的な理論形式を学ぶ。				
授業計画	1. 量子論の誕生				
	2. シュレディンガー方程式				
	3. 1次元の量子系				
	4. 物理量と期待値				
	回	内容			
	1	古典論の困難、原子のスペクトルの離散性、エネルギー量子の発見			
	2	光の2重性、電子の2重性			
	3	経路積分からシュレディンガー方程式へ			
	4	波動関数と確率解釈			
	5	物理量の演算子と期待値			
	6	エーレンフェストの定理と古典極限、波束と不確定性関係			
	7	中間試験			
	8	1次元のシュレディンガー方程式の一般的性質			
	9	波動の反射と透過			
	10	ポテンシャル障壁とトンネル効果			
	11	束縛状態 井戸型ポテンシャル			
	12	束縛状態 調和振動子			
13	物理量とエルミート演算子、エルミート演算子の固有値と固有関数				
14	エルミート演算子の固有関数の性質 1				
15	エルミート演算子の固有関数の性質 2				
受講要件	基礎物理学 I・II、力学 I・II、解析力学、電磁気学 I・II、物理数学 I を履修していることが望ましい。				
テキスト	「量子力学 I」原康夫著 岩波書店				
参考書	必要に応じて紹介する。				
予習・復習について	復習を行うこと。				

成績評価の方法・基準	中間試験と期末試験とレポート
オフィスアワー	随時。
担当教員からのメッセージ	現代物理学は量子力学を抜きに語ることはできない。量子力学の考え方は、これまで勉強してきた古典の物理学（力学や電磁気学）とは大きく異なるが、柔軟に対応して、この考え方を習得してほしい。自ら手を動かすことが大事である。

授業科目名	無機化学Ⅱ Inorganic Chemistry II				
担当教員名	守谷 誠 MORIYA Makoto		所属等	学術院理学領域	
			研究室	総 503	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	金 1・2
キーワード	無機化学、酸化と還元、非水系溶媒、典型元素の性質、材料科学				
授業の目標	酸と塩基、典型元素の性質など無機化学を理解するための基礎を習得する。				
学習内容	「無機化学Ⅰ」で学習した無機化学の基本的な法則や原理を踏まえ、無機化合物の反応において重要な溶媒の種類と性質および酸と塩基の定義を解説した後、主に典型元素の単体と化合物について、同族元素に共通する性質と各元素に特有の性質を解説する。				
授業計画	<p>「無機化学Ⅰ」に引き続き、元素の構造と性質について解説する。 酸化還元概念と定義、水素や酸素の電子状態や反応性など、無機化合物の性質について紹介する。テキストの章に従い、次の項目を講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 8章：酸化と還元 酸化還元反応と酸化数 還元電位とギブズエネルギー</li> <li>2. 8章：酸化と還元 電位図、酸化還元反応の工業プロセスへの応用</li> <li>3. 9章：非水系溶媒 比誘電率、非水溶媒中での酸-塩基の挙動</li> <li>4. 9章：液体アンモニア、液体フッ化水素、硫酸、超酸</li> <li>5. 9章：イオン液体、超臨界流体</li> <li>6. 10章：水素</li> <li>7. 11章：1族元素 アルカリ金属</li> <li>8. 12章：2族金属元素</li> <li>9. 13章：13族元素</li> <li>10. 14章：14族元素 炭素</li> <li>11. 14章：14族元素 ケイ素、ゲルマニウム、スズ、鉛</li> <li>12. 15章：15族元素</li> <li>13. 16章：16族元素</li> <li>14. 17章・18章：17族・18族元素</li> <li>15. 28章：固体化学に関する最新の話</li> </ol>				
受講要件	無機化学Ⅰを履修していること。				
テキスト	C. E. Housecroft・A. G. Sharpe 著／巽和行・西原寛・穂田宗隆・酒井健 監訳 「ハウスクロフト無機化学(上)」(東京化学同人)				
参考書	講義中に紹介する。				
予習・復習について	毎回の講義毎に予習・復習をすること。				
成績評価の方法・基準	レポート、期末試験の結果を総合して評価する。				
オフィスアワー	質問はできるだけ授業中に。特に時間を指定しないが、研究室での質問等は随時受け付ける。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	分子遺伝学 Molecular Genetics				
担当教員名	山内 清志 YAMAUCHI Kiyoshi		所属等	グリーン科学技術研究所	
			研究室	総合研究棟 602	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	金 1・2
キーワード	ゲノム情報、転写調節、転写後調節、機能解析技術				
授業の目標	遺伝情報の発現調節機構を理解する。				
学習内容	染色体遺伝子の可変性を理解し、その発現調節を転写や翻訳および翻訳後レベルで学習する。また、種々のRNAを介した調節に触れ、ゲノム進化についての理解を深める。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ゲノム解析からわかること</li> <li>2. 遺伝子調節蛋白質</li> <li>3. DNA 結合モチーフ</li> <li>4. オペロン説</li> <li>5. 原核生物の遺伝子発現制御</li> <li>6. <math>\lambda</math>ファージの溶菌・溶原コントロール</li> <li>7. 真核生物の転写</li> <li>8. RNA プロセッシング</li> <li>9. 転写制御</li> <li>10. シグナル伝達系</li> <li>11. 翻訳後修飾</li> <li>12. タンパク質にならないRNAの機能</li> <li>13. DNAのメチル化とヒストンのアセチル化</li> <li>14. 遺伝子発現と機能解析技術</li> <li>15. まとめ</li> </ol>				
受講要件	「分子生物学」(1年・後期)と履修していることが望ましい。				
テキスト	ブルース・アルバーツほか著、中村桂子・松原謙一監訳「細胞の分子生物学(第5版)」(ニュートンプレス)				
参考書	指定しない				
予習・復習について	授業の進行に合わせてテキストを用いて予習・復習に取り組むこと。 HP( <a href="http://www4.tokai.or.jp/kyama">http://www4.tokai.or.jp/kyama</a> )に「講義の概要と手引き」があるので、予習・復習に活用するとよい。				
成績評価の方法・基準	毎回の授業の開始時に前回の授業の復習を兼ねて小テストを行い、それによって普段の学習への姿勢を評価し(33%)、試験において到達度を評価する(66%)。両者の評価を総合して最終的な成績評価とする。				
オフィスアワー	適宜応じる。事前に <a href="mailto:sbkyama@ipc.shizuoka.ac.jp">sbkyama@ipc.shizuoka.ac.jp</a> に連絡すること。				
担当教員からのメッセージ	積極的な姿勢で受講してほしい。				

授業科目名	生物学 I Biology I				
担当教員名	徳元 俊伸 TOKUMOTO Toshinobu		所属等	学術院理学領域	
			研究室	総合研究棟 625 室	
分担教員名	丑丸 敬史				
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	金 1・2
キーワード	生体分子、生命の起源、細胞構造、細胞分裂、有性生殖と減数分裂、DNA、遺伝子組換え技術、ゲノム、遺伝子発現の制御				
授業の目標	生物学 I と生物学 II を前期、後期を通して、生物学の幅広い分野の基礎を学ぶ。				
学習内容	主に名著レーヴン／ジョンソン『生物学』（上）をテキストとして生物学の基礎を学ぶ（本授業の続きは後期に生物学 II として開講される）。まず生物とは何かを定義し、生命の最小単位である細胞について、またそれをささえる分子、DNA に関して解説する。さらに、生命の期限、遺伝子組換え技術についても教科書に準じて学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生物学とは</li> <li>2. 分子の性質</li> <li>3. 生命の科学的基礎</li> <li>4. 生命の起源と初期の進化</li> <li>5. 細胞の構造</li> <li>6. 細胞はいかに分裂するか？</li> <li>7. 自然淘汰と性淘汰</li> <li>8. 試験</li> <li>9. 膜</li> <li>10. 細胞間の相互作用 1</li> <li>11. 細胞間の相互作用 2</li> <li>12. 有性生殖と減数分裂 1</li> <li>13. 有性生殖と減数分裂 2</li> <li>14. 遺伝の様式 1</li> <li>15. 遺伝の様式 2</li> <li>16. 試験</li> </ol>				
受講要件	特になし				
テキスト	レーヴン／ジョンソン『生物学』（上巻）				
参考書	麻生一枝『科学でわかる 男と女の心と脳』、その他、適宜紹介				
予習・復習について	定められている教科書で予習復習、配布資料で復習を行う。				
成績評価の方法・基準	2 回のテストの他、出席代わりに毎回の小問から理解具合を参考に評価する。				
オフィスアワー	丑丸：月曜午後、徳元：月曜日 7・8 時限（2 時 25 分～3 時 55 分）を予定				
担当教員からのメッセージ	当講義の内容をヒントに、生命に対する認識を拓け、生物科学の専門講義や実験、卒業研究等の基礎を築いてほしい。自ら学びとる力を養ってほしい。				

授業科目名	岩石学 Petrology				
担当教員名	道林 克禎 MICHIBAYASHI Katsuyoshi		所属等	大学院理学領域	
			研究室	理学部C棟 401	
分担教員名	石橋 秀巳				
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	金 1・2
キーワード	マグマ、岩石、造岩鉱物、結晶、相平衡				
授業の目標	火成岩と変成岩の産状と、それらの生成メカニズムについて理解する。				
学習内容	鉱物と岩石の基礎的事項の理解の上において、火成岩と変成岩の産状、組織・構造、化学組成と構成鉱物およびそれらの形成メカニズムについて学習する。				
授業計画	I. 火成岩（石橋担当） 1. 鉱物共生の熱力学と相律、相図 2. 結晶作用 3. マグマの地球科学とテクトニクス II. 変成岩 1. 変成岩の種類と組織 2. 変成作用 3. テクトニクスと変成作用  1. 主要造岩鉱物と岩石の分類 2. 鉱物共生の熱力学的原理と相律 3. マグマの相図 1 4. マグマの相図 2 5. 結晶作用のカイネティクス 6. 元素分配と微量元素の挙動 7. 火成岩と火成活動 8. 中間テスト 9. 変成作用と変成岩 10. 変成岩の組織と構造 11. 変成鉱物の共生 12. 変成相と変成相系列 1 13. 変成相と変成相系列 2 14. 温度-圧力経路 15. 変成相系列とテクトニクス				
受講要件					
テキスト					
参考書	高橋正樹，島弧・マグマ・テクトニクス，東京大学出版会 榎並正樹，岩石学（現代地球科学入門シリーズ 16），共立出版 周藤賢治・小山内康人，岩石学概論〈上〉「記載岩石学」，岩石学概論〈下〉「解析岩石学」，共立出版 新版地学教育講座 4 巻，岩石と地下資源，東海大学出版会 岩波講座地球惑星科学，8, 9, 10 巻，岩波書店，東京。 変成作用，都城秋穂，岩波書店				
予習・復習について	授業内容に関係した部分について適宜参考書を独習しておくことを勧める。				
成績評価の方法・基準	出席状況と課題レポート、中間テストと学期末テストを総合して評価する				
オフィスアワー	基本的にメールで対応する。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	微分積分学Ⅲ Infinitesimal Calculus III				
担当教員名	田中 直樹 TANAKA Naoki		所属等	大学院理学領域	
			研究室	理学部 C 棟 602	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	金 3・4
キーワード	偏微分、全微分、テイラーの定理、陰関数の定理、逆関数の定理、条件付極値問題				
授業の目標	多変数関数の微分積分学のうち、主に多変数関数の微分についての基本的内容を学ぶ。				
学習内容	数学科では1・2年次に微分積分学全般を必修科目として学習する。1年次では主に実数論と1変数関数の微分積分学を、2年次では多変数の微分積分学を学ぶ。この流れの中で微分積分学では主に多変数の微分法に関する基本的内容を、テイラーの定理などを初めとし、陰関数の定理、陰関数の定理、条件付極値問題までを解説することを目指して講義する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ユークリッド空間の点列と部分集合</li> <li>2. 連続写像</li> <li>3. 線形写像、写像の微分</li> <li>4. 全微分</li> <li>5. 偏微分</li> <li>6. 高次導関数</li> <li>7. テイラーの定理</li> <li>8. 極値問題</li> <li>9. 逆関数定理</li> <li>10. 陰関数定理</li> <li>11. 条件付極値問題</li> </ol>				
受講要件	微分積分学 I,II および線形代数学 I,II を学習していること。さらに、集合・位相を並行して学ぶこと。				
テキスト	白岩謙一 著「解析学入門」学術図書 ISBN4-87361-114-8				
参考書	笠原皓司 著「微分積分学」サイエンス社 (サイエンスライブラリ数学 12)				
予習・復習について	多変数関数の微分積分学は、1変数の場合と異なり、大学で初めて学ぶ数学であり、今までに学習した1変数微分学、線形代数学や2年次に並行して学ぶ集合・位相についての知識が必要とされるので予習復習〔主に復習〕が不可欠である。				
成績評価の方法・基準	成績評価の主要部は試験の成績の良否による。出席状況および関連したレポート問題を課す場合には、その実績も考慮する。 試験やレポートでの評価は論述的解答および記述が求められる。				
オフィスアワー	最初の授業時に述べる。				
担当教員からのメッセージ	1変数の場合と異なり、これらは大学で初めて学ぶ数学であり、今までに学習した1変数微分学、線形代数学や、並行して学ぶ集合・位相についての知識が必要とされます。講義内容の難易度も上がるが、具体例を挙げて解説するので、難しさを感じるのみでなく、理論の巧みさの一端も味わって新しい知識を習得して下さい。				



授業科目名	物理実験学 I Practical Physics I				
担当教員名	嶋田 大介 SHIMADA Daisuke		所属等	大学院理学領域	
			研究室	理A407 (理学部A棟)	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	金5・6
キーワード	物理学実験、実験方法、測定方法、データ処理、レポート作成、誤差、エレクトロニクス、実験用回路作製、電気回路、半導体回路				
授業の目標	物理学科2年生から始まる物理学実験と対応し、物理学実験方法とエレクトロニクスの基礎を習得する。				
学習内容	物理学実験Iと並行して実験を行うのに必要な事柄に関する講義を行う。さらに、物理実験で行う電気回路に関する基礎的な理論を修得する講義がないので、前半は交流回路の基礎に関する講義を行う。後半は物理学実験Iおよび物理学実験IIの中からいくつかの実験テーマを選び、理論的な原理などを紹介する。				
授業計画	単位について 電気回路の基礎 直流回路の解き方 交流回路の解き方I 交流回路の解き方II 共振回路 誤差について 最小2乗法 グラフとレポートの書き方 学生実験のいくつかのテーマについて				
受講要件	物理学科2年生の必修科目。				
テキスト	講義の中で必要なときに紹介する。				
参考書	講義の中で必要なときに紹介する。				
予習・復習について	復習を重視すること。講義内容を、実際の物理実験時に参考にすること。必要な部分は、図書館等で調べることを勧める。				
成績評価の方法・基準	小テスト、レポート、試験の結果により評価する				
オフィスアワー	水曜日の12時-14時 理学部B棟207室にて				
担当教員からのメッセージ	物理学実験を適切に行って行く為の基礎を学ぶ。その為、実学的・技術的内容が含まれる。実験に必要なエレクトロニクスの基礎をこの講義で学ぶ。				

授業科目名	物理実験学Ⅱ Practical Physics II				
担当教員名	三重野 哲 MIENO Tetsu		所属等	創造科学技術研究部	
			研究室	三重野研究室。理学部 A408 室	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	金 5・6
キーワード	物理実験、実験方法、測定方法、実証性、再現性、信頼性、発見、発明、データ処理、誤差				
授業の目標	実験や開発に取り組む時、どのようにすれば短時間で正確に目標に達することができるか学ぶ。実験計画時、実施時および実験後のデータ処理に必要な種々の知識を学ぶ。				
学習内容	研究・開発の場面では、しばしば実験・観測が必要となるが、ここでは物理学実験の場合を考える。実験結果から目的の現象が証明されたか？再現性・信頼性は有るか？定量的に値は正しいか？時間や実験装置は有効に使えたか？などの実験方法の適切さについて学習する。また、実験準備を合理的に行い、短期間で人々の評価を得るにはどうしたら良いか検討する。ビデオと配布資料を利用する。				
授業計画	1) 序論 2) 実験・観測の目的、意義 3) 実験計画法 4) 文献・資料の集め方 5) 実験の取り組み方。安全な実験。 6) 実験材料、試料、装置。試料や装置の準備。 7) 授受の物理量の測定方法、観測方法。 8) データ処理、コンピュータ利用 9) 実験のまとめ方。公表の仕方。				
受講要件	「物理実験学Ⅰ」の知識。物理学実験の経験。				
テキスト	プリントを配布する。ファイルに綴じること。				
参考書	物理実験指導書。物理実験者の為の13章（兵藤、東大出版会）。あなたも狙えノーベル賞（石田、化学同人）。セレンディピティ（化学同人）など。				
予習・復習について	復習を重視する。興味ある内容は、自主的に調べて欲しい。				
成績評価の方法・基準	受講状況、小テスト、レポート、試験（論述問題）にて成績を出す。レポートは、自分の力で調べてまとめること。				
オフィスアワー	月曜日、夕方、16時～18時を予定。				
担当教員からのメッセージ	多くの卒業生が、物理の基礎知識を身につけて、社会で活躍しています。研究や開発の現場で、実験知識は役立つでしょう。正確で分かりやすいレポート作成能力は、社会で役立ちます。				

授業科目名	地球科学入門Ⅱ Introduction to Earth Sciences II				
担当教員名	鈴木 雄太郎 SUZUKI Yutaro		所属等	学術院理学領域	
			研究室	理学部 C 棟 502	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	金 7・8
キーワード	風化・土壌、水、氷河・砂漠・風、地質年代、地球史				
授業の目標	英語で書かれた教科書に沿って地球科学全般を学習しながら英語表現や専門用語に慣れる。3・4年で学習する英語の論文を読み・理解する能力を身につける。				
学習内容	地球科学全般の基礎知識を学習し、習得する。 特に地形を形成する作用／堆積岩／地球史について学ぶ。				
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第1～6回講義まで堆積岩を組み込んだ以下の第2編を学んでゆく。 第2編 Sculpturing Earth's Surface. 第4章: Weathering, Soil, and Mass Wasting. 第5章: Running Water and Ground Water. 第6章: Glaciers, Deserts, and Wind.</li> <li>・ 第7回: 理解度テスト。</li> <li>・ 第7～15回講義まで堆積岩を組み込んだ以下の第2編を学んでゆく。 第4編 Deciphering Earth's History. 第11章: Geologic Time. 第12章: Earth's Evolution through Geologic Time.</li> <li>・ 第7～15回講義の範囲でテストを行う。</li> </ul>				
受講要件	特になし。				
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Earth Science : Pearson New International Edition, 810pp. 著者 : E.J. Tarbuck, F.K. Lutgens, D.G. Tasa.</li> <li>・ ニューステージ新地学図表—地学基礎+地学対応 浜島書店</li> </ul>				
参考書	特になし。				
予習・復習について	十分に英語辞書を使って教科書を予習しておくことをすすめる。				
成績評価の方法・基準	試験結果とレポートの内容を総合的に評価して成績とする。 出席率も評価に加味する。				
オフィスアワー	相談などは、事前にメールで連絡すること。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	分子遺伝学 Molecular Genetics			
担当教員名	本橋 令子	所属等	大学院農学領域	
		研究室	農学総合棟	
分担教員名				
クラス		学期	前期	必修選択区分
対象学年		単位数		曜日・時限 月 1・2
キーワード	遺伝学、分子生物学			
授業の目標	基礎的な遺伝学と分子生物学の習得			
学習内容	遺伝のしくみから遺伝子、転写、翻訳、DNA複製、細胞分裂、変異と修復、植物ゲノムと遺伝子操作について学ぶ			
授業計画	1回目.遺伝のしくみ(性と生殖1) 2回目.遺伝のしくみ(性と生殖2) 3回目.遺伝のしくみ(メンデルの法則) 4回目.遺伝のしくみ(いろいろな遺伝現象) 5回目.遺伝子 6回目.転写(ポリメラーゼ) 7回目.転写(転写調節) 8回目.翻訳 9回目.DNA複製 10回目.細胞分裂 11回目.染色体と遺伝 12回目.変異と修復 13回目.植物ゲノム 14回目.植物ゲノム 15回目.遺伝子操作 試験			
受講要件	必須			
テキスト	朝倉書店 植物遺伝学入門			
参考書	東京化学同人 基礎分子生物学			
予習・復習について	小テストを実施するので、復習を必ず行う事			
成績評価の方法・基準	出席、テスト、小テスト			
オフィスアワー	農学部総合棟485 10時から18時			
担当教員からのメッセージ	総ての専門科目の基礎となる科目なので、意欲を持って勉強に取り組む事			

授業科目名	栄養化学 (Nutritional Chemistry)				
担当教員名	森田 達也 (MORITA Tatsuya)		所属等	大学院農学領域	
			研究室	農学総合棟 576	
分担教員名					
クラス	応用生物	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	月 3・4
キーワード	栄養素、代謝、食、ヒトの健康維持				
授業の目標	栄養学の一分野である栄養化学の基礎を理解していただく。				
学習内容	栄養素と生体との相互作用について、各栄養素ごとに理解し、栄養素ならびにそれらを含む食品の役割を考える。				
授業計画	回 内容 1 栄養素の消化・吸収・代謝 (1) 2 栄養素の消化・吸収・代謝 (2) 3 糖質 (1) 基礎 4 糖質 (2) 基礎 5 糖質 (3) 生活習慣病との関連から眺めて 6 脂質 (1) 基礎 7 脂質 (2) 基礎 8 脂質 (3) 生活習慣病との関連から眺めて 9 タンパク質・アミノ酸 (1) 基礎 10 タンパク質・アミノ酸 (2) 基礎 11 タンパク質・アミノ酸 (3) 生活習慣病との関連から眺めて 12 ミネラル 13 ビタミン 14 運動と栄養代謝ミネラル (1) 15 エネルギー代謝				
受講要件	特になし				
テキスト	「最新栄養化学」野口忠編 (朝倉書店)				
参考書	授業時に紹介する。				
予習・復習について	特になし				
成績評価の方法・基準	定期試験の成績から評価する。ただし、出席率は2/3以上であること。				
オフィスアワー	特に指定なし				
担当教員からのメッセージ	ヒトの必須栄養素は約 50 種類あるが、これらは食事から摂取する必要がある。これら栄養素の消化吸収・代謝に焦点を合わせた講義に努める。				

授業科目名	森林土木工学 Civil Engineering for Forestry			
担当教員名	近藤 恵市	所属等		
		研究室		
分担教員名				
クラス		学期	前期	必修選択区分
対象学年		単位数		曜日・時限 月 3・4
キーワード	林道、路線測量、林道規程、幾何構造、路体構造			
授業の目標	地形の急峻な山岳地に建設されることの多い林道を周辺環境と調和させながら作設できるよう、林道設計に関する基礎的な知識・技術の獲得をめざす。			
学習内容	森林の管理・経営の基盤施設である林道について、まず基本的な配置計画を述べ、さらに林道規程で定められた林道幾何構造の理論を概説し、林道の測量・設計法について論述し、林道の路体構造や施工法について講義する。 なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標の (D)に対応する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業ガイダンス、運材方法の歴史</li> <li>2. 林道の機能と分類</li> <li>3. 林道密度理論</li> <li>4. 周辺環境との調和を考慮した林道配置計画</li> <li>5. 林道の幾何構造（幅員、曲線、勾配、視距）</li> <li>6. 林道の幾何構造（幅員、曲線、勾配、視距）</li> <li>7. 林道の幾何構造（幅員、曲線、勾配、視距）</li> <li>8. 曲線設定法</li> <li>9. 曲線設定法</li> <li>10. 縦断測量、横断測量</li> <li>11. 縦断測量、横断測量</li> <li>12. 林道の路面と路体</li> <li>13. 林道の施工法・土工機械</li> <li>14. 林道の施工法・土工機械</li> <li>15. 排水施設、のり面保護</li> </ol>			
受講要件	本科目は森林利用学実習と密接に関連しており、実習と合わせて受講することが望ましい。			
テキスト	森林土木学 小林洋司 他（朝倉書店）			
参考書	酒井秀夫：作業道（全国林業改良普及協会）			
予習・復習について	復習を行い、理解できない点は教員に質問すること。			
成績評価の方法・基準	履修態度・レポート（合計 30%）、学期末試験（70%）の結果を総合して評価する。 成績の「秀」は 90%以上、「優」は 80%以上、「良」は 70%以上、「可」は 60%以上とする。			
オフィスアワー	昼休み、農学部 A511 室。メール（afkkond@agr.shizuoka.ac.jp）で連絡してください。			
担当教員からのメッセージ	疑問があれば積極的に質問してください。			

授業科目名	木質材料学 Wood-based Materials			
担当教員名	鈴木 滋彦		所属等	
			研究室	
分担教員名				
クラス		学期	前期	必修選択区分
対象学年		単位数	曜日・時限	月 3・4
キーワード	循環型社会、木質資源、再生利用技術			
授業の目標	再生産可能な木質資源を人類の生活に必須な材料として有効に利用するための手法を、科学技術的な視点から理解することを目標とする。			
学習内容	木質材料開発の歴史と今後の方向性、環境と木質資源、各種木質系材料の製造技術と材質の特徴、耐久性能等について講義する。 なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標(D)に対応する。			
授業計画	1) 木質資源利用のあり方 2、3) 木質材料の基礎技術 4、5) 材料開発の方向とエンジニアードウッド 6～9) 軸材料：集成材、単板積層材、P S L 軸材料の種類と製造技術、性質、製造機械装置について説明する。 10～11) 面材料：合板、O S B、パーティクルボード、M D F 面材料の種類と製造技術、性質、製造機械装置について説明する。エレメントの形状と種類による材質の違いを説明する。 12～13) 面材料：ハードボード、インシュレーションボード湿式と乾式製法の相違点を材質の違いを説明する。 面材料：窯業系ボードについて解説する。 14) 木質材料技術開発と倫理 15) 木質材料の世界の生産動向と今後の方向性 16) 筆記試験			
受講要件	関連科目：木質バイオマス科学、木質機能科学、木材接着学、環境木質材料学実験			
テキスト	鈴木正治他編： 「木材科学講座 8 木質資源材料」海青社			
参考書	講義中に適宜紹介する。			
予習・復習について	・5回のレポートは復習が中心です。レポートのとりまとめを行うことで、技術的な課題全体が理解できるように配慮してあります。			
成績評価の方法・基準	・履修態度（15%）、5回のレポートおよび学期末試験（合計85%）の結果を総合して評価する。評価基準は、科目の目標に沿って行い、筆記試験は講義内容の理解度を判断基準とする。 ・「秀」は90%以上、「優」は80%以上、「良」は70%以上、「可」は60%以上とする。			
オフィスアワー	月曜日の昼休み、木曜日の昼休み 農学部 A 棟 403 号室			
担当教員からのメッセージ	資源の利用と環境との関連を考える良い機会であると思います。海外の最新の資料も提供しますので、質問等はメールで：s-suzuki@agr.shizuoka.ac.jp までお寄せ下さい。			

授業科目名	基礎生態学 Basic Ecology			
担当教員名	澤田 均	所属等		
		研究室		
分担教員名				
クラス		学期	前期	必修選択区分
対象学年		単位数		曜日・時限
キーワード	群集、生態系、生物多様性、生態現象、生態学の方法			
授業の目標	主な目標は次の2点である。(1)実際の研究例をとおして、生態学とはどのような学問でどんなことを研究対象とするか、どのような方法を使うのか、社会とどのように関係しているのかを理解すること。(2)生態系及び群集レベルの基本的な概念を理解すること。			
学習内容	この講義は生態学の入門編である。前半部では実際の研究例を紹介しながら、生態学という学問の特徴、研究対象、研究方法、社会との関係を学ぶ。後半部では生態系レベルと群集レベルの基礎を学ぶ。			
授業計画	1. 授業ガイダンス、生態学とは何か 2, 3.生態学の実例1－生物階層 4. 生態学の実例2－時間スケール 5. 生態学の実例3－長期研究 6. 生態学の実例4－数理モデル 7, 8.生態系1－一次生産力 9, 10.生態系2－物質の流れ 11. 群集1－種の豊かさ 12. 群集2－種の豊かさに影響する要因 13. 群集3－種の豊かさのパターン 14. 群集4－食物網 15. 群集5－安定性 16. 筆記試験			
受講要件	生態学の入門編のため、特に受講要件はない。本講義は2年生後期の「応用生態学」を受講するために必要である。			
テキスト	特に使用しないが、概ね、Townsend,C.R.(2008) Essentials of Ecology (3rd ed.). Blackwell.に沿う内容である。必要な資料は印刷して配布する。			
参考書	初回の授業ガイダンスで紹介する。さらに講義中に適宜紹介する。			
予習・復習について	ほぼ毎回、予習用にクイズを課す。クイズの難易度及び解答に要する時間は適切なものである。一方、復習用には、毎回配布する資料が役立つ。			
成績評価の方法・基準	クイズ(20%を目安とする)と筆記試験(80%を目安とする)、授業への参加姿勢の合計で評価する予定である。評価基準は主に講義内容の理解度をみる。特に筆記試験で理解度をみる。			
オフィスアワー	講義に関する質問等は授業終了後に講義室にて。それ以外は、電子メールで問い合わせてください。			
担当教員からのメッセージ	遅刻はしないように。遅刻すると、その回の授業の内容を理解しにくい。また、他の受講生の集中力を低下させるなど悪影響が出る。正当な理由以外の欠席は、極力しないように。			



授業科目名	果樹園芸学 Pomology			
担当教員名	向井 啓雄	所属等		
		研究室		
分担教員名				
クラス		学期	前期	必修選択区分
対象学年		単位数		曜日・時限 月 5・6
キーワード	果樹、栽培技術、生理生態			
授業の目標	果樹における主要な栽培技術とその生理生態学的背景に関して理解する。 果樹栽培において今後新たに発生する問題点に対する応用力を習得する。			
学習内容	果樹園芸に関する基礎理論を生理・生態学的見地から解説し、あわせて種苗・栽植から収穫に至る主要な栽培管理技術の現状と今後の展望について講義する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス, 果樹園芸学とは</li> <li>2. 果樹園芸の特徴と生産</li> <li>3. 種類と品種</li> <li>4. 環境と果樹の生態</li> <li>5. 育種</li> <li>6. 繁殖</li> <li>7. 開園と植栽</li> <li>8. 花芽形成と結果習性</li> <li>9. 受精と結実</li> <li>10. 果実の発育</li> <li>11. 果実の成熟と収穫後生理</li> <li>12. 水分生理と土壌管理</li> <li>13. 樹体栄養と施肥</li> <li>14. 整枝・せん定</li> <li>15. 生理障害・病害虫</li> </ol>			
受講要件	特になし			
テキスト	「果樹園芸学」, 米森敬三編, 朝倉書店, 2015, 9784254410372			
参考書	「新編果樹園芸学」, 間苧谷徹ら, 化学工業日報社, 2002, 4873263964 「果樹園芸学の基礎」, 伴野潔・山田寿・平智, 農山漁村文化協会, 2013, 9784540112041 その他授業中に紹介する。			
予習・復習について	教科書での予習復習, ならびに専門用語を正確に理解すること			
成績評価の方法・基準	筆記試験 (択一式と記述式) において成績評価する (100%)。			
オフィスアワー	月曜 16 時以降 (農学総合棟 428) 電子メールによる質問は随時受け付ける メールアドレス abhmuka@ipc.shizuoka.ac.jp			
担当教員からのメッセージ	構内圃場に各種果樹が植えられているので適宜観察すること。			

授業科目名	保全生物学 Conservation Biology			
担当教員名	山下 雅幸	所属等		
		研究室		
分担教員名				
クラス		学期	前期	必修選択区分
対象学年		単位数		曜日・時限
キーワード	生物多様性、保全、生態学、農業生態系			
授業の目標	生物多様性の危機的現状およびその保全の必要性を理解する。また、農業生態系（たとえば棚田、里山）など、人間との関わりの深い2次的自然の重要性についての認識も深める。			
学習内容	「生物多様性の保全」という社会的な目標の実現のための指針と技術の確立を目指す保全生物学について学ぶ。生物多様性の意味、その危機的現状、保全の必要性および対策事例などを紹介する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス（保全生物学とは何か？）</li> <li>2. 生物多様性の意味（生物多様性とは何か？）</li> <li>3. 生物多様性の仕組み</li> <li>4. 生物多様性の増大（進化）</li> <li>5. 生物多様性の危機①（生息地の破壊）</li> <li>6. 生物多様性の危機②（持続不能な利用）</li> <li>7. 生物多様性の危機③（侵略的外来種）</li> <li>8. 生物多様性の危機④（絶滅）</li> <li>9. 生物多様性の保全①（種の保全1）</li> <li>10. 生物多様性の保全②（種の保全2）</li> <li>11. 生物多様性の保全③（生態系の保全）</li> <li>12. 生物多様性の保全④（保全と持続的利用1）</li> <li>13. 生物多様性の保全⑤（保全と持続的利用2）</li> <li>14. 生物多様性の保全⑥（生態学的復元）</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			
受講要件	基礎生態学、応用生態学を受講し、その内容を理解しておくことが望ましい。			
テキスト	使用しない。適宜、資料を配付する。			
参考書	<p>Andrew S. Pullin (2004) 保全生物学. 丸善  Richard B. Primack (1997) 保全生物学のすすめ. 文一総合出版  樋口広芳編 (1996) 保全生物学. 東京大学出版会  鷲谷いづみ・矢原徹一 (1996) 保全生態学入門. 文一総合出版  その他、講義中に適宜紹介する。</p>			
予習・復習について	予習・復習のために、ほぼ毎回宿題（あるいは小テスト）を課す。			
成績評価の方法・基準	出席率（遅刻は減点、小テスト・レポート含む）40%、定期試験 60%の合計で評価する。評価基準は講義内容の理解度等をみる。			
オフィスアワー	火曜日の授業終了後および他の曜日は 16:00～17:00（ただし、他の曜日は事前にメール連絡してから）			
担当教員からのメッセージ	授業に集中できる環境づくりに協力して下さい。			

授業科目名	応用微生物学 Applied Microbiology			
担当教員名	徳山 真治		所属等	
			研究室	
分担教員名				
クラス		学期	前期	必修選択区分
対象学年		単位数		曜日・時限
キーワード	微生物、バイオテクノロジー、発酵、遺伝子、酵素			
授業の目標	微生物機能の基礎を習得し、微生物バイオテクノロジーを遺伝子を通して理解する。			
学習内容	生物学の共通語である遺伝子から多様な微生物機能を理解し、微生物機能を利用した物質生産、環境保全技術などについて紹介する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 微生物の発見からニューバイオテクノロジーまで</li> <li>2. 微生物細胞と機能発見：二重らせんから物質生産へ</li> <li>3. 微生物遺伝学と遺伝子工学</li> <li>4. 微生物の細胞構造</li> <li>5. 細胞の調節とシグナル伝達</li> <li>6. 微生物の分類</li> <li>7. 微生物の分離と増殖</li> <li>8. 微生物の代謝</li> <li>9. タンパク質と酵素</li> <li>10. 微生物の多様な栄養形態</li> </ol>			
受講要件	生化学			
テキスト	応用微生物学：熊谷英彦ら編著、朝倉書店			
参考書	授業で紹介。			
予習・復習について	予習・復習は基本的に必要。本授業の受講は基礎微生物学および分子生物学の履修をを前提とし、微生物代謝工学の履修に必要。			
成績評価の方法・基準	期末試験と出席率で評価する。			
オフィスアワー	月 - 金 : 9 - 21 時			
担当教員からのメッセージ	欠席、遅刻をしないこと。			

授業科目名	<p style="text-align: center;">生化学概論 Introduction to Biochemistry</p>			
担当教員名	村田 健臣	所属等		
		研究室		
分担教員名				
クラス		学期	前期	必修選択区分
対象学年		単位数		曜日・時限
キーワード	生化学、生命科学、分子生物学			
授業の目標	生化学は、生命現象を生体を構成する分子の働きとして理解しようとする学問で、その基礎となる分子レベルでの構造と特性に関する知識を得ることを目標とする。			
学習内容	この講義では、生化学を理解する上で基礎となる生物を構成する生体成分（タンパク質、糖質、脂質、核酸）の構造と特性および遺伝子情報について学び、生物学の背後にある化学現象を理解するための礎とする。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.生化学入門</li> <li>2.生体分子の概要</li> <li>3.タンパク質1 アミノ酸</li> <li>4.タンパク質2 構造</li> <li>5.タンパク質3 機能</li> <li>6.タンパク質4 酵素</li> <li>7.タンパク質5 調節</li> <li>8.糖1 構造</li> <li>9.糖2 代謝経路①</li> <li>10.糖3 代謝経路②</li> <li>11.脂質1 構造</li> <li>12.脂質2 機能</li> <li>13.核酸1 構造</li> <li>14.核酸2 機能</li> <li>15.核酸3 代謝</li> </ol>			
受講要件	この科目は、生化学、分子生物学および酵素化学の教科と関連している。			
テキスト	「ホートン生化学」Horton ら著、鈴木絃一ら訳、東京化学同人			
参考書	「生化学」第2版 鈴木絃一編、東京化学同人			
予習・復習について	期間中に数回、復習のための小テストを行う。			
成績評価の方法・基準	提出物(20%)、小テスト(30%)、定期試験(50%)で評価する。			
オフィスアワー	毎週火曜日 AM12:30-PM13:30。事前にメールにより連絡すること。			
担当教員からのメッセージ				

授業科目名	山地保全学 Erosion Control			
担当教員名	逢坂 興宏	所属等		
		研究室		
分担教員名				
クラス		学期	前期	必修選択区分
対象学年		単位数		曜日・時限
キーワード	砂防、緑化、土砂災害			
授業の目標	山地斜面における土砂移動現象とその発生機構について理解し、その対策に関する知識を得ることを目標とする。 なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標の（D）に対応する。			
学習内容	主として日本の森林山地に生じている土砂移動現象の実態とその発生機構、およびそれによって引き起こされる土砂災害を軽減する方策について講義する。 講義を通じて、動植物及び人間の生存基盤である自然環境の、特に水と土と緑のダイナミックな関係に興味を持ってもらい、時間・空間スケールを意識した災害防止と自然環境の保全を学ぶ。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス、森林の多面的な機能</li> <li>2. 日本の自然災害</li> <li>3. 土砂災害とその対策の歴史</li> <li>4. 地形過程に伴う自然災害</li> <li>5. 斜面における土砂移動現象の分類</li> <li>6. 表面侵食と植生の効果</li> <li>7. 表層崩壊（森林と山崩れ）</li> <li>8. 山腹緑化工</li> <li>9. のり面緑化工</li> <li>10. 地すべり、大規模崩壊</li> <li>11. 地すべり対策</li> <li>12. 土石流</li> <li>13. 火山活動に伴う土砂移動現象</li> <li>14. 雪崩</li> <li>15. 斜面安定解析</li> </ol>			
受講要件	「森林環境水文学」、「応用気象学」、「地質学概論」、「地学実習」と関連が深い。 「溪流環境学」、「砂防学実習」の基礎科目となる。			
テキスト	保全砂防学入門（電気書院） また、随時プリントを配布する。			
参考書	新砂防工学（朝倉書店）、環境緑化学（朝倉書店）、山地保全学（文永堂出版） その他適宜紹介する。			
予習・復習について	授業の進行にあわせて、テキストおよび参考書の該当箇所を予習・復習すること。			
成績評価の方法・基準	履修態度（10%）、レポート（10%）および期末筆記試験（80%）の結果を総合して評価する。 成績の「秀」は90%以上、「優」は80%以上、「良」は70%以上、「可」は60%以上とする。			
オフィスアワー	授業終了後、または随時、質問や相談を受け付けます。まず直接あるいは電子メールで連絡をして下さい。			
担当教員からのメッセージ	世界各地で頻発する自然災害に関心を持ち、日頃から防災意識を高めておきましょう。			

授業科目名	育種学 Breeding Science			
担当教員名	富田 因則		所属等	
			研究室	
分担教員名				
クラス		学期	前期	必修選択区分
対象学年		単位数	曜日・時限	火 5・6
キーワード	交雑育種、選抜理論、DNA マーカー、ゲノム解析、遺伝子組換え、放射線突然変異、倍数体、染色体工学、雑種強勢、ゲノム編集			
授業の目標	遺伝学とゲノム科学の進歩とともに培ってきた遺伝的改変の原理と方法の習得を目標とする。			
学習内容	植物の繁殖様式と遺伝的性質に基づく交雑育種と選抜理論、DNA マーカーによる遺伝子の探索と選抜育種、物理地図作製とゲノム解析による遺伝子の単離・同定、遺伝子組換え育種、放射線による遺伝子突然変異誘発、倍数体などゲノム単位の改変、雑種強勢育種、ゲノム編集による新育種技術 (NBT) など、遺伝的変異を拡大し、さらに固定するための育種の原理と方法について、近代から最先端へと多角的に学習する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 植物ゲノムの改変事例：緑の革命、光周性と適応性</li> <li>2. 交雑育種 1：遺伝子型の世代変化と選抜理論</li> <li>3. 交雑育種 2：系統育種法、集団育種法、純系分離法</li> <li>4. 交雑育種 3：戻し交雑育種法</li> <li>5. DNA マーカー育種 1：DNA マーカー</li> <li>6. DNA マーカー育種 2：リンケージ、マッピング</li> <li>7. DNA マーカー育種 3：クロモソームウォーキング、ゲノムプロジェクト</li> <li>8. 次世代シーケンス解析</li> <li>9. 遺伝子組換え育種 1：植物への遺伝子導入</li> <li>10. 遺伝子組換え育種 2：組換え遺伝子の設計</li> <li>11. 突然変異育種法：電離放射線</li> <li>12. ゲノム単位の改変 1：同質倍数体、半数体育種法</li> <li>13. ゲノム単位の改変 2：遠縁交雑、異質倍数体、染色体工学による異種遺伝子移入</li> <li>14. 雑種強勢育種法：ハイブリッドライスと雄性不稔</li> <li>15. ゲノム編集による新しい育種技術</li> </ol>			
受講要件	なし。育種学は遺伝学を基礎としているので、その未履修者にも配慮します。			
テキスト	プリントを配布します。			
参考書	西尾剛・吉村淳編 『植物育種学 第4版』 文永堂出版、日向康吉・西尾剛編 『植物育種学各論』 文永堂出版			
予習・復習について	理論的な分野なので授業内容をよく復習して下さい。授業で培った力で参考書も通読できると思います。			
成績評価の方法・基準	期末試験の得点に、小テストなどの日常点を加味します。小テストは思考力を喚起する問いかけです。			
オフィスアワー	講義の後やグリーン科学技術研究所遺伝子実験棟 301 にて随時対応します。			
担当教員からのメッセージ	育種学は、人類の生存を左右する食用植物を遺伝的に改変するための学問であり、農学応用生命科学の王道と言えます。地球規模の環境変動に晒されるとともに、大震災と TPP 等の市場のグローバル化で国難を迎えた現状を打開するのは、ゲノム解析に則った先端的育種法による植物新品種の開発です。			

授業科目名	測量学 Surveying			
担当教員名	近藤 恵市		所属等	
			研究室	
分担教員名				
クラス		学期	前期	必修選択区分
対象学年		単位数		曜日・時限 火 5・6
キーワード	距離測量、コンパス測量、トランシット測量、水準測量			
授業の目標	測量及び測量器械に関する基本的な知識を理解するとともに、測量結果の数値的な処理方法と作図方法を理解する。			
学習内容	地表における相対的な位置関係の決定や、地形の具体的な把握に必要な測量技術を取得するため、その基本となるトランシット、レベル、コンパス等の測量器械の構造的特性及び作動原理と、器械の利活用技術等について講義を行う。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 距離測量の基礎概念について</li> <li>2. 水準測量の基礎概念について</li> <li>3. コンパス測量の基礎概念について</li> <li>4. トランシット測量の基礎概念について</li> <li>5. トラバース測量の基礎概念について</li> <li>6. 測量による観測値の精度と誤差について</li> </ol>			
受講要件	本科目は、「測量学実習」と密接な関係にあるので、「測量学実習」と併せて受講する必要がある。			
テキスト	測量学 大木正喜著 森北出版			
参考書	長谷川昌弘：基礎測量学（電気書院）			
予習・復習について	受講前にテキストの該当部分を読んでおくこと。また復習を行い、理解できない点は教員に質問すること。			
成績評価の方法・基準	履修態度（20%）、学期末試験（80%）の結果を総合して評価する。 成績の「秀」は90%以上、「優」は80%以上、「良」は70%以上、「可」は60%以上とする。			
オフィスアワー	昼休み、農学部A511室。メール（afkkond@agr.shizuoka.ac.jp）で連絡してください。			
担当教員からのメッセージ	疑問があれば積極的に質問してください。			

授業科目名	室内環境学 Indoor Environment			
担当教員名	渡邊 拓	所属等		
		研究室		
分担教員名				
クラス		学期	前期	必修選択区分
対象学年		単位数		曜日・時限 火 5・6
キーワード	住宅、居住性、環境、健康、資源			
授業の目標	日本人の暮らしには「木」が深く関わっており、古くから多く木を利用してきた。木材は建築材料の中でも大きな位置を占め、日本の風土に合った伝統的材料であり、木造住宅に住むことを望む人は少なくない。人間が日常生活を送るうえで重要である室内環境について、木造住宅を中心に講義をする。			
学習内容	住宅や建造物の種類や安全性についての考え方を説明した後に、住宅の工法及び住宅内環境の評価について講義を行う。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 住宅の種類、安全性</li> <li>2. 建築材料の種類</li> <li>3. 建築材料の種類</li> <li>4. 建築材料の種類</li> <li>5. 住宅の工法</li> <li>6. 住宅の工法</li> <li>7. 住宅内の温度、湿度、音</li> <li>8. 住宅内の温度、湿度、音</li> <li>9. 住宅内の光、視覚</li> <li>10. 住宅内の光、視覚</li> <li>11. 住宅内の空気</li> <li>12. 住宅内の空気</li> <li>13. 住宅と健康</li> <li>14. 住宅と健康</li> <li>15. 建築材料に関わる環境問題</li> </ol>			
受講要件				
テキスト	なし。 必要な資料は印刷して配布する。			
参考書	講義中に適宜紹介する。			
予習・復習について				
成績評価の方法・基準	出席（50%）及びレポート2回（50%）の合計で評価する。 レポートは講義内容の理解度をみる。			
オフィスアワー	E-mailで問い合わせてください。			
担当教員からのメッセージ	講義に関する質問はE-mailで受けます。			



授業科目名	作物学 Crop Science			
担当教員名	稲垣 栄洋	所属等		
		研究室		
分担教員名				
クラス		学期	前期	必修選択区分
対象学年		単位数		曜日・時限 火 7・8
キーワード	食用作物、飼料作物、作物生理			
授業の目標	<p>私たちが食べるご飯はイネの種子です。また、うどんやパスタはコムギから作られます。作物学は、私たちの食文化や世界の食糧を支える基本的な学問です。本授業では、食用作物を中心に、栽培作物の植物学的特性と栽培学上の問題点に関する基礎的知識を学んでいきます。作物学の習得には生物学の知識を必要としますが、高校で生物学を選択していない学生もできるだけ理解できるようにします。また、作物学は公務員試験でも頻出ですので、国家公務員試験総合職の試験で出題される範囲はできる限り網羅するようにします。作物学は農学のもっとも基礎的な学問です。この授業を通じて、今後、皆さんが農学を学ぶために必要な基礎的な知識を習得することを目指します。</p>			
学習内容	<p>作物学の守備範囲は広く、限られた本授業だけですべてを学ぶことはできません。日本の作物学は主食であるイネを中心に研究が進められてきましたので、本授業でもイネを中心として麦類、豆類、トウモロコシなど主要な作物について授業を進めて行きます。また、静岡の特産作物であるチャについても講義を行います。</p>			
授業計画	<p>第1回：ガイダンス、世界・日本の作物生産の現況と食糧問題  第2回：作物の分類と農耕文化圏の成立  第3回：イネの種類  第4回：イネの形態  第5回：イネの栽培1（イネの成長と水田管理）  第6回：イネの栽培2（稲作と環境）  第7回：麦類1（コムギ）  第8回：麦類2（その他の麦類）  第9回：豆類1（ダイズ）  第10回：豆類2（その他の豆類）  第11回：芋類  第12回：飼料作物（トウモロコシ）  第13回：飼料作物（牧草類）  第14回：工芸作物・茶  第15回：まとめ  定期試験</p>			
受講要件				
テキスト	使用しない。必要に応じて適宜資料を配布する。			
参考書	作物学（文永堂出版）、農学基礎シリーズ 作物学の基礎1 食用作物（農山漁村文化協会）、栽培学（朝倉書店）、作物学概論（朝倉書店）、作物学総論（朝倉書店）			
予習・復習について				
成績評価の方法・基準	原則として、筆記試験で評価します。ただし、出席状況を評価の参考とします。			
オフィスアワー				
担当教員からのメッセージ				

授業科目名	造林学 Silviculture			
担当教員名	水永 博己		所属等	
			研究室	
分担教員名				
クラス		学期	前期	必修選択区分
対象学年		単位数		曜日・時限
キーワード	森林生態系、育林、持続可能性、Resilience、適地適木、物質循環			
授業の目標	多くの生態系サービスを持つ樹木の集団としての森林をどのようにして作り・育てることができるかについて、基礎となる科学をベースに、共に考える。このことで多様な現場に適応するための柔軟性の必要性、問題点にどのように対応するかといったトラブル対応力、科学的な論理力と直観力のバランスなどが養成できたら良いなあ。複雑な森林構造の維持メカニズムと現状の苦闘について理解を進めることをめざそう。			
学習内容	森林生態系の修復・保全方法について基礎となる森林生態学・樹木学など森林科学をもとに、ディヴェートやグループディスカッションを含む双方向講義で考える。多様な現場に応じた森林生態系の管理手段を考える。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 木材はカーボンニュートラルな素材ではない！ 造林学の意義と自然・環境・技術</li> <li>2. 保続とは？ 縞枯れ更新に学ぶ、持続可能な森林管理の一形態。</li> <li>3. 木を植えたい！ 1) グループディスカッション：その樹木について何を知らねばならないか？</li> <li>4. プレゼンテーション：その樹木について何を知らねばならないか？//苗木の作り方</li> <li>5. ディヴェート：「南限のブナを守るために」 農業的発想からの脱却！ 林木の集団育種の基礎</li> <li>6. 木を植えたい！ 2) その場所について何を知らねばならないか？ 自然から学ぶ！</li> <li>7. 森林土壌中の養分量は大切か？ 土壌保全と森林管理</li> <li>8. 密度管理の考え方 と 間伐の基礎</li> <li>9. 密度管理としての間伐への決別</li> <li>10. 自然の力を利用した次世代の森林の作り方 林を切る！ 稚樹を育てる</li> <li>11. 複雑構造への道 2 題 針葉樹人工林の広葉樹林化へ 今須択伐林は？</li> <li>12. 乾燥地の自然植生を利用した炭素固定のプログラム、乾燥地生態系の特徴、荒廃地緑化、砂漠緑化</li> <li>13. ディヴェート：「アグロフォレストリーは熱帯林保全に貢献するか？」 熱帯地域の森林管理</li> <li>14. 私たちが考える育林シナリオ（プレゼンテーション） 1</li> <li>15. 私たちが考える育林シナリオ（プレゼンテーション） 2</li> </ol>			
受講要件	関連科目：1年生：樹木・組織学、2年生実習：樹木学実習 3年生実習：造林学実験を受講していること			
テキスト	特に定めない			
参考書	自作の資料も配付する			
予習・復習について	基礎になる科目を必ず受講すること。当該の実験に必要な知識は、どんな目的意識。最後まであきらめない根気と努力を日頃から訓練しておくこと。			
成績評価の方法・基準	自分で工夫してまとめる力。新しいものの見方を提案し、実行する力。問題点を絞り、不要なものを切り捨てる論理力。意見調整する力。他人の意見や考えを理解し、自己に反映させる力。 を レポート・ディヴェート・プレゼンテーションで評価します。 小テストは、基礎となる科学的理解を評価します。			
オフィスアワー	随時 電子メールでアポをとること。			
担当教員からのメッセージ	フィールドに出て、現場を見てこそ身になる。日本各地へ、アジア各地へ、世界各地へ、森を見に行こう！			

授業科目名	森林生態管理学 Forest Ecological Management			
担当教員名	今泉 文寿		所属等	
			研究室	
分担教員名				
クラス		学期	前期	必修選択区分
対象学年		単位数		曜日・時限
キーワード	森林の健康、樹木の健康、攪乱と多様性、森林の管理			
授業の目標	樹木と森林の保全技術に必要な基礎的考え方を身につける 森林が周囲の環境（気象、地盤条件）からどのような影響を受けて成立しているのか、森林が周囲の環境にどのような役割を果たしているのかについての理解を深める 持続的に機能を発揮できる森林育成に必要な考え方を身につける			
学習内容	森林へのニーズが資源から環境へシフトする中で、樹木・森林の保全方法を学ぶ。森林と周囲の環境の相互作用や生態の多様性を維持しているメカニズムについて学び、森林の持つ役割や意義を理解する。			
授業計画	1：ガイダンス 授業内容の紹介、森林の保全・管理に関する諸問題 2：森林をどうして保全・管理するのか（森林の持つ多面的機能） 3：樹木を知る（樹木の形態と機能） 4：樹木を知る（樹木の形態と機能） 5：樹木の生態と環境（森林の成立基盤：地盤、土壌、水、気候） 6：樹木と環境の相互作用 7：樹木のストレス 8：樹木の被害（気象災害） 9：樹木の被害（病虫害、獣害、人為的被害） 10：森林の攪乱（攪乱の種類、多様性） 11：森林の診断法（調査・計測法、攪乱の履歴の調査） 12：森林の診断法（森林の機能の評価法） 13：森林の保全手法（樹木・森林管理） 14：森林の保全手法（国際社会、国、地方の取り組み） 15：まとめ			
受講要件	関連科目：森林生態学 造林学 森林計画学実習 森林環境学 森林環境水文学 山地保全学			
テキスト	なし、プリントによる。			
参考書	講義中に随時紹介する			
予習・復習について	十分な復習を行い、理解できない点は教員へ質問すること			
成績評価の方法・基準	小テスト（50%）、レポート（50%） 成績の秀は90%以上、優は80%以上、良は70%以上、可は60%以上とする。			
オフィスアワー	随時可（メール等でアポイントがあればより確実に対応可）			
担当教員からのメッセージ	受身にならずに積極的に授業へ参加してほしい。 説明がわかりづらい場合は指摘、質問をしてほしい。			

授業科目名	細胞生物学 Cell Biology			
担当教員名	笹浪 知宏		所属等	
			研究室	
分担教員名				
クラス		学期	前期	必修選択区分
対象学年		単位数	曜日・時限	水 1・2
キーワード	細胞小器官、細胞膜、核、リボソーム、ミトコンドリア、葉緑体、細胞骨格、細胞周期			
授業の目標	細胞生物学は生物体の基本単位である細胞が活動するしくみを明らかにしようとする学問であり、生命現象の理解には欠かせない。本講では、細胞に関する基礎的知識を修め、生命現象を細胞生物学的に解釈できる能力を身につけることを目標とする。			
学習内容	本講では、細胞の構造とその機能について、細胞を構成する分子とそれらの働きに重点を置いて講義し、細胞生物学の基礎を学ぶ。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業ガイダンス、細胞生物学分野における実験手法</li> <li>2. 細胞とは</li> <li>3. 細胞の化学成分</li> <li>4. 細胞の化学成分</li> <li>5. 膜の構造</li> <li>6. 膜の構造</li> <li>7. 膜輸送</li> <li>8. 膜輸送</li> <li>9. ミトコンドリアと葉緑体におけるエネルギー生産</li> <li>10. ミトコンドリアと葉緑体におけるエネルギー生産</li> <li>11. ミトコンドリアと葉緑体におけるエネルギー生産</li> <li>12. 細胞骨格</li> <li>13. 細胞骨格</li> <li>14. 細胞周期</li> <li>15. 定期試験</li> </ol>			
受講要件	特になし			
テキスト	エッセンシャル細胞生物学（南江堂）			
参考書	細胞の分子生物学、教育社			
予習・復習について	授業内容について復習をすること。不定期に小テストを行う。			
成績評価の方法・基準	期末試験（80%）、および不定期に課すレポートや小テスト（20%）を総合して評価する。また、1/3 以上の欠席をした者は期末試験の受験資格を失う。			
オフィスアワー	事前に電子メールにて確認を取り、研究室に来ること。			
担当教員からのメッセージ	生物学概論 A・B の内容を理解していること。			

授業科目名	<p style="text-align: center;">生物工学 Biotechnology</p>			
担当教員名	<p style="text-align: center;">朴 龍洙</p>	所属等		
		研究室		
分担教員名				
クラス		学期	前期	必修選択区分
対象学年		単位数		曜日・時限
キーワード	<p>遺伝子、遺伝子発現、ゲノム、タンパク質、細胞膜輸送、情報伝達、幹細胞、がん</p>			
授業の目標	<p>1) 生命科学における細胞の仕組みを理解すること。2) 生命現象を営む分子（遺伝子、タンパク質）の理解をすること。3) 遺伝子の発現とタンパク質の細胞内輸送の基本的なシステムを理解すること。</p>			
学習内容	<p>生物、化学、及び工学の融合による学際的なバイオテクノロジーは、現在の新産業を形成し、多くの医薬品を生み出している。本講義は、バイオテクノロジーのなかで有用遺伝子の発現、タンパク質の分泌などライフサイエンスの基礎について講義し、さらに最近の幹細胞やがんについても紹介する。</p>			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 遺伝子の発現機構</li> <li>2. 遺伝子の調節機構</li> <li>3. 遺伝子とゲノム</li> <li>4. ゲノムの進化</li> <li>5. ゲノムの解析</li> <li>6. タンパク質の輸送</li> <li>7. タンパク質の分泌経路</li> <li>8. 細胞間シグナル伝達</li> <li>9. Gタンパク質共役型受容体</li> <li>10. 酵素共役型受容体</li> <li>11. 細胞間マトリックス</li> <li>12. 細胞の組織</li> <li>13. 幹細胞</li> <li>14. がん</li> <li>15. ライフサイエンスのトピック</li> </ol>			
受講要件	<p>2年前期「細胞生物学」、2年後期「分子生物学」の受講者</p>			
テキスト	<p>Essential 細胞生物学 原書第3版（監訳 中村桂子・松原謙一）</p>			
参考書				
予習・復習について	<p>授業の前、次回の講義内容について予習してくるよう。</p>			
成績評価の方法・基準	<p>2 / 3以上の出席、筆記試験で評価する。</p>			
オフィスアワー	<p>毎週水曜日の午後・共通教育C-2 1 1へ直接又は電話、E-mail等</p>			
担当教員からのメッセージ	<p>積極的に授業に参加し、一緒に授業を盛り上げてほしい。</p>			

授業科目名	木質機能科学 Physical and Mechanical Properties of Wood			
担当教員名	安村 基	所属等		
		研究室		
分担教員名				
クラス		学期	前期	必修選択区分
対象学年		単位数		曜日・時限
キーワード	密度、含水率、膨潤・収縮、弾性、応力、ひずみ、ヤング係数、強度、粘弾性、動的弾性			
授業の目標	木質資源としての木材の機能について学ぶ。 木材の物理的・力学的性質に関する基礎的な事項を理解することを目標とする。			
学習内容	木材と含有水分の関係、木材の熱・電気・音響等の物理的特性、さらに木材の弾性・粘弾性・強度等の力学的特性に関して基本的な考え方を述べ、応用として木材利用との関連や環境への影響について概説する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 木材の利用と環境への負荷</li> <li>2. 木材の密度とその変動</li> <li>3. 木材の含水率とその変化</li> <li>4. 水分の吸着とその理論</li> <li>5. 木材中での水分の移動と拡散の理論</li> <li>6. 木材の膨潤および収縮と異方性</li> <li>7. 木材の熱・電気に関する特性</li> <li>8. 動的弾性－振動現象と木材の音響特性</li> <li>9. 力の釣り合い</li> <li>10. 弾性－ヤング係数と強度</li> <li>11. 応力とひずみの成分</li> <li>12. 木材の圧縮、曲げ、引張り</li> <li>13. 一般化されたフックの法則</li> <li>14. 粘弾性－クリープと応力緩和</li> <li>15. 各種強度と力学的性質に影響を及ぼす因子および破壊</li> </ol>			
受講要件	材料力学、住環境構造学、住環境工学、木質バイオマス科学等の講義、および環境木質機能学実験、環境木質材料学実験等の実験を受講することが望ましい。			
テキスト	高橋・中山 編「木材科学講座 3 物理」(海青社)			
参考書	菊池正紀他著「基礎演習シリーズ 材料力学」(裳華房)、日本木材学会 編「木質の物理」(文永堂出版)、伏谷 他 著「木材の科学 2 木材の物理」(文永堂)、北原 著「木材物理」(森北出版)			
予習・復習について	授業で取り扱った基礎的事項に関して、必ず復習すること。 理解できない点は必ず教員に質問すること。			
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により評価する。 成績の「秀」は 90%以上、「優」は 80%以上、「良」は 70%以上、「可」は 60%以上とする。 筆記試験は講義内容の基礎的事項に関する理解度をみる。			
オフィスアワー	農学部 A 棟 426, 428 室で随時受け付ける。事前にメール等で連絡して下さい。			
担当教員からのメッセージ	授業開始時に出席を確認するため、遅れないこと。必ず復習をするようにして下さい。積極的に質問して下さい。			

授業科目名	食品分析化学 (Food-function Analytical Chemistry)				
担当教員名	河岸 洋和 (KAWAGISHI Hirokazu)		所属等	グリーン科学技術研究所	
			研究室	農学総合棟 672	
分担教員名					
クラス	応用生物	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	水 3・4
キーワード					
授業の目標	食品に含まれる成分の分析のための基礎を学ぶ。				
学習内容	食品分析に必要な方法（クロマトグラフィー，機器分析）の理論と実例を解説する。				
授業計画	回 内容 1 食品分析学の意義と概観 2 各種クロマトグラフィーの理論と実際 3 各種クロマトグラフィーの理論と実際 4 各種クロマトグラフィーの理論と実際 5 UVの解説 6 IRの解説 7 MSの解説 8 MSの解説 9 NMRの解説 10 NMRの解説 11 NMRの解説 12 NMRの解説 13 NMRの解説 14 最新のトピックスの紹介 15 最新のトピックスの紹介				
受講要件	化学を基礎とするので，化学概論 AB，有機化学概論，生化学概論，生物有機化学,分析化学を受講すること。				
テキスト	未定 開講時に指示する。				
参考書	未定 開講時に指示する。				
予習・復習について	授業各回で指示する。				
成績評価の方法・基準	定期試験（約 75%）と出席（約 25%）を総合して評価する。				
オフィスアワー	随時（事前に電話や電子メール等で問い合わせること）				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	分析化学 Analytical Chemistry			
担当教員名	原 正和	所属等		
		研究室		
分担教員名				
クラス		学期	前期	必修選択区分
対象学年		単位数	曜日・時限	水 3・4
キーワード	化学平衡論 chemical equilibrium、酸・塩基反応 acid base reaction、機器分析 instrumental analysis			
授業の目標	定性分析、定量分析、機器分析などの分析化学の基礎的な方法論を理解し、正確な実験を行う能力を培う。 Understanding basic methodology on chemical analysis.			
学習内容	定性分析、定量分析、機器分析など、分析化学の基礎的な理論を理解する。 Describing basics of chemical analysis			
授業計画	1. 序論 -1 分析化学の意義と重要性 -2 数値と単位の取り扱い Analysis and units 2. 酸・塩基反応と中和滴定 I Acid-base reaction I 3. 酸・塩基反応と中和滴定 II Acid-base reaction II 4. 沈殿と重量分析 Precipitation and mass analysis 5. 錯化合物とキレート滴定 I Chelate analysis I 6. 錯化合物とキレート滴定 II Chelate analysis II 7. 酸化還元反応と酸化還元滴定 I Redox analysis I 8. 酸化還元反応と酸化還元滴定 II Redox analysis II 9. 溶媒抽出 Solution extraction 10. クロマトグラフィーによる分析 I Chromatography I 11. クロマトグラフィーによる分析 II Chromatography II 12. 光による分析法 Spectroscopic analysis 13. X線と分析化学 X-ray analysis 14. 電気伝導度と分析化学 Conductance 15. 同位体の性質とその利用 Isotopes			
受講要件	理系基礎科目の化学概論A、化学概論Bの内容を十分理解しておくこと。 General Chemistry A and B			
テキスト	木村 優・中島理一郎 共著 「分析化学の基礎」(裳華房)。 その他、必要に応じて資料を配付する。 Basics of chemical analysis			
参考書	河合 聡・他編「定量分析化学」(丸善)。分析化学研究会編「分析化学の理論と計算」(廣川書店)。土屋正彦・他編「クリスチャン 分析化学 I, II」(丸善) など。 Any textbooks on chemical analysis			
予習・復習について	授業は、テキストを使って進めるので、テキストによる予習・復習を適切に行うこと。 Preparation and review with the textbook			
成績評価の方法・基準	中間試験(50%)ならびに期末試験(50%)の合計で評価する。 評価基準は科目の目標に沿って、特に筆記試験は講義内容の理解度をみる。 Midterm (50%) and final (50%) examinations			



オフィスアワー	問合せ等がある場合には、事前に連絡の上、訪問すること。 Making an appointment in advance is needed.
担当教員からのメッセージ	小テストを授業開始時に行い、前回講義の復習をします。 授業には遅れずに出席すること。関数電卓の持参を求める場合がある。 Quiz is held.

授業科目名	木質利用化学 Chemistry of Wood Utilization			
担当教員名	河合 真吾	所属等		
		研究室		
分担教員名				
クラス		学期	前期	必修選択区分
対象学年		単位数		曜日・時限
キーワード	セルロース、ヘミセルロース、リグニン、抽出成分、パルプ化、パルプ漂白、生理活性			
授業の目標	パルプ製造法と木材成分の関係、抽出成分の生理的機能と特性を理解し、主体的関心を持つことを目指す			
学習内容	木材主要成分のセルロース、ヘミセルロース、リグニンを取り上げ、パルプ化および漂白工程における化学反応性、生物反応を利用するパルプ製造に関する最新知見を詳述する。 さらには、樹木の生理および木材の特性に関与している副成分の抽出成分を取り上げ、その生合成、理化学的性質、生物有機化学的な利用法について概説する。 なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標（D）に対応する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. パルプ原料とその化学</li> <li>2. 機械パルプの製造</li> <li>3. 化学パルプの製造</li> <li>4. 機械パルプおよび化学パルプの漂白</li> <li>5. 授業1～4回目のまとめ</li> <li>6. 抽出成分の化学構造決定法（NMR）（1）</li> <li>7. 抽出成分の化学構造決定法（NMR）（2）</li> <li>8. 抽出成分の化学構造決定法（質量分析）（1）</li> <li>9. 抽出成分の化学構造決定法（質量分析）（2）</li> <li>10. 授業6～9回目のまとめ</li> <li>11. 抽出成分の生合成（フェニルプロパノイド経路）（1）</li> <li>12. 抽出成分の生合成（フェニルプロパノイド経路）（2）</li> <li>13. 抽出成分の生合成（メバロン酸経路）</li> <li>14. 抽出成分の生理活性とその利用</li> <li>15. 授業10～14回目のまとめ</li> </ol>			
受講要件	2年生前学期の「樹木生化学」、2年生後学期の「樹木成分化学」と関連する。			
テキスト	なし。必要な資料は印刷して配布する。			
参考書	木材学会編：木質の化学（文永堂）、中野準三ら：リグニンの化学（ユニ出版） 日本木材学会抽出成分と木材利用研究会：樹木の顔（海青社） 福島和彦ほか 編集：木質の形成 -バイオマス科学への招待-（海青社）			
予習・復習について	復習を行い、理解できない点は教員に質問すること。			
成績評価の方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・履修態度（20%）と筆記試験（80%）の合計で評価する。</li> <li>・筆記試験の評価基準は、講義内容の理解度とする。</li> <li>・成績の「秀」は90%以上、「優」は80%以上、「良」は70%以上、「可」は60%以上とする。</li> </ul>			
オフィスアワー	質問等は、総合農学棟、325室（河合）、326室（米田）で随時受け付ける。			
担当教員からのメッセージ	オフィスアワーを積極的に利用し、質問してください。			

授業科目名	花卉園芸学 Floricultural Science			
担当教員名	中塚 貴司		所属等	
			研究室	
分担教員名				
クラス		学期	前期	必修選択区分
対象学年		単位数		曜日・時限
キーワード	品種改良、繁殖、生育・開花調節、鮮度保持、流通、ライフサイクル、花色			
授業の目標	花卉の生産と利用に必要な基礎知識を得ることを目標とする。			
学習内容	花卉の生産と利用に必要な生理・生態学的基礎知識と主要な花卉についての品種形態、生理、生態や開花調節、繁殖法について講義する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 序論：花と花卉園芸、生産の状況、花の消費と国民性</li> <li>3. 種類と分類：学名と命名規約、人為分類</li> <li>4. 産地形成の条件と生産および経営形態：生産形態、産地形成の条件、経営形態</li> <li>5. 花卉の形態と構造：花の器官と構造、花の器官の相互関係</li> <li>6. 育種と新品種の保護：花卉のライフサイクルと育種の役割、日本の花卉育種、育種の目的・方法</li> <li>7. 繁殖：種子繁殖、栄養繁殖、組織培養</li> <li>8. 種苗生産：組織培養と種苗生産、プラグ苗生産</li> <li>9-13. 生育と開花の調節</li> <li>14. 花卉の鮮度保持と貯蔵、品質評価：切り花の鮮度保持と品質評価、鉢物の鮮度保持</li> <li>15. 花色：花色と花色素</li> <li>16. 筆記試験</li> </ol>			
受講要件	関連科目：植物分類および形態学、土壌学、植物病理学、応用昆虫学、育種学、遺伝学、造園学 施設園芸学、植物組織培養学			
テキスト	使用しない。			
参考書	花卉園芸総論（養賢堂）、園芸事典(朝倉書店)、花卉園芸学（朝倉書店）、花卉入門(実教出版)、球根の開花調節（養賢堂）			
予習・復習について	多くの種類の花弁が出てくるので、どのようなものかを確認しておくこと。			
成績評価の方法・基準	小テスト(30%)および定期試験(70%)により評価する。			
オフィスアワー	随時（できれば事前にメールでコンタクトをとって下さい。）			
担当教員からのメッセージ	気軽に研究室へ来て下さい。			

授業科目名	基礎微生物学 (Introduction to Microbiology)				
担当教員名	瀧川 雄一 (TAKIKAWA Yuichi)		所属等	創造科学技術研究部	
			研究室	農学総合棟 385	
分担教員名	小川 直人、鮫島 玲子、堀池 徳祐				
クラス	共生バイオ	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水 5・6
キーワード					
授業の目標	微生物学は生命科学の最も基礎的な部分を構成している。本講義では、微生物学の基礎を身につけることを目標として、微生物の生理生化学、物質代謝、遺伝および生態を、その内容を整理し体系的に解説する。				
学習内容					
授業計画	第1回                    イントロダクション・微生物学の歴史 第2回ー第3回        微生物の取扱い・分類・細胞構造 第4回                    微生物の栄養増殖・ 第5回、第6回        遺伝(1)    バイオインフォマティクス 第7回                    中間試験 第8回ー第9回        遺伝(2) 第10回、第11回     微生物の代謝・ 第12回、第13回     発酵 第14回、第15回     微生物と物質循環・環境保全				
受講要件					
テキスト	微生物学 青木健治 化学同人				
参考書	講義中に適宜紹介する。				
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	中間と期末に2回の試験を行う。その成績の合計で評価する。				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	園芸生産学 Science of Horticultural Plant Production			
担当教員名	鈴木 克己	所属等		
		研究室		
分担教員名				
クラス		学期	前期	必修選択区分
対象学年		単位数		曜日・時限
キーワード	花卉、果樹、栽培、施設園芸、野菜			
授業の目標	園芸生産について理解を深めることを目標とする。			
学習内容	園芸生産の基礎となる栽培学、植物生理生態学、また園芸生産の特徴でもある施設園芸学を中心に学習する。花き、果樹、野菜の中で好きな作物を一つ選び、その生産についてパワーポイントでまとめ、レポートとして提出する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス、園芸とは</li> <li>2. 我が国の園芸の現状</li> <li>3. 我が国の園芸の歴史</li> <li>4. 世界の園芸</li> <li>5. 播種、育苗</li> <li>6. 土壌管理・養水管理</li> <li>7. 栄養成長</li> <li>8. 挿し木、接ぎ木、整枝</li> <li>9. 花芽分化</li> <li>10. 開花、受粉、受精、着果</li> <li>11. 果実の成長</li> <li>12. 施設園芸①花き、果樹、野菜での利用方法</li> <li>13. 施設園芸②栽培方式</li> <li>14. 施設園芸③環境制御</li> <li>15. 園芸生産における今後の研究方向</li> </ol>			
受講要件	なし。			
テキスト	なし。			
参考書	ガイダンスで紹介予定。			
予習・復習について	予習：園芸に関する本などを読むことが望ましい。 復習：講義において生じた疑問を調べる。			
成績評価の方法・基準	定期試験（60%）、レポート（40%）により行う。再試験は行わない。			
オフィスアワー	メールでアポイントメントをとってください。			
担当教員からのメッセージ	講義内容について疑問がある場合は、授業中、授業後に直接質問してください。			

授業科目名	木材接着学 Wood Adhesion			
担当教員名	山田 雅章		所属等	
			研究室	
分担教員名				
クラス		学期	前期	必修選択区分
対象学年		単位数		曜日・時限
キーワード	接着、接着剤、レオロジー、ホルムアルデヒド・VOC、接着試験法、試験評価法			
授業の目標	身近にある接着製品、木質材料、いろいろな接着剤、とくにものもものがなぜ接着するかを学ぶ際には木材のみならず、高分子科学、物理化学、材料科学など幅広い知識と探求が必要であることを認識して欲しい。			
学習内容	接着に関する基礎理論、接着にするレオロジー、各種接着剤の名称・分類と主要な特徴と性質、木材及び建築材料の接着に関する基礎、木材接着試験法および評価法について学ぶ。 なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標の（D）に対応する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業ガイダンス 木質製品・木質材料のサンプル観察</li> <li>2. 木材接着の基礎 その1</li> <li>3. 木材接着の基礎 その2</li> <li>4. 接着の界面科学</li> <li>5. 接着のレオロジー</li> <li>6. 接着剤の分類と固化様式</li> <li>7. 木材用接着剤の種類 その1</li> <li>8. 木材用接着剤の種類 その2</li> <li>9. 木材用接着剤の種類 その3</li> <li>10. 木材接着に関する因子 その1 木材の因子</li> <li>11. 木材接着に関する因子 その2 接着剤の因子</li> <li>12. 木材接着に関する因子 その3 接着操作・装置</li> <li>13. 木材接着の性能評価と耐久性</li> <li>14. 木材接着の実用</li> <li>15. 木材接着と環境・健康問題</li> </ol>			
受講要件	2年生で学ぶ高分子材料学、木質材料学や3年生前期で行う環境木質化学実験など関連の実験を受講することが望ましい。			
テキスト	木材接着の科学（海青社）			
参考書	木材の接着（日本木材加工技術協会）			
予習・復習について	毎回授業の予習、とくに復習は必ず行うこと。			
成績評価の方法・基準	履修態度および小レポート（30%）、期末筆記試験結果（70%）を総合して評価する。成績の「秀」は90%以上、「優」は80%以上、「良」は70%以上、「可」は60%以上とする。			
オフィスアワー	木曜日の昼食時か17時30分～18時30分。農総329室			
担当教員からのメッセージ	1・2限目の授業であるので遅刻しないで出席すること。また、卒業後住宅企業、接着剤メーカー、住器メーカー、家具メーカー等に就職を考える学生に受講して欲しい。			

授業科目名	収穫後生理学 Postharvest Physiology			
担当教員名	加藤 雅也		所属等	
			研究室	
分担教員名				
クラス		学期	前期	必修選択区分
対象学年		単位数		曜日・時限
キーワード	園芸作物、生理変化、成熟（追熟）、老化、エチレン、栄養成分			
授業の目標	園芸作物（果実、野菜、花）は、収穫後急速な代謝変動を伴い成熟（追熟）・老化する。収穫後生理学では、収穫後の園芸作物の生理変化やそれに関わる酵素の遺伝子発現、活性、性質、誘導、さらに栄養成分の変動について理解を深める。			
学習内容	園芸作物（果実、野菜、花）の成熟（追熟）・老化に深く関わる植物ホルモンのエチレンの生合成、作用、調節機構を中心に講義する。また、栄養成分（ビタミン A やビタミン C）の生合成や収穫後の園芸作物における成分の生合成、変動についても述べる。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業ガイダンス（授業概要、背景、意義）</li> <li>2. 園芸作物の成熟（追熟）・老化における代謝変動</li> <li>3. クライマクテリック呼吸と果実の追熟</li> <li>4. 呼吸 1</li> <li>5. 呼吸 2</li> <li>6. エチレンの生合成機構 1</li> <li>7. エチレンの生合成機構 2 および中間テスト</li> <li>8. エチレンのシグナル伝達 1</li> <li>9. エチレンのシグナル伝達 2</li> <li>10. エチレン生合成・作用の調節、制御</li> <li>11. エチレン以外の植物ホルモンの生合成と生理的役割</li> <li>12. カロテノイド（ビタミン A）の生合成、変動 1</li> <li>13. カロテノイド（ビタミン A）の生合成、変動 2</li> <li>14. アスコルビン酸（ビタミン C）の生合成、変動</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			
受講要件	関連科目：植物生理学，園芸利用学			
テキスト	使用しない。 資料は印刷して配布する。			
参考書	植物ホルモンハンドブック下巻（倍風館），兵藤宏・楊祥発著「エチレン」			
予習・復習について	出来るだけ授業時間内で理解し，専門用語も憶えるように努める。 授業毎に簡単に復習することが望ましい。			
成績評価の方法・基準	各回の小テスト（30%），中間テスト（35%），最終テスト（35%）による評価で行う。			
オフィスアワー	随時（昼休み時間，夕刻等）			
担当教員からのメッセージ	身近な果物，野菜，花の生理現象に関心を持ち，講義に臨んで欲しい。			

授業科目名	動物生命科学 Animal Reproduction			
担当教員名	高坂 哲也	所属等		
		研究室		
分担教員名				
クラス		学期	前期	必修選択区分
対象学年		単位数		曜日・時限
キーワード	生命の誕生、生殖科学、生殖生理学、哺乳類			
授業の目標	本講では、食資源動物を含む哺乳動物を中心に、動物の生命科学、すなわち命の誕生までの生殖プロセスとその仕組みについて学ぶ。			
学習内容	動物の生殖戦略、生殖器官の構造と機能、配偶子（精子と卵子）の形成、受精と発生、妊娠認知と分娩機序などについて講義し、哺乳動物の生命科学、とくに生殖生理全般について理解を深める。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 雄の生殖：精巣の構造とその機能</li> <li>2. 精子形成と成熟</li> <li>3. 精子形成周期と細胞環境</li> <li>4. 精子の構造と運動メカニズム</li> <li>5. 雌の生殖：卵巣の構造と卵胞発育</li> <li>6. 卵子形成と成熟</li> <li>7. 性周期（発情周期）と排卵</li> <li>8. 生殖内分泌</li> <li>9. 受精のメカニズム1：精子の受精能獲得</li> <li>10. 受精のメカニズム2：精子と卵子の接近と融合</li> <li>11. 受精のメカニズム3：卵子内の変化</li> <li>12. 初期胚の発生</li> <li>13. 胚と子宮のコミュニケーション（妊娠認知）と着床</li> <li>14. 胎盤形成と妊娠維持</li> <li>15. 分娩とその機序</li> </ol>			
受講要件	関連科目：動物生理学			
テキスト	「繁殖生物学」 日本繁殖生物学会編（インターズー）を使用する。			
参考書	「動物生殖学」 佐藤英明編（朝倉書店） 「スキッロ動物生殖生理学」 佐々田比呂志・高坂哲也・橋爪一善他訳（講談社）			
予習・復習について	とくに復習を忘れずに。			
成績評価の方法・基準	授業態度をかみし、小テスト（30%）と期末試験（70%）で評価する。			
オフィスアワー	適宜対応（事前にメール等で知らせてください）。			
担当教員からのメッセージ	命の誕生までのプロセスとその仕組みについて総合的に理解してほしい。			



授業科目名	環境微生物学 Environmental Microbiology			
担当教員名	小川 直人	所属等		
		研究室		
分担教員名				
クラス		学期	前期	必修選択区分
対象学年		単位数		曜日・時限
				木 3・4
キーワード	微生物の代謝、微生物の環境応答、化学合成独立栄養細菌、環境問題、微生物の生態学、系統解析			
授業の目標	微生物の多様な代謝活動等の基礎知識を習得し、環境中における微生物の活動、微生物と環境問題の関係、微生物のゲノム情報などに関する専門知識を理解することを目指す。			
学習内容	微生物の多様な代謝能力と環境との関係を中心に基礎的な知識を学ぶ。その上で微生物の代謝活動等の生物学的機構や遺伝学的な知識を学ぶ。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 微生物の研究史</li> <li>2. 微生物の細胞構造の特徴</li> <li>3. 微生物の代謝の基礎</li> <li>4. 微生物の代謝の多様性 1</li> <li>5. 微生物の代謝の多様性 2</li> <li>6. 微生物の代謝の多様性 3</li> <li>7. 微生物の進化と系統学</li> <li>8. バイオインフォマティクス (系統解析)</li> <li>9. 微生物生態学の方法</li> <li>10. 地球環境における物質循環と微生物 <ol style="list-style-type: none"> <li>11. 微生物の環境応答 1</li> <li>12. 微生物の環境応答 2</li> <li>13. 微生物遺伝子の環境中での動態</li> <li>14. 微生物のゲノム解析研究</li> </ol> </li> </ol>			
受講要件	関連科目：基礎微生物学、生化学概論、物質循環学、資源生態科学論、土壌学			
テキスト				
参考書	Brock 微生物学 (オーム社 (原書第 9 版))、環境微生物学 (久保幹・他著、化学同人)、微生物生態学入門 (日科技連)、Brock Biology of Microorganisms (Pearson (第 14 版))			
予習・復習について	とくに指定しない			
成績評価の方法・基準	講義内容の理解を期末テストで評価する。			
オフィスアワー	応対可能時間は午前 9 時から午後 5 時まで。事前にメールで確認を取ることが望ましい。			
担当教員からのメッセージ	私語は厳禁。			

授業科目名	材料力学 Strength of Material			
担当教員名	安村 基	所属等		
		研究室		
分担教員名				
クラス		学期	前期	必修選択区分
対象学年		単位数		曜日・時限
				金 1・2
キーワード	応力、ひずみ、弾性体、はり、たわみ			
授業の目標	弾性体に作用する応力と変形を理解することを目標とする。			
学習内容	木造建築の構造設計、木質材料の評価などの基礎となる、力のつりあい、弾性体の応力と変形について学ぶ。 なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標の (D)に対応する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 材料力学の歴史</li> <li>2. 環境問題と力学</li> <li>3. 力の定義、力の合成と分解</li> <li>4. 力の釣合</li> <li>5. 軸力を受ける棒</li> <li>6. 曲げを受けるはり</li> <li>7. 断面の性質と材料の特性</li> <li>8. 静定トラスの応力</li> <li>9. 静定ラーメン/断面力</li> <li>10. はりの例題</li> <li>11. ラーメンの例題</li> <li>12. 反力と曲げモーメント</li> <li>13. 仮想仕事法</li> <li>14. はりのたわみ</li> <li>15. 骨組みの変形</li> </ol>			
受講要件	木質機能科学、3年後学期の「住環境構造学」との関連が深い。			
テキスト	理工図書 建築構造力学 上 構造力学研究会 ISBN978-4-8446-0734-2、その他、授業中に適宜プリントを配布します。			
参考書	講義中に適宜紹介する。			
予習・復習について	材料力学は、毎回の講義内容の積み重ねなので、過去の講義内容をしっかりと理解しないと、新しい内容が理解できない。			
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果による。 成績の「秀」は90%以上、「優」は80%以上、「良」は70%以上、「可」は60%以上とする。			
オフィスアワー	昼休み、農学部A426室。メール (afmyasu@ipc.shizuoka.ac.jp) で連絡してください。			
担当教員からのメッセージ	積極的に質問してください。			

授業科目名	食料経済学 Food Economics			
担当教員名	柴垣 裕司	所属等		
		研究室		
分担教員名				
クラス		学期	前期	必修選択区分
対象学年		単位数		曜日・時限
キーワード	フードシステム、食の需給、食料政策、食料問題			
授業の目標	学生が経済学の理論を習得し、毎日口にする食料の経済的性質とそれらがもたらす経済的諸問題についての理解を深めることを目指す。			
学習内容	我々が毎日口にしている「食料」が、どのように生産され、どのようにして食卓にのぼってくるのかについて、各段階の問題点を交えながら講義する。また、「食料」の持つ様々な経済的性質が、その需要と供給の両面に及ぼす様々な影響について言及するとともに、世界や日本における「食料」に関する諸問題について改めて考えてもらうよう問題提起を行う。			
授業計画	1 : ガイダンス、フードシステムの概要 2 : 食生活の変遷と特徴 3・4 : 食の需給 5・6 : 食生活の外部化 7・8 : 農畜水産物の生産 9・10 : 食品製造業・農産加工 11・12 : 食品の流通 13 : 世界の食料問題 14・15 : 我が国の食料政策と食料問題 16 : 期末試験			
受講要件	特になし。			
テキスト	なし。プリントを配布する。			
参考書	高橋正郎『フードシステム学全集』農林統計協会			
予習・復習について	学問の性格上、講義内容が広範囲にわたるので、特に復習をしっかりと講義内容を理解すること。			
成績評価の方法・基準	期末試験（100％）で評価する。 評価基準として、期末試験は講義内容の理解度をみる。			
オフィスアワー	相談事のある方は、事前にメールで当方の都合を聞いて下さい。			
担当教員からのメッセージ	・経済学の理論を援用して食料の経済的側面について講義しますが、経済活動を説明する理論に関心を持って下さい。経済学の理論は社会に出てからはもちろん、皆さんの現在の生活にも応用可能な理論です。 ・経済学には興味がないという人がいますが、経済と無関係の技術はあり得ません。技術者（研究者）を目指す人も技術が経済や社会に与える影響について考えてください。			

授業科目名	植物栄養学 Plant Nutrition			
担当教員名	森田 明雄	所属等		
		研究室		
分担教員名				
クラス		学期	前期	必修選択区分
対象学年		単位数		曜日・時限
キーワード	必須元素、有用元素、肥料、環境			
授業の目標	人間生存にとって必要な食糧、資源、環境や植物バイオテクノロジーの基本となる植物の栄養の営みを理解することを目標とする。			
学習内容	植物における必須元素等の吸収、同化、代謝とそれらの制御について述べる。さらに、肥料の種類、性質、施肥の原理、肥料の施与法、栄養診断等についても講義する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 植物科学と植物栄養学</li> <li>2. 窒素の代謝 I</li> <li>3. 窒素の代謝 II</li> <li>4. 多量必須元素 I</li> <li>5. 多量必須元素 II</li> <li>6. 多量必須元素 III</li> <li>7. 微量必須元素 I</li> <li>8. 微量必須元素 II</li> <li>9. 植物の生育に関連深い元素</li> <li>10. 肥料の種類と選択 I</li> <li>11. 肥料の種類と選択 II</li> <li>12. 施肥の原理と施与法</li> <li>13. 植物の栄養診断</li> <li>14. 環境、農業および肥料 I</li> <li>15. 環境、農業および肥料 II</li> </ol>			
受講要件	本科目は「植物生理学」より引き継いで講義する。両科目を履修することで本学問分野を把握、理解できる。			
テキスト	特に使用しない。 必要な資料は印刷して配布する。			
参考書	「植物栄養・肥料学」山崎耕宇ら編（朝倉書店） 「現代植物生理学（全5巻）」宮地ら編（朝倉書店） 「植物生化学」金井龍二訳（シュプリンガー・フェアラーク東京）			
予習・復習について	専門用語等復習し、理解すること。			
成績評価の方法・基準	期末筆記試験で評価する。 評価基準は、科目の目標に沿って、特に筆記試験は講義内容の理解度をみる。			
オフィスアワー	授業終了後教室にて			
担当教員からのメッセージ	小テストは毎回授業開始時に行います。			

授業科目名	生物有機化学 1 Bioorganic Chemistry 1			
担当教員名	轟 泰司		所属等	
			研究室	
分担教員名				
クラス		学期	前期	必修選択区分
対象学年		単位数		曜日・時限
キーワード	分子軌道法、反応の遷移状態、求核置換反応、脱離反応、付加反応、立体化学			
授業の目標	有機化学概論で学んだ内容を基礎として、有機化学反応の仕組みを電子論的に解説し、多様な化学反応が統一された理論に基づいて整然とおこっていることを理解させる。			
学習内容	有機化学反応の基礎となる反応各論とその反応機構の考え方、生物現象との関連など。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス、電子構造と結合・酸と塩基 1</li> <li>2. 電子構造と結合・酸と塩基 2</li> <li>3. 有機化合物の基礎：命名法、物理的性質、および構造の表示法</li> <li>4. 求電子付加反応、立体化学、および電子の非局在化</li> <li>5. アルケンの反応</li> <li>6. 立体化学：原子の空間配置：付加反応の立体化学 1</li> <li>7. アルキンの反応：多段階合成の基礎</li> <li>8. 非局在化電子と安定性、反応性、および pKa に及ぼすその効果・より詳しい分子軌道理論</li> <li>9. ハロゲン化アルキルの置換反応 1</li> <li>10. ハロゲン化アルキルの置換反応 2</li> <li>11. ハロゲン化アルキルの脱離反応・置換反応と脱離反応の競争 1</li> <li>12. ハロゲン化アルキルの脱離反応・置換反応と脱離反応の競争 2</li> <li>13. アルコール、アミン、エーテル、エポキシド、および含硫黄化合物・有機金属化合物の反応</li> <li>14. ラジカル・アルカンの反応</li> <li>15. NMR 分光法</li> </ol>			
受講要件	化学概論 A, B, 有機化学概論を基礎としている。また生物有機化学 2 に引き継がれるのでここで学ぶこと がらを確実に身につける必要がある。			
テキスト	ブルース有機化学第 7 版上 (化学同人)			
参考書	生物有機化学がわかる講義 (清田洋正著, 講談社)			
予習・復習について	授業中に課す小テストに沿った内容の宿題を必ず課すので復習が必須である。			
成績評価の方法・基準	定期試験 (70 %) および講義中に実施する小テスト (30 %)			
オフィスアワー	授業終了時、事前にメール等で連絡があれば時間を調整する。			
担当教員からのメッセージ	反応機構を書きながら考えること。手を動かすことが大切。			

授業科目名	一般昆虫学 General Entomology			
担当教員名	田上 陽介	所属等		
		研究室		
分担教員名				
クラス		学期	前期	必修選択区分
対象学年		単位数		曜日・時限
				金 3・4
キーワード	昆虫、分類、形態、発生、生理、生態、遺伝			
授業の目標	昆虫は、人にはない驚くべき能力を秘めています。その一端に触れてもらい、一般生物学では学べない「昆虫学」に慣れ親しんで頂く授業にします。			
学習内容	昆虫とはどのような生き物であるかを理解してもらうため、その特徴（起源、分類、形態、生理など）を詳しく解説します。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 昆虫の起源</li> <li>2. 昆虫の分類</li> <li>3. 昆虫の形態 I</li> <li>4. 昆虫の形態 II</li> <li>5. 昆虫の発生 I</li> <li>6. 昆虫の発生 II</li> <li>7. 昆虫の生態 I</li> <li>8. 昆虫の生態 II</li> <li>9. 昆虫の生態 III</li> <li>10. 昆虫の生理 I</li> <li>11. 昆虫の生理 II</li> <li>12. 昆虫の遺伝 I</li> <li>13. 昆虫の遺伝 II</li> <li>14. 昆虫の内部共生</li> <li>15. 環境保全と昆虫</li> </ol>			
受講要件	2年後期の「応用昆虫学」に向けての予備知識の習得を目指しています。			
テキスト	「最新応用昆虫学」(朝倉書店)を予習、復習に活用して下さい。 必要に応じて資料を配布します。			
参考書	「応用昆虫学の基礎」(朝倉書店)			
予習・復習について	適宜テキストや配付資料を用いて、予習・復習を行ってください。			
成績評価の方法・基準	筆記試験と出席回数で評価します。			
オフィスアワー	昼休み等に応用昆虫学研究室やA334に直接来るか、電話やE-mailで連絡してください。			
担当教員からのメッセージ	私たちの身のまわりにはたくさんの昆虫がいます。よく観察すると、それら昆虫の興味深い暮らしぶりが見えてきます。			

授業科目名	農学基礎論				
担当教員名	竹之内 裕文 (TAKENOUCHI Hirobumi)		所属等	大学院農学領域	
			研究室	農学部総合棟 520	
分担教員名					
クラス	農学共通	学期	前期		必修選択区分
対象学年		単位数		曜日・時限	水 1・2
キーワード					
授業の目標	これから本格的に農学を学んでいく新入生（1年生）に対して、農業、農村、農学、食という農学の根本課題を提示し、それを受けたグループ討議と全体討議を通して、農学に対する理解を深め、基礎的知識を習得していきます。また掘り下げ、疑うなど、深く考える機会を提供することで、受講生が批判的思考と創造的思考を身につけることを目指します。				
学習内容	1) 食べるとはどのようなことか？ 2) 農業とはどのような営みか？ 3) 農山村とはどのようなところか？ 4) 農学の使命とはなにか？ という4つの問いについて、次の①～③の行程を繰り返していく。①問いに対する回答を練り上げるためのグループワーク、②各グループの回答の提示と全体討議、③担当教員によるショートレクチャー。				
授業計画	第1回：ガイダンス「大学で農学を学ぶということ」（40分） 第2回：「食を問いなおす」（視聴覚映像『フード・インク』90分） 第3回：「食を問いなおす」（グループワーク 30分・全体討議 60分） 第4回：「食を問いなおす」（ショートレクチャー60分）「農業とはどのような営みか」（グループ討議 30分） 第5回：「農業とはどのような営みか」（全体討議 50分・ショートレクチャー40分） 第6回：「農山村とはどのようなところか」（グループ討議 30分・全体討議 60分） 第7回：「農山村とはどのようなところか」（ショートレクチャー60分）「農学の使命とはなにか」（グループ討議 30分） 第8回：「農学の使命とはなにか」（全体グループ討議 50分・ショートレクチャー40分）				
受講要件	討議を中心に進められるので、出席は厳密な前提になります。くわえて討議に積極的に参加し、講義に貢献することが求められます。				
テキスト	教科書は使用しません。資料は各回の講義で配付します。				
参考書	『食と農の社会学 生命と地域の視点から』榊湯俊子・谷口吉光・立川将司編著、ミネルヴァ書房、2014年、『人間にとって農業とは』坂本慶一、学陽書房、1989年、『「里」という思想』内山節、新潮社、2005年、『農の福祉力 アグロ・メディコ・ポリスの挑戦』池上甲一、農山漁村文化協会、2013年、『「食べる」思想』村瀬学ぶ、洋泉社、2010年。				
予習・復習について	講義は討議（グループ討議&全体討議）を中心に進められるので、討議テーマについて徹底して考え抜き、全体討議でも必ず一度は発言してください。真剣に、楽しく討議しましょう。				
成績評価の方法・基準	グループワークと全体討議への貢献度（50%）と4つの問いに回答するコメントペーパーの内容（50%）によって総合的に評価する。				
オフィスアワー	本講義後ないし水曜日の午後。事前に連絡のうえ来室してもらえると助かります。				
担当教員からのメッセージ	開講日が変則的（第2週以降は隔週開講）なのでご注意ください。①応用生命科学科（4/13 8:40-9:20）、生物資源科学科（4/13 9:30-10:10）②応用生命科学科（4/20）③生物資源科学科（4/27）④応用生命科学科（5/11）⑤生物資源科学科（5/18）⑥応用生命科学科（5/25）⑦生物資源科学科（6/1）⑧応用生命科学科（6/8）⑨生物資源科学科（6/15）⑩応用生命科学科（6/22）⑪生物資源科学科（6/29）⑫応用生命科学科（7/6）⑬生物資源科学科（7/13）⑭応用生命科学科（7/20）⑮生物資源科学科（7/27）				

授業科目名	日本文学演習 I				
担当教員名	小二田 誠二 KONITA Seiji		所属等	大学院人文社会科学領域	
			研究室	人文 A 棟 323	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	通年		必修選択区分 選択
対象学年		単位数	4	曜日・時限	月 3・4
キーワード	江戸、明治、浮世絵、歌舞伎、風俗、凶像、印刷、出版、注釈、解説、展示				
授業の目標	<p>*江戸時代資料の扱いについて学ぶ。  *江戸時代の文化全般についての知識を増やす。  *注釈の方法を学び、発信する力を身につける。</p>				
学習内容	<p>【浮世絵を読む】  おもに幕末・明治期に作製された実物浮世絵を材料として、そこに描かれている物が何か読み解く作業を通して、江戸文化の様々な特性について学ぶ。  具体的には、関連情報の収集・注釈・発表を繰り返し、年度末に展示会を開催。</p>				
授業計画	<p>最初数回は講義形式。その間に担当箇所を調べる。  1 はじめに 浮世絵は芸術品では無い？  2 浮世絵の読み方  3 基本情報の確認  4 整理の方法  連休明け以降は担当箇所についての発表と資料作成の繰り返し。  年明けは展示会準備・展示会。  * 昨年度展示会を行いました。ブログに紹介記事がありますので、確認してください。  <a href="http://blog.goo.ne.jp/koneeta">http://blog.goo.ne.jp/koneeta</a></p>				
受講要件	江戸時代の歴史、文化について、一通りの知識があること。				
テキスト	実物の錦絵を使用します（コピー及び電子媒体で配布）。				
参考書	『浮世絵の見方』松井英男著 誠文堂新光社（ISBN 978-4-416-81177-1） 『ようこそ浮世絵の世界へ』太田記念美術館監修・日野原健司解説 東京美術（ISBN 978-4-8087-1044-6 C0071） など。				
予習・復習について	担当箇所以外もすべて調べておくこと。授業中の疑問点などは次回までに解決しておくこと。美術館などで本物に親しんでおきましょう。				
成績評価の方法・基準	*担当箇所の発表 40% *展示解説 40% *授業への貢献 20%				
オフィスアワー	空き時間随時。時間割は <a href="http://www.ipc.shizuoka.ac.jp/~jjskoni/time.html">http://www.ipc.shizuoka.ac.jp/~jjskoni/time.html</a> 参照。				
担当教員からのメッセージ	浮世絵の現物に触れられる滅多に無い機会です。専門外の人でも積極的に参加してみてください。				



授業科目名	中国言語文化演習 I				
担当教員名	張 盛開 Shengkai Zhang		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人 A324	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	通年		必修選択区分 選択
対象学年		単位数	4	曜日・時限	火 3・4
キーワード	中国語、文章作成、口頭発表、評価				
授業の目標	中国語の文章を作成し、口頭発表を行う。文章力、表現力の向上を目指す。				
学習内容	決まったテーマや要求で文章を作成し、それをわかりやすく口頭発表を行うことで中国語の表現を学習する。				
授業計画	<p>具体的に以下の内容で授業を行っていく予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 自己紹介(作文)</li> <li>2 自己紹介(発表)</li> <li>3 他人紹介(作文)</li> <li>4 他人紹介(発表)</li> <li>5 各自の興味のある分野の作文及び口頭発表</li> </ol>				
受講要件	初級中国語習得済み				
テキスト	なし				
参考書	授業中で指示する				
予習・復習について	予習と復習をしっかりと行うこと				
成績評価の方法・基準	年間を通しての作文、口頭発表、他人の評価と最終のレポートを併せて評価する				
オフィスアワー	火曜の昼休み				
担当教員からのメッセージ	グループごとの作業を通して、受講者同士の交流を深め、それぞれの中国語能力のアップにつなげていただければ幸いです。留学生の参加も大歓迎。なお、留学生には日本語での文章作成および口頭発表を行っていただく場合があります。				

授業科目名	フランス語学概論 Introduction to French Linguistics				
担当教員名	浅野 幸生 ASANO Yukio		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人文 A 棟 408	
分担教員名					
クラス	人文専門 1A	学期	通年		必修選択区分 選択
対象学年		単位数	4	曜日・時限	火 9・10
キーワード	基礎力				
授業の目標	1年間フランス語初級を学んだ人を対象に、中級以上のレベルに到達できるよう指導する。				
学習内容	語学力の核は語彙と文法の正確な知識です。これらは継続的で地道な努力によってのみ獲得しうるものです。今年、少し高度な文法書と豊富な読書（もちろんフランス語の）量でこの目標を達成したいと思いません。通年の授業なので、易しめのテキストから始め、徐々にレベルを上げていくようにします。				
授業計画	<p>通年の授業なので、じっくり取り組んで目標を達成したいと思います。</p> <p>この授業は1年間(またはそれ以上)フランス語を学んである程度の基礎ができている人を対象としますが、(おそらく今まで使ってきたものよりは)少しだけレベルの高い教科書を用いて中級レベルの基礎をしっかり身につけたいと思います。テキスト(未定)を生協で調達してもらいます。</p> <p>量が多いので勉強の仕方が正しければ相当の効果が期待できると思います。</p>				
受講要件	フランス語を1年(以上)学習した人。				
テキスト	「初歩のテーマ」(三修社、石井晴一著)を生協で購入のこと。				
参考書	フランス語の辞書。				
予習・復習について	予習が大切。				
成績評価の方法・基準	平常点と試験による。				
オフィスアワー	月 14:30~15:30				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	民法総論				
担当教員名	藤巻 梓 FUJIMAKI Azusa		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人 A617	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	通年		必修選択区分 必
対象学年		単位数	4	曜日・時限	金 3・4
キーワード	民法、民法総論、民法総則				
授業の目標	私たちが社会生活を送るうえで最も基本的な法律である「民法」の意義と、その社会的機能を考える。私法一般法と呼ばれる民法を学ぶことは、法律学の重要な基礎となるものであり、他の法律を学ぶにおいても重要な意義を有する。この講義では、民法の体系を把握したうえで、その基本的な考え方を身に付けてもらいたい。民法総則という領域は、抽象的な規定も多く、難易度も高いので、講義では、判例や具体例を用いながらできるだけ平易に解説をすることを心がけたい。				
学習内容	民法の全体像を把握したうえで、民法全体を規律する総則について学修する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション 民法の意義と基本原理</li> <li>2. 民法の全体像 (1)</li> <li>3. 民法の全体像 (2)</li> <li>4. 権利能力、意思能力</li> <li>5. 未成年者</li> <li>6. 成年後見制度</li> <li>7. 意思表示</li> <li>8. 心裡留保</li> <li>9. 虚偽表示 (1)</li> <li>10. 虚偽表示 (2)</li> <li>11. 錯誤 (1)</li> <li>12. 錯誤 (2)</li> <li>13. 詐欺と強迫</li> <li>14. 法律行為の有効要件 (90条・91条)</li> <li>15. 消費者契約法</li> <li>16. 無効と取消し</li> <li>17. 条件と期限</li> <li>18. 代理総論</li> <li>19. 無権代理</li> <li>20. 表見代理 (1)</li> <li>21. 表見代理 (2)</li> <li>22. 法人総論</li> <li>23. 法人の内部関係</li> <li>24. 法人の外部関係</li> <li>25. 法人以外の団体</li> <li>26. 時効総論</li> <li>27. 消滅時効</li> <li>28. 取得時効</li> <li>29. 信義則と権利濫用</li> <li>30. 民法改正をめぐる新たな動向</li> </ol>				
受講要件	平成16年度以前入学生が本授業を履修した場合には、「契約法」に読み替える。平成22年度以前入学生が本授業を履修した場合には、「契約法総論・不法行為法」に読み替える。				
テキスト	近江幸治『民法講義Ⅰ 民法総則 (第6版補訂)』(成文堂) 民法判例百選Ⅰ総則・物権 (第7版) (別冊ジュリスト・有斐閣)				
参考書	田山輝明『民法総則 (第三版)』(成文堂)、佐久間毅『民法の基礎Ⅰ総則 (第3版)』(有斐閣)、池田真朗『スタートライン民法総論』(日本評論社)等。詳細は講義時に指示する。				
予習・復習について	講義内容が広範囲にわたり、かつ初学者には理解が容易ではない分野も多いので、講義の内容については、必ず毎回予習・復習をすること。				
成績評価の方法・基準	前期末のテスト、及び学年末の試験期間内に実施する試験で評価する。				
オフィスアワー	初回講義時に指定する。				

担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 3. 難易度（B） 教科書は必ず購入すること。また、「六法」については、いずれの出版社でもよいが、最新のものを購入し、授業時には必ず毎回持参すること。講義に際しては、シラバスに示した進行計画を適宜変更することがある。また、民法債権法改正法の成立の如何および成立時期によって講義内容も変更される可能性がある。
--------------	--

授業科目名	生物学 I Biology I				
担当教員名	吉田 信行 YOSHIDA Nobuyuki		所属等	学術院工学領域	
			研究室		
分担教員名					
クラス	工 1	学期	前期		必修選択区分 必、選必
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	月 3・4
キーワード	細胞、オルガネラ、糖、アミノ酸、タンパク質、遺伝子、DNA、代謝				
授業の目標	工学部での生物学的研究に必要最低限となる、現代生物学の基礎を学ぶ。まずは生物学に興味を持つこと、そして工学部において生物学を学ぶ意味を理解する。また、3・4年次の生物関連専門科目の理解を助ける基礎知識の習得を目指す。				
学習内容	生物を構成する細胞の構造と機能、および細胞に含まれている主要生体物質、またその代謝について、基本的なところから分かりやすく講義する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. プロローグ「なぜ工学部で生物学を学ぶか？」</li> <li>2. 生物とは何か？生物学とは何か？</li> <li>3. 生物の種類</li> <li>4. 細胞とそこに含まれる物質 1 「細胞の種類と構造」</li> <li>5. 細胞とそこに含まれる物質 2 「細胞内小器官」</li> <li>6. 細胞とそこに含まれる物質 3 「糖質・脂質」</li> <li>7. 細胞とそこに含まれる物質 4 「アミノ酸とタンパク質」</li> <li>8. 中間試験</li> <li>9. 細胞とそこに含まれる物質 4 「ヌクレオチドと核酸」</li> <li>10. DNA 複製と細胞の増殖 1 「DNA 複製のしくみ」</li> <li>11. DNA 複製と細胞の増殖 2 「細胞分裂と細胞死」</li> <li>12. DNA にある遺伝情報を取り出す 1 「RNA と転写の調節」</li> <li>13. DNA にある遺伝情報を取り出す 2 「タンパク質の合成と修飾」</li> <li>14. 生命を支える反応 1 「代謝と酵素」</li> <li>15. 生命を支える反応 2 「解糖系と TCA 回路」</li> </ol>				
受講要件	特にないが、講義においては積極的な発言を期待する。				
テキスト	コア講義 生物学（田村隆明 著、裳華房）				
参考書	理工系のための生物学（坂本順司 著、裳華房）、Essential 細胞生物学（中村桂子、松原謙一 監訳、南江堂）				
予習・復習について	講義での理解を助けるために予習は必要であるが、本講義では特に復習に力を入れる。毎回講義の前半に、前回の講義内容についてのプレゼンテーションを数人で行ってもらい、皆で議論・復習する時間を作る。				
成績評価の方法・基準	細胞の構造と機能、細胞に含まれている物質に対する基本的な理解ができたかを評価する。評価の配分は中間試験 40%、期末試験 40%、プレゼンテーション 10%、その他レポート等 10%とする。試験については、講義内容を理解することにより取り得る点(70%)、講義内容を理解し、それを応用することにより取り得る点(30%)とする。学習度が 60%を満たしている場合を合格とする。				
オフィスアワー	随時（但し、事前にメールでの問い合わせが望ましい。）				
担当教員からのメッセージ	高校で生物を履修しなかった人も心配ありません。生物は自身とその子の生命を維持するために、芸術的とも言える巧妙なシステムを持っています。そのシステムの工学的利用はとても魅力的ですが、そのためには基本的な生物学、特に現代生物学を学ぶ必要があります。基礎からしっかりと生物学を学ぶことによって、工学部における生物系研究に興味を持てればと思います。				

授業科目名	地域と文化 Region and Culture				
担当教員名	西原 純 NISHIHARA Jun		所属等	大学院情報学領域	
			研究室	J-2723	
分担教員名					
クラス	情工1	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	火1・2
キーワード	ステーブル理論、中心-周辺理論、地域格差、多民族社会、プロテスタント、カトリック				
授業の目標	ステーブル産出国の経済的劣位や、経済の統合化と社会・文化の分裂化という相反する潮流について、カナダを事例として、世界の仕組みを理解すること				
学習内容	ステーブル開発によるカナダ発展の非常に特徴的な歴史とその結果形成された現代カナダの地域構造を、社会科学の基本的理論を用いて学習する				
授業計画	1) カナダの自然的特徴 - 広大さと寒冷さ 2) カナダの経済・政治を分析する枠組み - 「ステーブル理論」「中心-周辺論」 3) ステーブル開発とカナダの発展 - 「ステーブル理論」の展開 4) ステーブル開発と先住民社会の崩壊 - 「ステーブル理論」の展開 5) カナダの植民開拓とケベック「私は忘れない」 - 「民族・文化の抗争」 6) カナダの連邦建設と現代カナダの経済構造 - 「中心-周辺論」の展開 7) 寒冷地の開発と地域的・社会的不平等 - 「中心-周辺論」の展開 8) 二言語・多文化主義、カナダ分裂のシナリオ - 「民族・文化の抗争」				
受講要件	授業に積極的に参加できる学生に受講してほしい				
テキスト	なし				
参考書	日本カナダ学会編『はじめて出会うカナダ』、有斐閣、2009年発行 日本カナダ学会編『新版資料が語るカナダ 1535-2007』、有斐閣、2008年発行				
予習・復習について	授業と同じくらいの時間の復習が必要				
成績評価の方法・基準	レポート 2回 (80%) 授業への参加度 (質問、回答) (20%)				
オフィスアワー	授業時に指示する				
担当教員からのメッセージ	担当教員は日本カナダ学会の会員で、この授業を聞くとカナダへ行きたくなるはず！ ただしカナダのみの特殊事例としてではなく、できるだけ世界・日本で発生している現象と関連づけて講義するので、柔軟な思考の持ち主に受講して欲しい				

授業科目名	化学の世界 Introduction to Chemistry				
担当教員名	梅本 宏信 UMEMOTO Hironobu		所属等	学術院工学領域	
			研究室	6-504	
分担教員名					
クラス	情 1	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	火 1・2
キーワード	基礎工学、自然科学、環境科学、科学哲学				
授業の目標	担当者が専門とする「化学」は、基礎工学という実学としての側面と自然哲学という純粋科学としての側面をもっている。本講義では、この両方の側面から「化学（科学）」について考えていきたい。また、特に、地球環境を例にとりて、現代化学（科学）の果たすべき役割について考える。				
学習内容	銅、鉄、水銀といった身近な物質の化学から始め、「地球温暖化対策」などの複合科学である環境科学まで、具体的な事例をその背後に存在する哲学を交えて講義する。同時に、我々の実生活に欠かせない「化学（科学）の知識」、「科学的ものの考え方」を身に着ける。なお、本講義では、一部を除き、数式の使用は避ける方針であるが、化学式は使用する。				
授業計画	<p>以下に授業内容を掲げる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要説明、基礎工学としての化学と純粋科学としての化学</li> <li>2. 銅と酸化還元（10円玉とブロンズ像の化学）</li> <li>3. 鉄と磁性（磁石は日本のお家芸）</li> <li>4. 水銀と環境問題（科学進歩の立役者との惜別）</li> <li>5. 環境問題パート2（公害問題から環境問題へ）</li> <li>6. エネルギーに関する基本法則</li> <li>7. エネルギー資源1（化石燃料）</li> <li>8. エネルギー資源2（核エネルギー）</li> <li>9. 新エネルギー1（太陽光発電）</li> <li>10. 新エネルギー2（燃料電池）</li> <li>11. 地球環境問題1（地球大気の変遷、酸性雨）</li> <li>12. 地球環境問題2（温暖化）</li> <li>13. 地球環境問題3（オゾン層の破壊とフロン）</li> <li>14. みえるものとみえないもの（走査型トンネル顕微鏡からみえてくるもの、みえないものは存在しないか？）</li> <li>15. 科学と似非科学（カール・セーガンの遺書）</li> </ol>				
受講要件	特に定めないが、本講義では、自ら考え、発言することを求める。				
テキスト	なし				
参考書	芝哲夫「化学物語25講」 化学同人 ISBN4-7598-0776-4 今中利信、廣瀬良樹「環境・エネルギー・健康20講」 化学同人 ISBN4-7598-0849-3 カール・セーガン「カール・セーガン 科学と悪霊を語る」 新潮社 ISBN4-10-519203-5				
予習・復習について	随時、レポートの課題を示すので、それを期限内に提出すること。				
成績評価の方法・基準	レポート50%、期末試験50%。期末試験は、ノート、参考書持込可で行い、論述式とする。学習度が60%を満たしている者を合格とする。				
オフィスアワー	事前にメールで予約してください。				
担当教員からのメッセージ	哲学はすべての学問の基本である。工学も化学も例外ではないことを認識して欲しい。				

授業科目名	生命科学 Life Science				
担当教員名	杉浦 敏文 SUGIURA Toshifumi		所属等	電子工学研究所	
			研究室	電子工学研究所 303	
分担教員名					
クラス	情工1	学期	前期		必修選択区分 選必、選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	火1・2
キーワード	生理、解剖、生体、医療機器				
授業の目標	<p>“人間とは何か”という、古来より哲人達はその答えを求め続けてきた命題は依然として我々の眼前に屹立している。「考える」ためには“身体”が必要であるが、身体内部の調整はホルモンと神経で行われており、その指示を出しているのは“脳”である。脳からの指令によって身体状態は良くも悪くもなる。一方で脳自体は脳以外の全ての臓器の働きによって支えられており、それらの状態が脳の働きを左右する。また、それら臓器の設計図は遺伝子のコードの中にある。持ちつ持たれつ、である。脳の中で我々の情動、感情、意識及び意志が作られるのであれば、それらを理解するには脳を支えている身体を理解することが大切になる。本講義は身体の働きを学び、学生諸君が単なる知識人ではなく真の教養人となるきっかけとなることを目標にしている。</p>				
学習内容	<p>生理学 身体各部の構造と働きを解説する。 骨格系、筋肉系、消化器系、呼吸器系、循環器系、神経系、生殖系、医療機器等。 随時視聴覚教材を使用する。 時間次第だが、遺伝子にも適宜言及する。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>ガイダンス（授業の目標、内容の解説、基本的な考え方、成績評価法の説明、注意事項など）</li> <li>骨格系と筋肉系</li> <li>神経系Ⅰ ニューロンとシナプス、自律神経</li> <li>神経系Ⅱ 自律神経、中枢神経</li> <li>心臓Ⅰ 構造と働き</li> <li>心臓Ⅱ 電気伝導、不整脈他</li> <li>医療機器（超音波機器、PET、MRI、近未来の診断装置など）</li> <li>呼吸Ⅰ 構造と働き</li> <li>呼吸Ⅱ 血液ガス交換他</li> <li>感覚器（視覚、聴覚、皮膚感覚など）</li> <li>消化器Ⅰ 消化器全般、胃、十二指腸</li> <li>消化器Ⅱ 肝臓、膵臓他</li> <li>消化Ⅲ 小腸、大腸、直腸、肛門</li> <li>血液と免疫</li> <li>生殖系、胎児の世界</li> </ol>				
受講要件	身体に興味のある人、自分の生き方に関心のある人。				
テキスト	プリントを用意する。				
参考書	人体生理学ノート（真島英信著、松村幹郎改訂、金芳堂）、標準生理学（豊田順一監修、医学書院）、動的平衡（福岡伸一、木楽舎）他、図書館にもさまざまな書籍を用意してあるのでそれらも併せて参考にして欲しい。				
予習・復習について	身体に関して興味のあることを予め考えて疑問点を整理しておき、できる限り授業中に質問すること。講義をよく聴き、その日のポイントをプリントをもとにしっかり復習しておくことと良い。				
成績評価の方法・基準	70%以上の出席者に対して試験を行い、60点以上を合格とする。				
オフィスアワー	毎週月曜日午後4時-5時半。				
担当教員からのメッセージ	毎回出席し、よく聴き、よく訊き、納得しながら最後まで聴講して欲しい。 自分の頭で考えて、分からないことは質問して欲しい。				



授業科目名	地球科学 Earth Science				
担当教員名	岩崎 一孝 IWASAKI Kazutaka		所属等	大学院情報学領域	
			研究室	J-2721	
分担教員名					
クラス	情工1	学期	前期		必修選択区分 選必、選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	火1・2
キーワード	自然地理学、気候学、大気大循環、降水量分布、砂漠、オーストラリア				
授業の目標	大気大循環によってもたらされる様々な気候地域について、自然地理学の立場から解説することをこの授業の第一の目的とする。全陸地面積の3分の1を占めると言われ、砂漠化などの環境の劣化が問題になっている乾燥地域、半乾燥に焦点を当て、オーストラリアを例として、最近の環境問題について解説を試みる。				
学習内容	大気大循環と世界の降水量分布。オーストラリアの自然環境。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業内容、評価の仕方などの説明。</li> <li>2. 大気の鉛直構造と水平構造。</li> <li>3. 大気の鉛直構造と水平構造。</li> <li>4. 前線帯、気団とアリソフの気候区分。</li> <li>5. 前線帯、気団とアリソフの気候区分。</li> <li>6. 前線帯、気団とアリソフの気候区分。</li> <li>7. 前線帯、気団とアリソフの気候区分。</li> <li>8. 熱帯の気候 アフリカの気候地域。</li> <li>9. 熱帯の気候 アフリカの気候地域。</li> <li>10. 乾燥の大陸としてのオーストラリア大陸。</li> <li>11. 乾燥の大陸としてのオーストラリア大陸。</li> <li>12. オーストラリアの自然環境。</li> <li>13. オーストラリアの自然環境。</li> <li>14. オーストラリアの自然環境。</li> <li>15. オーストラリアの自然環境。</li> </ol>				
受講要件	授業に毎回出席できること				
テキスト	テキスト 指定しない。プリントを配布。				
参考書	授業中に指示する。				
予習・復習について	レポート作成においては、授業内容を理解していることを前提にした課題を課します。				
成績評価の方法・基準	期末レポートに、授業中に行う実習を加味して判断します。 評価基準については、第1回目の授業時に説明します。				
オフィスアワー	火曜日昼休み～第5／6時限目、変更の場合は授業中に明示します。				
担当教員からのメッセージ	受講生が授業に毎回出席していることを前提に授業を進めます。授業内容はシラバス内容と少し変更の可能性があります。初回の授業には、必ず出席してください。				

授業科目名	現代の社会 (Contemporary Japanese Society)				
担当教員名	笹原 恵 (SASAHARA Megumi)		所属等	大学院情報学領域	
			研究室	J-2825	
分担教員名					
クラス	情工2	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火3・4
キーワード	家族、人権、結婚、夫婦、親子、血縁、シングル、恋愛、性、ジェンダー				
授業の目標	現在の家族にまつわるさまざまなトピックをとりあげながら、社会学的な思考、社会科学な視点から家族と社会を考える				
学習内容	家族とは何か、シングル論、恋愛、夫婦、親子の問題など、現代の家族が直面する諸問題を考えることを通して、現代家族とそれをとりまく現代社会について考える				
授業計画	1 ガイダンス～「家族を考える」とは？ 2・3 「家族」って何だろう 4・5 恋愛～いろいろな恋愛 *恋愛と結婚 *セクシュアリティの多様性と恋愛 6 シングル論～どうして結婚しなくちゃいけないの？ *非婚化と晩婚化、 *パラサイト・シングル 7・8 結婚 *結婚とは？ 人は結婚に何を求めるのか *婚姻届を出す意味～事実婚と法律婚 *「夫婦別姓」を考える～姓を変えるとは？ 9 夫婦関係 *夫婦関係の変化 *結婚の自由・離婚の自由 10・11 親子関係 *親の離婚と子ども *いろいろな親子関係 *子どもの人権～子どもの権利条約 *子どもの虐待 12・13 *生殖技術の変化と代理出産 14 *高齢期の親と子ども 15 まとめ～家族と人権				
受講要件	現代社会のことを深く考えたい人。家族の問題を考えてみたい人。				
テキスト	テキストは特に指定せず、毎回プリントを配付する。				
参考書	講義の中で紹介する。				
予習・復習について	予習は特に求めないが、復習については、講義中の出席レポート、中間レポート（冬休みレポート）、最終レポートという形で提出を求める。				
成績評価の方法・基準	①出席重視、講義をきいて「考える」ことを重視→講義の中で出席レポートを課す（60%）②中間レポート（冬休みレポート）、最終レポート（それぞれ20%）*レポートの評価：きちんとテーマをとらえて、調べ、自分自身で考え、自分の言葉で書いていること。自分で考えていること。				
オフィスアワー	授業中に連絡します				
担当教員からのメッセージ	現代の家族問題を考えることを通して、自身の価値観・考え方を相対化できるような講義になれば…と思っています。				

授業科目名	心理学 Psychology				
担当教員名	坂井 敬子 SAKAI Keiko		所属等	大学教育センター	
			研究室	共通教育C棟401	
分担教員名					
クラス	情工1	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火3・4
キーワード	心理学、心、社会、人間				
授業の目標	1. 人間を主な対象として、行動や認知の一般的メカニズムと多様性を知る。 2. 心理学の知識や考え方に基づいて、社会における様々な現象を考え、説明することができる。 3. 自らの生活への応用を積極的に考えようとする。				
学習内容	初回はガイダンス。 2回目から6回目までは社会心理学のトピックを紹介し、人が共同社会の中で生きることを考える。 7回目から11回目までは認知心理学や神経心理学等のトピックを紹介し、認知機能のメカニズムやそれを支える生体基盤について考える。 12回目から15回目までは発達心理学のトピックを紹介し、人の生涯のパターン/多様性について考える。				
授業計画	初回： ガイダンス：授業の概要・評価方法，授業「心理学」で何を目標として欲しいか  第2-6回： 社会で生きること ①対人認知：印象形成，ステレオタイプ etc. ②対人関係：説得，対人魅力，返報性 etc. ③自己：主我と客我，自尊心，自己高揚動機 etc. ④対人行動：援助行動，傍観者，攻撃行動 etc. ⑤社会的圧力：同調実験，服従実験，ホーソン効果 etc.  第7-11回： 認知のメカニズムと生体基盤 ①記憶：記銘・保持・想起，チャンク，文脈との関連 etc. ②行動の学習：条件づけ，観察学習 etc. ③脳・神経：右脳と左脳，ニューロン，神経伝達物質 etc. ④知覚：眼と脳，錯視，アフォーダンス etc. ⑤思考：推論，問題解決，意思決定 etc.  第12-15回： 生涯発達のパターンと多様性 ①発達の規定因：遺伝と環境，遺伝と環境の相互作用， etc. ②子どもの発達：言語発達，愛着発達 etc. ③青年の発達：思春期，アイデンティティ，学校 etc. ④大人の発達：職場，家族，高齢者 etc. ならびに総括。  ※上記授業計画は，授業の進行や理解度に応じて変更する場合がある。				
受講要件	特になし。				
テキスト	テキストは設けない。 ただし，中間レポートのために「参考書」欄に挙げる【中間レポート用文献】3冊から1冊を選択してほしい。 また，「参考書」欄の【その他】については，他にも授業内で随時紹介。図書館のシラバス関連書籍の書架には読んでもらいたいものがたくさんあるのでぜひ利用してほしい。				
参考書	【中間レポート用文献；3冊のうち1冊を選択】 ・永田良昭『心理学とは何なのか—人間を理解するために』（中央公論新社，2011年） ・市川伸一『考えることの科学—推論の認知心理学への招待』（中央公論新社，1997年） ・下條信輔『サブリミナル・インパクト—情動と潜在認知の現代』（筑摩書房，2008年） 【その他；授業内でも他を随時紹介する】 ・安達智子他『キャリア・コンストラクション ワークブック—不確かな時代を生き抜くためのキャリア心理学』（金子書房，2013年）				
予習・復習について	【予習】早い段階から中間レポート用の文献を読み進め（3冊から1冊を選択），心理学では何が探究の題材となるのか，自分の生活にどう応用できるのかを考えてほしい。 【復習】授業で紹介されたトピックを足掛かりに，図書館や CiNii 等で，授業での紹介文献や自分で探した関連文献を読んでほしい。 ※期末レポートでは，授業で印象に残ったトピックについて，文献を引用してもらいながら自分の論を述べてもらう。そのため，文献を探したり読んだりまとめたりすることは，期末レポートの準備になる。				

成績評価の方法・基準	<p>学期中間レポート（40%）、学期末レポート（60%）。</p> <p>※上記の他に、エキストラポイントのための課題を設けることがある。</p> <p>※レポート提出は学務情報システムにて。レポート要項も当システム上で配布する。利用環境を整えておくこと。</p> <p>※規定回数以上の出席がないと単位は認められない。出席確認のため、学生証を毎回必ず持参のこと。</p> <p>※感想、意見、質問、要望などを自由に記述するコメントペーパーを毎回提出してもらおう。一部（クラス内で共有したいこと）を次回の授業でフィードバックする。</p> <p>※コメントペーパーは、原則</p>
オフィスアワー	<p>この授業の前後。授業前ならば講師控室(7号館 1F)、授業後なら教室。</p> <p>研究室は静岡にあるので、上記以外の時にはメールで。アドレスは授業内で告知。</p>
担当教員からのメッセージ	<p>座学であるが、日々のコメントペーパーで、大いに質問・意見を表明して欲しい。</p>

授業科目名	日本国憲法 The Japanese Constitution				
担当教員名	岡田 安功 OKADA Yasunori		所属等	学術院情報学領域	
			研究室	J-2725	
分担教員名					
クラス	情工1	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火3・4
キーワード	国民主権、民主主義、基本的人権、権力分立				
授業の目標	憲法が何のためにあるのかを理解し、法的思考ができるようになる。憲法は政治の場で議論されることが多いが、法的議論と政治的議論の区別ができない政治家やジャーナリストが多い。しかし、この区別ができなければ、正確に憲法を語るができない。法的思考とそれ以外の思考の違いを理解しよう。				
学習内容	教科書を素材にして憲法の全領域を講述します。				
授業計画	<p>教科書の章立てを以下に紹介します。教科書に沿って授業を進めます。時間をかける章とそうでない章がありますが、全ての章を教材にします。</p> <p>第0章 憲法を読む前に一憲法の基礎知識  第1章 日本国憲法とは—その歴史と構成  第2章 国民主権と象徴天皇制  第3章 平和主義  第4章 基本的人権の尊重—基本的人権 I  第5章 法の下での平等—基本的人権 II  第6章 精神的自由—基本的人権 III  第7章 経済的自由—基本的人権 IV  第8章 人身の自由—基本的人権 V  第9章 社会権—基本的人権 VI  第10章 参政権・国務請求権—基本的人権 VII  第11章 国会—統治機構 I  第12章 内閣—統治機構 II  第13章 裁判所—統治機構 III  第14章 地方自治—統治機構 IV  第15章 憲法改正</p>				
受講要件	ありません。				
テキスト	毛利透『グラフィック憲法入門 補訂版』（新世社、2016）				
参考書	図書館で積極的に探して読んでください。授業になじめない人、教科書に興味を持ってない人、は次の本を読むと分かりやすく興味をもてると思います。内山奈月・南野森『憲法主義』（PHP 研究所、2015）。この本はアイドルの質問に憲法学者が答えるもので、大変わかりやすい本です。				
予習・復習について	予習と復習を含めて教科書を3回読むと、授業の内容が確実に頭に残ります。				
成績評価の方法・基準	法的思考力の深さを評価します。憲法の知識を応用して展開する能力を試験します。				
オフィスアワー	事前にメールをいただくと可能な時間帯にいつでも対応します。				
担当教員からのメッセージ	教養科目を受講する意義は単位を取るのではなく、自分の専門領域とは異なる発想を身につけることにあります。専門とは異なる分野の様々な発想を身につけなければ、大学卒業後に大学で学んだことを応用して発展させる能力を身につけることができなくなります。この授業では法的思考の特徴をつかむ努力をしてください。知識は読書で身につきますが、思考方法や発想の仕方は授業に出ないと身につけるのに時間がかかります。自転車の乗り方を憶えるように、受講という経験を積んでください。				

授業科目名	歴史と文化 (History and Culture)				
担当教員名	岡田 泰平 (OKADA Taihei)		所属等	学術院情報学領域	
			研究室		
分担教員名					
クラス	情工1	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水3・4
キーワード	東南アジア、グローバルヒストリー、20世紀史				
授業の目標	本講義では世界史という視点を養い、その上で東南アジアの歩みを総合的に理解することを目指します。①教養の授業ですので、まず歴史学で使われる基本的な概念を把握してもらいます。その上で、どのような問いを発することができるのかを考えてもらいます。よって宿題としては、課題文献を読み自らの問いを立ててきてください。②歴史は常に現在からみた過去の再解釈という側面を持ちます。この点からトピックを設け、それぞれの講義をなるべく21世紀の地球社会についての議論へと結びつけます。				
学習内容	<p>東南アジアは「風下の地域」とも言われ、常に外世界の影響を色濃く受けてきました。古くはインド、中国、イスラームといった世界文明の影響を受容し、15世紀～17世紀のいわゆる「大航海時代」には、ポルトガル、スペイン、オランダ、イギリスが進出してきました。その後、19世紀になると、スペイン、オランダ、イギリスによる本格的な植民地分割が始まり、イギリスとの対抗関係にあったフランスがそこに参入していきます。20世紀には、西回りで太平洋へと膨張してきたアメリカ、そして台湾・朝鮮半島を植民地支配下に置き中国に権益を延ばしてきた日本が、この地域に大きな影響を与えました。このように度重なる外世界の影響の結果、東南アジアには非常に複合的かつ重層的な社会が出来上がります。</p> <p>この地域について考察するにあたり、第一には世界史の流れの中に東南アジア史を位置づけます。そのために東南アジア史ではなく、世界史の教科書を指定しました。第二には「制度の歴史」と「意識の歴史」という二つの補助線を引きます。「制度の歴史」とは経済・政治を主とし、「意識の歴史」とは社会・文化の歴史と考えてください。各回ではこの両側面に触れていきます。</p>				
授業計画	<p>回 内容</p> <p>1 【東南アジア世界概論、原史東南アジア世界(10世紀まで)】[外世界]世界文明、インド [制度]宗教 [意識]劇場国家、マンダラ国家 [トピック]歴史人口学、気候変動 [宿題]1章</p> <p>2 【古代国家(9世紀～15世紀)】[外世界]中国、モンゴル [制度]農業 [意識]上座仏教 [トピック]13世紀論、「帝国による平和」 [宿題]2章1節</p> <p>3 【交易の時代(15世紀～17世紀)】[外世界]世界システム [制度]港市、交通 [意識]イスラーム、キリスト教 [トピック]グローバル・ヒストリー [宿題]2章2節～6節</p> <p>4 【近代への道(18世紀～19世紀初め)】[外世界]産業革命 [制度]家族 [意識]性規範 [トピック]ジェンダー [宿題]2章7節</p> <p>5 【西洋列強による侵略戦争と領域支配(19世紀)】[外世界]帝国主義とアフリカ・アジアにおける戦争 [制度]軍隊・技術 [意識]虐殺の論理 [トピック]帝国主義、帝国 [宿題]3章</p> <p>6 【植民地における近代I:抵抗(1900～1930年代)】[外世界]ウイルソン主義、東アジアの民族運動 [制度]警察 [意識]ナショナリズム [トピック]地域 [宿題]5章</p> <p>7 【植民地における近代II:「発展」(1900～1930年代)】[外世界]社会進化論 [制度]学校 [意識]植民地教育 [トピック]植民地近代、言語ナショナリズム [宿題]4章</p> <p>8 【アジア・太平洋戦争I:マクロ史(1941～1945年代)】[外世界]日本帝国主義 [制度]国際関係 [意識]アジアにおける日本 [トピック]アジア主義 [宿題]6章1節</p> <p>9 【アジア・太平洋戦争II:現場(1941～1945年代)】[外世界]中国戦線 [制度]治安戦 [意識]日本の東南アジア認識 [トピック]ジェノサイド [宿題]別の文献</p> <p>10 【東南アジアにとっての「戦後」(1945～1965)】[外世界]戦後アジアの国際秩序 [制度]賠償 [意識]対日感情 [トピック]記憶、表象、ナショナル・ヒストリー [宿題]6章2節～5節</p> <p>11 【冷戦と「熱い戦争」(1945～1979)】[外世界]アジアの冷戦体制 [制度]基地のネットワーク [意識]親米意識 [トピック]アジアの共産主義、社会運動 [宿題]7章6節</p> <p>12 【開発主義(1960年代～)】[外世界]アメリカの覇権 [制度]大衆政治、独裁 [意識]動員 [トピック]生産、消費 [宿題]7章1節～5節、8章</p> <p>13 【東南アジアにとっての民主化とは何か?(1986～)】[外世界]中国・東欧 [制度]都市貧困層、少数民族 [意識]アイデンティティ政治 [トピック]民主主義、多文化主義 [宿題]9章</p> <p>14 【21世紀東南アジア世界の諸課題】[外世界]地球社会 [制度]移動 [意識]新しいアイデンティティ [トピック]新自由主義 [宿題]10章</p> <p>15 TBA</p>				
受講要件	特にありませんが、読まなければならない文献は多いと思います。				
テキスト	加納啓良『東大講義東南アジア近現代史』めこん、2012				
参考書	授業内で紹介します。				

予習・復習について	宿題にはおよそ 1 時間～2 時間必要です。
成績評価の方法・基準	宿題＋授業内課題：55% 期末課題：45%
オフィスアワー	月曜日 3・4 時限
担当教員からのメッセージ	<p>教養科目ですが、本格的な歴史の授業にしたいと思っています。基本的には講義授業ですが、皆さんの見解をなるべく授業に反映させたく思います。そのためにも授業内課題と毎回の宿題を出します。教科書の指定箇所を読み、A4 半分の紙に名前、学籍番号、提出日を書いた上で、第一に宿題分の内容を要約し、第二に自らの問いを立ててください。余裕があれば、ガイダンスで示す文献を参照してください。授業の始めに回収します。また宿題や授業内課題に示される問いの一部は、ネット上で公開し、私なりの回答を示します。授業内で示す参考文献の一部については、私の読書ノートブログに評を挙げていますので、期末課題の際に参考にしてください。期末課題は、この授業で取り上げた内容から、より深く調べてみたいことを一つ取り上げ、研究計画を書いてもらいます。</p> <p>「環太平洋世界を知る」<a href="http://taiheiokada2.cocolog-nifty.com/pacific/">http://taiheiokada2.cocolog-nifty.com/pacific/</a>  「情報学を読む」<a href="http://taiheiokada2.cocolog-nifty.com/blog/">http://taiheiokada2.cocolog-nifty.com/blog/</a> 特に区分「グローバリズム」</p>

授業科目名	国際社会と日本 International Society and Japan				
担当教員名	杉山 茂 SUGIYAMA Shigeru		所属等	学術院情報学領域	
			研究室	J-2717	
分担教員名					
クラス	情工1	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水3・4
キーワード	植民地主義、ジェンダー、予防原則、「テロリズム」、人権、差別・人種主義、戦争、中東と日本、グローバル化				
授業の目標	国際問題について日本国外、国家、軍事に特化することなく、「当然」、「自然」、「本能」などの言葉で説明される月並みな用語——現実、国家、日本人、男と女、安心・安全など——を問い直し、歴史学や人類学、社会学研究の成果を補助線として、日本社会をめぐる問題を多元的に考える視点を獲得すること。				
学習内容	現在の国際関係で重視され始めている「国」の「際」つまり「境界」が提起する問題や、「安全」を語る問題点などに焦点を当てながら、国際関係諸理論の概観する。とりわけ、ジェンダー論の視点（国際関係の中に「女」はどこにいるのか？）、植民地主義の残渣、宗教や「テロ」という名でも語られる人種主義と「異文化理解」の問題点、国際人権問題、敵対的共犯論、難民問題などを紹介する。加えて、核発電所事故によって、日本が地球規模のスケールで地質学的な人類史の時間フレームを超える課題を生み出した問題も取り上げる。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション：人間って何？——山極寿一のゴリラ研究をめぐって</li> <li>2. 核発電所事故がもたらしたもの</li> <li>3. サンフランシスコ講和条約と「戦後レジーム」</li> <li>4. 東アジア：維持される植民地主義と植民者メンタリティー</li> <li>5. 「現実」という言葉を巡って：現実の錯雑性と既成事実としての「現実」、理想主義・現実主義 v s. 妄想主義・原理主義</li> <li>6. 「安全・安心」の追求がもたらすもの：アイデンティティの構築と不安・監視</li> <li>7. ジェンダー論／フェミニズムが国際関係に提起する諸問題（1）「女性はどこにいるのか？」という問い</li> <li>8. 人種主義と「異文化理解：19世紀「科学的」人種主義と日本社会</li> <li>9. 人種主義と「異文化理解：肌の色」に限らない人種主義と「脱政治化」の政治</li> <li>10. 敵対的共犯論——共犯する敵対者と非対称性の問題</li> <li>11. 国際人権問題——人間の権利と国民の権利；ヘイトスピーチ問題</li> <li>12. 2つのグローバル化——「ネオリベ」と世界社会フォーラム：「この道しかない」のか？</li> <li>13. 「ムスリム」が問題なのではない！</li> <li>14. 国の「際」を生きる人々</li> <li>15. まとめ</li> </ol>				
受講要件	特になし。ただし、講義で紹介するウェブ・サイトを参照、視聴することを勧める。				
テキスト	指定しない				
参考書	丸山真男『増補版現代政治の思想と行動』未來社、1964年；杉田敦『境界の政治学』岩波書店、2005年；最上俊樹『いま平和とは』岩波新書、2006年；シンシア・エンロー『策略』岩波書店、2006年；岡野八代『シティズンシップの政治学』白澤社、2003年；西川長夫『<新>植民地主義論』平凡社、2006年；野村浩也編『植民者へ』松籟社、2007年；坂本義和『人間と国家（上下）』岩波新書、2011年；金杭『帝国日本の関』岩波書店、2010年；金子遊『辺境のフォークロア』河出書房新社、2015年などを参照する。				
予習・復習について	予習・復習について：図書およびウェブ・サイトの参照				
成績評価の方法・基準	講義中にの複数回提出してもらう小レポートと学期末レポートを4：6で評価する。				
オフィスアワー	TBA				
担当教員からのメッセージ	アップロードされた新聞記事や論文／著作、講義で提示した著作を読んだりドキュメンタリーを視聴すること。また、「その他」で紹介した Web sites を参照するようにしてください。				



授業科目名	現代の社会 (Contemporary Japanese Society)				
担当教員名	中 正樹 (NAKA Masaki)		所属等	学術院情報学領域	
			研究室	J2831	
分担教員名					
クラス	情工3	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水3・4
キーワード	社会問題、現代社会、社会学				
授業の目標	<p>私たちは社会について「知っている」つもりでいる。けれども、「それでは社会とは何か」と質問されたら、恐らくは返答に困るのではないだろうか。社会にはかたちがなく、実感することができない。私たちは個人的な経験とマスメディアから得た知識をもとに社会を想像しているに過ぎない。以上のような前提のもと、本授業においては「社会とは何か」の答えを探す学問である「社会学」を学ぶことを通して、現代の社会についての理解を深めることを目標とする。</p>				
学習内容	<p>社会学は日常化された「ものの見方」からではなく、新しい「ものの見方」から社会を理解することを試みる。授業では、そうした新しい「ものの見方」を紹介しつつ、社会学の基本的な知識と理論について社会のさまざまな領域における身近なトピックを通じて学んでいく。</p>				
授業計画	<p>回 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 社会学の視点</li> <li>3 意思決定と行為</li> <li>4 集団 (1)</li> <li>5 集団 (2)</li> <li>6 家族と結婚と性</li> <li>7 職業と就職</li> <li>8 都市と人間</li> <li>9 社会階層と格差</li> <li>10 権力と参加</li> <li>11 科学時代の宗教</li> <li>12 スポーツの社会学</li> <li>13 メディアと疑似現実</li> <li>14 高齢化と社会福祉</li> <li>15 国際化と日本</li> </ol>				
受講要件	特になし。				
テキスト	特に指定しない。				
参考書	友枝敏雄・山田真茂留『Do!ソシオロジー』(有斐閣アルマ、2007年) 長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志『社会学』(有斐閣、2007年)				
予習・復習について	毎回の授業終了後、ノートを読み直しておくこと。				
成績評価の方法・基準	授業中に実施する複数回の小レポート、及び最終レポートで評価する。評価の割合は、それぞれ60%、40%とする。毎回出席を取るが、成績には反映しない。十分な出席回数にも関わらず不可の場合、追加レポートを課す可能性がある。				
オフィスアワー	金曜日5・6限(12時45分～14時15分)を予定。事前にアポを取ることを。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	心理学 (Psychology)						
担当教員名	高橋 晃 (TAKAHASHI Akira)		所属等	大学院情報学領域			
			研究室	J-2523			
分担教員名							
クラス	情工2	学期	前期		必修選択区分 選必		
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水3・4		
キーワード	感覚・知覚、記憶、学習、思考、心理テスト、脳、人工知能						
授業の目標	人間の“こころ”をさまざまな側面からとらえ、その多様な情報処理特性を把握すること						
学習内容	“こころ”を扱う古典的な心理学のテーマに、脳や人工知能などの認知科学的トピックを絡ませて学習する						
授業計画	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%; vertical-align:top;">           授業計画 テーマ            -----            導入            感覚・知覚            記憶            学習            問題解決とエラー            心をはかる            脳と心            人工知能と人間            -----            まとめ             これらのトピックについて各1回ないし2回の講義でまとめる。            また時間外に行われる「心理学実験」を実際に体験することで理解を深めることも含まれる             特になし         </td> <td style="width:50%; vertical-align:top;">           授業計画            講義の概要、レポートの書き方            「見る」という行為の本当の意味            「覚える・思い出す」ことの人間の性質            人間が何かを学ぶ原理            心の中にある過ちとその意味            各種の心理テストについて            脳の構造とその機能            人間のこころと機械のこころ            -----            全体の復習と実験の説明         </td> </tr> </table>					授業計画 テーマ ----- 導入 感覚・知覚 記憶 学習 問題解決とエラー 心をはかる 脳と心 人工知能と人間 ----- まとめ  これらのトピックについて各1回ないし2回の講義でまとめる。 また時間外に行われる「心理学実験」を実際に体験することで理解を深めることも含まれる  特になし	授業計画 講義の概要、レポートの書き方 「見る」という行為の本当の意味 「覚える・思い出す」ことの人間の性質 人間が何かを学ぶ原理 心の中にある過ちとその意味 各種の心理テストについて 脳の構造とその機能 人間のこころと機械のこころ ----- 全体の復習と実験の説明
授業計画 テーマ ----- 導入 感覚・知覚 記憶 学習 問題解決とエラー 心をはかる 脳と心 人工知能と人間 ----- まとめ  これらのトピックについて各1回ないし2回の講義でまとめる。 また時間外に行われる「心理学実験」を実際に体験することで理解を深めることも含まれる  特になし	授業計画 講義の概要、レポートの書き方 「見る」という行為の本当の意味 「覚える・思い出す」ことの人間の性質 人間が何かを学ぶ原理 心の中にある過ちとその意味 各種の心理テストについて 脳の構造とその機能 人間のこころと機械のこころ ----- 全体の復習と実験の説明						
受講要件	全体は特に指定しない。各トピックで参考図書を示す場合がある						
テキスト	テーマごとに参考文献を示す						
参考書	各単元の内容が終了した後に、一週間の期限内でその講義内容を簡単にまとめたレポートを課す						
予習・復習について	毎回の課題付きの出席とテーマごとに課される課題レポートの成績で決定する。課題レポートは、主として講義内容のまとめであるが、それに関連した課題が加わることもある						
成績評価の方法・基準	金曜日 3・4限						
オフィスアワー	脳や心に興味のある学生の受講を希望します。遅刻は厳禁です						
担当教員からのメッセージ							

授業科目名	芸術論 (Aesthetics)				
担当教員名	高松 良幸 (TAKAMATSU Yoshiyuki)		所属等	大学院情報学領域	
			研究室	J-2629	
分担教員名					
クラス	情工1	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水3・4
キーワード	日本美術史、芸術の概念、芸術の機能、芸術の言説、芸術の支持者				
授業の目標	日本美術史を各時代を代表する作品を概観するとともに、その制作背景としての思想、社会状況等について理解することを目標とする。また、これらの作品が、伝来する過程で、どのように評価、活用されてきたかについても考察する。				
学習内容	日本美術史を代表する作品を、各コマ1点ずつとりあげ、その制作、需要、伝来等に関する言説について、講義する。講義には、スライド等を使用する。				
授業計画	回 内容 1 ガイダンスー芸術・美術について 2 飛鳥時代 3 奈良時代Ⅰ 4 奈良時代Ⅱ 5 平安時代Ⅰ 6 平安時代Ⅱ 7 鎌倉時代Ⅰ 8 鎌倉時代Ⅱ 9 室町時代Ⅰ 10 室町時代Ⅱ 11 桃山時代 12 江戸時代Ⅰ 13 江戸時代Ⅱ 14 江戸時代Ⅲ 15 近代				
受講要件					
テキスト	必要に応じてプリント等を配布する				
参考書	授業中に指示する。				
予習・復習について	授業時間の2倍程度の予習・復習が必要である。				
成績評価の方法・基準	授業中のレポート(10%)、期末試験(90%)により評価する。いずれも、授業内容理解度50%、授業内容応用度50%で採点する。				
オフィスアワー	授業中に指示する。				
担当教員からのメッセージ	実物の美術作品に接する機会をできるだけもってほしい。				

授業科目名	力学・波動 I (Mechanics & Waves I)				
担当教員名	岡部 拓也 (OKABE Takuya)		所属等	学術院工学領域	
			研究室	共通 303	
分担教員名					
クラス	工 8	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	水 5・6
キーワード	運動の 3 法則、力、運動量、運動エネルギー、位置エネルギー、力のモーメント、角運動量				
授業の目標	1. 力学の基礎概念を数学的に表現する方法の修得 2. 運動の 3 法則と 1 質点の運動の理解				
学習内容	1. 位置, 速度, 加速度, 力など, 力学における基本的概念の, ベクトルおよび微分積分法を用いた表現方法を修得する. 2. 運動の 3 法則と 1 質点の運動の理解. 基本的な法則を理解し, これを工学の各分野で応用するためには, 力学・波動の概念を自分のものにすることが必要である. この講義では高校の物理学で学んだ内容を, より応用範囲の広い微分積分を用いた厳密な形で学ぶ. それを基礎的な問題に適用することや, 運動の 3 法則から様々な物理法則が導かれることも学ぶ.				
授業計画	回 内容 1 概要 (講義の目的, 必要性. 高校での物理学および数学の復習) 2 質点の位置, 速度, 加速度とそのベクトル表示 (ベクトル関数の微分・積分) 3 簡単な運動の表現. 位置から速度, 加速度, あるいはその逆を求める 4 運動の 3 法則 (慣性の法則, 運動方程式, 作用反作用の法則), 慣性系 5 運動量と力積. 運動量保存則 6 物体に働く力と運動方程式 I (重力, 摩擦力) 7 物体に働く力と運動方程式 II (ばねの力) 8 運動方程式を解く I (等加速度運動) 9 運動方程式を解く II (2 階常微分方程式の解法) 10 運動方程式を解く III (振子の運動) 11 仕事と保存力 (位置エネルギー) 12 運動エネルギーと力学的エネルギー保存則 I 13 運動エネルギーと力学的エネルギー保存則 II 14 角運動量と力のモーメント (ベクトル積による表現) 15 角運動量保存則と中心力				
受講要件	特になし. ただし, 講義内容をスムーズに理解するためには, 高校での数学(微分・積分・ベクトル等)や物理学の修得が必須.				
テキスト	テキスト: 「力学・波動」(浅田他著, 日新出版) ISBN978-4-8173-0196-3				
参考書	物理入門コース 1 「力学」(戸田盛和著, 岩波書店) ISBN-13: 978-4000076418 同 「例解 力学演習」(戸田盛和・渡辺慎介著, 岩波書店) ISBN-13: 978-4000077910				
予習・復習について	本授業はある概念を理解し, それを用いて次の概念を理解するという積み上げの学習である. 各項目は別々に理解できるものではないので, その意味でも予習・復習は欠かせない. 特に教科書の例題・章末問題, 授業中行う演習問題やレポート問題について十分な予習・復習を行うこと.				
成績評価の方法・基準	1. 講義の際に行われる演習問題 (小テスト, レポートを含む) 20% 2. 全クラス統一期末試験 80%				
オフィスアワー	教員によって異なります. 講義時間中にお知らせします.				
担当教員からのメッセージ	この講義は, 学科単位ではなく, センター試験・個別試験等の成績に基づいたクラス編成で行う. 受講クラス・教室などをよく確認すること.				

授業科目名	離散数学 Discrete Mathematics			
担当教員名	中谷 広正		所属等	
			研究室	
分担教員名				
クラス		学期	前期	必修選択区分
対象学年		単位数		曜日・時限
キーワード	集合、写像、論理、関係、順序、グラフ、代数系			
授業の目標	集合・写像・論理・関係・グラフ理論などの概念を講義し、離散数学の考え方・証明法を教授する。集合論を理解した上で、その上に定義された関係・関数の概念を理解し、定義・定理・原理の抽象的表現から共通の性質を見いだす能力を養成する。これにより、情報の分析能力および論理的思考能力・理解力・表現力・問題解決能力の養成の基盤を形成することが本科目の目的である。情報科学専門家として問題を表現するときや解決法を表現するときに基本的な道具としてそれらを使えるようになることが目標である。			
学習内容	1. 集合と論理 集合・集合の演算・要素の個数・命題・論理演算・論理式・証明 2. 関係と写像 関係・直積集合・関係の表現・同値関係・写像・置換・可付番集合 3. 代数系 代数系・交換律と結合律・単位元と逆元・半群・群・巡回群・対称群・環・体・多項式環 4. 順序集合と束 半順序と全順序・ハッセ図・上限, 下限・束・ブール代数 5. グラフ グラフ・経路・いろいろなグラフ・平面的グラフ・オイラーグラフ・ハミルトングラフ ・グラフの彩色・有限オートマトン・状態と遷移・順序機械			
授業計画	01. 集合と論理…集合 02. 集合と論理…論理 (命題, 論理演算, 論理式, 証明) 03. 関係と写像…関係 (直積集合, 関係) 04. 関係と写像…関係 (関係の表現, 同値関係) 05. 関係と写像…写像 06. (試験) 07. (試験解説/復習) 08. 代数系…交換律と結合律, 単位元と逆元 09. 代数系…半群と群, 環と体 10. 順序集合と束…順序 11. 順序集合と束…束 12. 順序集合と束…ブール代数 13. グラフ…いろいろなグラフ 14. グラフ…平面的グラフ 15. グラフ…有限オートマトン 16. (試験)			
受講要件	なし			
テキスト	宮崎佳典, 新谷誠, 中谷広正, 理工系の離散数学, 東京図書, 2013.			
参考書	石村園子, やさしく学べる離散数学, 共立出版, 2007. ISBN978-4-320-01846-4 Seymour Lipschutz, マグロウヒル大学演習 離散数学, オーム社, 1995. ISBN4-274-13005-3 M.アービブ, A.クフォーリ, R.モル, 計算機科学入門, サイエンス社, 1984. ISBN4-7819-0375-4			
予習・復習について	復習: 教科書の演習問題を全て解くこと.			
成績評価の方法・基準	試験の成績を 40 点満点, それに課題の提出状況を 60 点満点で評価します。それ以外にも, 授業の出席状況, 授業態度も加味することがあります。			
オフィスアワー	授業の前後に質問に応じることができる			
担当教員からのメッセージ	しっかり学習した履修者が良い成績を取り, しっかり学習しなかった履修者が悪い成績を取るような授業 (及び評価システム) を展開したいと思っています。			

授業科目名	工学基礎化学 I Basic Chemistry for Engineers I			
担当教員名	平川 和貴		所属等	
			研究室	
分担教員名				
クラス		学期	前期	必修選択区分
対象学年		単位数		曜日・時限
キーワード	原子の構造、元素の周期律、化学結合と分子の構造、固体の化学			
授業の目標	基礎的な化学の知識を習得するとともに、実生活・社会との関わりについて、自ら考える力の基礎を養う。そのために、まず原子の構造を理解し、そこでの電子の振る舞いが元素の性質、化学結合、分子の構造、性質、反応性に重要な関わりがあることを学ぶ。			
学習内容	化学の基礎、化学的なものの考え方は、いずれの学科においても、素材や材料を扱う上で重要となるので、比較的やさしい理論的な取り扱いに基づいて講義する。その上で、実際の化学材料あるいは電子材料等に活用できる力を養う。			
授業計画	<p>以下の授業内容と回数は目安であり、必ずしも固定されたものではない。より詳細な講義計画は、初回の講義の際に担当教員によって示される。進捗によっては、中間のまとめ（8回目）を実施しないこともある。また、随時演習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 原子の構造と電子配置 (1) 原子と分子</li> <li>2 原子の構造と電子配置 (2) 物質量、電子の軌道</li> <li>3 元素の周期性と属性 (1) 周期律</li> <li>4 元素の周期性と属性 (2) 原子の大きさ、同位体</li> <li>5 量子力学入門 (1) 光の粒子性と波動性、物質波</li> <li>6 量子力学入門 (2) 波動関数、量子数</li> <li>7 共有結合と配位結合 (1) 共有結合と電子式</li> <li>8 中間のまとめ</li> <li>9 共有結合と配位結合 (2) 分子軌道、配位結合</li> <li>10 共有結合分子の構造 (1) 混成軌道</li> <li>11 共有結合分子の構造 (2) 共鳴、共役系</li> <li>12 イオン結合と水素結合 (1) イオン結合</li> <li>13 イオン結合と水素結合 (2) 電気陰性度、水素結合</li> <li>14 固体の化学 (1) 結晶構造、イオン結晶</li> <li>15 固体の化学 (2) 金属結合、半導体</li> </ol>			
受講要件	高校の化学の教科書をよく復習しておくことを要望する。			
テキスト	「基礎から学ぶ大学の化学」 植田一正・梅本宏信・平川和貴・山田眞吉 共著（培風館） ISBN978-4-563-04607-1			
参考書	化学入門シリーズ 1「化学の基礎」、竹内敬人著、同 2「物理化学」、関一彦著（岩波書店）シリーズ 1 ISBN4-00-007981-6 シリーズ 2 ISBN4-00-007982-4；一般化学、芝原寛泰・斉藤正治共著（化学同人） ISBN4-7598-1020-X；化学－基本の考え方を中心に－、Alan Sherman 他著、石倉洋子・石倉久之共訳（東京化学同人） ISBN4-8079-0334-9			
予習・復習について	授業だけで理解することは難しいので、授業に匹敵する予習および復習が必要である。教科書の各章末の演習問題を復習課題として課す。また、別途演習課題を示すことがある。			
成績評価の方法・基準	個別目標が達成され、専門課程に進むための基礎学力と応用力が培われたかどうかを評価する。授業時間内の演習問題と、宿題に丁寧に取り組むことを求める。これによって、予習・復習をして授業に臨んでいるか否かを判断する。評価の配分は、試験 70%、演習・宿題 30%である。ただし、評価の内容は、80%が授業内容の理解、20%が理解した内容を応用する力である。学習度が 60%を満たしている場合を合格とする。			
オフィスアワー	講義後または教員室にてオフィスアワーを設けるが、具体的な曜日・時間については初回講義時に案内する。この時間帯以外でも可能な限り質問は随時受け付ける。なお、非常勤担当のクラスについては常勤教員（植田、梅本、平川、宮林）が対応する。			
担当教員からのメッセージ	大学の化学は決して暗記科目ではない。常に、「何故そうなるのか」、「何故そのように考えるのか」という観点から学びを深めてほしい。			

授業科目名	電磁気学 Electromagnetism				
担当教員名	岡部 拓也 OKABE Takuya		所属等	大学院工学領域	
			研究室	共通 303	
分担教員名					
クラス	M (クラス I)	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	金 1・2
キーワード	電場、磁場、電流、電磁誘導、ガウスの法則、アンペールの法則、ファラデーの法則、キルヒホッフの法則、ビオ・サバールの法則				
授業の目標	本講義では、電磁気現象、主に、静電場、電流と磁場、電磁誘導、直流および交流回路に関連した原理・法則を理解し、それを体系的に記述する物理数学的技術を修得する。				
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 静電場の性質の把握と記述方法の修得</li> <li>2. ガウスの法則の理解と応用力養成</li> <li>3. 電位と静電場エネルギーの記述方法の修得</li> <li>4. 電流と磁場および電場と磁場の間に存在する法則の理解と応用力養成</li> <li>5. 抵抗, コンデンサー, コイルからなる基本的な電気回路の特性の修得</li> </ol>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 概要 (電磁気学の発展の歴史について概説し, 現代の科学技術における役割と重要性について述べる)</li> <li>2. クーロンの法則, 静電場 (点電荷およびその集合による静電気力に関する法則とその数学的記述法, ベクトル場の概念とそれによる静電場の記述)</li> <li>3. ガウスの法則 (積分形) (静電場と電荷密度の関係を, ベクトル場とその積分によって記述する方法について述べる)</li> <li>4. ガウスの法則の応用 (この法則を用いて電場を求める幾つかの例を示す)</li> <li>5. 電場と電位 (電場の線積分による電位の定義と, 電位の勾配から電場を求める方法について述べる)</li> <li>6. 導体の性質, 電気容量 (導体および静電場中の導体の特性について述べる. さらに, 導体平板および導体球からなるコンデンサーの電気容量, 静電場エネルギーについて説明する)</li> <li>7. 誘電体と静電場 (誘電体の基本的性質と, 誘電体中の静電場の性質について述べる)</li> <li>8. 電流密度, オームの法則, キルヒホッフの法則 (導体を流れる電荷から電流および抵抗を定義し, 電気回路における電流, 電圧の基本法則について述べる)</li> <li>9. 電流と磁場, ローレンツ力 (磁束密度および磁場の強さの定義, 荷電粒子および電流が流れている導線が磁場中で受ける力の法則について述べる)</li> <li>10. 静磁場の基本法則とアンペールの法則 (磁場に関するガウスの法則, 電流の強さとその周りにできる磁場の間に成り立つ法則について述べる)</li> <li>11. ビオ・サバールの法則 (任意の曲線導体を流れる電流によってできる磁場の計算方法, および応用例について述べる)</li> <li>12. 電磁誘導, コイルの自己誘導現象 (閉じた回路を貫く磁場の時間変化により生じる起電力の法則, コイル中の磁場の時間変化により自己誘導される起電力について述べる)</li> <li>13. 変位電流と誘導磁場 (平行板コンデンサー間の時間変化する電場から変位電流を定義し, 変位電流の周りに発生する誘導磁場について述べる)</li> <li>14. 回路の過渡現象 (抵抗 <math>R</math>, コンデンサー <math>C</math>, コイル <math>L</math> からなる回路に, 直流電圧をかけた場合の電流の過渡的变化を求め, 回路の基本的性質について述べる)</li> <li>15. 交流回路 (交流電圧をかけた回路の電流の変化を交流抵抗 (インピーダンス) を用いて表す)</li> </ol>				
受講要件	微分・積分, 線形代数, 常微分方程式, ベクトル解析の理解が必要となるので, 関連する数学の講義および演習は必ず履修しておくこと。				
テキスト	「ビジュアルアプローチ 電磁気学」(前田和茂, 小林俊雄 著, 森北出版) ISBN978-4-627-16221-1				

参考書	「大学演習電磁気学」(霜田・近角 編, 裳華房) ISBN-13:978-4785380106 「電磁気学の考え方」(砂川重信著, 岩波書店) ISBN-13:978-4000078925
予習・復習について	講義時間内に行える演習課題数には限りがあるので, 教科書および参考書の例題・練習問題は各自よく自習しておくこと.
成績評価の方法・基準	授業での到達目標が達成され, 電磁現象の理論的解析と工学的考察を行うための基礎能力があるかどうかを評価する. 評価の配分は, 試験が 70%程度, 演習・レポート等が 30%程度である.
オフィスアワー	質問は研究室で随時受け付けますが, 応じられないときもあることを承知して下さい.
担当教員からのメッセージ	学生名簿に基づいて分けられた2つのクラスを, 藤間, 岡部がそれぞれ担当する.



授業科目名	U S A 論 On US society				
担当教員名	杉山 茂 SUGIYAMA Shigeru		所属等	学院情報学領域	
			研究室	J-2717	
分担教員名					
クラス	情工	学期	前期		必修選択区分 選必、選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	金3・4
キーワード	留学、他者了解、人種主義、自己植民地化、ジェンダー、図書館、文化還元主義				
授業の目標	個人的な習慣や食をめぐる慣習の違いや国家語の違いを「文化の違い」として誇張するのではなく、生活の面でも研究の面でも越境可能な空間として、多様性と新しい試みに満ちたアメリカ合衆国の大学を理解する手掛かりをえる。また、最新の国際的なアメリカ研究の成果を踏まえて、ステレオタイプ化されたアメリカ表象を批判できる視点と知識をえる。				
学習内容	本講義は、留学や研究などで長期にわたってアメリカ合衆国社会に滞在した経験を持つ教員が担当する。「日本文化」紹介ではなく普遍性を持つ専門的な研究のあり方や進め方、研究生活や日常生活における困難や楽しみ、そのなかで出会う多様な人々との出会い、必ずしも国家語や国民文化によらない社会的資本や個人性の違い、学位取得に必要な学習・研究のあり方、多言語（多アクセント）状況など、決して一般化できない、しかし貴重な体験談から学びうるところが多いであろう。また、「文化比較」において日米（あるいはヨーロッパ系の英語圏国家）が特権化される中で、第三の視点を持ち込むことの大切さも学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. University of California などの大学院での研究・留学体験</li> <li>3. 大学における図書館の重要性</li> <li>4. 英「会話」を通じた自己植民地化と英語教育政策</li> <li>5. 「欧米」の分節化（政治・経済問題の宗教化、軍事至上主義など）</li> <li>6. 「アメリカ南部」という問題</li> <li>7. 奴隷制、社会階級、</li> <li>8. 人種主義のアメリカ的表出・日本的表出</li> <li>9. ビデオ視聴</li> <li>10. 米国社会の過去の振り返り方</li> <li>11. もう一つのアメリカを目指す社会運動1：大統領選挙をめぐる</li> <li>12. もう一つのアメリカを目指す社会運動2：社会運動をめぐる</li> <li>13. 「男らしさ」の政治学</li> <li>14. 「普遍」vs「特殊」？ 1 民主主義と人権、自由をめぐる問題</li> <li>15. まとめ</li> </ol>				
受講要件	特にないが、在学中の留学や就職後の海外出張があるということを想像するようにしてください。				
テキスト	特に指定しない。				
参考書	稲賀繁美編著『異文化理解の倫理にむけて』（名古屋大学出版会、2001年）；小森陽一『レイシズム』（岩波書店、2006年）；酒井直樹『日本／映像／米国—共感の共同体と帝國的国民主義』（青土社、2007年）；吉見俊哉『親米と反米』（岩波新書、2007年）；エリック・フォーナー『アメリカの自由の物語—植民地時代から現代まで』（岩波書店、2008年）				
予習・復習について	予習・復習の内容は、講義内で指示する				
成績評価の方法・基準	講義内容及び講義中に視聴するドキュメンタリーに関するレポート（50%）と学期末レポート（50%）で評価する				
オフィスアワー	TBA				
担当教員からのメッセージ	近い将来、「あれっ、わたし、いまアメリカ（あるいは他の社会）で研究／仕事してる」と気づく時に、役立てる講義にしたいと思います。				

授業科目名	ことば Language				
担当教員名	近藤 真 KONDO Makoto		所属等	大学院情報学領域	
			研究室	J-1313	
分担教員名	宮崎 真、竹内 勇剛、田村 敏広				
クラス	情工	学期	前期		必修選択区分 選必、選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	金3・4
キーワード	コミュニケーション、言語学、自然言語処理、認知科学				
授業の目標	ことばは人間が生得的に備えている能力のひとつであり、すべての人々のあらゆる知的活動にことばが関わっていると見える。この講義では、私たちの日常生活に遍在することばにあらためて関心を向けることによって、ことばについての認識を深めることを目標とする。				
学習内容	授業では、ことばの本質についての理論的取り組み、情報技術的取り組み、コミュニケーションにおけることばの働きなどに焦点をあて、各講師が言語学、認知科学、自然言語処理といった視点から、ことばの諸側面について概説する。				
授業計画	<p>近藤（言語学）、竹内（認知科学）、綱川（自然言語処理）、田村（言語学）の4名が分担して講義を担当する。</p> <p>第1回： オリエンテーション  第2回-第3回： コミュニケーションにおけることばの役割とその特徴（近藤）  第4回-第6回： ことばのコミュニケーションに対する認知科学的アプローチ（竹内）  第7回-第9回： ことばに対する工学的アプローチ（綱川）  第10回-第12回： ことばの意味に対する理論的アプローチ（田村）  第13回-第15回： ことばの文法に対する理論的アプローチ（近藤）</p> <p>※各講師の順序および担当回数は変更される場合がある。</p> <p>【各教員への連絡方法について】  各教員への連絡は、メールを利用すること。直接、話したい場合でも、まずメールでアポイントを取ること。</p> <p>近藤： mkondo@inf.shizuoka.ac.jp  竹内： takeuchi@inf.shizuoka.ac.jp  綱川： tuna@inf.shizuoka.ac.jp  田村： tamura@inf.shizuoka.ac.jp</p>				
受講要件	特になし。				
テキスト	特に指定しない。				
参考書	各講師が必要に応じて、授業の中で関連する参考文献を紹介する。				
予習・復習について	各トピックの講義では、そのトピックに関する前回の講義内容を理解していることが前提となって講義が進められる。毎週の講義の後で必ず復習をして、各週の講義内容を、その週のうちに理解するよう努めること。				
成績評価の方法・基準	各トピックごとにレポートを課し、各レポートをそれぞれ20%とし、それらの合計点で評価する。 ※未提出のレポートがある場合には、提出されたレポートの合計点に関わらず、最終評価を「不可」とする。				
オフィスアワー	近藤のオフィスアワーは水曜5・6時限。各教員への連絡方法は授業計画欄を参照。				
担当教員からのメッセージ	普段、あたりまえのように使っていることばを見直すことが、みなさんの知的好奇心を刺激することを願っています。				

授業科目名	エネルギーと環境 Energy and Environments				
担当教員名	大矢 恭久 OYA Yasuhisa		所属等	学術院理学領域	
			研究室	理学部 A202	
分担教員名	近田 拓未、矢永 誠人				
クラス	情工	学期	前期		必修選択区分 選必、選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	金 3・4
キーワード	エネルギー、環境、放射線、原子力、放射線影響、地球温暖化				
授業の目標	エネルギー問題および環境問題の現状について理解すると共に、放射線や核エネルギーと人間との関わりについて科学的な教養を深める。				
学習内容	エネルギーと環境問題についてサイエンスの観点から理解するとともに、その解決法の一つである核エネルギー発電の原理および仕組み、核エネルギー発電の問題点を学ぶ。また、放射線の応用的利用についても言及する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンスおよびエネルギー・環境問題(1) (大矢・近田)</li> <li>2. エネルギー・環境問題(2) (近田)</li> <li>3. 化石燃料とエネルギーセキュリティー (近田)</li> <li>4. 核エネルギーの歴史 (大矢)</li> <li>5. 原子力発電の仕組みと課題 (1) 沸騰水型原子炉 (中電：岡田)</li> <li>6. 原子力発電の仕組みと課題 (2) 加圧水型原子炉 (中電：岡田)</li> <li>7. 原子力発電の仕組みと課題 (3) まとめ (中電：岡田)</li> <li>8. 放射性廃棄物の再処理と廃棄 (原燃：古谷)</li> <li>9. 核融合炉発電の仕組みと開発の現状 (大矢)</li> <li>10. 地球温暖化の科学 (大矢)</li> <li>11. 温室効果ガス削減の取り組み・省エネルギー (大矢)</li> <li>12. 原子力エネルギー行政 (静岡県：神村)</li> <li>13. 放射線の測定 (矢永)</li> <li>14. 放射線の生物影響 (矢永)</li> <li>15. エネルギーと環境および社会との関わり (矢永)</li> </ol>				
受講要件	特になし				
テキスト	講義中に資料を配付する。				
参考書	エネルギーと地球環境 (エネルギーフォーラム)、原子力がひらく世紀 (日本原子力学会編)				
予習・復習について	テキスト、講義資料や関連図書による予習および復習を必ず行うこと。				
成績評価の方法・基準	講義中の小レポートおよび各教員が課すレポートにより評価する。				
オフィスアワー	8:00-20:00				
担当教員からのメッセージ	文理学生合同での講義のため、極力数式を用いない講義とする。エネルギー・環境問題に関する教養を深めることを主たる目標とする。				

授業科目名	浜松市の交通と観光を考える Thinking about Hamamatsu City from Public Transit and Tourism			
担当教員名	戸田 三津夫	所属等	大学院工学領域	
		研究室	工学部 4 号館 406	
分担教員名	松田 智、武田 和宏、西原 純、塩川 亮			
クラス		学期	前期	必修選択区分
対象学年		単位数		曜日・時限
キーワード	交通と観光を考える土日ツアー実施、浜松の将来を考える、地方消滅、高齢ドライバー、コンパクトシティ、公共交通とモーダルシフト、歩行者、車いす、自転車、信用乗車と運輸連合、LRT、魅力あるかがやく街とは			
授業の目標	これから出生数の減少により若年人口が減り、日本国民の年齢構成が変化することにより高齢化が進む。産業構造の変化、CO2 削減圧力、石油枯渇など、日本 と浜松市を取り巻く環境はこれから激変する。それを乗り越えるには何が必要だろうか。この講義では、政令指定都市となった浜松市が、行政の効率化と自動車に頼らなくても大丈夫な交通を実現するためにコンパクト シティと公共交通の拡充、観光振興を目指さなければならないこと。そのための有効なツールとして LRT や運輸連合があることなどを紹介する。受講生諸君に それらを学んだのちに、講義の最終回までに自由な発想で今後の浜松や日本の未来を考え、活発に論じてもらうことを目標とする。			
学習内容	浜松を取り巻くさまざまな状況：産業や交通、観光の歴史、技術、エネルギー、経済、環境に関する事柄を学ぶ。そのことから将来の浜松市を予測し、想定される問題点をいかに解決してゆくべきかを考え、交通を軸とした都市デザインを個々の受講者が自ら考え発表する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義内容とスケジュールの紹介、日本と浜松の交通史と、各交通装置の特性（戸田）</li> <li>2. 日本と浜松市のおかれている状況と将来予測（戸田）</li> <li>3. 動力の歴史と交通（人力、風、家畜、エンジン、モータ）、交通がもたらす災い 1：交通と環境負荷（松田）</li> <li>4. 交通がもたらす災い 2：社会的費用：交通事故、環境被害（武田）</li> <li>5. 浜松・遠州鉄道バスのサイクルアンドバスライドの取り組み（西原）</li> <li>6. 静岡市の交通と LRT 構想（塩川）</li> <li>7. 世界で活躍する LRT：その機能と可能性（栗田）</li> <li>8. 浜松型次世代交通システムの紹介（内田）</li> <li>9. 浜松型次世代交通システムのデザイン（河岡）</li> <li>10. 浜松と日本の未来を語る（受講生によるアイデア、プランの発表と討論）</li> <li>11. （学内講義は 10 回ですが、浜松市の観光スポットを実際にめぐり、観光振興を構想して新提案につながるツアーを実施します。土曜か日曜の終日開催となり講義 5 回分に相当しますので、原則的にこれに参加してください。交通費は不要ですが、各観光スポットの入場料、飲食費、買い物などは自己負担となります。）</li> </ol>			
受講要件	浜松市政に関心のある学生の受講を望む。都市の運営や計画に関心のある人、地元公務員志望、鉄道だいすき人、自動車産業就職希望者、自転車ツーガキ（通学）スト、ツーキ（通勤）ニスト歓迎。			
テキスト	定めません。			
参考書	テーマが多岐にわたるため、各自で探して下さい。必要に応じて紹介もします。大学附属図書館には交通や都市運営の関連書籍を用意しました。浜松市立城北図書館も利用して下さい。			
予習・復習について	日ごろから講義内容に関することに問題意識を持って生活して下さい。自転車交通、高齢者の交通事故、インフラの維持、新東名、中央リニア新幹線、東海地震、富士山噴火、地方財政逼迫ほか。			
成績評価の方法・基準	最終プレゼンとそれをまとめた期末レポート（80%）、小テストなど（20%）で評価します。			
オフィスアワー	特に定めません。メールしてから来て下さい。tmtoda@ipc.shizuoka.ac.jp			
担当教員からのメッセージ	自動車など輸送機メーカーへの就職を希望する人、公務員となって都市政策にたずさわることを希望している人には役立つ内容です。浜松市広報物（広報 はままつ、HP パブリックコメント情報など）、電車やバス・駅の広告、新聞記事、雑誌などの情報にも気を配って下さい。			

授業科目名	弾性力学 Theory of Elasticity			
担当教員名	島村 佳伸	所属等		
		研究室		
分担教員名				
クラス		学期	前期	必修選択区分
対象学年		単位数		曜日・時限 火 9・10
キーワード	応力、ひずみ、構成方程式、2次元弾性問題、有限要素法			
授業の目標	<p>材料・部材・構造物に生じる応力・変形を取り扱う弾性力学について学習する。特に、弾性体の力学の基礎知識とその体系について習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 応力の概念とその性質の修得</li> <li>2. ひずみの概念とその性質の修得</li> <li>3. 構成方程式の修得</li> <li>4. 平面問題の解析法の理解と応用力の養成</li> <li>5. 有限要素法の理解</li> </ol>			
学習内容	弾性力学は材料力学の基礎知識をベースに、固体の応力や変形挙動を正確に求める学問である。そのため、弾性力学では応力・ひずみ・構成方程式・弾性ひずみエネルギーについての理論体系を学習する。さらに、それらを基礎として材料・部材・構造物に生じる応力や変形を予測する方法を習得する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業ガイダンス（授業内容、注意点）。緒論（弾性力学とは）</li> <li>2. 基礎理論（応力1）</li> <li>3. 基礎理論（応力2）</li> <li>4. 基礎理論（変形とひずみ1）</li> <li>5. 基礎理論（変形とひずみ2）</li> <li>6. 基礎理論（構成式、降伏条件）</li> <li>7. 基礎理論（弾性力学の問題の解法）</li> <li>8. 基礎関係式のまとめ、中間試験</li> <li>9. 二次元問題1（2次元問題の基礎、平面ひずみ、平面応力）</li> <li>10. 二次元問題2（諸関係式の極座標表示）</li> <li>11. 二次元問題3（応力関数）</li> <li>12. 二次元問題4（応力集中問題）</li> <li>13. 数値解法1（有限要素法、仮想仕事の原理）</li> <li>14. 数値解法2（ひずみ-変位マトリックス、剛性方程式）</li> <li>15. 数値解法3（境界条件と解の求め方、解析手順）</li> </ol>			
受講要件	材料力学 I, 材料力学 II の単位を取得していることが望ましい。			
テキスト	「弾性力学入門—基礎理論から数値解法まで」、竹園 茂男, 埴 克己, 感本 広文, 稲村 栄次郎 (共著), 森北出版, ISBN : 9784627666412			
参考書	「弾塑性力学の基礎」、吉田 総仁 (著), 共立出版, ISBN : 9784320081147			
予習・復習について	関連科目の復習を含め、予習・復習を十分に行うこと。			
成績評価の方法・基準	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 期末試験：全講義終了後に期末試験を実施する。</li> <li>2. 評価割合：中間試験・期末試験 80%, レポート 20%</li> <li>3. 評価基準</li> </ol>			

	<p>秀・・・・・・「弾性力学」の全般が理解に優れ、かつ応用に優れる</p> <p>優・・・・・・「弾性力学」の全般が理解でき、かつ応用できる</p> <p>良・・・・・・「弾性力学」の全般が理解できる</p> <p>可・・・・・・「弾性力学」の基本が理解できる</p> <p>不可・・・・・・「弾性力学」の基本が理解できない</p> <p>4. 再試験：実施しない。</p>
オフィスアワー	毎週木曜日の 9・10 時限にオフィスアワーを設けています。また、オフィスアワー以外でも質問は随時受け付けますが、応じられないときもあることを承知ください。
担当教員からのメッセージ	この授業は、構造設計のための基本的な概念とその応用を習得することを目的としています。また、強度信頼性評価の基礎となる学問です。興味を持って授業に臨み、基本をきっちり身に付けて下さい。

授業科目名	基礎電子回路 Basic Electronic Circuits			
担当教員名	猪川 洋	所属等		
		研究室		
分担教員名				
クラス		学期	前期	必修選択区分
対象学年		単位数		曜日・時限
キーワード	電子回路、ダイオード、接合形トランジスタ、電界効果トランジスタ、増幅回路、バイアス回路、接地方式、等価回路			
授業の目標	電気回路との違い、電子回路の基本要素を学び、身近な電子機器に用いられているアナログ信号処理回路の基本である増幅回路の動作原理を理解する。			
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 電子回路で使用する基本的な部品（抵抗、コイル、コンデンサ、ダイオード、トランジスタ等）の現実の特性と使い方、および能動素子の「等価回路」を理解する。</li> <li>2. 増幅回路の基本（バイアス、増幅動作）を理解する。</li> </ol>			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 電子回路の構成要素と解析の基礎</li> <li>2. 半導体素子の概要</li> <li>3. ダイオードの特性と使い方</li> <li>4. 接合形トランジスタの原理と増幅作用の基本（構造と静特性）</li> <li>5. 同上（ベース接地の増幅動作）</li> <li>6. エミッタ接地増幅回路（回路構成と静特性）</li> <li>7. 同上（エミッタ接地の増幅動作）</li> <li>8. 接合形トランジスタの等価回路（T形、hパラメータ）</li> <li>9. 等価回路を用いた増幅動作の解析</li> <li>10. 各種バイアス回路と安定指数</li> <li>11. コレクタ接地増幅回路および各接地方式の比較（まとめ）</li> <li>12. 電界効果トランジスタの原理と増幅作用の基本（構造と静特性）</li> <li>13. 同上（等価回路とバイアス法）</li> <li>14. 同上（各接地方式の増幅動作の解析）</li> <li>15. 増幅回路の設計法の例</li> </ol>			
受講要件	「電子物理数学」、「基礎電気回路」を十分に理解している必要がある。			
テキスト	「わかるアナログ電子回路」江間義則 他(著)、日新出版、2006、ISBN 9784817302274			
参考書	「電子情報回路Ⅰ」樋口龍雄・江刺正喜(著)、昭晃堂、1989、ISBN 4785611626 「アナログ電子回路」石橋幸男(著)、培風館、1990、ISBN 4563033340			
予習・復習について	授業時間だけでなく予習および復習の時間が必要である。教科書の演習問題は、特に指定しなくても、解答を見ないで自習課題として解くこと。授業でノートを取り、それに基づいて復習を十分に行うこと。			
成績評価の方法・基準	出席率が3分の2以上の学生を成績評価の対象とする。期末試験の得点60点以上を合格とする。			
オフィスアワー	随時（ただし事前に連絡をとり予定の確認をする事）			
担当教員からのメッセージ	本科目で学習する電子回路は、身近なオーディオ・ビジュアル機器や携帯電話などの基本回路にもなっている。興味を持って学習して欲しい。			

授業科目名	センサ工学 Sensor Engineering			
担当教員名	坂田 肇	所属等		
		研究室		
分担教員名				
クラス		学期	前期	必修選択区分
対象学年		単位数		曜日・時限
キーワード	物理量変換、センシング、計測技術			
授業の目標	現代社会はいたる所にセンサを含めた計測技術が使用されている。センサは人間に例えれば五感に相当するもので、現在では半導体などを利用した新しい素子の開発やコンピュータの進展にともない、その技術範囲はより広く、よりフレキシブルに発展している。この講義では、これまでに習得した電気電子工学の専門的知識を駆使し、対象の状態を把握するためのセンサの原理と、センサを応用したセンサシステムについて理解することを目標とする。			
学習内容	センサ工学は電気電子工学の重要な応用科目の一つである。学習内容は、センサがどのような物理的効果を利用し、またどのようなシステム技術を使い、現象を最終的にデータに変換するのかを理解する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.センサシステムの基礎</li> <li>2.センシングデータの処理と評価</li> <li>3.センサの分類と変換原理</li> <li>4.力学応用センサ</li> <li>5.電磁気学や光電効果を利用したセンサ</li> <li>6.熱電効果、圧電効果、磁気効果を利用したセンサ</li> <li>7.化学現象を利用したセンサ他</li> <li>8.前半演習</li> <li>9.光応用センシング用レーザ</li> <li>10.光干渉を利用したセンシング</li> <li>11.分光を利用したセンシング</li> <li>12.画像応用センシングの特長</li> <li>13.デジタル画像処理</li> <li>14.画像を利用したセンシング技術</li> <li>15.後半演習</li> </ol>			
受講要件	電磁気、回路、計測、光学、物理について復習しておく。			
テキスト	「センシング工学」(新美智秀 著、コロナ社)			
参考書	必要に応じて授業中に紹介する。			
予習・復習について	講義内容をより理解するために、テキストについて必ず予習すること。			
成績評価の方法・基準	授業中の演習および試験により評価する。			
オフィスアワー	随時			
担当教員からのメッセージ	私たちの身の周りには、数多くのセンサがあふれています。どのようなセンサが私たちの生活を支えているか興味を持ってみてください。			



授業科目名	電気電子材料工学 Electrical and Electronic Material Engineering			
担当教員名	喜多 隆介		所属等	
			研究室	
分担教員名				
クラス		学期	前期	必修選択区分
対象学年		単位数		曜日・時限
キーワード	導電体材料、超伝導体材料、半導体材料、抵抗体材料、誘電体絶縁体材料、磁性体材料、IC プロセス			
授業の目標	電気・電子機器に使われている様々な材料について、その基本的な物性を理解し、その具体的な応用について学習する。			
学習内容	現代社会には様々な電気・電子機器があふれており、これらは電気・磁気・光エネルギー等を様々な形で運用して動いている。それらを支えているのは様々な電気・電子材料である。本講義では、膨大な電気・電子材料を導電体材料、抵抗材料、半導体材料、磁性体材料、誘電体絶縁体材料に大きく分け、その機能と具体的な応用例について講義する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 電気電子材料の種類とその機能</li> <li>2. 導電体材料 <ul style="list-style-type: none"> <li>・金属中の電気伝導とバンド理論</li> <li>・金属導電体材料の特性（導線材料）</li> <li>・特殊導電材料（接触子材料、ヒューズ材料等）</li> <li>・超伝導体材料（超伝導現象、金属系超伝導材料、酸化物超伝導体）</li> </ul> </li> <li>3. 抵抗材料 <ul style="list-style-type: none"> <li>・電流による抵抗体の発熱機構</li> <li>・精密抵抗材料、電流調整用抵抗材料、電熱・照明用抵抗材料</li> <li>・特殊抵抗材料（サーミスタ、バリスタ、感ガス、感歪、感磁、感光抵抗材料）</li> </ul> </li> <li>4. 磁性体材料 <ul style="list-style-type: none"> <li>・磁気モーメントと磁性、磁性体の種類</li> <li>・磁区と磁化、軟磁性材料と硬磁性材料</li> <li>・磁気記録材料</li> </ul> </li> <li>5. 誘電体絶縁体材料 <ul style="list-style-type: none"> <li>・誘電分極とその種類及びメカニズム、誘電分散</li> <li>・強誘電体材料の種類</li> <li>・圧電効果</li> <li>・焦電効果</li> <li>・絶縁体の電気伝導</li> </ul> </li> <li>6. その他の材料 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ディスプレイ用材料</li> <li>・炭素材料</li> <li>・レーザ材料他</li> </ul> </li> <li>7. 電気電子材料の解析・評価方法</li> </ol>			
受講要件	固体物理の初歩について理解していることが望ましい			
テキスト	特になし。授業中に適宜プリントを配布する。			
参考書	一ノ瀬 昇 編著、電気電子機能材料、オーム社 キッテル著、固体物理入門、丸善			
予習・復習について	授業の十分な理解のために、授業中指示された予習・復習を必ず行うこと。理解度の確認のため授業中適宜演習を行い、レポート提出を課す。			
成績評価の方法・基準	授業での到達目標が達成され、電気電子材料における基本的な理解がなされたかどうか評価する。評価の配分は、試験 80%、演習・レポート 20%である。評価点が 60 点以上である場合を合格とする。			
オフィスアワー	あらかじめメールでアポイントを取ってから来て下さい。terkita@ipc.			
担当教員からのメッセージ	身の回りの電気電子関係の機器に、どのような電気電子材料が利用されているのか、関心をもって調べてみることを薦めます。			

授業科目名	システム基礎数学 Basic Mathematics in Systems Engineering			
担当教員名	宮崎 倫子	所属等		
		研究室		
分担教員名				
クラス		学期	前期	必修選択区分
対象学年		単位数		曜日・時限
				木 3・4
キーワード	論理式、集合、位相			
授業の目標	集合と位相に関する基礎的な事項を修得する。同時に、それらを論理的に記述し証明する力を養う。			
学習内容	高等学校までに履修してきた数学的知識のうち、情報系の数学に深く関連する「集合と論理」を基礎として、システム工学の一分野である非線形計画問題や非線形システムの安定性問題などの解析に必要な位相（特に距離空間における位相）の概念を学ぶ。その中で、論理的なものの考え方や数学的な記述方法を身につける。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 証明と論理（高校数学から）</li> <li>2. 命題論理式</li> <li>3. トートロジー</li> <li>4. 述語論理式</li> <li>5. 全称記号と存在記号の交換，否定</li> <li>6. 集合</li> <li>7. 写像</li> <li>8. 2項関係</li> <li>9. 実数の集合における位相</li> <li>10. ユークリッド空間</li> <li>11. 開集合と閉集合</li> <li>12. コンパクト性</li> <li>13. 連結性</li> <li>14. 距離空間</li> <li>15. 距離空間の位相</li> </ol>			
受講要件	特になし			
テキスト	鈴木晋一：「集合と位相への入門」，サイエンス社，2003年，ISBN 978-4-7819-1034-5			
参考書	齋藤正彦：「数学の基礎」，東京大学出版会，2002年，ISBN 978-4-13-062909-6 齋藤正彦：「日本語から記号論理へ」，日本評論社，2010年，ISBN 978-4-535-78554-0 永田雅宜：「集合論入門」，森北出版，1970年，POD版 2003年，ISBN 978-4-627-00219-7			
予習・復習について	授業時間内に予習・復習の項目を指示する。			
成績評価の方法・基準	授業目標が達成されているかを評価する。 評価点数の配分は、授業時間内に実施する小テストまたはレポート課題の合計が40%、期末試験の成績が60%。			
オフィスアワー	「数学の広場」（工学部6号館1階）を利用されたい。			
担当教員からのメッセージ	何事にも言えることであるが、基礎をおろそかにしないこと。推論では必要条件，十分条件を意識すること。			

授業科目名	塑性加工学 Theory of Plastic Working			
担当教員名	早川 邦夫	所属等		
		研究室		
分担教員名	吉田 健吾			
クラス		学期	前期	必修選択区分
対象学年		単位数		曜日・時限
キーワード	塑性力学、圧延、曲げ加工、鍛造、引抜き、板成形、押出し、せん断加工			
授業の目標	材料の塑性変形能を利用した各種加工法についてまた、その基礎となる塑性力学について理解する。			
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 塑性力学の基礎</li> <li>・ 圧延加工</li> <li>・ 曲げ加工</li> <li>・ 鍛造加工</li> <li>・ 引抜き、押出し加工</li> <li>・ せん断加工</li> <li>・ 板成形加工</li> </ul>			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 塑性加工の意義，塑性力学の基礎（1）金属材料の塑性変形（早川）</li> <li>2. 塑性力学の基礎（2）応力とひずみ（早川）</li> <li>3. 塑性力学の基礎（3）主応力，偏差応力，不変量（早川）</li> <li>4. 塑性力学の基礎（4）釣合い条件（早川）</li> <li>5. 塑性力学の基礎（5）変形およびひずみ（早川）</li> <li>6. 塑性力学の基礎（6）降伏条件（早川）</li> <li>7. 塑性力学の基礎（7）塑性構成式（早川）</li> <li>8. 中間試験および解説</li> <li>9. 鍛造加工（吉田）</li> <li>10. 引抜き加工（1）（吉田）</li> <li>11. 引抜き加工（2）（吉田）</li> <li>12. 板成形加工（1）（吉田）</li> <li>13. 板成形加工（2）（吉田）</li> <li>14. 板成形加工（3）（吉田）</li> <li>15. 塑性加工の最新動向（吉田）</li> </ol> <p style="text-align: center;">期末試験</p>			
受講要件	材料力学，材料加工学を修得していることが望ましい			
テキスト	基礎からわかる塑性加工（長田・柳本，コロナ社）			
参考書	塑性加工入門（日本塑性加工学会編，コロナ社） 基礎塑性力学（野田・中村，日新出版）			
予習・復習について	毎週，復習レポートを出すので提出すること。			
成績評価の方法・基準	復習レポートを提出することが期末試験を受ける前提となる。評価の配分は，中間試験50%，期末試験50%である。 「秀、優、良、可、不可」の評価基準は次の通りである。 秀・・・「塑性加工学」の全般が理解に優れ、かつ応用に優れる 優・・・「塑性加工学」の全般が理解でき、かつ応用できる 良・・・「塑性加工学」の全般が理解できる 可・・・「塑性加工学」の基本が理解できる 不可・・・「塑性加工学」の基本が理解できない 再試験：再試験は行わない。			
オフィスアワー	特に定めていない。可能な限り随時受け付ける。			
担当教員からのメッセージ				

授業科目名	博物館概論 Introduction to Museology			
担当教員名	高松 良幸	所属等		
		研究室		
分担教員名				
クラス		学期	前期	必修選択区分
対象学年		単位数		曜日・時限 月 1・2
キーワード	博物館、学芸員、生涯学習、パブリック			
授業の目標	博物館が、近・現代社会においてどのような社会的役割を果たしているのかについて、博物館史、博物館の現状等から考察するとともに、博物館において果たすべき学芸員の使命・職務内容等について、総括的な理解を図る。			
学習内容	欧米、アジア、日本などの博物館の歴史を確認するとともに、現代社会の中で、博物館とはいかなる存在か、あるいはどのような機能を果たしているかについて理解を図る。また、学芸員の職に就く場合、どのような心構えと使命感が必要か、一方、例えば学芸員の職に就かない場合でも、学芸員の資格を有するものが社会に対して果たすべき役割とは何か、などについて考察する。			
授業計画	<p>回 内容</p> <p>1 博物館学と博物館学芸員資格 博物館学関連講義、博物館学芸員資格の概要を説明</p> <p>2 博物館の分類 設置形態、館種等による分類をおこなうことで、博物館と称される文化施設はいかなるものかを考察</p> <p>3 博物館の歴史 1 ヨーロッパにおける博物館の歴史を概観し、同社会における博物館の機能、位置づけ等を考察</p> <p>4 博物館の歴史 2 アメリカにおける博物館の歴史を概観し、同社会における博物館の機能、位置づけ等を考察</p> <p>5 博物館の歴史 3 アジア・アフリカにおける博物館の歴史を概観し、同社会における博物館の機能、位置づけ等を考察</p> <p>6 博物館の歴史 4 日本における博物館の歴史を概観し、同社会における博物館の機能、位置づけ等を考察</p> <p>7 博物館関連法規 博物館法その他博物館関連法規の紹介、その現状における問題点の指摘</p> <p>8 学芸員の職務 学芸員の多岐にわたる職務内容とその問題点を指摘。また学芸員資格取得に関する問題を検討</p> <p>9 博物館の組織と設備 博物館における人事・組織とその業務に必要な設備のあり方について考察、ボランティア、友の会などの外部組織と博物館組織の連携についても論及</p> <p>10 博物館の運営 博物館活動を活性化させるための人材、資料、資金、情報等のマネジメントのあり方について考察</p> <p>11 博物館資料の収集と保存 博物館資料の収集、保管について論及</p> <p>12 調査研究機関としての博物館 博物館における調査研究活動のあり方を考察</p> <p>13 博物館における展示 博物館活動の中心である展示のあり方について検討</p> <p>14 生涯学習機関としての博物館 博物館における教育普及活動の諸様態を紹介</p> <p>15 まとめ コミュニティーの拠点としての博物館の役割</p>			
受講要件				
テキスト	必要に応じてプリント等を配布する			
参考書	鈴木真理編『博物館概論』（大堀哲監修『博物館学シリーズ』第1巻）樹村房 1999			
予習・復習について	授業時間の2倍程度の予習・復習時間が必要である			
成績評価の方法・基準	講義期間中の小レポート（10%）、期末試験（90%）により評価する			
オフィスアワー	授業中に指示する			
担当教員からのメッセージ	受講者には積極的に周辺の各種博物館を見学することを勧めます。			

授業科目名	人間情報処理論 Human Information Processing			
担当教員名	竹内 勇剛		所属等	
			研究室	
分担教員名				
クラス		学期	前期	必修選択区分
対象学年		単位数		曜日・時限 月 5・6
キーワード	認知、インタフェースデザイン、システム、モデル、ヒューマンファクタ、ヒューマンエラー、ユーザビリティ、相互作用			
授業の目標	<p>技術の進歩によって人間を取り巻く人工的なシステムはより複雑化し、高速化するようになってきた。その結果、人間は何かの支援がないとそれらを使いこなすことができなくなってきている状況になっている。このような状況の中で、システムを信頼し、安全かつ効率的に利用していくためには、人間の認知的能力と行動特性を十分に理解しなくてはならない。</p> <p>本講義では、人間とシステムとの関係のデザインと人間の認知的能力に適応したシステムデザインのあり方について学び、情報科学、情報システムデザインに役に立つ知識と分析力および実践力を身につけることを目指す。</p>			
学習内容	<p>以下の項目に関する内容をさまざまな事例を通して通観し、情報機器を中心としたシステムデザインやインタフェースデザインへの応用力を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間工学</li> <li>・認知工学</li> <li>・安全工学</li> <li>・福祉工学</li> <li>・ユーザエクスペリエンスデザイン／インタラクションデザイン</li> <li>・ユーザビリティ／ユニバーサルデザイン</li> <li>・ユーザ中心設計</li> </ul>			
授業計画	<p>[0] オリエンテーション</p> <p>[1] 人間という存在 (2回) 人間とはどういう存在であるかを再確認し、システムの振る舞いに対してどのような認識と反応を示す行動特性をもつかを事例を通して理解する。</p> <p>[2] ヒューマンファクタとヒューマンエラーそして安全 (5回) 人間の振る舞いに起因するさまざまな事故や失敗がなぜ起きるか、どのようにすればそれらを防ぐことができるのかを事例を通して分析・考察し、人間の身体と認知との調和的なシステムデザインの指針を学ぶ。</p> <p>[3] 人間にやさしいデザイン (4回) 人間の知識や経験、身体的特徴、認知的特性と合致したシステムデザインをすることの意義と、ヒューマンインタフェースデザインの望ましいあり方について考察し、実践力と応用力を養う。</p> <p>[4] オープンなシステムとクローズドなシステム (2回) 不特定多数のユーザや知識やスキルにばらつきがあるユーザに対処するインタフェースやマニュアルの適切な設計指針について学ぶ。</p> <p>[5] まとめ</p>			
受講要件	特になし。ただし「認知科学」や「認知心理学 (概論)」等の認知系の授業を履修してくることが望ましい。			
テキスト	指定しない。			
参考書	適宜授業の中で紹介する。			
予習・復習について	授業の前日までには当日使用するスライドを公開しておくので要予習。復習は授業の中で出題する課題に取り組むことで、当日中に授業の内容を完全に学習する。			
成績評価の方法・基準	数回の小レポート (授業中に行なうものも含む) と中間/学期末の課題レポートによる成績評価。			
オフィスアワー	あらかじめメールでアポイントメントをとってもらえれば、できるだけ互いの都合のいい時間を確保する。			
担当教員からのメッセージ	身近な事例や過去にあった事例を通してリアルに問題に接近していきます。			

授業科目名	博物館資料論 Museum Materials			
担当教員名	高松 良幸	所属等		
		研究室		
分担教員名				
クラス		学期	前期	必修選択区分
対象学年		単位数		曜日・時限
				火 1・2
キーワード	博物館資料、実物資料、複製資料、保存と活用、展示、文化財保護、マネジメント			
授業の目標	博物館資料の収集、保管、展示、調査研究等の諸業務に関する基礎的な理解を図るとともに、日本における文化財保護行政やその中で博物館が果たすべき役割について考察することを目的とする。			
学習内容	博物館における資料の収集・保管、展示、調査研究等の諸業務について具体的な例をあげながら論じる。また、博物館資料の多くは、文化財（遺産）としての性格を持つことから、文化財（遺産）保護に博物館、あるいは学芸員がどのような貢献ができるかについても、実例をあげながら考察する。			
授業計画	<p>回 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 博物館資料とは 博物館資料の概念を明確化するとともに、実物資料と複製資料の関係について論及</li> <li>2 博物館資料の収集 博物館における基幹業務のうち、資料収集に関連する諸業務の実例を紹介</li> <li>3 博物館資料の整理 博物館における基幹業務のうち、実物資料および関連データの整理に関する諸業務の実例を紹介</li> <li>4 博物館資料の保存 博物館における基幹業務のうち、資料保存に関連する諸業務の実例を紹介</li> <li>5 博物館資料の修理 博物館における基幹業務のうち、資料の修理に関連する諸業務の実例を紹介</li> <li>6 博物館資料の保存と展示 博物館資料の保存に配慮した展示の実際について実例を紹介</li> <li>7 博物館資料の調査研究 博物館における基幹業務のうち、資料の調査研究に関連する諸業務の実例を紹介</li> <li>8 博物館資料の教育普及と事業等への活用 博物館資料を用いた教育普及活動事業等の実例を紹介複製資料の意義と活用 博物館活動における</li> <li>9 複製資料の役割について紹介</li> <li>10 電子資料化の現状と課題 博物館資料の電子化の現状と今後の課題について概観</li> <li>11 文化財保護の歴史と現状日本における文化財保護の歴史と現状、文化財と博物館の関わりについて概観</li> <li>12 文化財としての博物館資料保存と公開という文化財保護法の理念に基づいた博物館資料の運営</li> <li>13 文化財保護に果たすべき学芸員の役割博物館学芸員資格保持者が、文化財保護にいかなる貢献ができるかを考察</li> <li>14 文化財マネジメント保存と活用のためのマネジメント</li> <li>15 まとめ</li> </ol>			
受講要件				
テキスト	必要に応じてプリント等を配布する			
参考書				
予習・復習について	授業時間の2倍程度の予習・復習時間が必要である。			
成績評価の方法・基準	期末試験により評価する。試験の内容は、講義内容の理解、講義内容の応用が各 50%。			
オフィスアワー	授業中に指示する。			
担当教員からのメッセージ	博物館や文化財の現場に触れる機会をできるだけ設けられることをお勧めします。			

授業科目名	メディア・デザイン論 Media Design			
担当教員名	赤尾 晃一	所属等		
		研究室		
分担教員名				
クラス		学期	前期	必修選択区分
対象学年		単位数		曜日・時限
キーワード	ガバナンス、ジャーナリズム、オルタナティブ・メディア、NPO/NGO、地域メディア、言論の自由、パブリック・アクセス、ソーシャル・メディア、メディア・アクティビズム			
授業の目標	<p>新しい社会(公共)をデザインする場合、メディアは重要なツールとなりうる。逆に、メディアを新しくデザインすることが新しい社会(公共)のガバナンスに通じることもある。その際、どんな中身(酒)をどんなメディア(器:革袋)に盛るかは熟慮する必要がある。古い皮袋に古い酒を注いだのでは、何のインパクトも与えられないからだ。そして、皮袋が新しいからといって(ネットメディアを使ったからといって)、それだけで社会の変革が成し遂げられるわけではない。</p> <p>本講義は、新しい革袋に新しい酒を盛り、その酒が社会を変える契機になるようなメディアデザインの方法論を、受講者が掴み取ることを目標とする。</p>			
学習内容	<p>マスメディア四媒体以外のさまざまな表現・伝達メディアを用いて、ニュースを報道すること、オピニオンを表明すること、パブリック・リレーションズを築くこと、そしてエンタテインメントを与えることを「メディア・アクティビズム」と総称する。また、マスメディア四媒体(とくにテレビ・ラジオ放送)には、市民的言論権の行使として「パブリック・アクセス」の権利がある。1970年代まではそうした活動は「メディアゲリラ」または「オルタナティブメディア」と称されてきた。</p> <p>以上の歴史的経緯を踏まえつつ、メディア・デザインのためのさまざまな「道具箱」について、事例紹介を交えて紹介する。</p> <p>メディアの産業的側面については、傍論として触れることがある程度とする。</p>			
授業計画	※講義項目の順序、取舍選択などについては変更がありうる。また、可能な限り、ドキュメンタリー映像を授業時に参照したい。			
	回	内容		
	1	導入:オルタナティブ・メディアの思想史(エンツェンスベルガー/ベンヤミン)		
	2	(第1部)オルタナティブメディア 60年安保闘争と七社共同宣言——「声なき声」をめぐって		
	3	抵抗の方法論(1)——うたごえ運動・ミニコミ・ビラ・立て看・ティーチイン、デモ、広場と通路(1969年新宿西口地下“広場”)		
	4	抵抗の方法論(2)——ミニコミ誌・カタログ誌・喫茶店(ホールアース・カタログ/ぴあ/ほんやら洞)		
	5	抵抗の方法論(3)——フラッシュ・モブ、サウンドデモ、オキュパイド		
	6	抵抗の方法論(4)——自由ラジオ		
	7	(第2部)シビルミニマムとしてのメディア 地域メディア総論		
	8	書店と図書館		
	9	NPO/NGOとデジタルエンゲイジメント		
	10	パブリック・アクセス		
	11	(第3部)大震災との関わりでみるメディアデザインの思想 活字系メディアの役割		
	12	テレビメディアの役割		

	13 ラジオメディアの役割
	14 ドキュメンタリーの役割
	15 ソーシャルメディアの役割
受講要件	ID プログラムでメディア系の専門科目群に興味を持つ学生
テキスト	特にない。
参考書	<p>金山勉・津田正夫編(2011)『ネット時代のパブリック・アクセス』世界思想社</p> <p>松野良一(2005)『市民メディア論—デジタル時代のパラダイムシフト』ナカニシヤ出版</p> <p>山田健太(2013)『3・11 とメディア 徹底検証 新聞・テレビ・WEBは何をどう伝えたか』トランスビュー</p> <p>立入勝義(2011)『検証 東日本大震災 そのときソーシャルメディアは何を伝えたか?』ディスカヴァー・トゥエンティワン</p> <p>河井孝仁・遊橋裕泰 (2009)『地域メディアが地域を変える』(日本経済評論社)</p>
予習・復習について	授業で紹介・指定した文献を読むなどの「復習」が要求される
成績評価の方法・基準	大福帳・中間レポート(2~3回, 50%)と試験(50%, 最終レポートの場合もあり)
オフィスアワー	オリエンテーション時に指示する。
担当教員からのメッセージ	<p>情報学部生はともすると、「ネットメディアさえあれば、問題はすべて解決する」という思考パターンに陥りがちである。むしろ、ネットは広報・PR メディアとして欠くことができない存在だろう。しかし、ネット以外の選択肢も含めて、自分が実現(発信)したいことに最も相応しいメディアを選び、そのメディアをデザインしていくことこそが、メディアに対する正しい向き合い方だと確信する。</p>



授業科目名	ジェンダー論 Gender Studies			
担当教員名	笹原 恵		所属等	
			研究室	
分担教員名				
クラス		学期	前期	必修選択区分
対象学年		単位数	曜日・時限	火 9・10
キーワード	ジェンダー、セクシュアリティ、セックス、性別役割分業・性別職務分離、女らしさ、男らしさ、性の多様性、セクシュアル・マイノリティ、ジェンダー平等、メディア・家庭・学校・職場、男女平等・男女共同参画			
授業の目標	本講義では、現代社会を考えるにあたって必須の課題、男女平等（ジェンダー平等、ジェンダーエクイティ）をすすめるために必要な社会認識及びそのための方法論（ジェンダー論）を学ぶ。本年度は、ジェンダーの観点から、メディア、学校、職場、家族などさまざまな領域を分析し、男女平等とは何か、男女平等の社会とはどのような社会か、またその実現のためには何が必要なかを考えていくことにしたい。受講生は、本講義を通し、「ジェンダー」の視点からの社会システム構築やコミュニティデザインを考えていくことができる。			
学習内容	<p>1. ジェンダーとは何か ジェンダーgenderとは、社会的・文化的に決定される性の側面を表す概念であり、「女らしさ」「男らしさ」や、性別役割分業（家事・育児・介護の分担のあり方）、性別職務分離（いわゆる「男性」職、「女性」職など）といった社会編成全体に関わる概念である。まずは極めて複雑で、重層的な概念である「性」について、セックスsex（生物学的・解剖学的性）、セクシュアリティsexuality（性自認、性指向）、ジェンダーgender（社会的・文化的性）の3つのレベルにおいて理解する。</p> <p>2. セクシュアリティとジェンダー 性教育や性暴力の問題などセクシュアリティに関わる問題やセクシュアルマイノリティが抱える悩みなどから、身体と精神の両方にかかわるセクシュアリティsexuality概念を深く見つめる。これらの問題から現代社会を照射することによって、近代社会システムの限界やこれからのあるべき姿について考えていくことにしたい。セクシュアルマイノリティとしては、主にトランスジェンダー（性同一性障害を含む）と同性愛者、両性愛者の抱える問題点を考える。</p> <p>3. 現代社会とジェンダー～現状と課題～ 現代社会を「ジェンダー」の視点から分析し、メディア、学校、職場、家族におけるジェンダーの実態をとりあげながら、ジェンダー研究の基礎視角を学ぶ。また女性差別撤廃条約をはじめとする世界的な男女平等の流れを振り返り、日本における男女共同参画政策について概観する。</p>			
授業計画	<p>ガイダンス：ジェンダーを学ぶ意味～なぜ「ジェンダー」を学ぶのか</p> <p>1. ジェンダーとは何か *女性の人権の歴史：フェミニズムの歴史 *メンススタディズ（男性学）という視角 *多様な性概念 セックス/セクシャリティ/ジェンダー</p> <p>2. セクシュアリティとジェンダー *セクシュアリティの現況 *セクシュアルマイノリティの課題 *性暴力と人権</p> <p>3. ジェンダーの現状と課題</p> <p>1) ジェンダーの社会化 ～ひとはどのようにして女/男になるか</p> <p>2) メディアの中のジェンダー *絵本が伝えるジェンダー *アニメ、テレビ番組、CMなどの中のジェンダー</p> <p>3) 学校・教育とジェンダー *進学率とジェンダー *学校におけるジェンダー・セクシュリティ問題</p> <p>4) 職場におけるジェンダー *女性・男性に向いている職業ってあるの？ *性別職域分離とは</p> <p>5) 家族とジェンダー *女性は自然に母親になる？ 男性が父親になるとは？ *家事・育児は誰の仕事？</p>			

	<p>*夫婦別姓を考える</p> <p>まとめ：男女平等・男女の対等性とは何か 政策としての男女共同参画社会 ジェンダーの変革のために何が必要か</p>
受講要件	受講要件は特にありませんが、男女平等や人々の関係のあり方、またジェンダーやセクシュアリティに関心を持ち、柔軟な発想ができることが望ましいです。
テキスト	特に用いず、適宜、プリントを配付します。
参考書	授業中に紹介します
予習・復習について	最低限の予習・復習としては、①授業を受けた上での小レポート提出（出席票）、②授業前に読んでくるように指示したプリント講読、レポート作成、③単元毎に課すまとめの中レポート（アサインメント）。このほか、受講生それぞれが自分の関心に応じた予習・復習や関連資料、図書を積極的に読むことを期待します。
成績評価の方法・基準	予習・復習などの小レポート：4割（プレゼンなど授業での発表や発言なども含む） 単元毎のレポート：4割 最終レポート（受講生が関心をもつテーマで作成）：2割
オフィスアワー	授業中に連絡します
担当教員からのメッセージ	「ジェンダー」は女性の問題であると思っている人が大変多いのですが、ジェンダーとは女性と男性の関係性の問題であり、両性にかかわる重要な概念です。私たちは無意識のうちに「ジェンダー」<女らしさ・男らしさ、女だから・男だから>にとらわれており、それは他者だけではなく自分自身の行動や考え方を狭めています。それが社会的に作られてきたものであることに気づくなら（よって作り変えることができることに気づくなら）、もっと自由な発想と行動をすることができるようになると思います。また、性概念の多様性を学ぶことにより、人間観や家族観、社会観もまた違ったものになるかもしれません。そのためには、自身のものの見方・考え方を相対化し、より広い視角から社会や人間を見つめることが必要です。その学びが、皆さんの人生に、豊かさと幸福とをもたらすことを願っています。

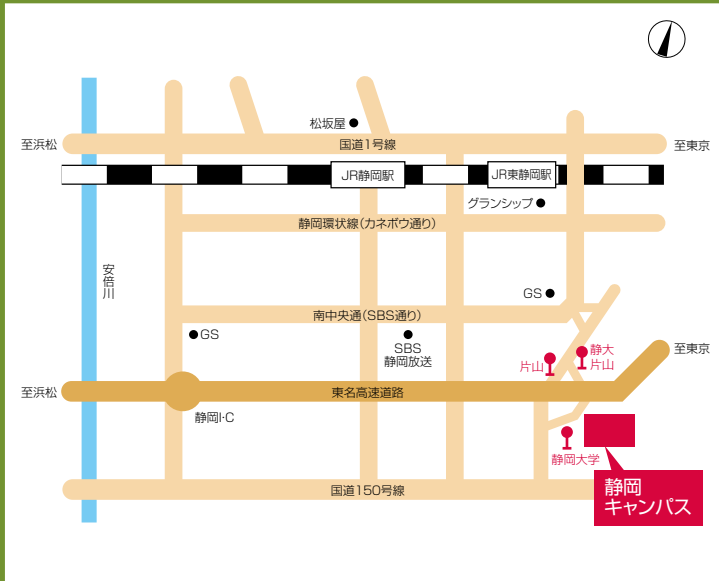
授業科目名	コミュニケーション・メディア史 History of Communication and Media			
担当教員名	森野 聡子		所属等	
			研究室	
分担教員名				
クラス		学期	前期	必修選択区分
対象学年		単位数		曜日・時限
キーワード	情報伝達、マスメディア、視覚メディア、複製メディア、パノラマ、パノプティコン、VR、近代、歴史、ナショナリズム			
授業の目標	近現代において、さまざまなコミュニケーション・メディアが発展し、社会生活に定着してきた歴史をトピック的にたどることを通じて、現代のメディアの構造と機能について理解を深めることを目的とする。とりわけ、メディアと受け手/送り手の関係に注目し、その通時性を理解するとともに、現代的特質を実証的に考える力を養う。			
学習内容	<p>新聞・出版・放送・レコード・映画などのコミュニケーション・メディアは、近代化の過程において、多くの国の特性に応じて受容が進み社会に定着してきた。コミュニケーション・メディアの歴史に世界共通の〈普遍的法則〉を見いだすことは不可能ではないが、〈固有性〉の方が際立つ。</p> <p>また、その〈固有性〉は現代のメディアの在り方にも影響を及ぼしている。その国や民族の基底をなす〈言論の風土〉に変化が乏しい限り、コミュニケーション・メディアを同じ作法で受容しようとする傾向がみられる。これが〈通時性〉と呼ばれる特徴である。本授業では、こうしたコミュニケーション・メディアの歴史的トピックについて講義し、現代との〈つながり〉について受講者と議論しながら考察を深めていきたい。授業の流れとしては、基本的なマスメディアの誕生の経緯と発展について学んだ後、森野担当分では近代イングランドのマスメディアの発達、赤尾担当分では日本のマスメディアの通史を「現実をベースとして再構成された物語の拡散装置」という観点から再構成して考えることで、社会的装置としてのメディアの役割をさらに深く掘り下げて学ぶ。</p>			
授業計画	<p>1. 第1部 マスメディアの誕生と近代イングランドにおける発展（森野）</p> <p>1. ガイダンス：「マスメディア」と耳の文化・目の文化</p> <p>2. 2.ロンドン万博：博覧会は「世界」を複製したメディア装置だ</p> <p>3. 3.Illustrated London News：新聞は「世界」をパノラマとして視る欲望を生んだ</p> <p>4. 4.少年冒険小説：「南洋」「暗黒大陸」「アジア」は物語化された</p> <p>5. 5.推理小説：謎解きはかくしてディナーのデザートになった</p> <p>6. 6.動画：動く映像は人類を月へといざなう</p> <p>7. 7.王室：メディアはロイヤル・ファミリーを必要とする</p> <p>8. 8.「オリンピック」：メディア・イベントが「国家」という意識を生んだ</p> <p>9. 第2部 マスメディアの発達と近代日本（赤尾）</p> <p>1. 日本のメディアの原点は江戸時代の「讀賣瓦版」にあった</p> <p>10. 2.明治新聞の「三面記事」がスクランダリズム(断罪報道)と“毒婦”を生んだ</p> <p>11. 3.明治期の自由民権運動と新聞は「誰でも言論人＝壮士」の時代の魁だった</p> <p>12. 4.日清・日露の戦争報道で「軍国美談」の創作に新聞が荷担した</p> <p>13. 5.「声だけ」伝えるラジオは、感情に火を付ける煽動装置にもなった</p> <p>14. 6.「流行歌」や「映画」も国策を伝えるための手段(戦時歌謡)になっていった</p> <p>15. 7. 焼け跡闇市に花咲く「カストリ雑誌」はエロ・グロ・ナンセンスの伝道師だった</p>			

受講要件	「ジャーナリズム論」を受講済みであることが望ましい。
テキスト	なし
参考書	次の書籍を推奨する。その他、授業時に随時紹介。 吉見俊哉『メディア時代の文化社会学』（新曜社，1994年） 佐藤卓己『現代メディア史』（岩波書店，1998年） ウォルター・オング『声の文化と文字の文化』（藤原書店，1991年）
予習・復習について	担当教員より指示
成績評価の方法・基準	教員ごとの課題（2回）と参加態度
オフィスアワー	木曜の昼休み（森野），担当1回目の授業時に指示する（赤尾）
担当教員からのメッセージ	

## ■静岡キャンパス

人文社会科学部・教育学部・理学部・農学部

〒422-8529 静岡県静岡市駿河区大谷 836



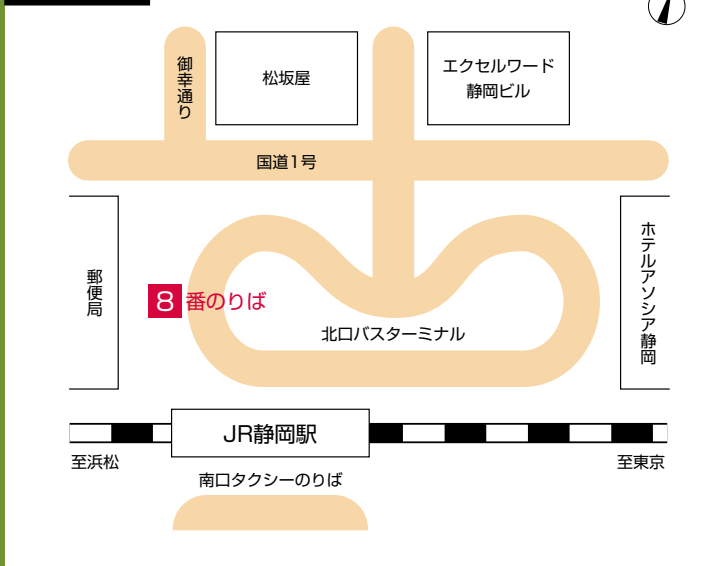
## ■浜松キャンパス

情報学部・工学部

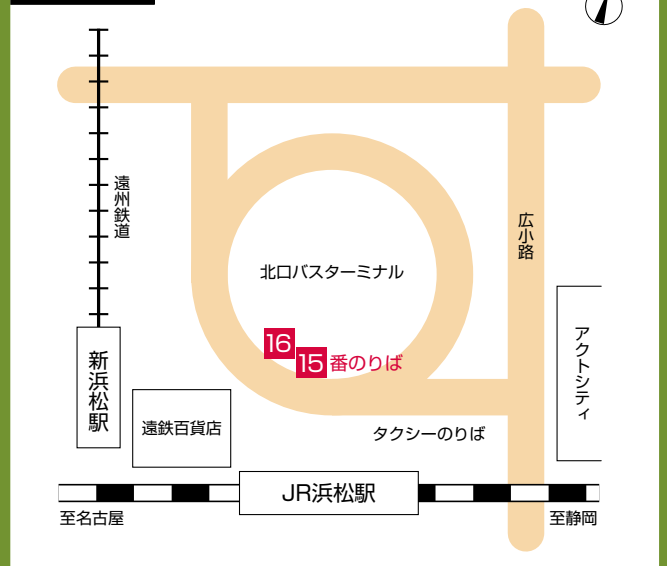
〒432-8011 静岡県浜松市中区城北 3-5-1



### バス停案内図



### バス停案内図



1. JR静岡駅北口からつぎのバス8番乗り場から、「静岡大学」または「東大谷」行きに乗車し、「静岡大学」または「静大片山」バス停下車(所要時間約25分、1時間に5~7本運行)。\*静岡駅午後発の「東大谷」行きバスは「静岡大学」バス停を経由しないため、「片山」バス停で降りてください。「片山」と「静大片山」バス停は位置が異なりますのでご注意ください。
2. JR静岡駅からタクシーで約15分。

1. JR浜松駅北口バスターミナルより、遠州鉄道バス15番または16番乗り場から乗車し(全路線)、「静岡大学」バス停下車(所要時間約20分、1時間に10本程度運行)。
2. JR浜松駅からタクシーで約10分。

## 静岡大学イノベーション社会連携推進機構

Organization for Innovation and Social Collaboration

〒422-8529 静岡市駿河区大谷836

TEL: 054-238-4817 [平日9:30~16:00(4/8~4/21のみ、9:00~16:30)] FAX: 054-238-4295

E-mail: LLC@ipc.shizuoka.ac.jp http://www.Lc.shizuoka.ac.jp/